

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書

# 前中西遺跡Ⅸ

2014

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書

まえ なか にし い せき  
前 中 西 遺 跡 IX

2014

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会

# 序

私たちの郷土熊谷は、関東随一の大河川である利根川と荒川の2大河川に育まれた肥沃な沖積低地と、台地・丘陵地からなる変化に富んだ豊かな自然が広がっております。

こうした自然環境のもと、市内には先人たちによって多くの貴重な文化財が営々と築かれてきました。これらの文化財は、地域の歴史・文化を伝えるばかりでなく、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、このような文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市形成のための礎としていかなければならないと考えております。

本書は、平成25・26年度に発掘調査を行った、上之地内に立地する前中西遺跡について報告するものであります。今回の調査では、これまで本遺跡で確認されていなかった、弥生時代の礫床木棺墓から副葬品として多数の管玉が出土し、多大な成果を得ることができました。

本書が埋蔵文化財保護ならびに学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりますが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を尊重され、ご理解ご協力を賜りました株式会社埼玉住宅情報センター、並びに地元関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成26年3月

熊谷市前中西遺跡調査会

会長 野原 晃

## 例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市末広三丁目104番2に所在する前中西遺跡（埼玉県遺跡番号59-092）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、宅地造成に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市前中西遺跡調査会が実施した。
- 3 本事業の組織は、第I章3のとおりである。
- 4 発掘調査期間は、第1次調査を平成24年11月1日から11月19日まで、第2次調査を平成25年4月22日から平成25年7月3日までである。整理・報告書作成期間は、平成25年10月1日から平成26年3月28日までである。
- 5 発掘調査および本書の執筆・編集は、森田が行った。また、熊谷市教育委員会社会教育課職員の支援を受けた。
- 6 発掘調査の現場写真および遺物の写真撮影は、森田が行った。
- 7 本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 8 発掘調査にあたって、以下の機関に業務委託もしくは協力を得た。  
測 量：株式会社東京航業研究所  
樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社  
保存処理：株式会社文化財ユニオン  
X線回析：公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 9 本書の作成にあたり、下記の方々および機関などからご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。

（敬称略、五十音順）

石川日出志 磯崎 一 市川 修 遠藤英子 大谷道則 柿沼幹夫 栗島義明 小出輝雄 小山岳夫  
齋藤弘道 坂本和俊 杉山浩平 鈴木正博 宅間清公 轟 直行 中山浩彦 羽毛田卓也 廣田和穂  
松本 完 的野善行 森泉かよ子 吉田 稔


熊谷市教育委員会 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課



# 凡 例

本書における挿図指示は次のとおりである。

- 1 遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。  
遺構全測図…1/400・1/60 住居跡・溝跡・掘立柱建物跡…1/60・1/120  
ピット・井戸跡…1/30 方形周溝墓…1/120 礫床木棺墓1/20・1/10
- 2 遺構の略記号は、次のとおりである。  
掘立柱建物跡：SB 井戸跡：SE 溝跡：SD 竪穴住居跡：SI 土坑：SK ピット：P  
方形周溝墓：SR 礫床木棺墓：SM
- 3 遺構挿図中、断面図に添えてある数値は標高を示している。
- 4 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。  
土器・石器・土製品…1/3 管玉…1/1 柱根…1/8
- 5 遺物拓影図のうち、土器は向って左側に外面、右側に内面を示した。
- 6 遺物実測図の表現方法は、以下のとおりである。  
縄文土器・弥生土器・土師器・陶器・石器・土製品・玉類：白抜き  
須恵器断面：黒塗り 赤彩・釉・被熱範囲 
- 7 遺物観察表の表記方法は次のとおりである。  
法量の単位はcm、gである。( ) が付されるものは推定値、現存値を表す。  
焼成は、以下の3段階に区分した。  
A…良好 B…普通 C…不良  
胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で示した。  
A：白色粒子 B：黒色粒子 C：赤色粒子 D：褐色粒子 E：赤褐色粒子 F：白色針状物質  
G：長石 H：石英 I：白雲母 J：黒雲母 K：角閃石 L：片岩 M：砂粒 N：礫
- 8 写真図版の遺物縮尺はすべて任意である。
- 9 土器胎土の色調は、第一合成株式会社製SCR-1で測定し、マンセル値で示している。
- 10 本遺跡の基準点測量は、日本測地系で行っている。

# 目 次

序	3	溝跡	37
例 言	4	方形周溝墓	58
凡 例	5	土坑	61
目 次	6	礫床木棺墓	62
I 発掘調査の概要	1	7 井戸跡	73
1 調査に至る経過	1	8 ピット	73
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	9 遺構外出土遺物	84
3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	2	10 噴砂	87
II 遺跡の立地と環境	4	V 分 析	88
III 遺跡の概要	9	1 礫床木棺墓群	88
1 調査の方法	9	2 熊谷市前中西遺跡(第13調査区)出土柱材の樹種同定	96
2 検出された遺構と遺物	9	3 熊谷市前中西遺跡の管玉の分析結果について	98
IV 検出された遺構と遺物	23	VI ま と め	102
1 住居跡	23	引用・参考文献	106
2 掘立柱建物跡	31		

# 挿図目次

第1図 埼玉県の地形図	4	第17図 第1～4・7号住居跡出土遺物	25
第2図 周辺遺跡分布図	6	第18図 第2・3・7号住居跡	26
第3図 調査地点位置図	10	第19図 第4号住居跡	28
第4図 調査区全体図	11	第20図 第5・6号住居跡	29
第5図 第1調査区全体図	12	第21図 第5号住居跡出土遺物	30
第6図 第2調査区全体図(1)	13	第22図 第1・2号掘立柱建物跡	32
第7図 第2調査区全体図(2)	14	第23図 第3・4号掘立柱建物跡	34
第8図 第2調査区全体図(3)	15	第24図 第5・6号掘立柱建物跡	35
第9図 第3・4調査区全体図	16	第25図 第7・8号掘立柱建物跡	36
第10図 第5・7調査区全体図	17	第26図 第1・3・5・8号掘立柱建物跡出土遺物	38
第11図 第6調査区全体図	18	第27図 第1～3号溝跡	40
第12図 第8・9調査区全体図	19	第28図 第3・13・18・19号溝跡出土遺物	41
第13図 第11調査区全体図	20	第29図 第4号溝跡平面図	42
第14図 第13調査区全体図	21	第30図 第4号溝跡・遺物出土状況・断面図	43
第15図 第10・12調査区全体図	22	第31図 第4号溝跡出土遺物(1)	44
第16図 第1号住居跡	24	第32図 第4号溝跡出土遺物(2)	45

第33図	第5～8号溝跡	47	第59図	第150～183号ピット	80
第34図	第9～12号溝跡	49	第60図	第184～201号ピット	81
第35図	第13～16号溝跡	50	第61図	第202～218号ピット	82
第36図	第17・18号溝跡	52	第62図	第219～230号ピット	83
第37図	第19・20号溝跡	53	第63図	ピット出土遺物	84
第38図	第21・22号溝跡	54	第64図	遺構外出土遺物(1)	85
第39図	第21・22・24号溝跡出土遺物	56	第65図	遺構外出土遺物(2)	86
第40図	第24～27号溝跡	57	第66図	噴砂	87
第41図	第1号方形周溝墓	59	第67図	柳沢遺跡6A区礫床木棺墓群	89
第42図	第1号方形周溝墓セクション図・出土遺物	60	第68図	前中西遺跡礫床木棺墓群	89
第43図	第1～7号土坑	63	第69図	礫床木棺墓敷石長軸分布図	90
第44図	第1号礫床木棺墓(1)	64	第70図	礫採取位置図(『荒川 自然』1987:武井より)	91
第45図	第1号礫床木棺墓(2)	65	第71図	礫床木棺墓出土管玉石質構成比	92
第46図	第1号礫床木棺墓出土遺物	66	第72図	第1号礫床木棺墓管玉法量分布	93
第47図	第2・4号礫床木棺墓	67	第73図	第3号礫床木棺墓管玉法量分布	93
第48図	第3号礫床木棺墓(1)	68	第74図	緑色凝灰岩製管玉全長分布	93
第49図	第3号礫床木棺墓(2)	69	第75図	赤玉石製管玉全長分布	93
第50図	第3号礫床木棺墓出土遺物(1)	70	第76図	緑色凝灰岩製管玉直径分布	93
第51図	第3号礫床木棺墓出土遺物(2)	71	第77図	赤玉石製管玉直径分布	93
第52図	第1号井戸跡	72	第78図	緑色凝灰岩製管玉法量分布	94
第53図	第1～23号ピット	74	第79図	赤玉石製管玉法量分布	94
第54図	第24～51号ピット	75	第80図	第3号礫床木棺墓出土管玉No.3平行ビーム法標準A	100
第55図	第52～72号ピット	76	第81図	第3号礫床木棺墓出土管玉No.4平行ビーム法標準A	100
第56図	第73～96号ピット	77	第82図	第3号礫床木棺墓出土管玉No.50平行ビーム法標準A	101
第57図	第97～120号ピット	78	第83図	前中西遺跡弥生時代遺構分布図	104
第58図	第121～149号ピット	79			

## 挿表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	7	第8表	溝跡出土遺物観察表	112
第2表	礫床木棺墓敷石計測表	90	第9表	方形周溝墓出土遺物観察表	113
第3表	X線回析装置の設定	98	第10表	井戸跡出土遺物観察表	113
第4表	掘立柱計測表	108	第11表	ピット出土遺物観察表	113
第5表	ピット計測表	109	第12表	遺構外出土遺物観察表	113
第6表	住居跡出土遺物観察表	112	第13表	第1号礫床木棺墓出土管玉計測表	114
第7表	掘立柱建物跡出土遺物観察表	112	第14表	第3号礫床木棺墓出土管玉計測表	114

## 図版目次

- 図版1 航空写真（東より）
- 図版2 第1調査区全景（東より）  
第1調査区第1号住居跡（南より）  
第1調査区第1号井戸跡（南より）  
第2調査区北東全景  
第2調査区南西全景
- 図版3 第2調査区第1号方形周溝墓（南東より）  
第2調査区第3・4号溝跡（南より）  
第2調査区第4号溝跡土層断面（北面）  
第2調査区噴砂（南より）  
第2調査区噴砂土層断面
- 図版4 第3調査区全景（東より）  
第4調査区全景（東より）
- 図版5 第4調査区第4号溝跡（南東より）  
第5調査区第2号掘立柱建物跡（北より）  
第4調査区第4号溝跡西面土層断面  
第5調査区全景（南より）
- 図版6 第5調査区第4号住居跡（西より）  
第5調査区第4号住居跡カマド  
第5号住居跡遺物出土状況  
第6調査区全景（西より）
- 図版7 第6調査区全景（南より）  
第6調査区第1号礫床木棺墓（西より）  
第6調査区第1号礫床木棺墓管玉出土状況  
第6調査区第1号礫床木棺墓敷石・管玉検出状況
- 図版8 第6調査区第1号礫床木棺墓完掘状況（北より）  
第6調査区第2号礫床木棺墓（東より）  
第6調査区第2号礫床木棺墓敷石半裁状況（南より）  
第6調査区第2号礫床木棺墓完掘状況（東より）  
第6調査区第3号礫床木棺墓（北より）  
第6調査区第3号礫床木棺墓壁面確認状況  
第6調査区第3号礫床木棺墓管玉出土状況
- 図版9 第6調査区第3号礫床木棺墓管玉出土状況
- 第6調査区第3号礫床木棺墓半裁（北より）  
第6調査区第3号礫床木棺墓調査状況  
第6調査区第3号礫床木棺墓完掘（北より）
- 図版10 第6調査区第4号礫床木棺墓（東より）  
第6調査区第4号礫床木棺墓敷石半裁（西より）  
第6調査区第4号礫床木棺墓半裁礫敷設状況  
第6調査区第4号礫床木棺墓完掘（西より）  
第6調査区第1号礫床木棺墓調査風景  
第6調査区調査風景  
第8調査区第14号溝跡  
第8調査区第5号住居跡遺物出土状況
- 図版11 第7調査区全景（南より）  
第8調査区第6号住居跡  
第8調査区全景（南より）
- 図版12 第9調査区全景（西より）  
第10調査区全景（東より）
- 図版13 第9調査区第7号土坑  
第10調査区第4号溝跡（南より）  
第10調査区第4号溝跡遺物出土状況  
第10調査区第7号住居跡（南より）  
第10調査区第4号溝跡調査風景
- 図版14 第11調査区全景（東より）  
第11調査区第19号溝跡（西より）  
第11調査区第19号溝跡土層断面（西面）  
第11調査区第231号ピット断面
- 図版15 第11調査区調査風景  
第12調査区全景（東より）  
第13調査区第219号ピット遺物出土状況  
第12調査区第21号溝跡（東より）  
第13調査区全景（西より）  
第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根2
- 図版16 第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根3  
第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根1

	第13調査区第8号掘立柱建物跡（東より）		第3号礫床木棺墓出土遺物
	第13調査区第8号掘立柱建物跡4		第4号礫床木棺墓出土遺物
	第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根2半裁状態		第8号掘立柱建物跡1柱根
図版17	第1・2・4・7号住居跡出土遺物		同左木口面
	第5号住居跡・第8号掘立柱建物跡・		第8号掘立柱建物跡2柱根
	第3・13・18号溝跡出土遺物		同左木口面
	第4号溝跡出土遺物		第8号掘立柱建物跡3柱根
	第21・22号溝跡・第1号方形周溝墓出土遺物		同左木口面
	ピット・包含層出土遺物	図版21	第4号溝跡出土遺物
	包含層出土遺物		同左ハケメ近接
	第7号住居跡出土遺物		同左貼付文近接
	第5号住居跡出土遺物	図版22	第22号溝跡出土遺物
図版18	第5号住居跡出土遺物		第24号溝跡出土遺物
	第3号溝跡出土遺物		第1号方形周溝墓出土遺物
	同左口縁部糊殻圧痕近接		第1号井戸跡出土遺物
	同上レプリカ・セム法走査型電子顕微鏡写真		遺構外出土遺物
	第4号溝跡出土遺物	図版23	第1・3号礫床木棺墓出土管玉
	第19号溝跡出土遺物	図版24	第3号礫床木棺墓出土管玉
	同左底部	図版25	第1号礫床木棺墓出土管玉実体顕微鏡写真
図版19	第219号ピット出土遺物	図版26	第1・3号礫床木棺墓出土管玉実体顕微鏡写真
	第24号溝跡出土遺物	図版27	第3号礫床木棺墓出土管玉実体顕微鏡写真
	第3号住居跡出土遺物	図版28	第3号礫床木棺墓出土管玉実体顕微鏡写真
	第8号掘立柱建物跡出土遺物	図版29	第3号礫床木棺墓出土管玉実体顕微鏡写真
	第19号溝跡出土遺物	図版30	第1号礫床木棺墓出土管玉（復元）
	第4号溝跡出土遺物		第3号礫床木棺墓出土管玉（復元）
図版20	第1号礫床木棺墓出土遺物		
	第2号礫床木棺墓出土遺物		

# I 発掘調査の概要

## 1 調査に至る経過

平成24年9月12日付けで、(株)埼玉住宅情報センター 代表取締役 小暮靖志氏より熊谷市末広三丁目地内における宅地造成に伴う道路建設箇所の埋蔵文化財発掘の届出が提出され、埋蔵文化財の所在および取扱いについて協議があった。建設予定地は、前中西遺跡およびその隣接地に該当することから、熊谷市教育委員会では、平成24年10月4日に埋蔵文化財の所在確認調査を実施した。調査の結果、現地表面160cmで弥生時代～古墳時代の遺構が確認された。この結果を踏まえ、熊谷市教育委員会では、平成24年10月19日付け熊教社発第1542号で、前中西遺跡範囲の変更増補を行っている。

遺跡の保存策について事業者と協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。平成24年10月18日付けで埋蔵文化財に関する協定を事業主と締結した上で、平成24年10月18日に熊谷市前中西遺跡調査会を設立した。

発掘調査は、平成24年11月1日から11月19日にかけて実施した(第1・2調査区)。

発掘調査にかかる事務は、熊谷市教育委員会は埋蔵文化財発掘の届け出を10月19日付け熊教社発第1543号で副申を添えて埼玉県教育委員会教育長へ送付した。これに対し、平成24年10月29日付け教生文第4-884号で発掘調査実施について指示通知があった。

熊谷市前中西遺跡調査会会長は、文化財保護法第92条1項の規定に基づく発掘調査の届出を平成24年10月25日付け熊前遺第1号で熊谷市教育委員会へ提出し、熊谷市教育委員会は副申を添えて埼玉県教育委員会教育長へ送付した。これに対し、平成24年11月12日付け教生文第2-46号で発掘調査について通知があった。

その後、平成25年1月18日付けで、(株)埼玉住宅情報センター 代表取締役 小暮靖志氏より先に発掘調査を実施した道路建設箇所の両側において分譲住宅建設に係る埋蔵文化財発掘の届出が提出され、再び埋蔵文化財の所在および取扱いについて協議があった。熊谷市教育委員会では、建設予定地は、前中西遺跡に該当することから、平成25年2月14日に埋蔵文化財の所在確認調査を実施した。調査の結果、現地表面下180cmで弥生時代～古墳時代の遺構が確認された。

遺跡の保存策について事業者と協議を重ねたが、住宅基礎工法に深さ5mの柱状改良を行う工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。平成25年4月1日付けで埋蔵文化財に関する協定変更協定書を事業主と締結した。

発掘調査は、平成25年4月22日から7月3日にかけて実施した(第3～13調査区)。

発掘調査にかかる事務は、熊谷市教育委員会は埋蔵文化財発掘の届け出を平成25年2月19日付け熊教社発第1768号で副申を添えて埼玉県教育委員会教育長へ送付した。これに対し、平成25年2月25日付け教生文第5-1391号で発掘調査実施について指示通知があった。

熊谷市前中西遺跡調査会会長は、文化財保護法第92条1項の規定に基づく発掘調査の届出を平成25年4月11日付け熊前遺第7号で熊谷市教育委員会へ提出し、熊谷市教育委員会は副申を添えて埼玉県教育委員会教育長へ送付した。これに対し、平成25年5月7日付け教生文第2-1号で発掘調査について通



知があった。

## 2 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

発掘調査は、第1次調査を平成24年11月1日から11月19日に、第2次調査を平成25年4月22日から7月3日にかけて実施した。調査面積は約620㎡である。

第1次調査は、平成24年11月1日に重機による表土除去を行い、11月5日より作業員による遺構発掘作業と遺構平面図を作成し、11月16日に完掘写真の撮影を行った。11月19日には、重機による現場の埋戻し作業を終了し、機材等を撤収して現場における作業を終了した。取り上げた埋蔵物は、平成24年11月26日付けで熊谷警察署へ発見届を、平成24年11月22日付けで埼玉県教育委員会へ埋蔵文化財保管証を提出した。

第2次調査は、平成25年4月22日に重機による表土除去を行い、4月25日より作業員による遺構発掘作業と遺構平面図を作成し、6月28日に完掘写真の撮影を行った。7月3日には、重機による現場の埋戻し作業を終了し、機材等を撤収して現場における作業を終了した。取り上げた埋蔵物は、平成25年7月9日付けで熊谷警察署へ発見届を、平成25年7月9日付けで埼玉県教育委員会へ埋蔵文化財保管証を提出した。

### (2) 整理・報告書作成

整理作業は、平成25年10月1日から平成26年3月28日まで実施した。

まず、遺物の洗浄、注記、接合、復元作業を行った。その後、遺物の分類を行い、実測作業を開始した。また、これらと並行して遺構の図面整理を行った。

次に、土器等の遺物のトレース・拓本を採り図版を作成し、併せて遺構等のトレース・図版の作成を行った。そして、遺構の写真整理・遺物写真撮影を行い、写真図版の割付をした。また、これと並行して原稿執筆を行った。

最後に、印刷業者の選定を行い、校正を経て3月28日に本報告書を刊行した。

## 3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

発掘調査、整理・報告書作成

主 体 者	熊谷市前中西遺跡調査会
会 長	野原 晃（熊谷市教育委員会教育長）
副 会 長	鯨井 勝（熊谷市教育委員会次長）
理 事	菅谷 浩之（熊谷市文化財保護審議委員会会長）
理 事	小野美代子（熊谷市文化財保護審議会委員）
監 事	正田 知久（熊谷市教育委員会教育総務課長）

事務局長 岩上 精純（熊谷市教育委員会社会教育課長）  
事務局次長 根岸 敏彦（熊谷市教育委員会社会教育課担当副参事）  
統括調査員 森田 安彦（熊谷市教育委員会社会教育課副課長兼文化財保護係長）  
調査員 吉野 健（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主幹）



## II 遺跡の立地と環境

熊谷市は、北側で群馬県との境を利根川が、南側では荒川がそれぞれ西から南東方向に流れており、両河川が最も近接する地域にある。地形的には、市の西側に櫛引台地、荒川を挟んで南側には江南台地、比企丘陵、北側および東側には妻沼低地が広がっているが、大半を妻沼低地が占めている（第1図）。

櫛引台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町の波久礼付近を扇頂として東は熊谷市西部の三ヶ尻付近まで、北東は JR 高崎線籠原駅から北へ約 2 km の西別府付近にまで延びている。標高は約 36～54m を測り、妻沼低地に向って緩やかに下る。櫛引台地の東側には、沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がる。新荒川扇状地は、熊谷市の南西に位置する深谷市菅沼付近を扇頂として妻沼低地へと広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。

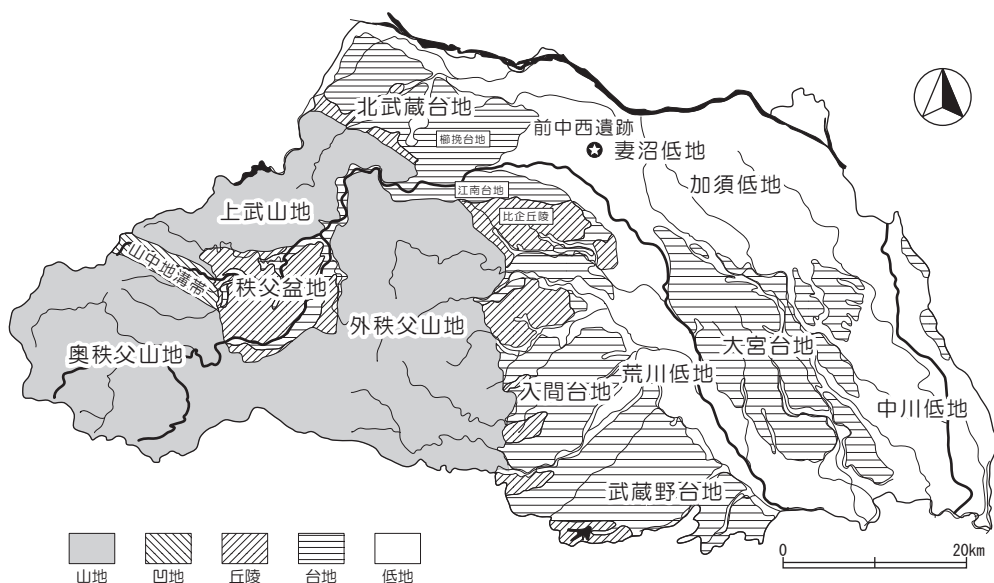
今回報告する前中西遺跡は、その新荒川扇状地の縁辺部、標高 24m 前後の自然堤防上に立地している。遺跡は熊谷市東部の上之に所在し、JR 高崎線熊谷駅からは北東へ約 1.2km、荒川からは北へ約 2.0～2.5km、利根川からは南へ約 7.0～9.0km の距離にある。現地表面から遺構確認面までの深さは 1.5m 前後であった。

次に、前中西遺跡周辺の歴史的環境について概観する（第2図）。

旧石器時代から縄文時代の遺跡は、熊谷市東部では確認例が極めて少ない。この段階の遺跡は、主に熊谷市西部から深谷市域にかけて多くみられ、地形的には櫛引台地および台地直下の妻沼低地自然堤防上に集中する。

旧石器時代は、櫛引台地東端に立地する熊谷市籠原裏遺跡（熊谷市教育委員会：2004）から出土した黒耀石製尖頭器が唯一の事例である。

縄文時代になると、草創期は、櫛引台地北端に位置する深谷市東方城跡（深谷市教育委員会：1988）において尖頭器が検出されている。前期になると、西城切通遺跡（34：妻沼町：1977）、寺東遺跡（熊谷市教育委員会：2000）等、台地のみならず低地上にも出現しはじめる。中期の加曾利 E 式期には遺跡



第1図 埼玉県の地形図

数が増加するが、依然として櫛引台地および台地直下の低地上に集中している。寺東遺跡（熊谷市教育委員会：2000）では、加曾利E式期後半の住居跡2軒と埋甕が検出されており、小規模な集落が営まれている。後期になると、低地への本格的な進出が始まる。寺東遺跡では、称名寺式期の住居跡6軒が検出されており、西城切通遺跡（34）、場違ヶ谷戸遺跡（39）、道ヶ谷戸条里遺跡（42：妻沼町教育委員会：1981）など櫛引台地から離れた低地上にも遺跡が認められるようになる。前中西遺跡周辺では、隣接する諏訪木遺跡（2：熊谷市遺跡調査会：2001、財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：2002・2007）、箱田氏館跡（4）で確認例がある。晩期には遺跡数が減少する。諏訪木遺跡（2）、箱田氏館跡（4）では、後期に続いて集落が営まれている。この他では、櫛引台地北端に立地する深谷市上敷免遺跡（財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：1993）で晩期最終末の浮線文系土器が多数出土している。

弥生時代は、まず初期段階である前期末から中期前半頃は、隣接する藤之宮遺跡（3：熊谷市教育委員会：2008）で土器片が若干検出されているが、遺構は確認されていない。遺構が認められた遺跡は、櫛引台地直下の低地上に集中するが、集落ではなく再埋葬である。横間栗遺跡（熊谷市教育委員会：1999）では、前期末から中期前半頃の再埋葬が13基確認されており、再埋葬一括資料は、1999年3月に埼玉県指定になっている。この他にも熊谷市飯塚北遺跡（財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：2005）、飯塚南遺跡（妻沼町教育委員会：2004）や先の深谷市上敷免遺跡などでも再埋葬が検出されており、東日本初期弥生土器を語る上で非常に重要な資料が出土している。また、上敷免遺跡では、包含層からであるが、県内初の遠賀川式土器の壺の胴部片も出土している。

中期中頃になると、これまでの状況と一変して集落跡が増す。東日本でも最古段階の環壕集落である池上遺跡（9：埼玉県教育委員会：1984）、その墓域とされ、最古段階の方形周溝墓が検出された行田市小敷田遺跡（86：財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：1991）などがあり、本格的に展開される。中期後半は今回報告する前中西遺跡（1）をはじめ、諏訪木遺跡（2）や北島遺跡（22：財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：2003・2004・2005）などで集落が営まれ、前中西遺跡（1）、諏訪木遺跡（2）、藤之宮遺跡（3）では方形周溝墓も検出されている。特に前中西遺跡では、遺跡範囲北側で集落、南側に墓域が広がっていることが確認されており、集落・墓ともに後期初頭まで続くことが明らかとなっている（熊谷市教育委員会：2002・2003・2009・2010・2011）。諏訪木遺跡では、県埋蔵文化財調査事業団による調査（財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：2008）で初めて住居跡と方形周溝墓が確認された。両者はほぼ同一箇所を確認されたことから時間差を持つ。確認された住居跡は1軒のみであり、出土土器も甕1点のみであるため断言はできないが、出土土器の比較では方形周溝墓が住居跡よりも新しい要素を持つ。北島遺跡では、大規模な集落が営まれるとともに墓域も形成されている。そして、特筆すべきことは水田に引き込む水路や堰が造営されていたことが挙げられる。これは当時、本格的な水田経営が行われていたことを物語っており、北島遺跡はその規模や内容から東日本屈指の遺跡として注目される。

後期初頭以降については、藤之宮遺跡（3）で土器片が若干検出されているが、遺構は確認されていない。遺構が認められた遺跡としては前中西遺跡（1）、北島遺跡（22）以外に近辺では確認例がない。

古墳時代になると低地上への進出がより活発化し、前期の遺跡は近年確認例が増加している。前代に引き続き、前中西遺跡（1）、諏訪木遺跡（2）、藤之宮遺跡（3）、北島遺跡（22）では集落跡が確認され、北島遺跡では弥生時代に続いて大規模集落が営まれており、墓域も形成されている。諏訪木





第2図 周辺遺跡分布図



遺跡では、河川跡から大量の木製品が出土しており、注目すべきは板倉造り建物の「樋部倉矧」と呼ばれる特殊な加工が施された壁板材が検出されたことが挙げられる（財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：2008）。中条遺跡（26）では木製の農具が検出されており、行田市小敷田遺跡では畿内や東海地方の外来系土器が多数出土している。この他にも古墳時代前期は確認例が多く、利根川流域沿いの自然堤防上に分布する傾向にある。中期は確認例が少ないが、前段階に続いて前中西遺跡（1）や藤之宮遺跡（3）、中条遺跡（26）などで集落跡が営まれている。また、5世紀末頃の鎧塚古墳（熊谷市教育委員会：1981）や女塚1号墳（C：中条古墳群：熊谷市教育委員会：1983）、市の指定史跡である横塚山古墳（D：奈良古墳群：熊谷市遺跡調査会：1977）などといった古墳も築造されている。鎧塚古墳は、

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
熊谷市			47	別府条里遺跡	奈良・平安
1	前中西遺跡	弥生中、古墳、奈良・平安	48	一本木前遺跡	古墳前・後、奈良・平安、中世、近世
2	諏訪木遺跡	縄文後・晩、弥生中・後、古墳後、奈良・平安、中・近世	49	土用ヶ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安
3	藤之宮遺跡	弥生中、古墳、奈良・平安、中世	50	奈良氏館跡	平安末～中世
4	箱田氏館跡	平安末	51	天神下遺跡	古墳前・後、奈良・平安
5	平戸遺跡	弥生中・後、古墳後、平安、中・近世	52	寺東遺跡	縄文前～後
6	久下氏館跡	中世	53	稲荷東遺跡	古墳後、奈良・平安
7	市田氏館跡	中世	54	玉井陣屋跡	平安末～中世
8	成田氏館跡	中世	55	新ヶ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安
9	池上遺跡	弥生中、古墳、平安	56	水押下遺跡	古墳後
10	古宮遺跡	縄文、弥生中、古墳前、奈良・平安、中・近世	57	稲荷木上遺跡	古墳後
11	上河原遺跡	奈良・平安、中・近世	58	下河原中遺跡	奈良・平安
12	宮の裏遺跡	古墳後	59	本代遺跡	古墳後、近世
13	成田遺跡	古墳後	60	下河原上遺跡	近世
14	中条条里遺跡	古墳前・中、奈良・平安	61	天神前遺跡	古墳中・後、中世
15	河上氏館跡	中世	62	兵部裏屋敷跡	中世
16	八幡山遺跡	古墳	63	御蔵場跡	近世
17	出口下遺跡	古墳後	64	高根遺跡	縄文、古墳後、平安、中・近世
18	熊谷氏館跡	中世	65	不二ノ腰遺跡	奈良・平安
19	肥塚館跡	中世	66	宮前遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
20	出口上遺跡	奈良・平安、中・近世	67	宿遺跡	古墳後、奈良・平安、中・近世
21	肥塚中島遺跡	奈良・平安、近世	68	万吉西浦遺跡	縄文中、古墳、平安、近世
22	北島遺跡	弥生中・後、古墳、奈良・平安、中世	69	村岡館跡	平安末
23	中島遺跡	古墳後、奈良・平安	70	北西原遺跡	奈良・平安
24	女塚遺跡	古墳後、奈良・平安、中世	71	塚本遺跡	古墳、奈良・平安
25	赤城遺跡	古墳、奈良・平安	72	西浦遺跡	奈良・平安
26	中条遺跡	古墳、奈良・平安、中世	73	腰廻遺跡	奈良・平安
27	中条氏館跡	中世	74	北方遺跡	奈良・平安
28	光屋敷遺跡	古墳後、奈良、中・近世	75	宮前遺跡	奈良・平安
29	先載場遺跡	古墳後、奈良	76	西浦町遺跡	奈良・平安
30	八幡間遺跡	古墳後、奈良	77	宮前町遺跡	奈良・平安
31	東城館跡	平安	78	宮町遺跡	奈良・平安
32	長安寺遺跡	古墳後、奈良・平安	79	仲町遺跡	奈良・平安
33	西城館跡	平安	80	旭町遺跡	奈良・平安
34	西城切通遺跡	縄文後	81	北町遺跡	奈良・平安
35	鶴森遺跡	弥生後、古墳後、奈良・平安	行田市		
36	森谷遺跡	古墳後、奈良・平安	82	小敷田遺跡	弥生中、古墳前・後、奈良・平安
37	鷺ヶ谷戸東遺跡	古墳後、奈良・平安	古墳群		
38	山ヶ谷戸遺跡	古墳後、奈良・平安	熊谷市		
39	場違ヶ谷戸遺跡	縄文後	A	上之古墳群	古墳後～末
40	宮前遺跡	奈良・平安	B	肥塚古墳群	古墳後～末
41	実盛館	平安	C	中条古墳群	古墳中期末～後
42	道ヶ谷戸条里遺跡	奈良	D	奈良古墳群	古墳中期後～末
43	横塚遺跡	古墳前、平安	E	玉井古墳群	古墳後
44	東通遺跡	古墳後	F	原島古墳群	古墳後
45	西通遺跡	古墳後	G	石原古墳群	古墳後
46	中耕地遺跡	縄文中、古墳前・後、奈良・平安	H	村岡古墳群	古墳後

全長43.8mの帆立貝式前方後円墳であり、墓前祭祀跡2箇所から須恵器高坏型器台（県指定文化財）が出土している。女塚1号墳も帆立貝式前方後円墳であり、全長46mを測る。二重周溝を持ち、盾持武人埴輪などの人物埴輪が出土している。横塚山古墳はB種横刷毛の埴輪を持つ帆立貝式前方後円墳であるが、後円部は一部欠損している。後期になると、遺跡数が爆発的に増加する。集落跡は規模が大小あるが多数営まれ、奈良・平安時代へと継続するものが多い。古墳は群として形成され、多数の古墳群が台地および低地上に築造され始める。低地上では前中西遺跡北側に分布する上之古墳群（A）の他に、肥塚古墳群（B）、中条古墳群（C）、奈良古墳群（D）、玉井古墳群（E）、原島古墳群（F）、石原古墳群（G）などがある。これらは概ね6世紀から7世紀末ないし8世紀初頭にかけて築造された古墳群である。これらの古墳群で特筆すべきことは、利根川流域に近い古墳群（中条古墳群など）では埋葬施設に角閃石安山岩、荒川流域に近い古墳群では川原石を使用しており、肥塚古墳群ではその両者が混在することが挙げられる。

奈良・平安時代は、前述のとおり、古墳時代後期以降引き続き営まれる遺跡が多い。規模は大小あるが、概ね大規模なものが多くみられる。その筆頭が北島遺跡（22）である。第19地点の調査では二重の堀が巡る台形区画内から建物跡が検出されており、他地点でも軸の揃った掘立柱建物跡が多数確認されている。また遺物では、「篁」の文字が刻まれた緑釉陶器をはじめ、多くの施釉陶器が検出されており、有力者層を想定させる遺物が数多く出土している。北島遺跡以外では、池上遺跡（9）で整然と配置された9世紀代の大型掘立柱建物跡が確認されたこと、小敷田遺跡では「出挙」の文字が書かれた木簡が検出されたこと、諏訪木遺跡（2）では区画溝内に四面庇の付いた大型掘立柱建物跡や軸の揃った掘立柱建物跡が多数検出され、旧河川で土器や木製品、玉類などを使った水辺の祭祀が行われたことなどが挙げられ、官衙を彷彿とさせる遺跡の集中する地域といえる。集落以外では北島遺跡（22）や池上遺跡（9）の東側に中条条里遺跡（14：熊谷市教育委員会：1979）、行田市南河原条里遺跡などの条里遺跡が広がっている。

平安時代末から中世にかけては、武蔵七党やその他在地武士団が台頭してくる段階であり、市内でも多くの館跡がみられる。成田氏館跡（8）、久下氏館跡（6）、市田氏館跡（7）、河上氏館跡（15）、熊谷氏館跡（18）、肥塚館跡（19）、中条氏館跡（27）などがある。このうち、前中西遺跡に近い成田氏館跡は、平安時代末の成田助高から親泰が15世紀後半に行田市忍城を構えるまでの居館とされており、隣接する諏訪木遺跡では過去の調査で成田氏関連と思われる遺構や遺物が確認されている（財・埼玉県埋蔵文化財調査事業団：2002・2008）。館跡から南に約300mの所で中世の居館と思われる変形方形区画が検出されており、『新編武蔵風土記稿』に成田氏の一族がこの地に居を構えたという記述と合わせて成田氏に関連する館跡との見解が示されている。また、井戸枠に器高70cmを超える常滑大甕を使用した井戸跡が確認されており、常滑大甕は13世紀中頃のものとして推定されている。また、熊谷市教育委員会による平成20年度調査では、古墳時代後期の古墳周溝が埋没した後に掘削された土坑から、大量の埋蔵銭が検出されており、成田氏に関連するものと推測される。

中世段階については、館跡を中心にその一端が明らかになりつつあるものの、依然として資料が不足している状態である。そして、近世段階についても同様で隣接する諏訪木遺跡（2）をはじめとしていくつか確認例があるが、不明な点が多いというのが実状である。

# Ⅲ 遺跡の概要

## 1 調査の方法

発掘調査の方法は、1辺5mのグリットを用いて行い、上之土地区画整理事業施行域全体を網羅できるように設定し、北東隅を1-1として南・東へと1・2・3……とし、東西軸を優先して呼称している。例えば、1ラインは北から南へ1-1・1-2・1-3……と呼称する。2ライン以東も1ラインと同様に呼称し、グリット設定を行っている。なお、今回報告する前中西遺跡は、東西軸1～160、南北軸121～212までのグリットに収まり、本報告の調査区は北東隅139-202グリットから南西隅152-211グリットまでの範囲である。

なお、区画整理事業施行地内全体のグリット図については、過去の熊谷市教育委員会刊行の報告（熊谷市教育委員会：2002・2003）に記載されていることから、本報告では省略した。

## 2 検出された遺構と遺物

今回報告する地点は、遺跡範囲南西隅に位置する（第3図）。発掘調査箇所は、街路築造箇所（第1・2調査区）と、住宅建築箇所（第3～13調査区）に分かれ、調査面積は合計619.79㎡である。今回の調査で確認された遺構は、弥生時代の方形周溝墓1基、礫床木棺墓4基、溝跡11条、古墳時代の住居跡7軒、掘立柱建物跡8棟、溝跡17条、土坑27基、ピット232基、井戸跡1基である（第4図）。弥生時代は墓域、古墳時代は集落域として土地利用されていたと判断される。

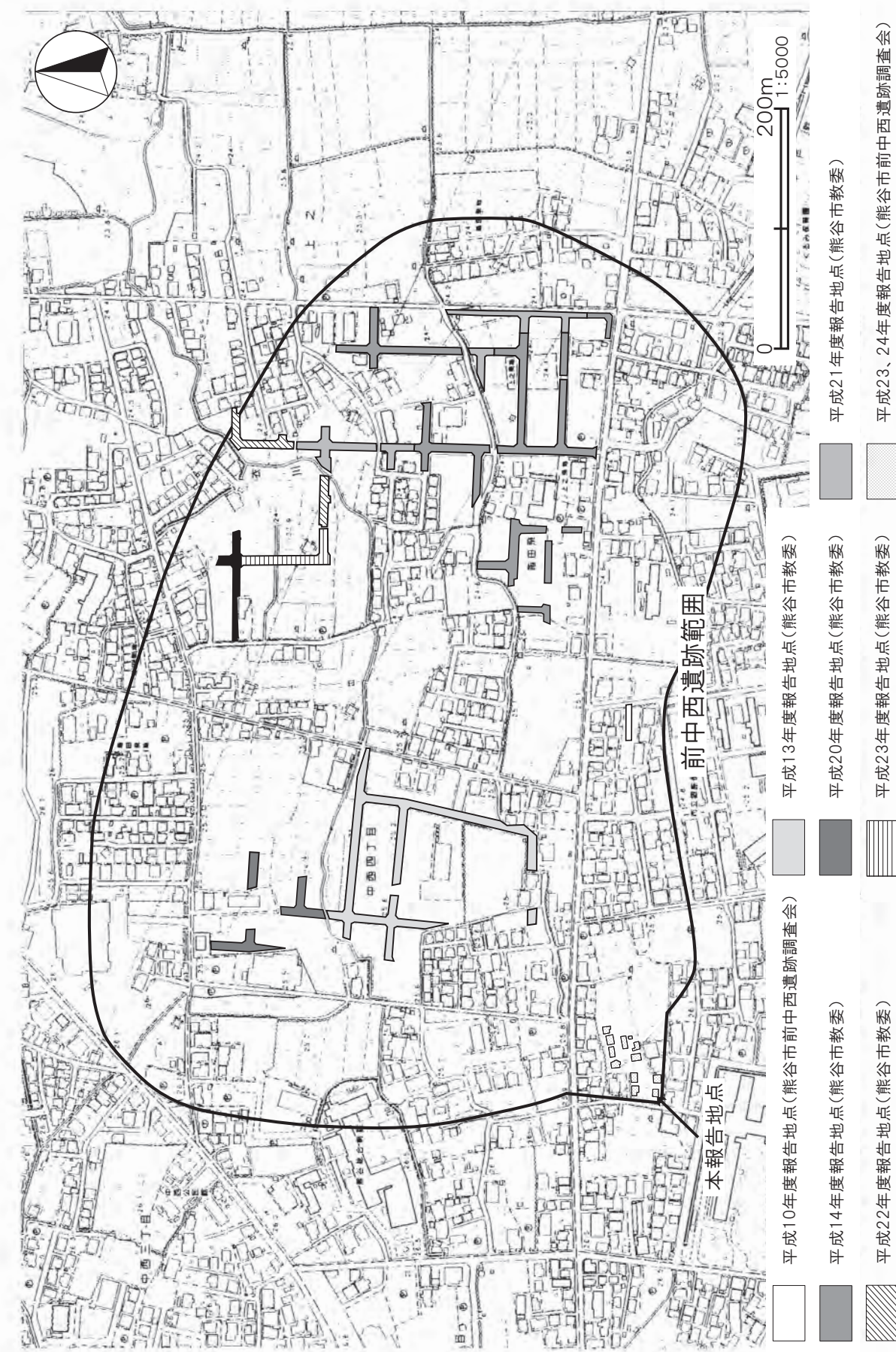
各調査区の概要は次のとおりである。

**第1調査区（第5図）**－調査面積50.34㎡。検出された遺構は、古墳時代の住居跡1軒（SI1）、掘立柱建物跡1棟（SB1）、土坑2基（SK1・2）、井戸跡1基（SE1）、ピット25基（P1～25）である。住居跡の掘り込みは浅く、東側にカマドを確認している。住居跡の北側で、今回の調査で唯一の井戸跡が1基確認されている。下部が細く掘り込まれており、上部には崩落したと思われる礫が確認されており、上部には石組みがなされていたと推測される。弥生時代の遺構は確認されていない。









**第2調査区（第6～8図）**－調査面積145.27㎡。検出された遺構は、弥生時代の方形周溝墓1基（SR1）、溝跡2条（SD2・4）、弥生時代から古墳時代の溝跡1条（SD3）、古墳時代のピット42基（P26～67）が確認されている。この第4号溝跡以西の地点では、弥生時代の遺構は確認されていない。方形周溝墓は、北東・南東・南西の溝の一部を確認しており、北東と北西の溝の一部は第5・9調査区で確認している。第4号溝跡の延長は、第4・10調査区で確認している。また、調査区南側に地震による噴砂の痕跡を確認している。

**第3調査区（第9図）**－調査面積32.93㎡。検出された遺構は、古墳時代の住居跡1軒（SI2）、溝跡2条（SD5・6）、ピット5基（P68～72）が確認されている。また、方形を呈する掘り込みの浅いピット状の落ち込みを25基確認しているが、出土遺物は無く、時期・性格不明である。弥生時代の遺構は確認されていない。



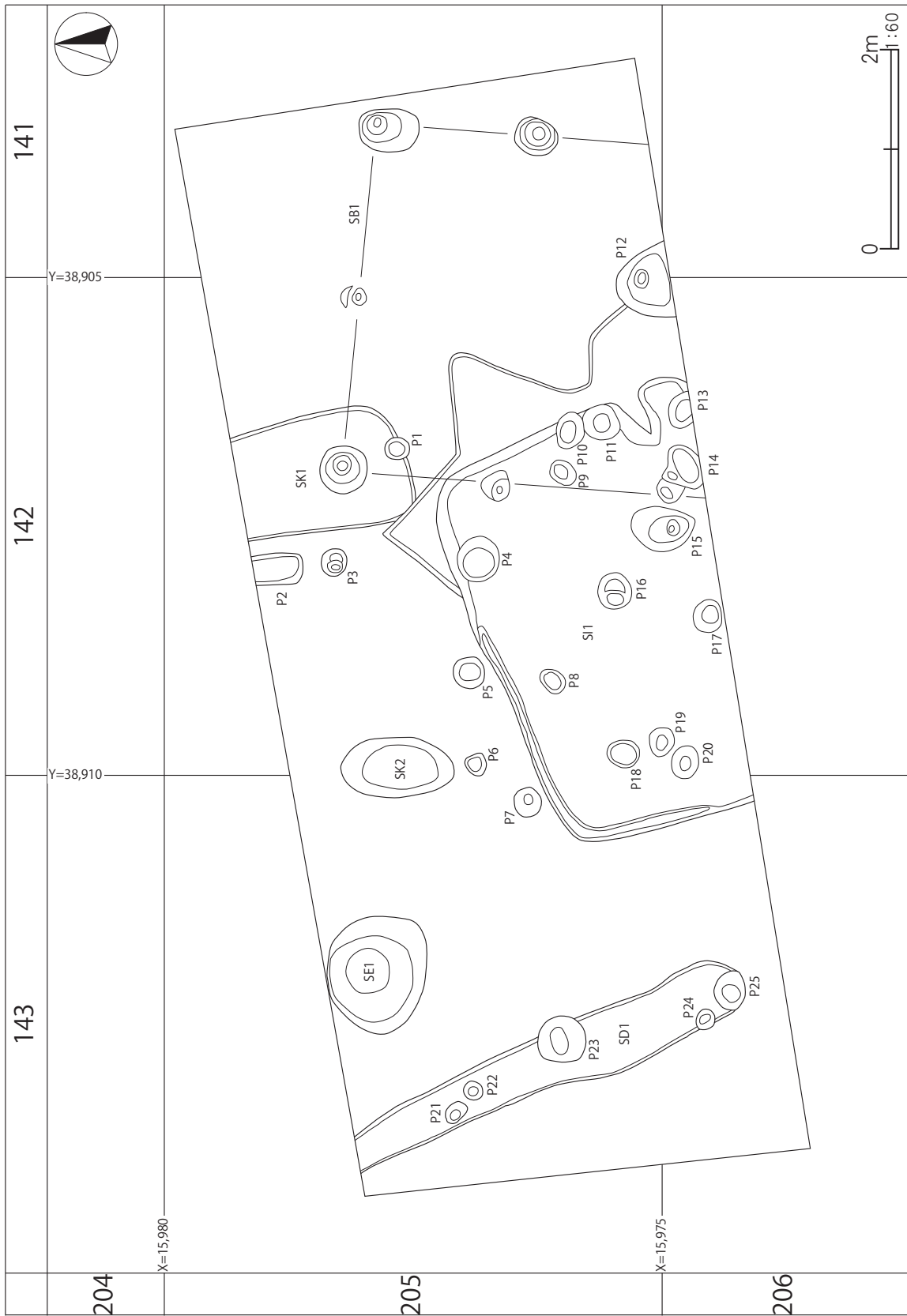


第3図 調査地点位置図

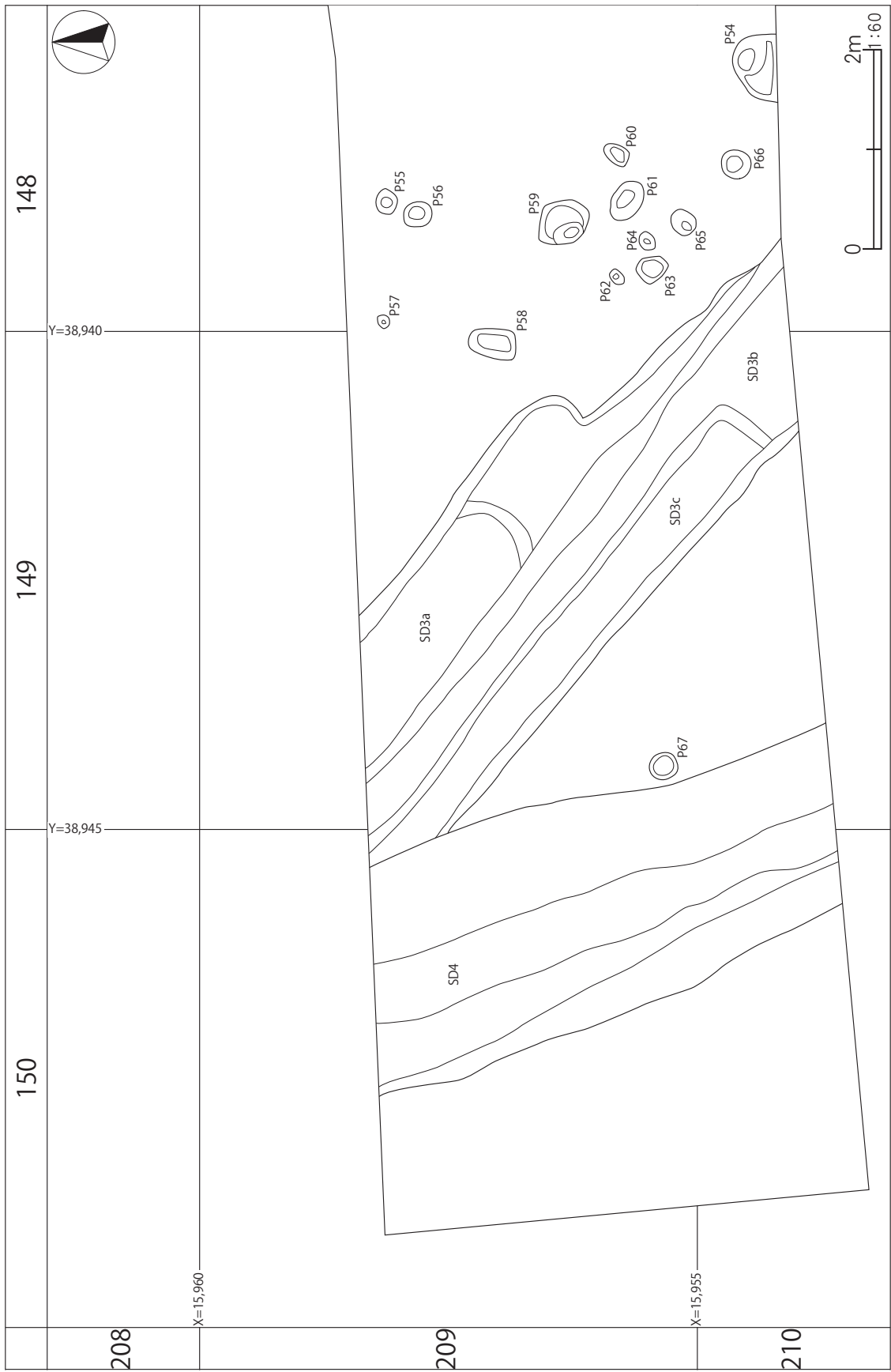
- |   |                         |   |                            |
|---|-------------------------|---|----------------------------|
|  | 平成10年度報告地点(熊谷市前中西遺跡調査会) |  | 平成13年度報告地点(熊谷市教委)          |
|  | 平成14年度報告地点(熊谷市教委)       |  | 平成20年度報告地点(熊谷市教委)          |
|  | 平成22年度報告地点(熊谷市教委)       |  | 平成23年度報告地点(熊谷市教委)          |
|   |                         |    | 平成21年度報告地点(熊谷市教委)          |
|   |                         |    | 平成23、24年度報告地点(熊谷市前中西遺跡調査会) |



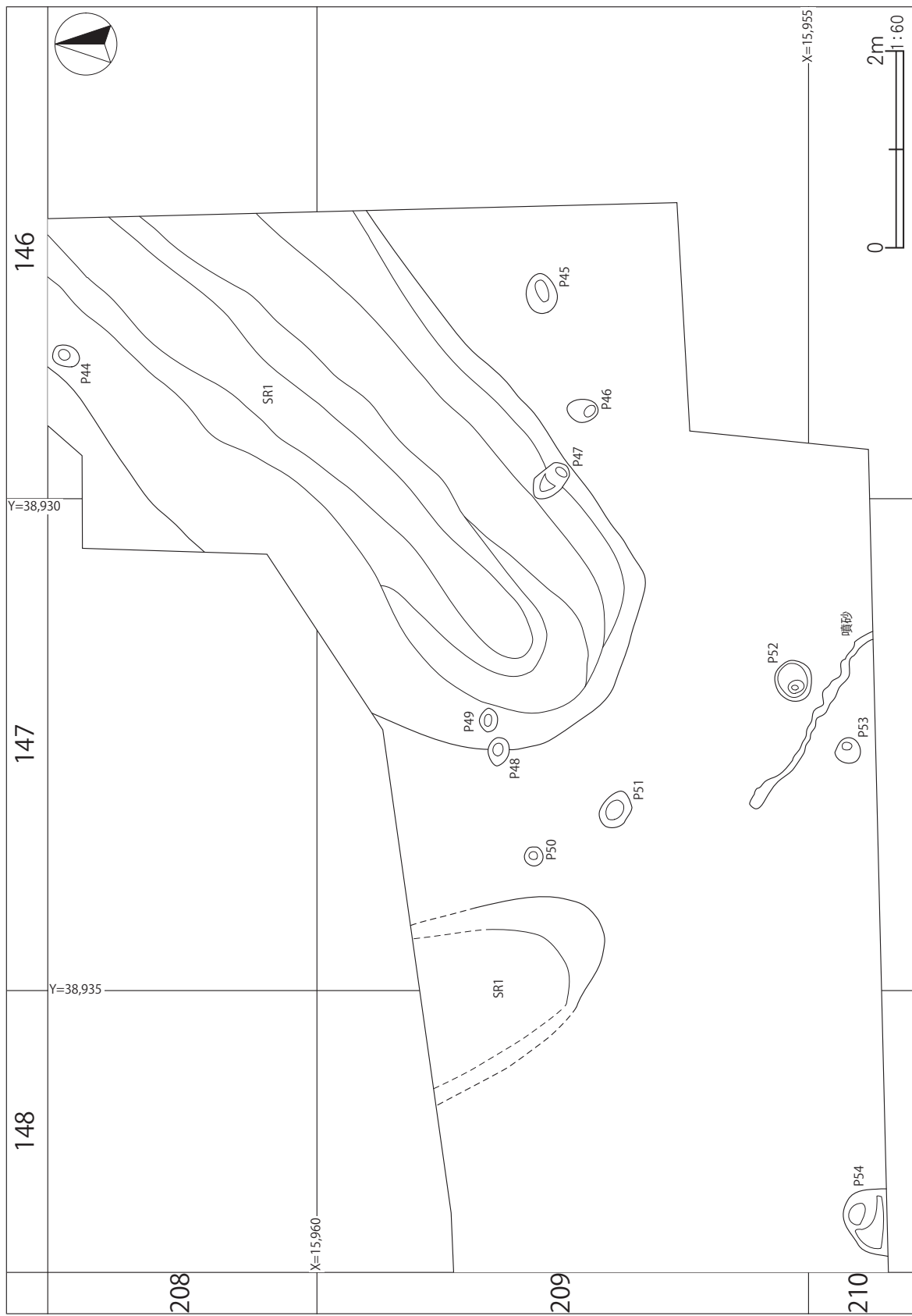




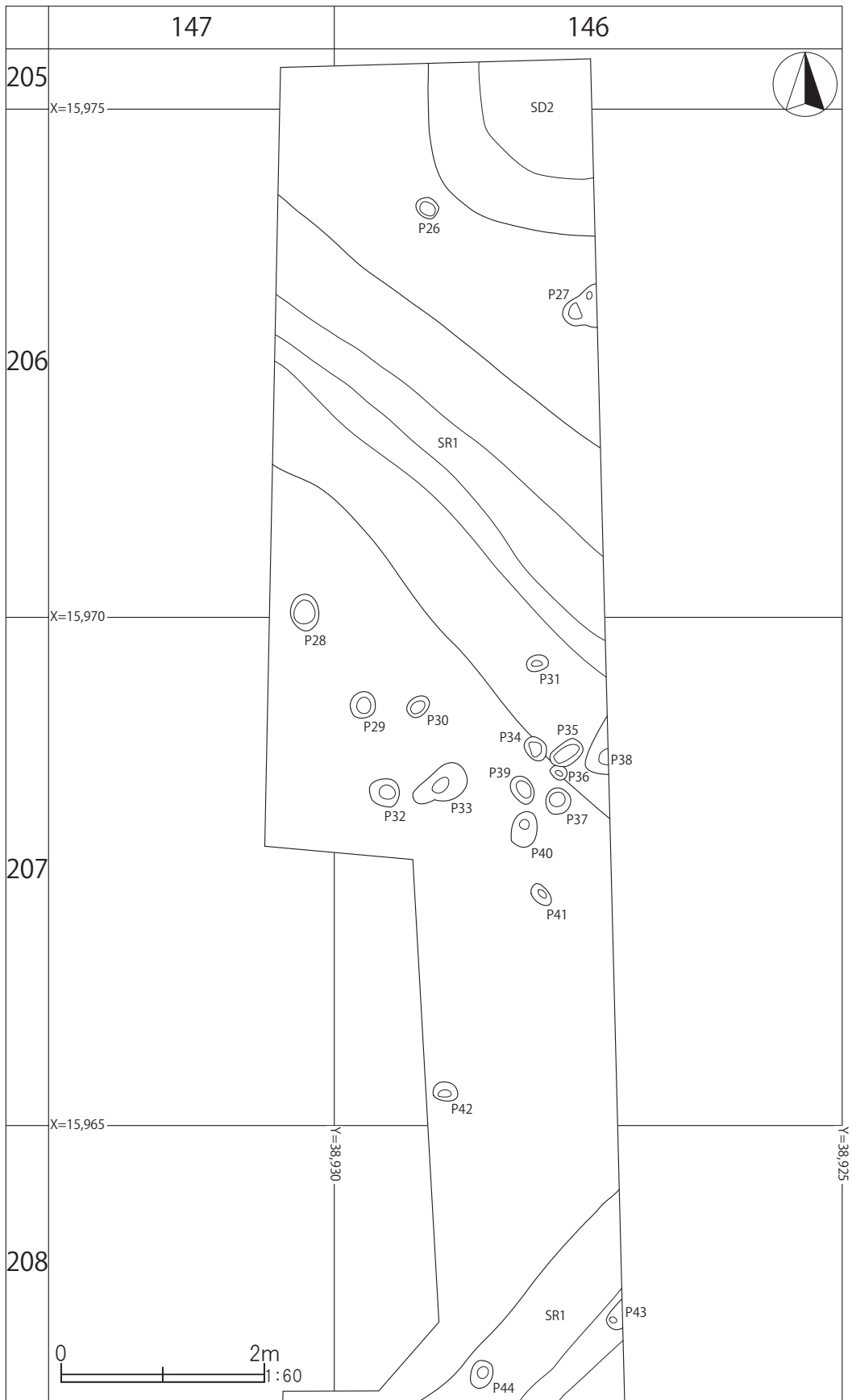
第5図 第1調査区全体図



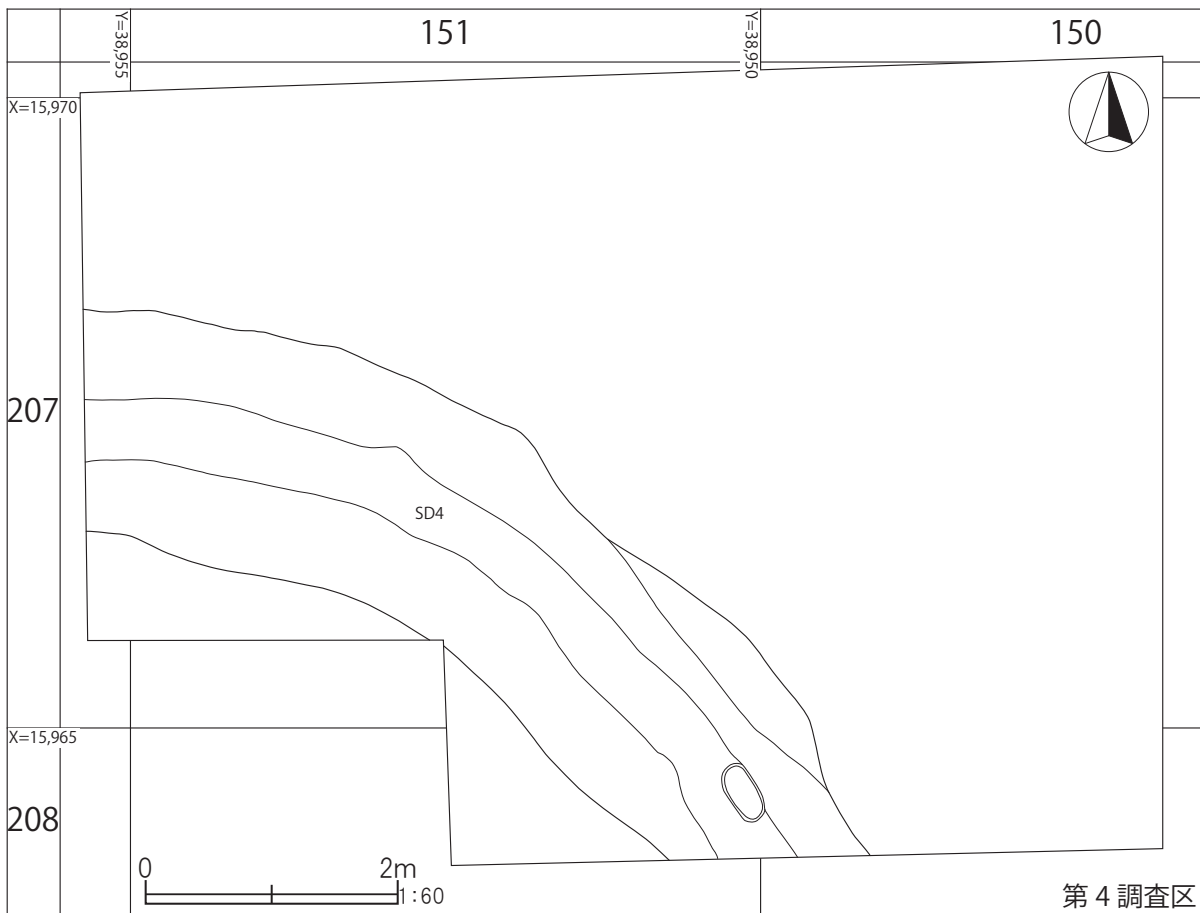
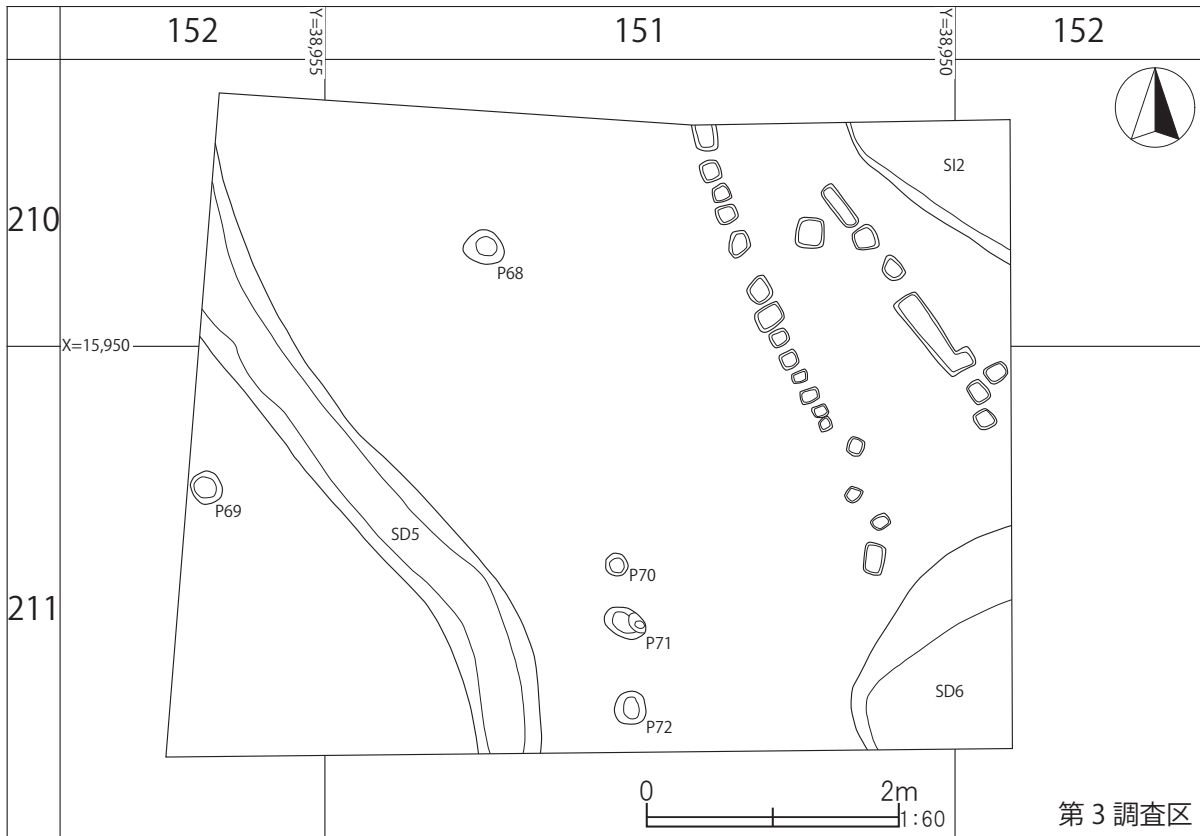
第6図 第2調査区全体図(1)



第7図 第2調査区全体図(2)

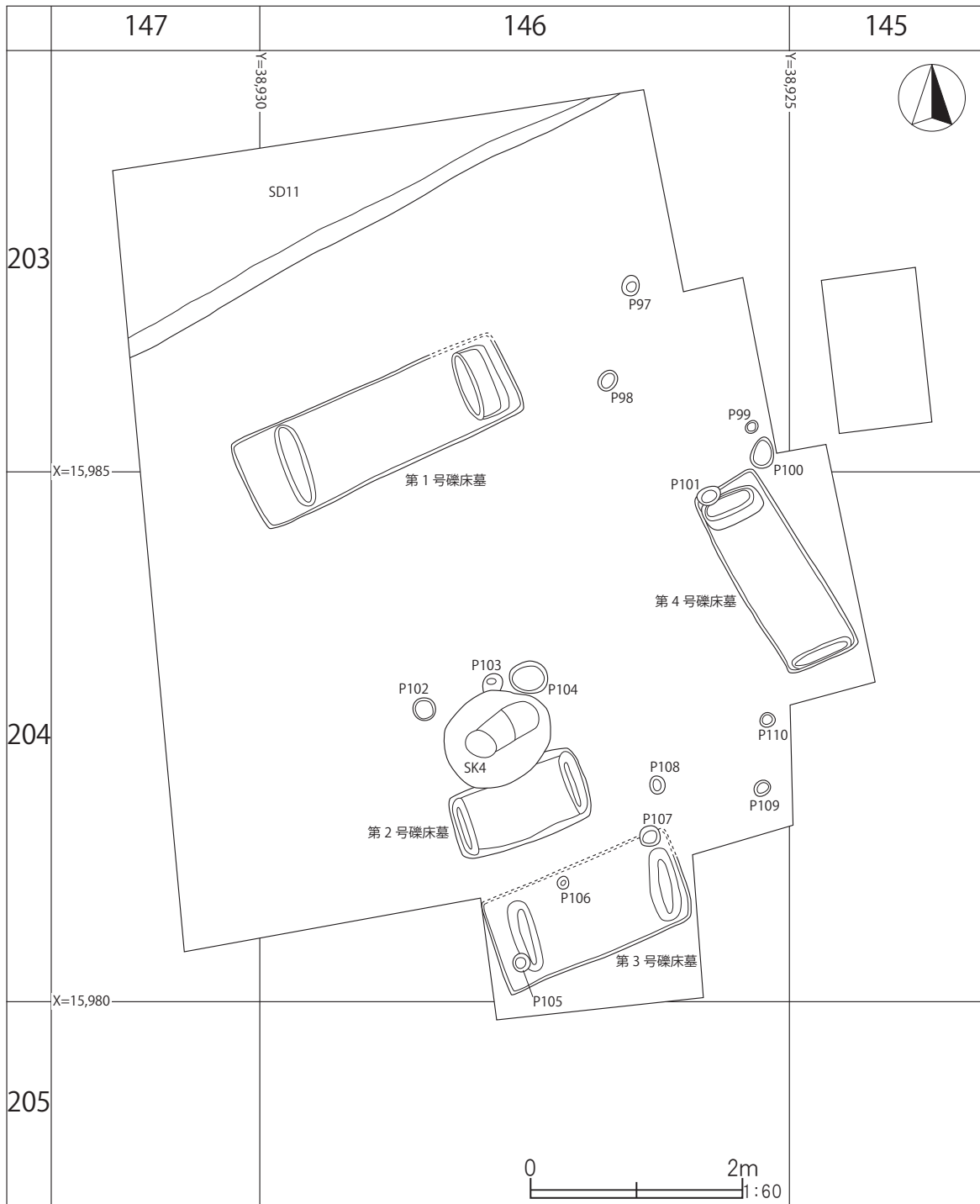


第8図 第2調査区全体図(3)

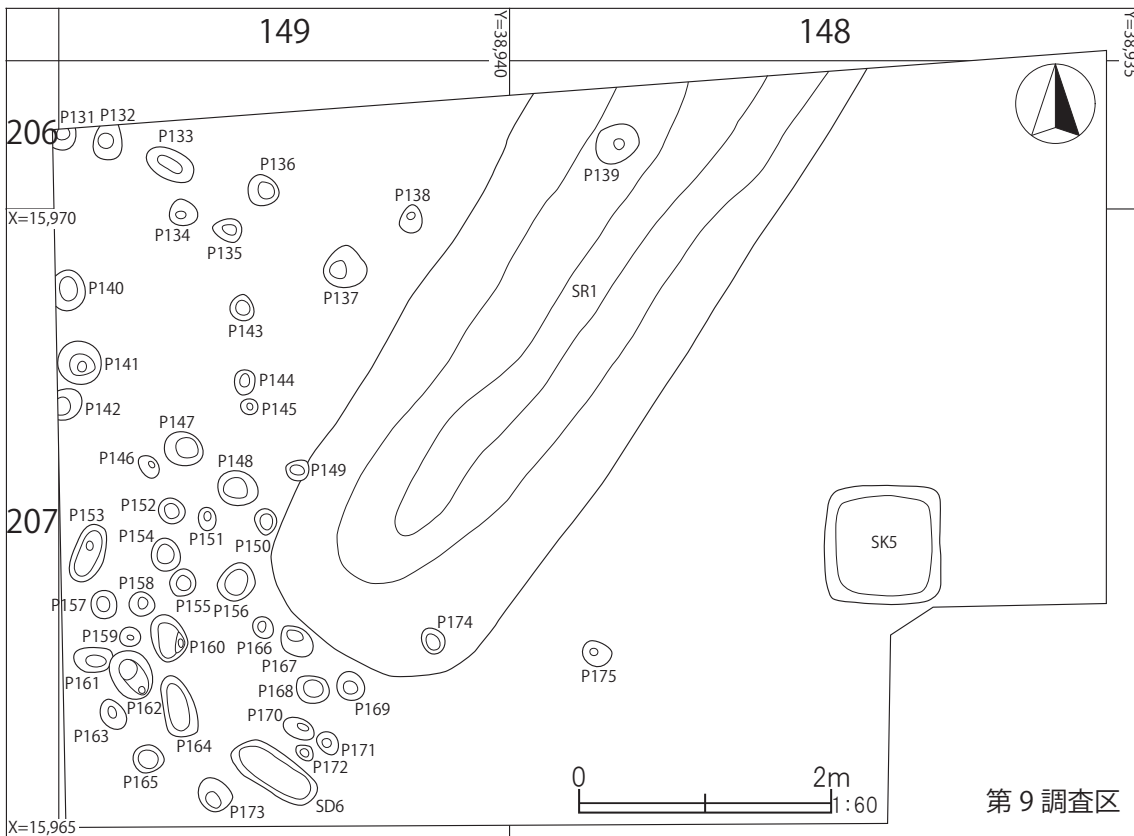
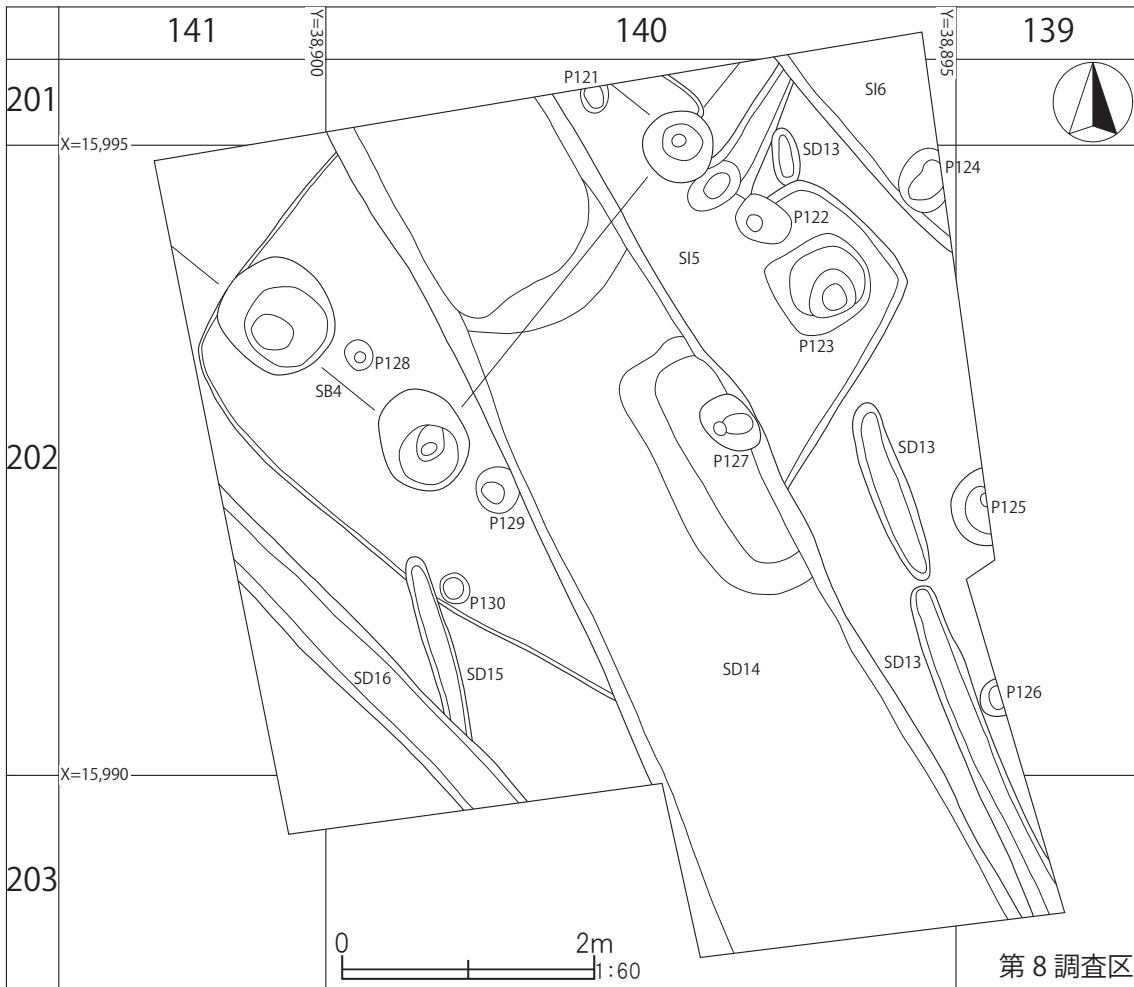


第9図 第3・4調査区全体図





第11図 第6調査区全体図



第12図 第8・9調査区全体図



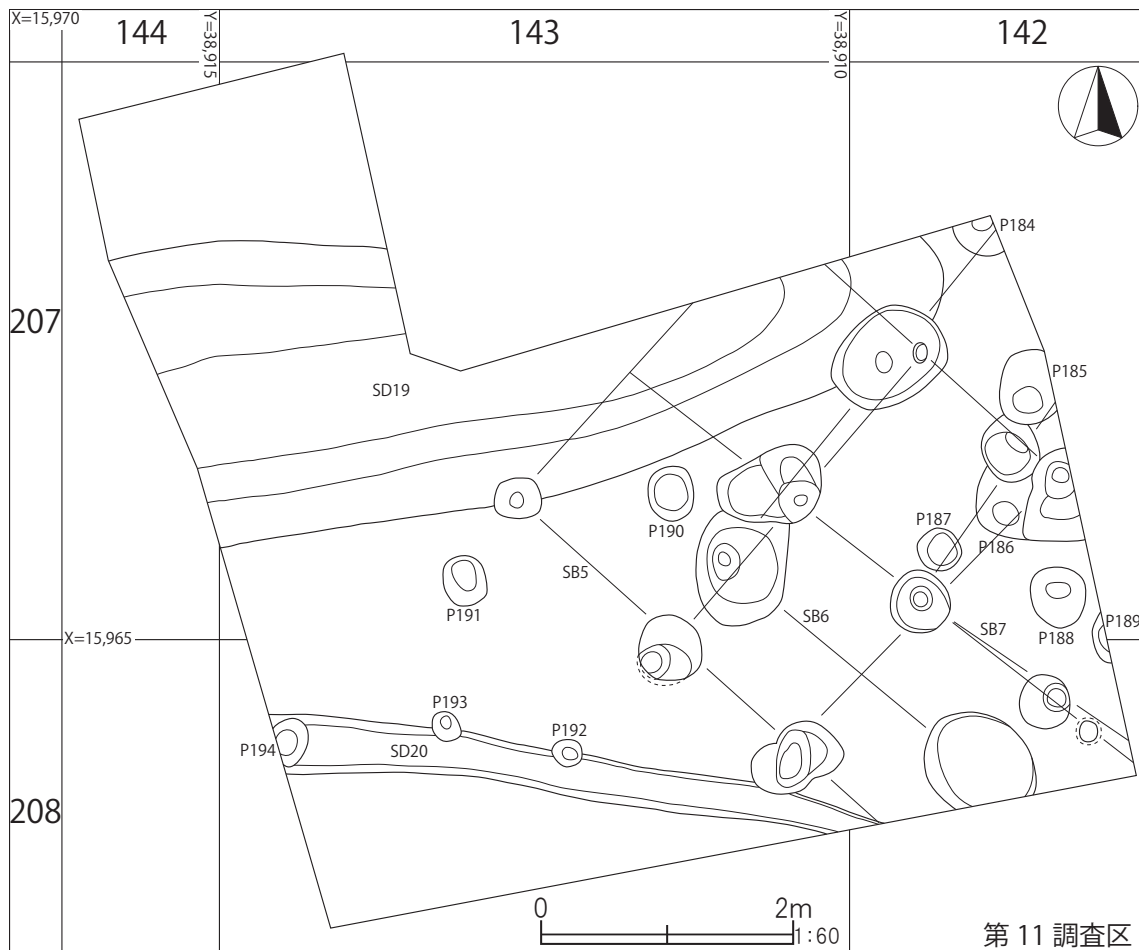
4)、溝跡1条(SD11)、古墳時代の土坑1基(SK4)、ピット14基(P97~110)が確認されている。礫床木棺墓は、前中西遺跡の発掘調査で初めて検出された墓制で、第1号~第3号礫床木棺墓が主軸方位をほぼ揃えて並び、第4号礫床木棺墓の主軸方位がほぼ直行する。副葬品として、第1号礫床木棺墓より管玉が合計44点、第3号礫床木棺墓より管玉が117点、合計161点出土しており、注目される。

**第7調査区(第10図)** - 調査面積9.10㎡。検出された遺構は、古墳時代の溝跡1条(SD12)、掘立柱建物跡1棟(SB3)、ピット10基(P111~120)が確認されている。弥生時代の遺構は確認されていない。

**第8調査区(第12図)** - 調査面積37.15㎡。検出された遺構は、古墳時代の住居跡2軒(SI5・6)、掘立柱建物跡1棟(SB4)、溝跡4条(SD13~16)、ピット10基(P121~130)が検出されている。弥生時代の遺構は確認されていない。

**第9調査区(第12図)** - 調査面積45.53㎡。検出された遺構は、弥生時代の方形周溝墓1基(SR1)、土坑1基(SK5)、古墳時代の土坑1基(SK6)、ピット45基(P131~175)が確認されている。方形周溝墓は、第2・5調査区で確認されている方形周溝墓の北西の溝と判断される。第5号土坑は、集石下より骨片が確認されており、墓壇と判断される。方形周溝墓の方台部に位置するが、方形周溝墓との関係は判断できなかった。ピットは密集して調査区の南西側で検出されているが、規則性は認められない。

**第10調査区(第15図)** - 調査面積47.38㎡。弥生時代の溝跡1条(SD4)、古墳時代の住居跡1軒(SI7)、土坑1基(SK7)、溝跡2条(SD17・18)、ピット8基(P176~183)が確認されている。第4



第13図 第11調査区全体図

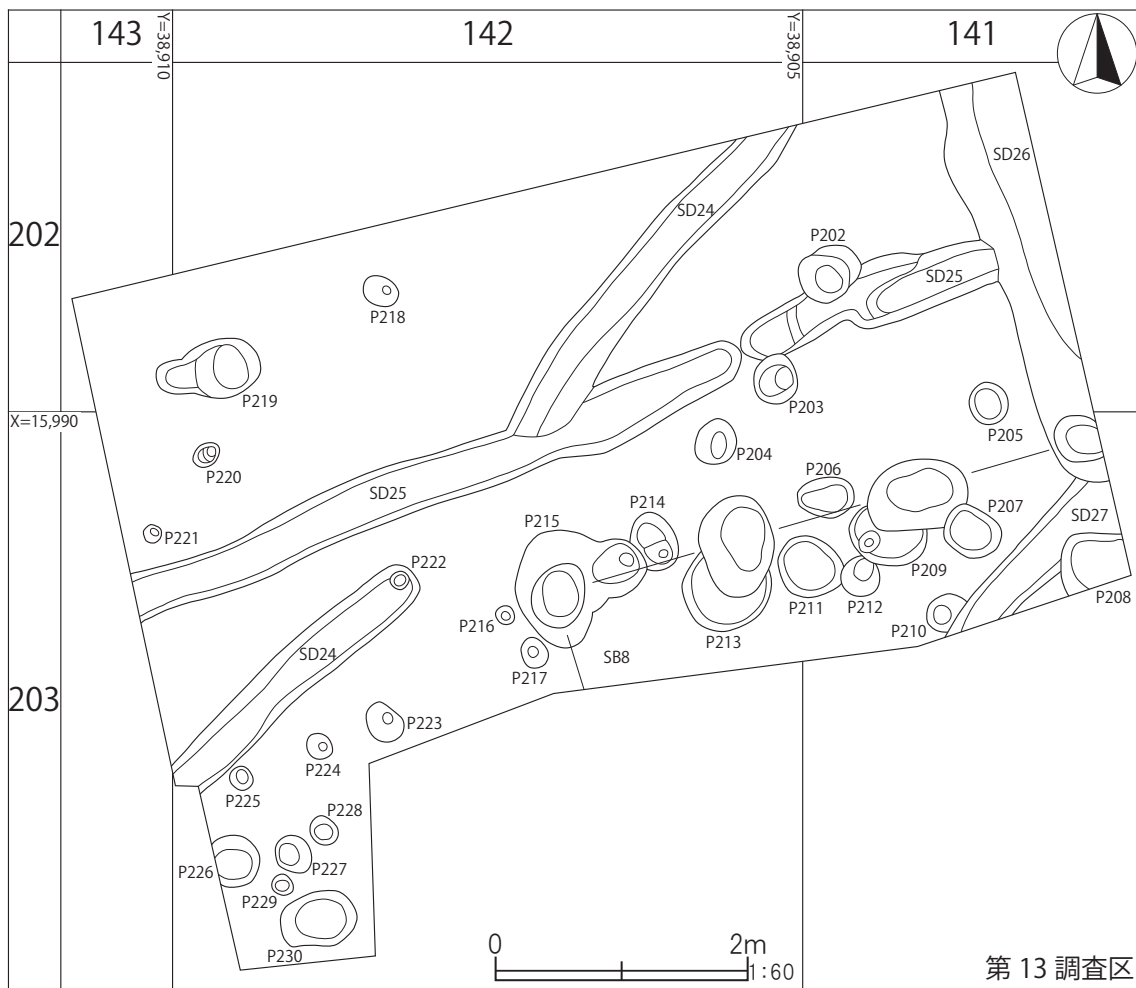
号溝跡は、第2・4調査区へと延びている。覆土下層より、中期後半に属する在地系の北島式系統の土器と、搬入品の栗林2式新段階の土器の伴出が確認されている。

**第11調査区（第13図）**－調査面積34.01㎡。検出された遺構は、弥生時代の溝跡1条（SD19）、古墳時代の掘立柱建物跡3棟（SB5～7）、溝跡1条（SD20）、ピット12基（P184～194・231）が確認されている。第231号ピットは調査区北壁セクションで確認されている。第19号溝跡は、形状から方形周溝墓の周溝の可能性が高い。覆土下層より、中期後半の北島式段階に属するほぼ完形の壺形土器が出土している。

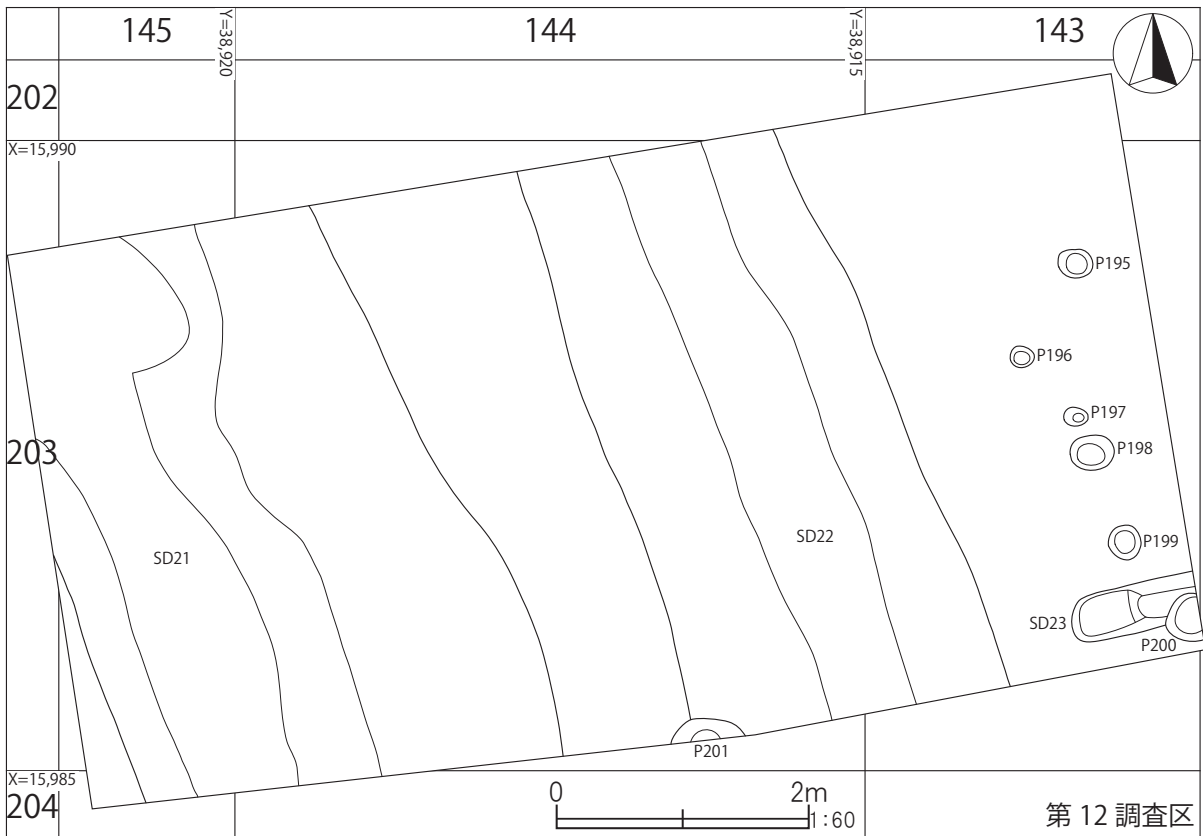
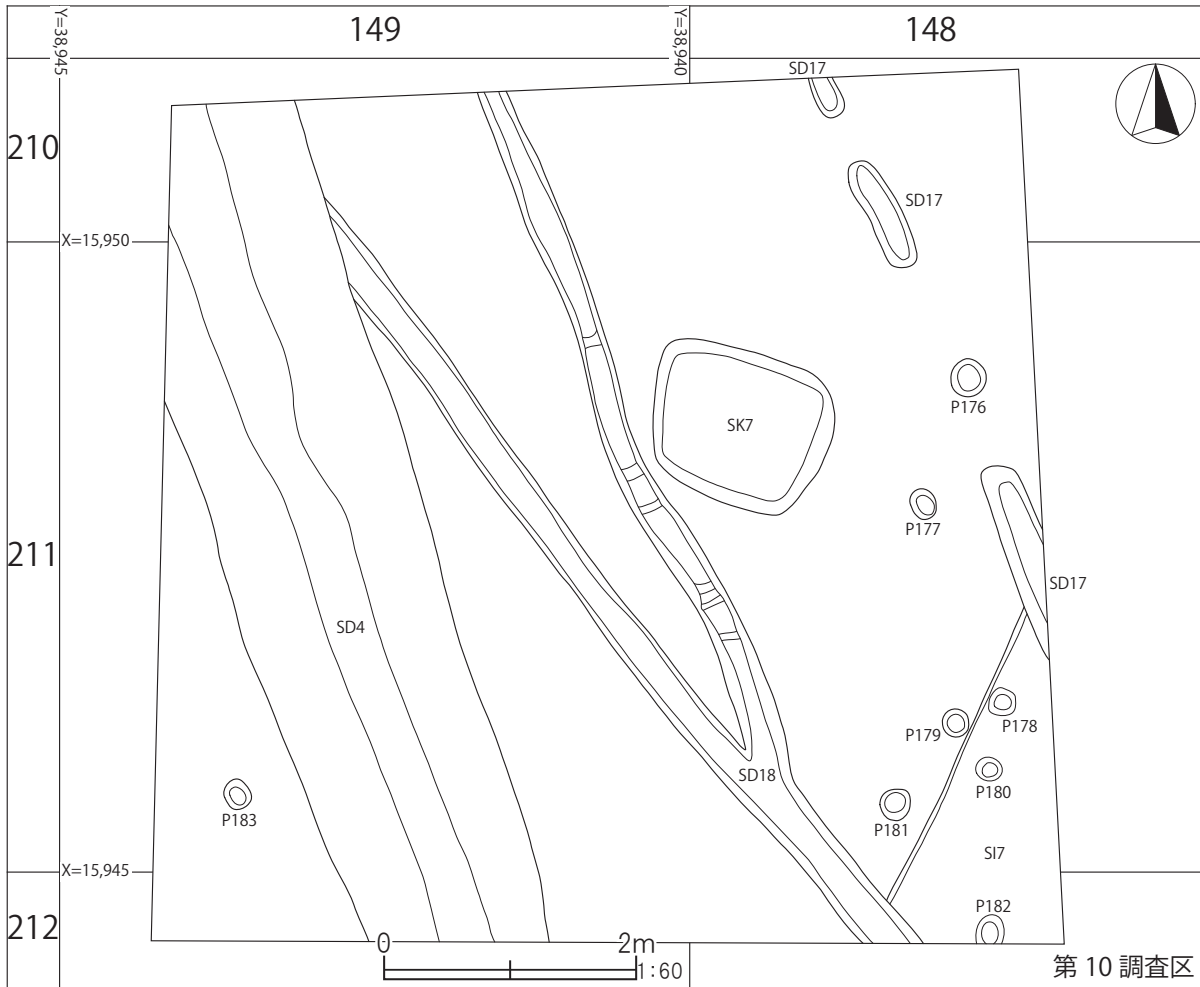
**第12調査区（第15図）**－調査面積41.10㎡。検出された遺構は、弥生時代の溝跡1条（SD21）、古墳時代の溝跡2条（SD22・23）、ピット8基（P195～201・232）が確認されている。第232号ピットは、調査区西壁セクションで確認され、第21号溝跡を切っている。細い柱根の一部が残存しており、掘立柱建物跡の可能性はある。

**第13調査区（第14図）**－調査面積33.48㎡。検出された遺構は、古墳時代の掘立柱建物跡1棟（SB8）、溝跡4条（SD24～27）、ピット28基（P202～230）が確認されている。掘立柱建物跡のピット1～3には、柱根が良好な状態で確認されている。残存長80cm前後で、樹種同定の結果、ヒノキに同定されている。弥生時代の遺構は、確認されていない。

遺構外出土遺物は、縄文土器、弥生土器、石器、古墳時代後期の須恵器、土師器が少量出土している。



第14図 第13調査区全体図



第15図 第10・12調査区全体図

## IV 検出された遺構と遺物

### 1 住居跡

住居跡は、総数7軒が検出されている。内訳は、第1調査区1軒、第3調査区1軒、第5調査区2軒、第8調査区2軒、第10調査区1軒が検出されており、時期は、いずれも7世紀後半と判断される。

#### 第1号住居跡（第16図）

**位置** 第1調査区、142・143-205・206グリットに位置する。第1号掘立柱建物跡と重複する。南1/3は、調査区外にかかり未調査。

**遺構** 規模は、長軸4.2mを測り、主軸はN-70°-Eの方位を持つ。東壁やや南側にカマドを持つ。壁の掘り込みは、東壁で15cm、西壁で15.5cm、北壁で14.5cmを測る。床は、ローム混じり土を貼床としており、ほぼ平坦。第9・20号ピットは本住居跡に伴う柱穴の可能性が高い。北西壁際に壁溝が一部巡る。

カマドは、P13・P14により切られており、残存状況は悪い。燃焼部を壁内に位置させ、南側の袖は調査区外になり未確認。袖部は地山を掘り残し、一部黄白色粘土を薄く貼って構築している。

また、本住居跡東側に浅い掘り込みを確認している。古い時期の重複する住居跡の可能性もあるが、不定形の掘り込みとなっており、重複する住居跡と判断できなかった。

**遺物（第17図・第6表）** 遺物は、いずれも床面から10cm程浮いた状態で出土している。完形品は無く、いずれも残存率50%以下となっている。第17図1は、小形の北武蔵型坏。推定口径10.2cmを測る。2は有段口縁坏。段が沈線化しており、体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径12.2cmを測る。3～6は、磨石。3・5は、端部に敲打痕が観察される。石質は、3・5が砂岩、4が片岩、6が頁岩。

**時期** 出土遺物から7世紀後半と判断される。

#### 第2号住居跡（第18図）

**位置** 第3調査区、150・151-210グリットに位置する。住居の大半が調査区外にかかり未調査。

**遺構** 南西側の壁面の一部のみ確認されており、規模は不明。壁の掘り込みは、18cmを測る。床は、直床で、ほぼ平坦。

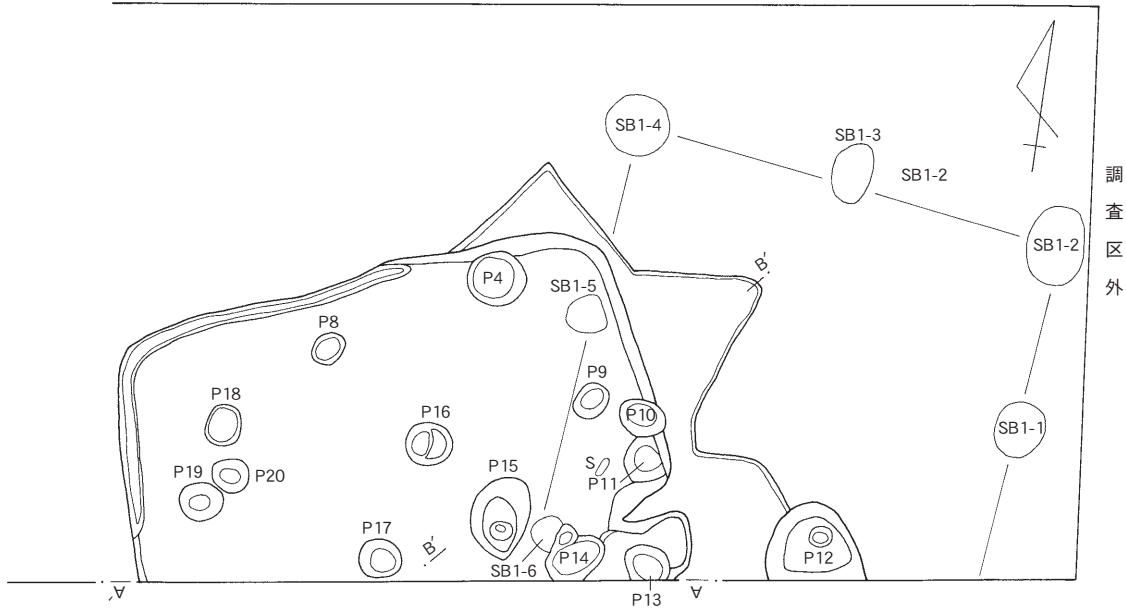
**遺物（第17図・第6表）** 遺物は、図示した1点（第17図7）が、床面からやや浮いた状態で出土している。口頸部のみ残存する土師器の甕。

**時期** 出土遺物から7世紀後半と判断される。

#### 第3号住居跡（第18図）

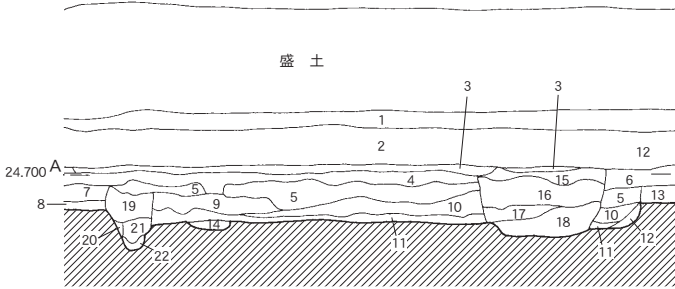
**位置** 第5調査区、144・145-208グリットに位置する。住居の大半が調査区外にかかり未調査。第10号溝跡、第89号ピット、第3号土坑と重複する。

**遺構** 北コーナー部付近のみ確認されており、規模は不明。壁の掘り込みは、29cmを測る。床は直床で、ほぼ平坦。北西壁際に壁溝が確認されている。

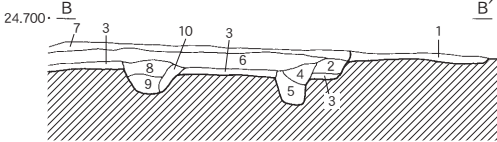


第1号住居跡

A-A'



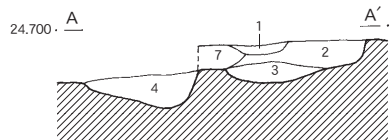
1. 暗灰色土 しまり強、粘性弱。粒子細。
2. 暗黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
3. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
4. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・白色粒子微量含。粒子やや粗。
5. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子粗。
6. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子粗。
7. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子粗。
8. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒子ブロック状含。粒子やや粗。
9. 明茶褐色土 しまり・粘性強。黄白色粒子やや多含。粒子やや粗。
10. 明茶褐色土 しまり・粘性強。黄白色粒子・赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
11. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
12. 明灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒やや多含。粒子粗。
13. 明黄褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子やや粗。
14. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒微量含。粒子細。
15. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
16. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
17. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
18. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
19. 明灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒やや多、赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
20. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。粒子細。
21. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
22. 明黄灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子粗。



B-B'

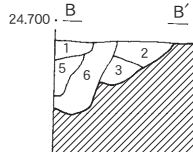
1. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子細。
2. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒少量含。粒子細。
3. 黄褐色土 しまり・粘性強。貼床。黄色粒子・黒色土混土。粒子やや粗。
4. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子やや粗。
5. 灰黒褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子少量含。粒子やや粗。
6. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子やや粗。
7. 黒茶褐色土 しまり・粘性強。粒子細。
8. 黒色土 しまり・粘性強。粒子やや粗。
9. 暗黒茶褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒微量含。粒子やや粗。
10. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒微量含。粒子やや粗。

調査区外



カマド A-A'

1. 明黒褐色土 しまり・粘性強。焼土粒多含。粒子粗。
2. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒少量含。粒子粗。
3. 黒茶褐色土 しまり・粘性強。焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
4. 黄茶褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子粗。
5. 黒灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子粗。
6. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒少量含。粒子粗。
7. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土層微量含。粒子やや粗。

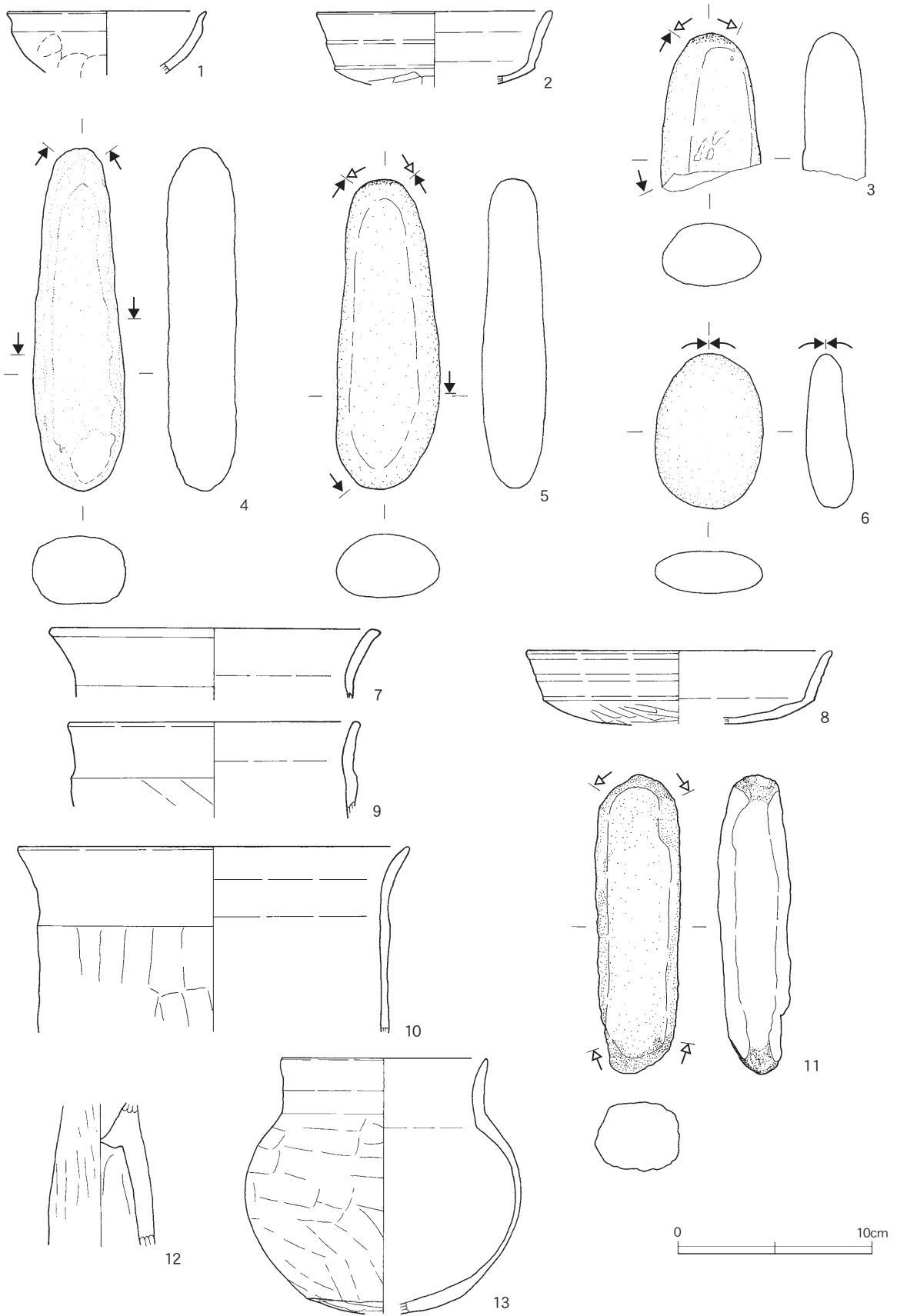


B-B'

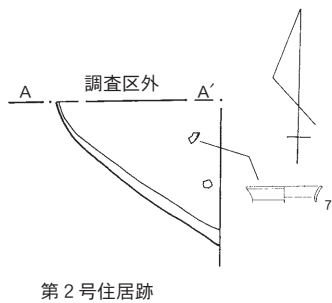
1. 明黒褐色土 しまり・粘性強。焼土粒多含。粒子粗。
2. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒少量含。粒子粗。
3. 黒茶褐色土 しまり・粘性強。焼土・炭化粒微量含。粒子粗。
4. 黄茶褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子粗。
5. 黒灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒多含。粒子粗。
6. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土粒少量含。粒子粗。
7. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄白色粘土層微量含。粒子やや粗。



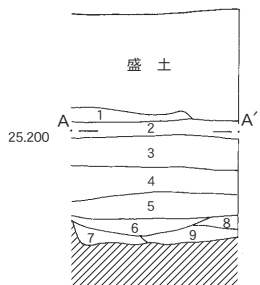
第16図 第1号住居跡



第17図 第1～4・7号住居跡出土遺物

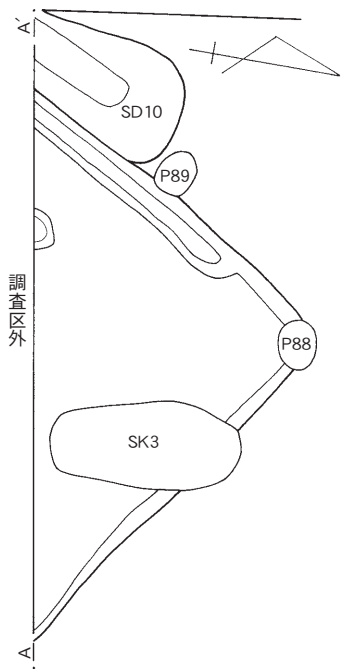


第2号住居跡

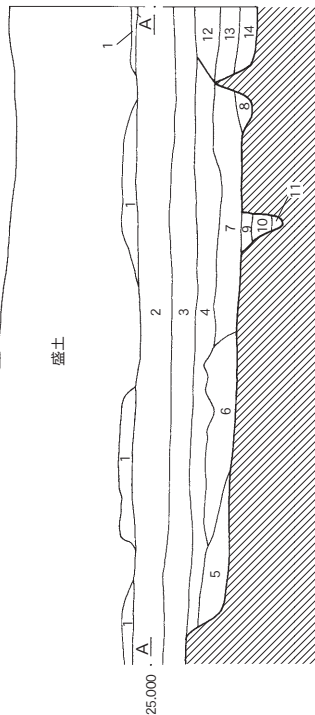


第2号住居跡

1. 暗黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
2. 暗黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや細。
3. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
4. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
5. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子やや細。
6. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多、炭化粒微量含。粒子やや細。
7. 黒灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子やや細。
8. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子やや細。
9. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子やや細。

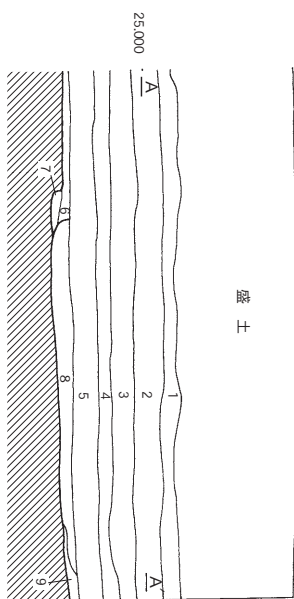


第3号住居跡

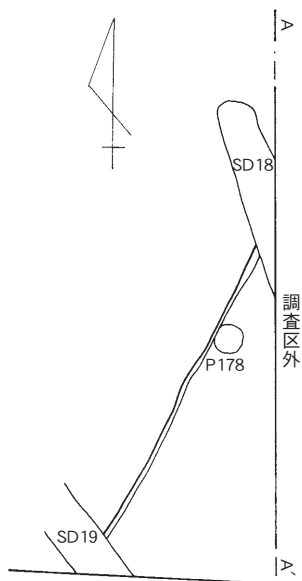


第3号住居跡

1. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子粗。
2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
3. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
4. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
5. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
6. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多、炭化粒微量含。粒子細。
7. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
8. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
9. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
10. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
11. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
12. 明灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
13. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
14. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。

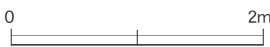


第7号住居跡



第7号住居跡

1. 灰褐色土 しまり・粘性強。旧水田面。
2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
3. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
4. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子やや細。
5. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子やや細。
6. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。
7. 明黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。
8. 明黒茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
9. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。



第18図 第2・3・7号住居跡



**遺物（第17図・第6表）** 遺物は、図示した1点（第17図8）が、床面からやや浮いた状態で出土している。有段口縁坏で、段が沈線化しており、体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径17.0cmを測る。  
**時期** 出土遺物から、7世紀後半と判断される。

#### 第4号住居跡（第19図）

**位置** 第5調査区、145-207・208グリットに位置する。住居の西2/3が調査区外にかかり未調査。第1号方形周溝墓を切って構築されており、第2号掘立柱建物跡ピット1・4に切られている。

**遺構** 規模は、短軸3.8mを測り、主軸はN-58°-Eの方位を持つ。東壁やや南側にカマドを持つ。壁の掘り込みは、南壁で37cm、東壁で34cmを測る。床は直床で、ほぼ平坦。

カマドは、第2号掘立柱建物跡ピット1により切られている。燃焼部を壁内に位置させ、両袖部は地山を掘り残して構築している。壁外への張り出しは1.6mを測り、炊口部は、1.2m×0.7mを測り、煙道部へ緩やかに立ち上がった後、先端で鋭角に立ち上がる。

貯蔵穴は南東隅に確認された。長軸0.58×短軸0.42cmの楕円形を呈し、床面からの深さは0.15mを測る。

**遺物（第17図・第6表）** 遺物は、カマド内から敲石1点、住居南東側より、土師器が床面からやや浮いた状態で出土している。9は胴部以下を欠損する土師器の鉢。胴部がやや張る。10は、胴部以下を欠損する土師器の甑。11は、片岩製の敲石。両端部に敲打痕が観察される。

**時期** 出土遺物から、7世紀後半と判断される。

#### 第5号住居跡（第20図）

**位置** 第8調査区、140・141-201・202グリットに位置する。第6号住居跡・第14号溝跡、第122・123号ピットに切られ、第4号掘立柱建物跡と重複する。

**遺構** 住居跡の北東コーナーは調査区外にかかり未調査。ほぼ中央を第14号溝跡に切られている。規模は、長軸4.5m、短軸4.5mを測り、ほぼ方形を呈し、主軸はN-31°-Eの方位を持つ。床は直床で、ほぼ平坦。東壁やや南側にカマドを持つ。壁の掘り込みは浅く、南壁で11cm、西壁で12cm、北壁で13cmを測る。

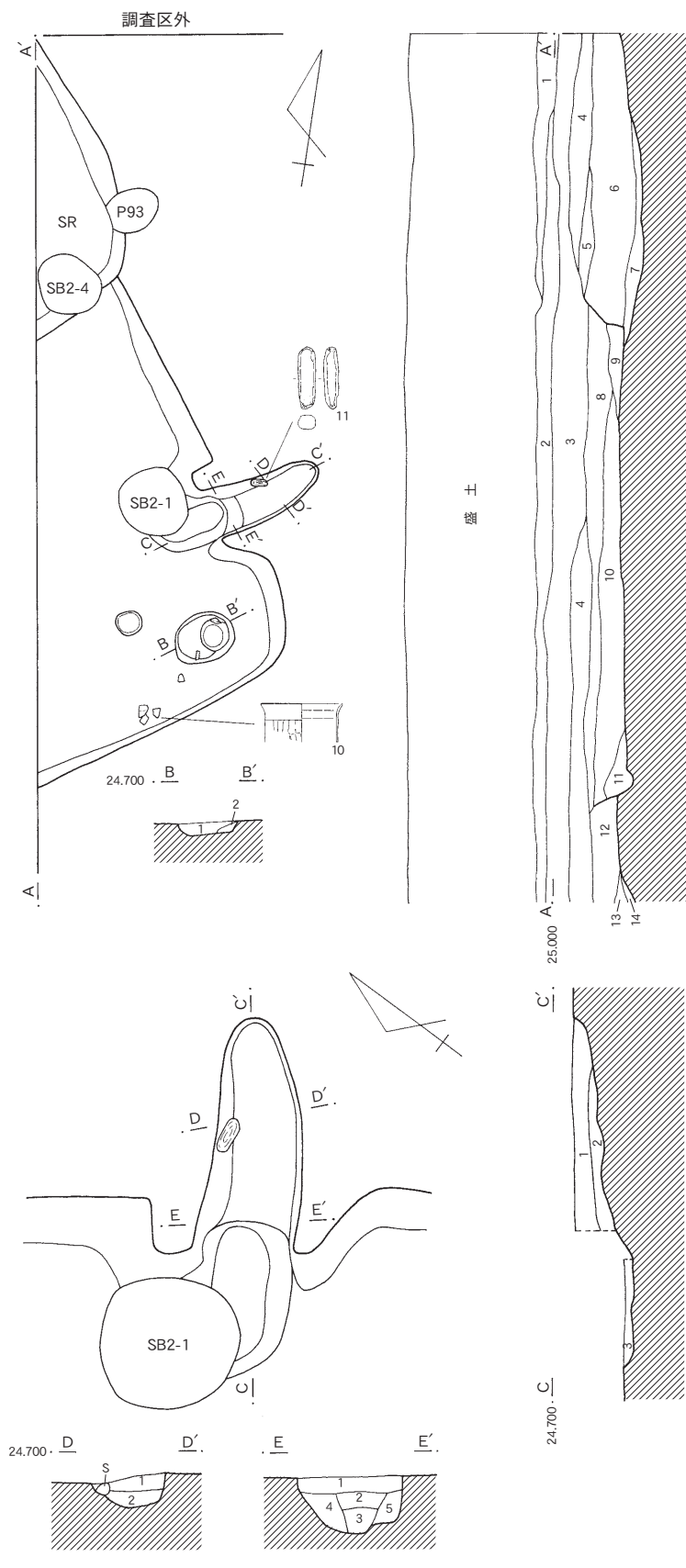
カマドは、先端部を第6号住居跡によって切られている。燃焼部を壁内に位置させ、両袖部は地山を掘り残して構築している。炊口部から煙道部までは、ほぼ平坦である。

貯蔵穴は南東隅に確認された。第123号ピットに切られているが、長軸0.81cm×短軸0.72cmの不整形を呈し、床面からの深さは0.92mを測る。

**遺物（第21図・第6表）** カマド内および貯蔵穴周辺の床面直上より、比較的集中して遺物が出土している。14・17は、胴部下半を欠損する土師器の長胴甕。15は、有段口縁坏。体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径13.0cmを測る。16は、胴部下半を欠損する土師器の甕。胴部が張る。18は、胴部下半部のみ残存する土師器の甕。19は、片岩製の敲石。端部に敲打痕が観察される。20は、約1/2を欠損する大型の土錘。

**時期** 出土遺物から、7世紀後半と判断される。





第4号住居跡

A-A'

- 1. 明灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子粗。
- 2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子粗。
- 3. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子粗。
- 4. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子粗。
- 5. 明黄灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
- 6. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
- 7. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
- 8. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
- 9. 明黒灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
- 10. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
- 11. 明黒灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
- 12. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。
- 13. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
- 14. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。

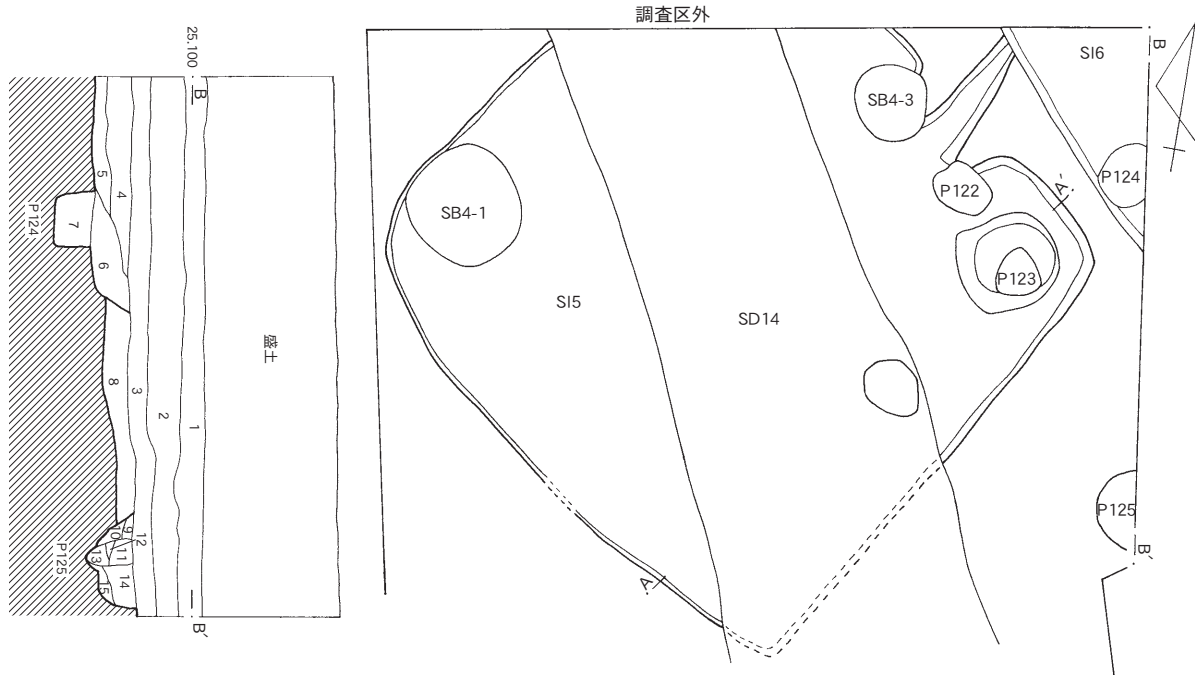
B-B'

- 1. 明黄茶褐色土 しまり・粘性強。砂粒微量含。粒子細。
- 2. 明茶褐色土 しまり・粘性強。粒子細。

カマド C-C' D-D' E-E'

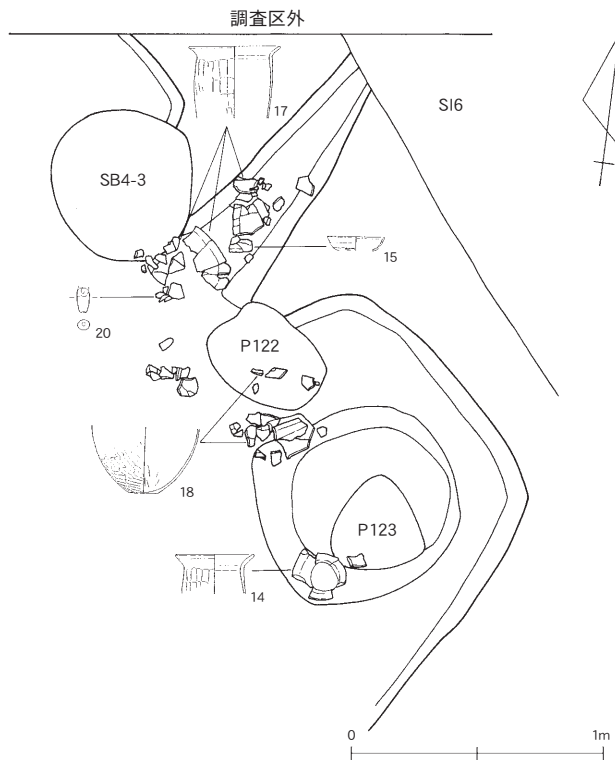
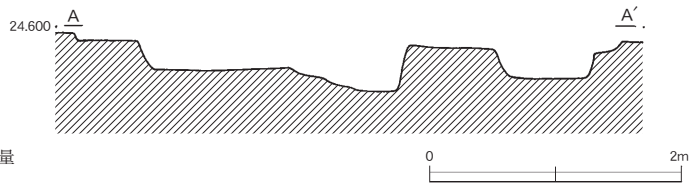
- 1. 暗褐色土 しまり・粘性強。焼土・炭化粒微量含。粒子細。
- 2. 明灰褐色土 しまり・粘性強。焼土・炭化粒微量含。粒子細。
- 3. 黒褐色土 しまり・粘性強。焼土粒微量、炭化粒多含。粒子細。
- 4. 明茶褐色土 しまり・粘性強。焼土粒少量含。粒子細。
- 5. 明褐色土 しまり・粘性強。焼土粒少量含。粒子細。

第19図 第4号住居跡



第6号住居跡

1. 灰褐色土 しまり・粘性強。旧水田耕作面。
2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
3. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
4. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子やや粗。
5. 暗褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
6. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
7. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。
8. 黄茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
9. 暗褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
10. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
11. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
12. 黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
13. 晴黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
14. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。
15. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子細。



第20図 第5・6号住居跡

### 第6号住居跡（第20図）

**位置** 第8調査区、140-201・202グリットに位置する。第124号ピットと重複し、第5号住居跡のカマドを切って構築されている。

**遺構** 遺構の大半が調査区外にかかり、未調査。検出された南西側の壁は、第5号住居跡の壁面と並行し、主軸方位が同じである可能性が高い壁高は23cmを測る。床は直床で、平坦。

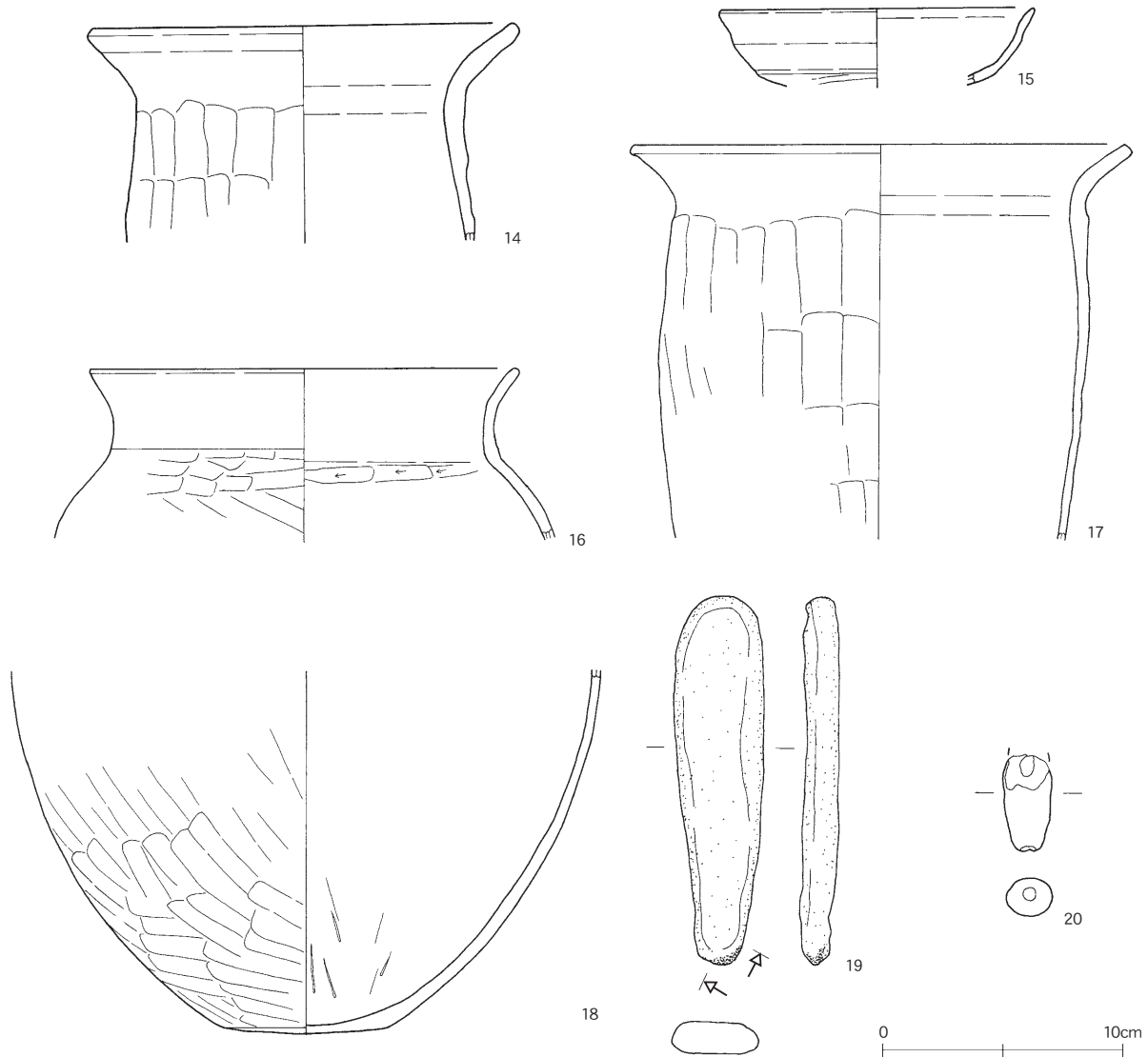
**遺物** 土師器甕の小片が覆土中層より出土しているが、図示するには至らなかった。

**時期** 出土遺物および第5号住居跡を切って構築されていること、住居の主軸方向が同じであることから、第5号住居跡の廃絶後の近い時期に本住居跡の時期が求められる。

### 第7号住居跡（第18図）

**位置** 第10調査区、148-211・212グリットに位置する。第18・19号溝跡に切られ、第178号ピットと重複する。

**遺構** 遺構の大半が調査区外にかかり、未調査。北東側の壁のみ確認しており、壁高0.12mを測る。



第21図 第5号住居跡出土遺物

床は直床で、ほぼ平坦。

**遺物（第17図・第6表）** 床面直上より、少量の遺物が出土している。12は、土師器の高坏脚部。外面はミガキ調整が行われ、内面に輪積痕が残る。13は、土師器の小型壺。口縁部は直線的に小さく開き、頸部はほぼ直立し段を持つ。胴部は球形を呈し、最大径を中位に持つ。調整は、口縁部および頸部の内外面が横ナデ、胴部外面はヘラナデ、胴部内面はヘラナデおよびナデ調整が施されている。

**時期** 出土遺物から、7世紀後半と判断される。

## 2 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、総数8棟が東側の調査区で検出された。内訳は、第1調査区で1棟、第5調査区で1棟、第7調査区で1棟、第8調査区で1棟、第11調査区で3棟、第13調査区で1棟検出されている。時期の判断可能なものは全て7世紀後半に帰属される。

### 第1号掘立柱建物跡（第22図・第4表）

**位置** 第1調査区、141・142-205・206グリットに位置する。第1号住居跡を切っている。

**遺構** 南側は未調査となっている。梁行2間×桁行2間以上の南に展開する南北棟側柱建物跡と推測され、梁行3.4mを測り、桁行は不明。柱間は、梁行1.7m、桁行1.6mを測る。主軸方位は、N-4°-Eを指す。柱穴の掘方は、円形ないし楕円形を呈すると思われ、径32cm~62cm、深さ18cm~53cmを測る。柱痕は、いずれの柱穴においても確認できなかった。

**遺物（第26図4・第7表）** 遺物は、ピット4より、土師器の有段口縁坏が1点出土している。体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径13.8cmを測る。

**時期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。

### 第2号掘立柱建物跡（第22図・第4表）

**位置** 第5調査区、145-207グリットに位置する。第4号住居跡、第1号方形周溝墓と重複する。

**遺構** 4柱穴が確認されている。梁行1間×桁行1間ないしは、北側・西側に柱穴が展開する可能性がある。柱間は、梁行1.8m、桁行1.8mを測る。主軸方位は、N-25°-Wを指す。柱穴の掘方は、円形ないし楕円形を呈し、径60cm~72cm、深さ48cm~64cmを測る。

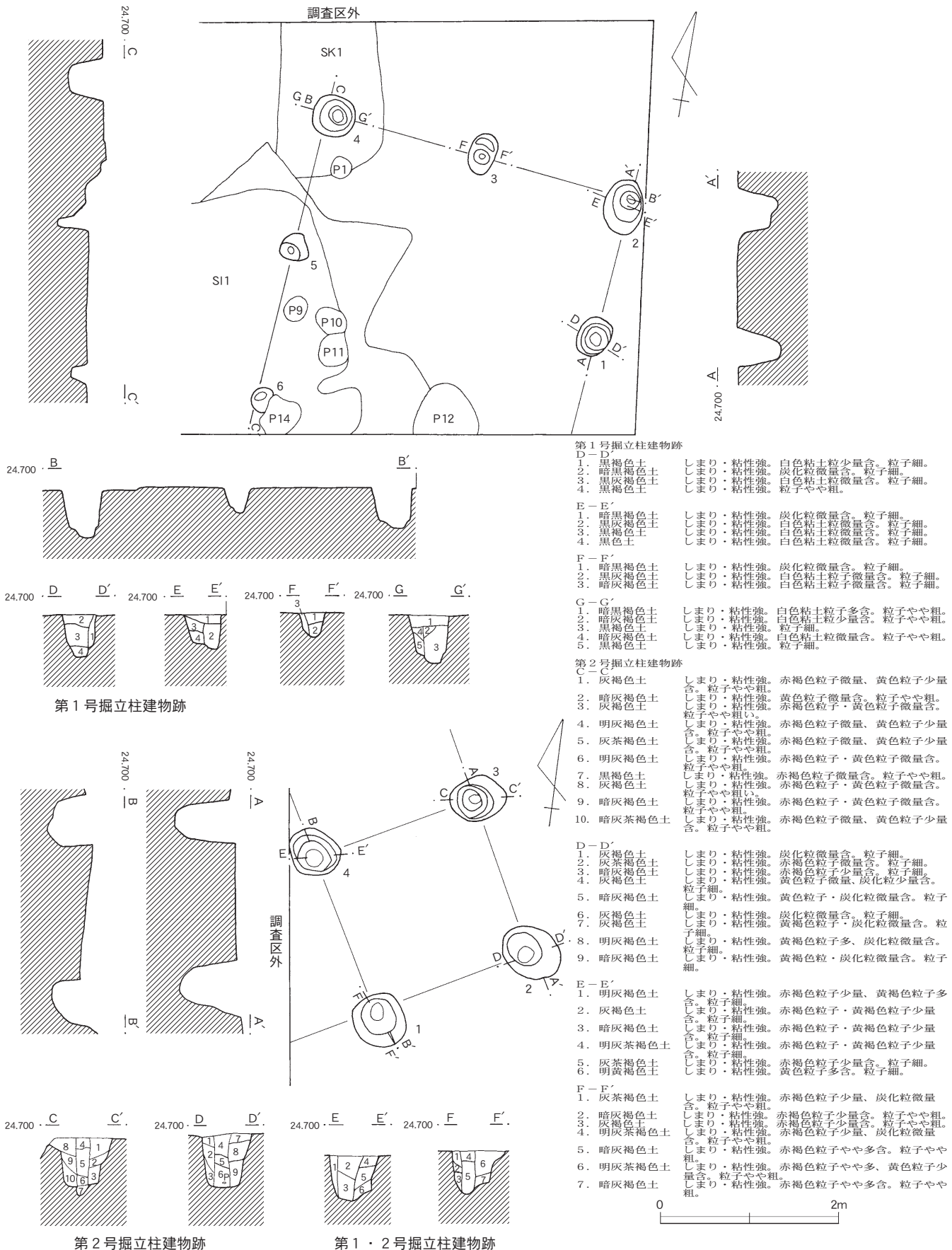
**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

### 第3号掘立柱建物跡（第23図・第4表）

**位置** 第7調査区、141・142-206グリットに位置する。第12号溝と重複する。

**遺構** 4柱穴が確認されている。梁行1間×桁行1間ないしは、東西南北の調査区外に柱穴が展開する可能性がある。柱間は、梁行1.8m、桁行1.8mを測る。主軸方位は、N-18°-Wを指す。柱穴の掘方は、基本的に円形を呈し、径56cm~81cm、深さ22cm~66cmを測る。



第22図 第1・2号掘立柱建物跡

**遺物** (第26図・第7表) 遺物は、ピット3より、土師器甕の口縁部1点が出土している(第26図5)。  
**時期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。

#### 第4号掘立柱建物跡(第23図・第4表)

**位置** 第8調査区、140・141-201・202グリットに位置する。第14号溝跡、第5号住居跡と重複する。  
**遺構** 3柱穴が確認されている。桁行2間×梁行2間以上の、北西方向に展開する南北棟側柱建物跡と推測される。柱間は、桁行1.6m、梁行1.6mを測る。主軸方位は、N-51°-Wを指す。柱穴の掘方は、基本的に円形を呈し、径58cm~88cm、深さ62cm~77cmを測る。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第5号掘立柱建物跡(第24図・第4表)

**位置** 第11調査区、142・143-207・208グリットに位置する。第19号溝、第6・7号掘立柱建物跡と重複する。

**遺構** 北・西・南は調査区外に延びる。梁行2間×桁行3間以上の、南に展開する南北棟総柱建物跡と推測される。柱間は、梁行1.5mを測り、桁行は1.7mと1.3mを測る。主軸方位は、N-47°-Wを指す。柱穴の掘方は、円形ないし楕円形を呈し、径16cm~84cm、深さ27cm~67cmを測る。

**遺物** (第26図・第7表) 遺物は、ピット1より、土師器の有段口縁坏が1点出土している(第26図6)。体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径14.2cmを測る。

**時期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。

#### 第6号掘立柱建物跡(第24図・第4表)

**位置** 第11調査区、142-207・208グリットに位置する。第5・7号掘立柱建物跡と重複する。

**遺構** 3柱穴が確認されている。梁行1間×桁行1間以上の側柱建物跡と推測され、梁行、桁行とも不明。柱間は、梁行2.0m、桁行2.5mを測る。主軸方位は、N-50°-Wを指す。柱穴の掘方は、楕円形を呈し、径87cm~94cm、深さ72cm~77cmを測る。ピット2に、柱材の一部が僅かに残存していた。

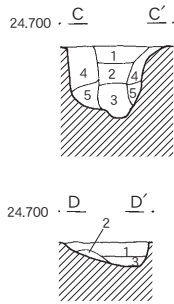
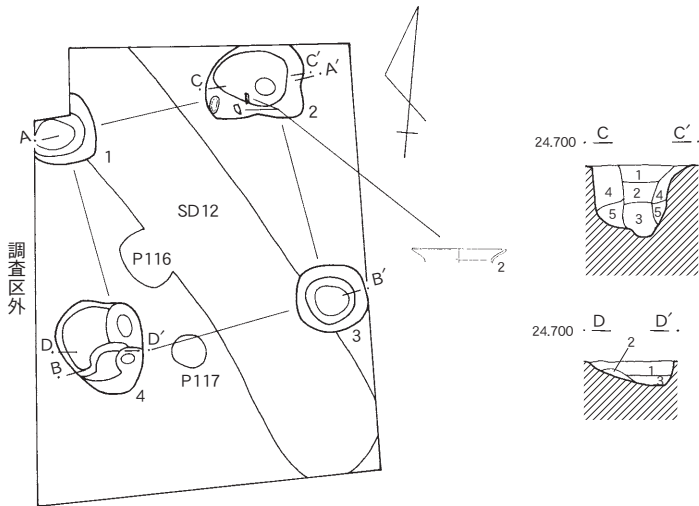
**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第7号掘立柱建物跡(第25図・第4表)

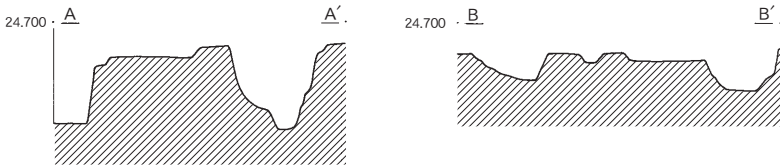
**位置** 第11調査区、142-207・208グリットに位置する。第5・6号掘立柱建物跡、第185・186号ピットと重複する。

**遺構** 3柱穴が確認されている。梁行1間×桁行1間以上の建物跡と推測され、梁行、桁行とも不明。主軸方位は、N-55°-Wを指す。柱間は、梁行1.3m、桁行1.3mを測る。柱穴の掘方は、円形を

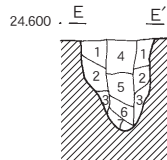
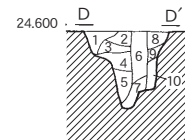
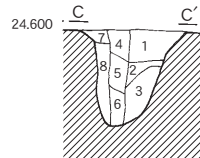
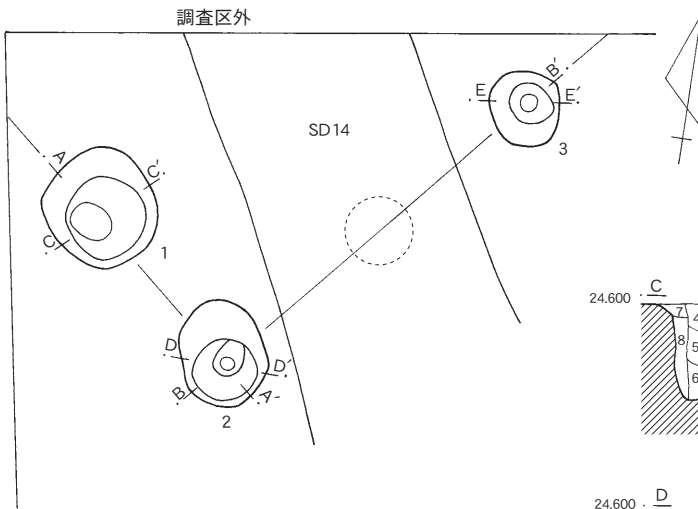


第3号掘立柱建物跡 C-C' D-D'

1. 褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
2. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
3. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子粗。
4. 明褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。
5. 暗褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。



第3号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡

C-C'

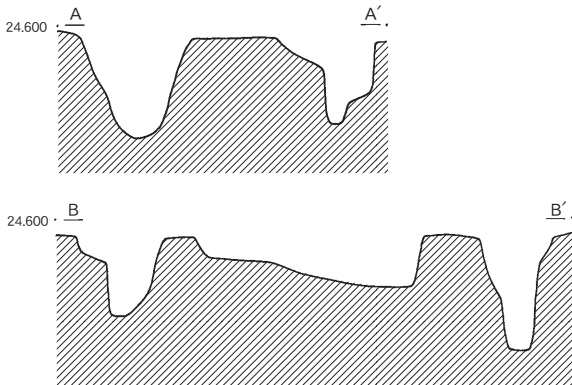
1. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子少量、炭化粒微量含。粒子やや粗。
2. 黒褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒子微量含。粒子細。
3. 褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
4. 茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子少量含。粒子細。
5. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子細。
6. 黒褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子細。
7. 黄褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多、炭化粒微量含。粒子細。
8. 明褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多含。粒子細。

D-D'

1. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子やや粗。
2. 明褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
3. 明茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多含。粒子細。
4. 褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子細。
5. 明黄褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子細。
6. 茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
7. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子細。
8. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子細。
9. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多含。粒子細。
10. 明褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子やや多含。粒子細。

E-E'

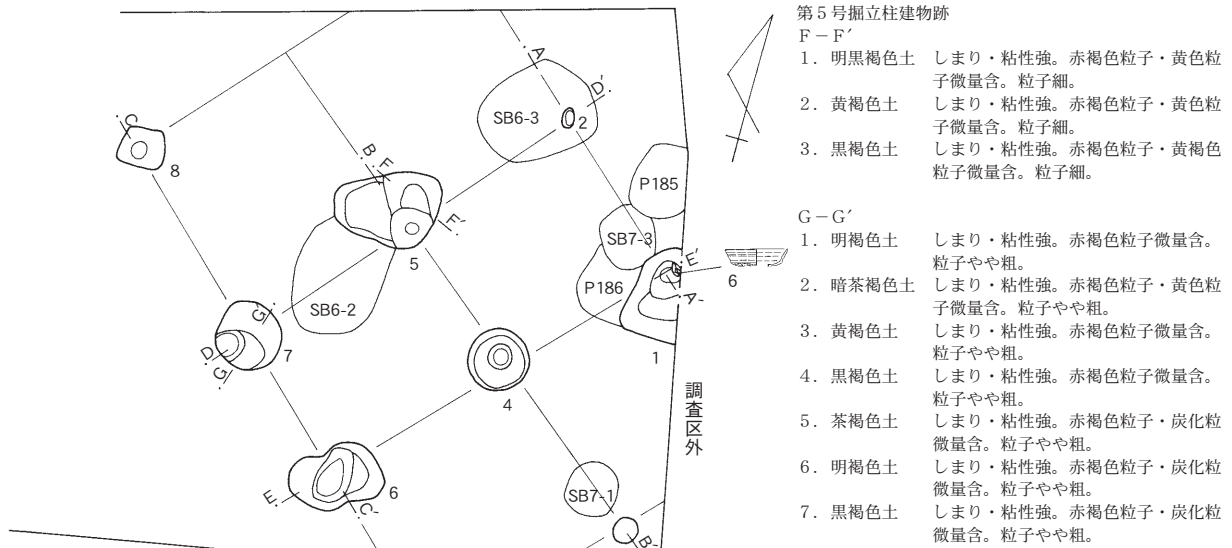
1. 暗褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒子微量含。粒子細。
2. 褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子少量含。粒子細。
3. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子細。
4. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
5. 茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
6. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子細。
7. 暗黄灰褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子微量含。粒子細。



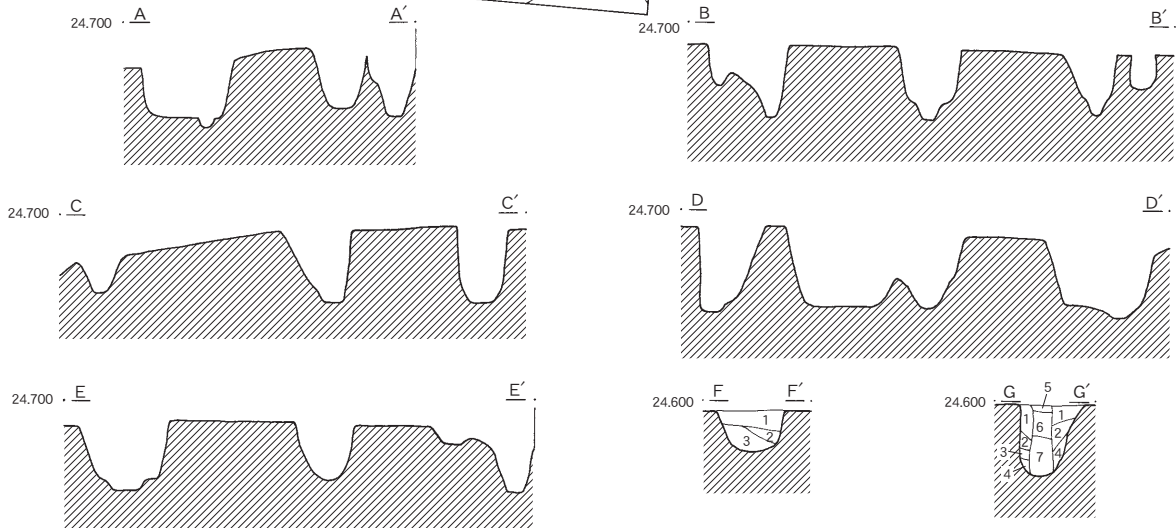
第4号掘立柱建物跡

第23図 第3・4号掘立柱建物跡

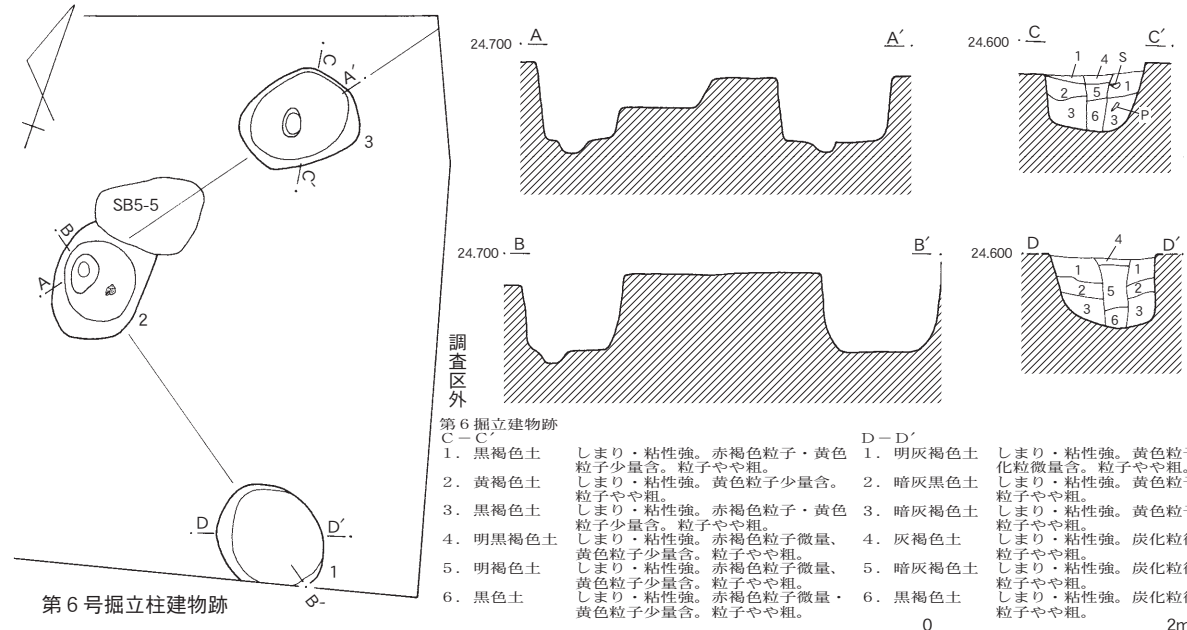




- 第5号掘立柱建物跡  
F-F'
1. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄色粒子微量含。粒子細。
  2. 黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄色粒子微量含。粒子細。
  3. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄褐色粒子微量含。粒子細。
- G-G'
1. 明褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
  2. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄色粒子微量含。粒子やや粗。
  3. 黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
  4. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
  5. 茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子やや粗。
  6. 明褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子やや粗。
  7. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子やや粗。

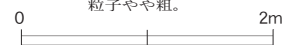


第5号掘立柱建物跡

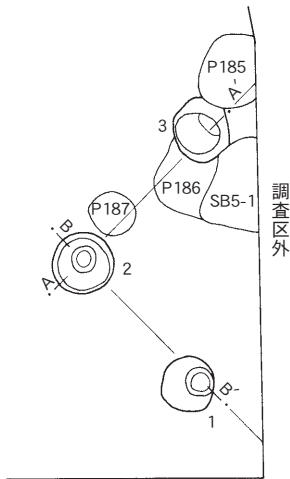


- 第6号掘立柱建物跡  
C-C'
1. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄色粒子少量含。粒子やや粗。
  2. 黄褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子少量含。粒子やや粗。
  3. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄色粒子少量含。粒子やや粗。
  4. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量、黄色粒子少量含。粒子やや粗。
  5. 明褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量、黄色粒子少量含。粒子やや粗。
  6. 黒色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量・黄色粒子少量含。粒子やや粗。
- D-D'
1. 明灰褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多、炭化粒微量含。粒子やや粗。
  2. 暗灰黒色土 しまり・粘性強。黄色粒子多含。粒子やや粗。
  3. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多含。粒子やや粗。
  4. 灰褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子やや粗。
  5. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子やや粗。
  6. 黒褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子やや粗。

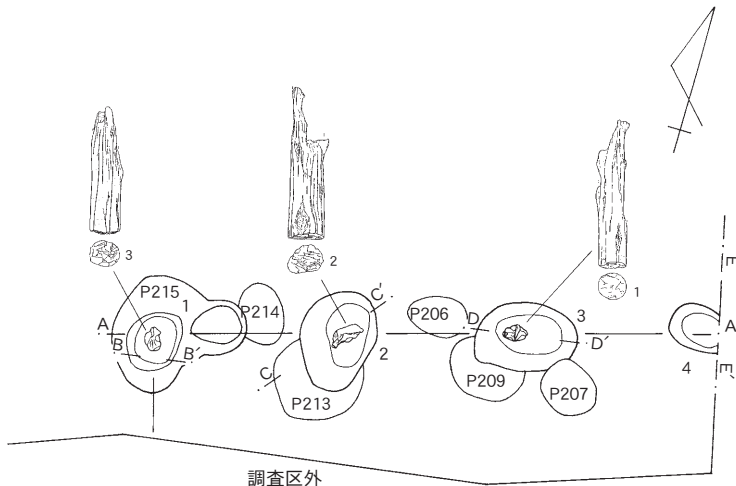
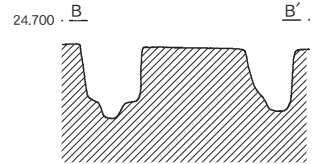
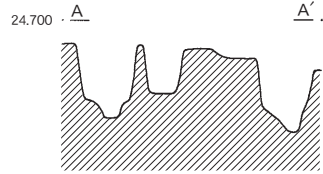
第24図 第5・6号掘立柱建物跡



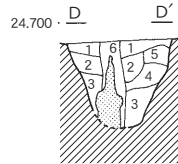
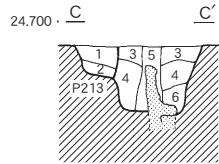
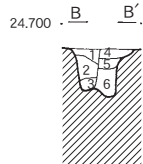
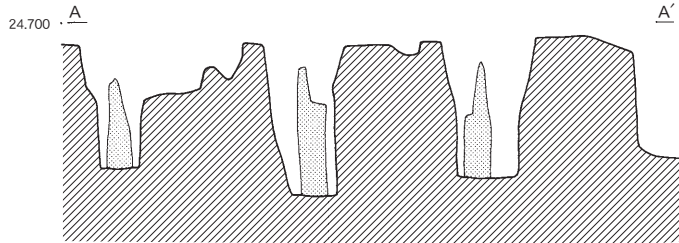




第7号掘立柱建物跡



第8号掘立柱建物跡



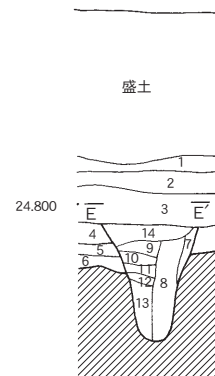
第8号掘立柱建物跡

B-B'

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子やや細。
2. 明灰黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
3. 暗灰黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
4. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子細。
5. 黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。
6. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・炭化粒微量含。粒子細。

C-C'

1. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
2. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
3. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
4. 暗灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
5. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
6. 暗灰色土 しまり・粘性強。粘土質土。粒子細。



E-E'

1. 灰褐色土 しまり・粘性強。旧水田面。
2. 明黄茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
3. 暗黄茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
4. 明黑褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
5. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
6. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
7. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
8. 暗灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
9. 茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
10. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
11. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
12. 黒灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
13. 暗灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
14. 暗褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。

D-D'

1. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
2. 暗灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
3. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
4. 暗黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
5. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量・炭化粒微量含。粒子細。
6. 灰褐色土 しまり・粘性強。粘土質土。粒子細。



第25図 第7・8号掘立柱建物跡

呈し、径44cm～52cm、深さ49cm～60cmを測る。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第8号掘立柱建物跡（第25・26図・第4表）

**位置** 第13調査区、141・142-203グリットに位置する。第26号溝、第207・209・213～215号ピットと重複する。

**遺構** 4柱穴が確認されている。東・南方向に展開する東西棟側柱建物跡と推測され、梁行は不明で、桁行は4.5mを測る。柱間は、梁行は不明で、桁行1.5mを測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。柱穴の掘方は楕円形を呈し、径40cm～84cm、深さ86cm～120cmを測る。ピット1～4に、柱材の一部が残存していた（第26図1～3）。ピット1の柱材は、芯持丸木で、残存長89.2cm、径17.0cmを測る。底面は、幅5～6cm程の金属工具による加工痕を残し、柱根部分に炭化した痕跡が残る。年輪数は約70を数える。ピット2の柱材は、芯持丸木で、残存長91.5cm、幅22.0cmを測る。底面は、幅5～6cm程の金属工具による加工痕を残す。年輪数は約90を数える。樹種同定を行ったところ、ヒノキに同定されている（第V章2）。ピット3の柱材は、芯持丸木で、残存長76.8cm、径20.0cmを測る。底面は、幅5～6cm程の金属工具による加工痕を残し、柱根部分に炭化した痕跡が残る。年輪数は87を数える。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

### 3 溝跡

溝跡は、総数29条検出された。内訳は、第1調査区1条、第2調査区3条、第3調査区2条、第4調査区1条、第5調査区4条、第6調査区1条、第7調査区1条、第8調査区4条、第10調査区3条、第11条調査区2条、第12調査区3条、第13調査区4条が検出されている。第2～4調査区で検出された溝は、溝の方向・形状から1条の溝と判断している。

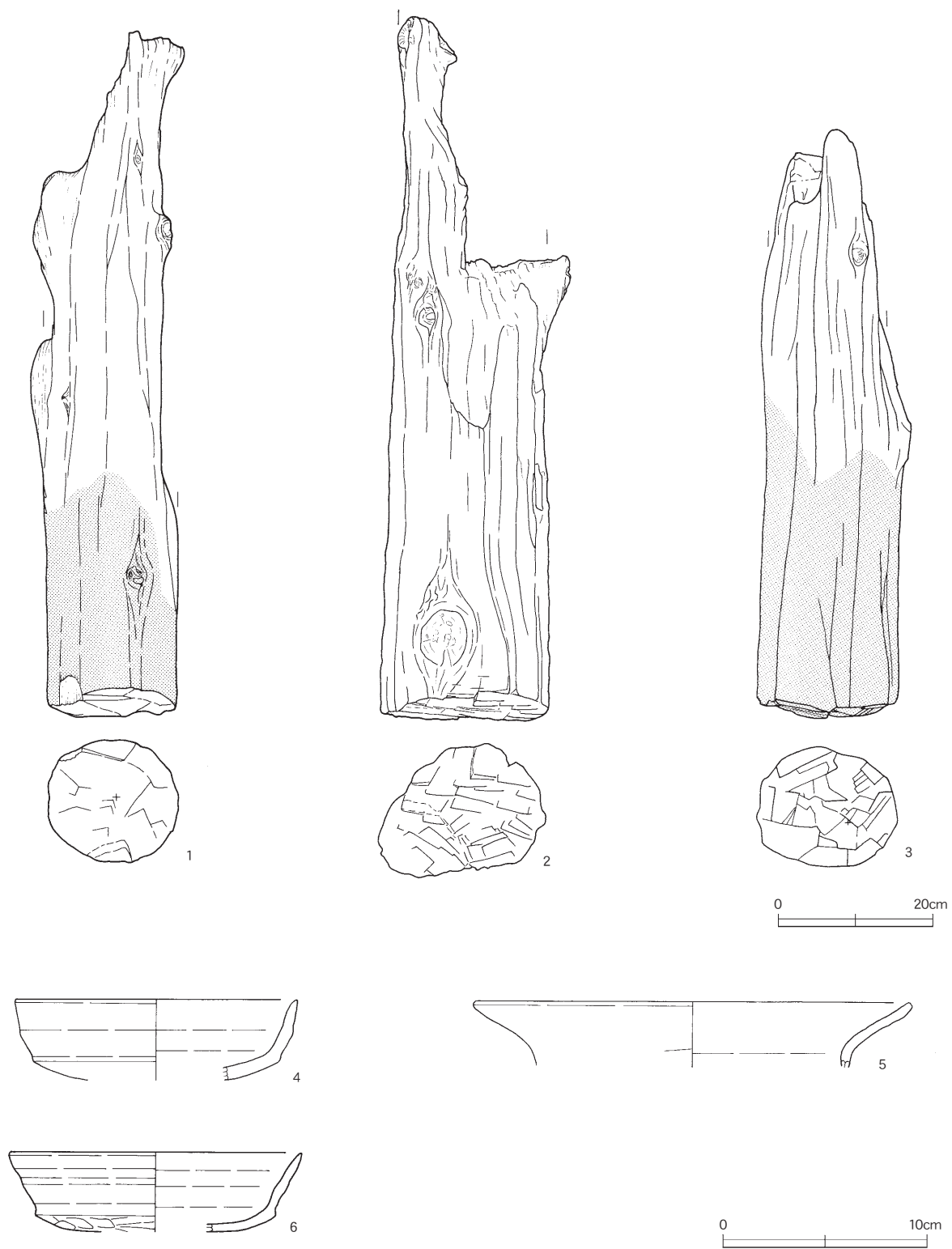
#### 第1号溝跡（第27図）

**位置** 第1調査区、第143-205・206グリットに位置する。第23～25号ピットと重複する。

**遺構** 北西方向から南北方向に走り、北側は調査区外に延びる。検出された長さは4.28m、幅0.58～0.32mを測る。確認面からの深さは、0.09mと浅く、溝底は、ほぼ平坦となっている。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。



第26图 第1・3・5・8号掘立柱建物跡出土遺物

## 第2号溝跡（第27図）

**位置** 第2調査区、146-205・206グリットに位置する。

**遺構** 溝の南西隅のみ確認され、大半は調査区にかかり未調査。検出された長さは1.6m、深さ0.68mを測る。東方向へ延びるものと推測される。断面形は逆台形を呈し、覆土は6層（第6～11層）に分層され、自然堆積を示す。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期は不明であるが、覆土から弥生時代に属するものと推測される。

## 第3号溝跡（第27図）

**位置** 第2調査区、第148・149・150-209・210グリットに位置する。

**遺構** 平行して3条の溝が重複している。第3a号溝跡：東側の溝。検出された長さは3.6m、深さ0.18mを測る。北西方向の調査区外に延びる。第3b号溝跡に切られ、断面形は鍋底型を呈し、覆土は3層（第4～6層）に分層される。第3b号溝跡：中央の溝。両端は、北西、南東方向の調査区外に延びる。第3a号溝跡を切り、第3c号溝跡・第4号溝跡に切られる。検出された長さは6.69m、深さ0.31mを測る。北西方向の調査区外へ延びる。覆土は5層（第7～11層）に分層される。第3c号溝跡：西側の溝。検出された長さは5.82m、深さ0.52cmを測る。断面形は鍋底型を呈し、覆土は4層（第12～15層）に分層される。

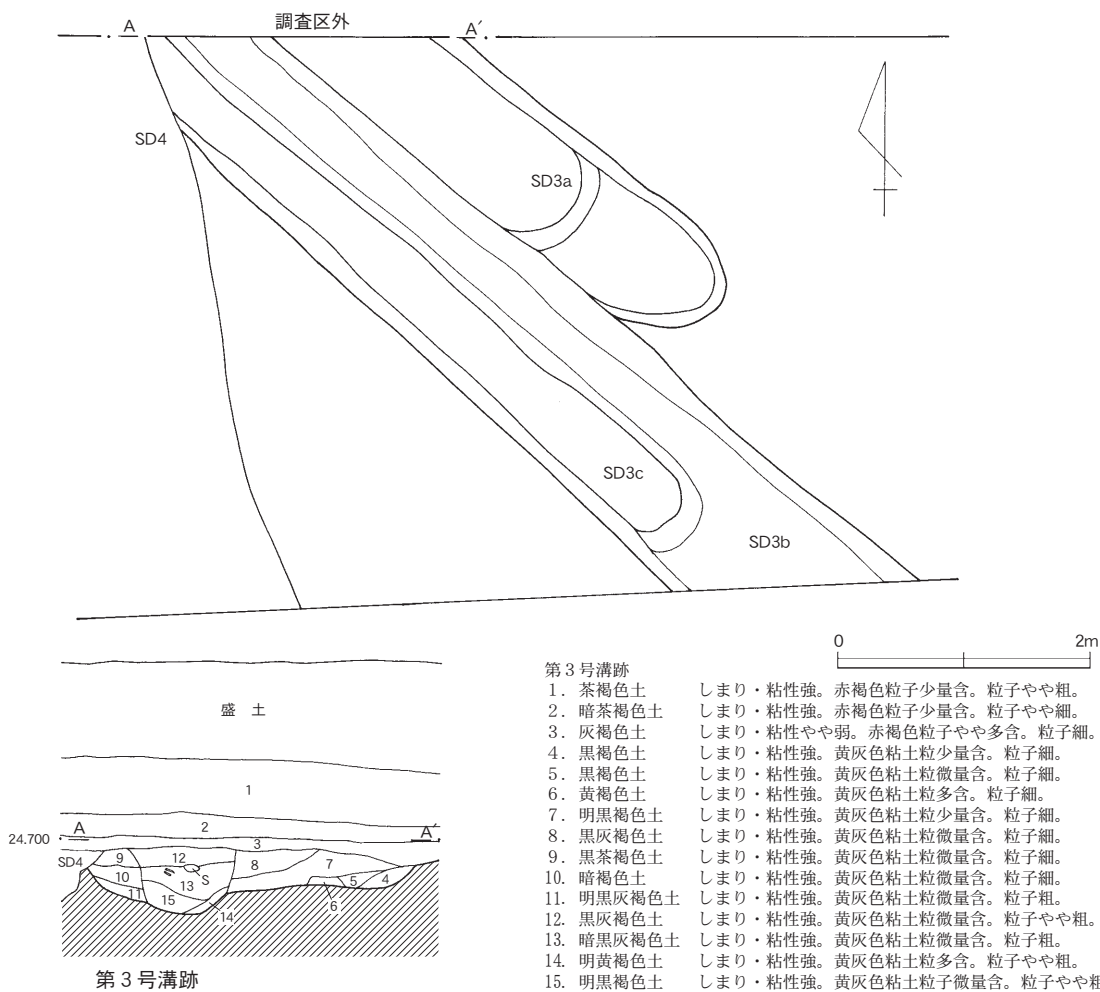
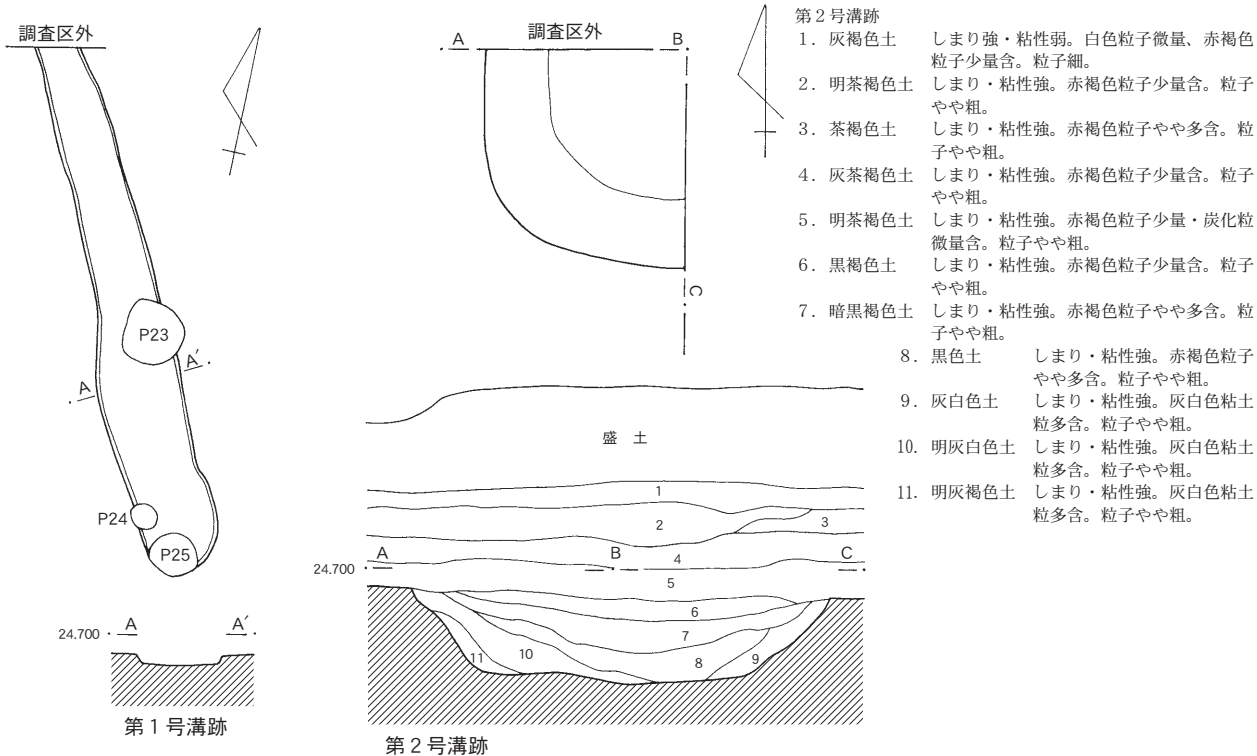
**遺物（第28図・第8表）** 第3c号溝跡覆土上層より、第28図1～3が出土している。1は、土師器の北武蔵型坏。2は、土師器の丸胴甕。胴部中位に最大径を持つ。口縁部に粉殻圧痕が1箇所確認されている（図版18）。3は、半折する砂岩製の磨石。端部に敲打痕が観察される。

**時期** 第3c号溝跡が、出土遺物から7世紀後半、第3ab号溝跡からは遺物が出土していないが、第3b号溝跡が、弥生時代に属する第4号溝に切られていることから、弥生時代に属するものと推測される。

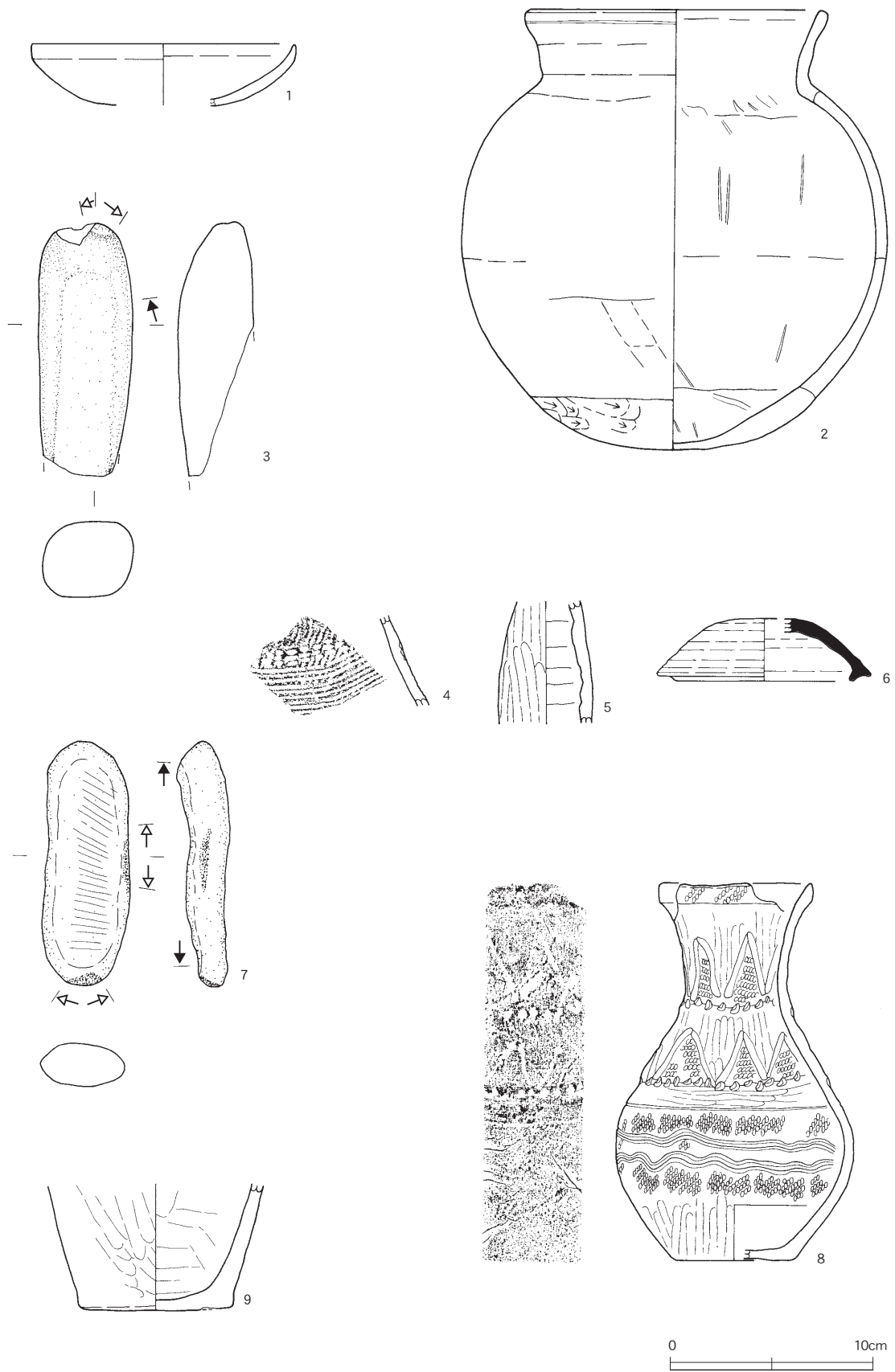
## 第4号溝跡（第21・30図）

**位置** 第2・4・10調査区、149・150・151-207～212グリットに位置する。3調査地区で検出されており、位置関係および形態から同一の遺構と判断した。

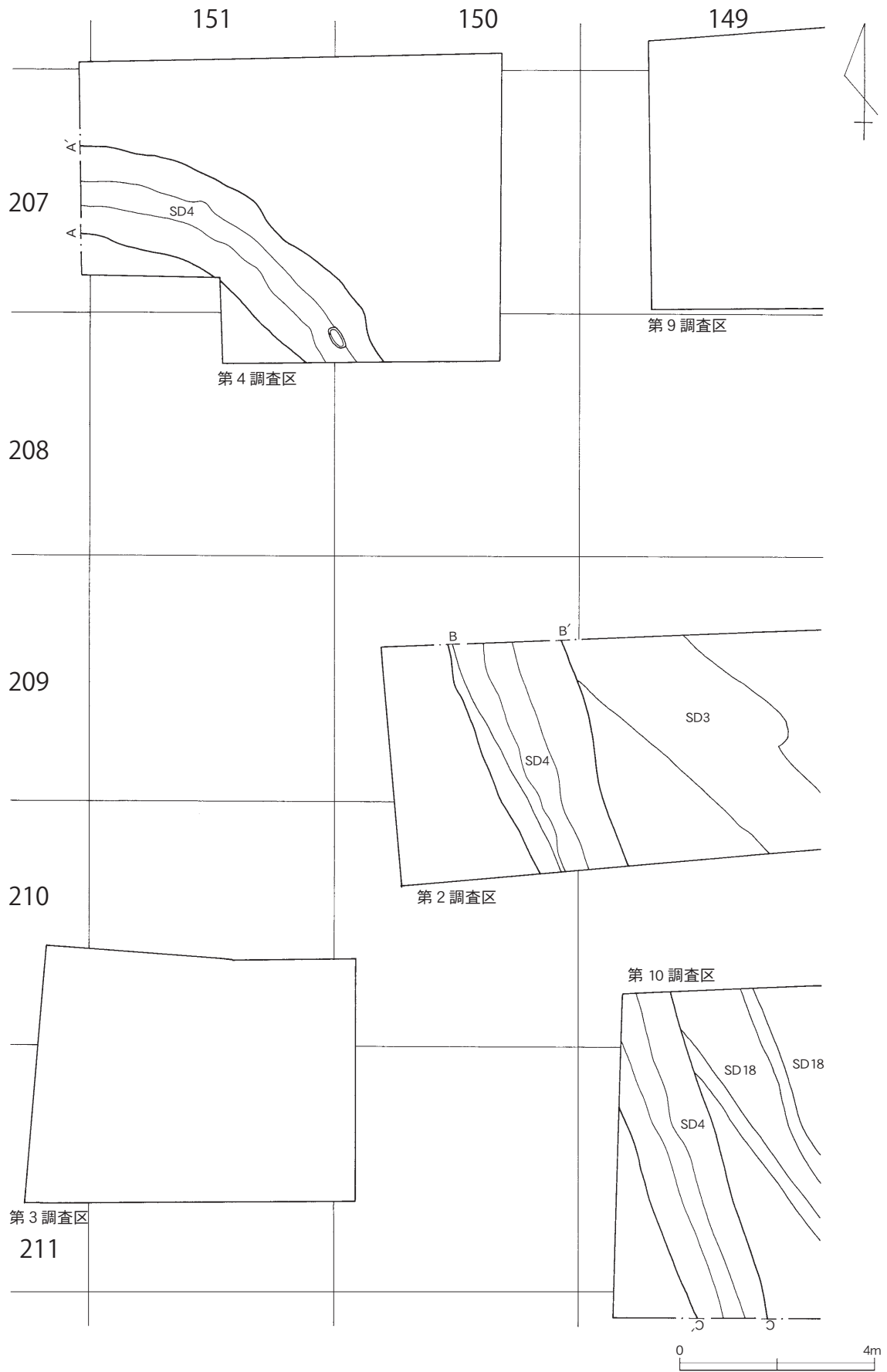
**遺構** 第10調査区で検出された溝の長さは7.0m、幅1.5～1.7m、深さ1.1mを測る。両端は、北西、南東方向の調査区外へ延びる。覆土は6層（第10～15層）に分層され、断面形は逆台形型を呈する。第2調査区で検出された溝の長さは4.9m、幅1.8m～2.4m、深さ0.95mを測る。両端は、北西、南東方向の調査区外へ延びる。覆土は、7層（第4～10層）に分層され、断面形は逆台形型を呈する。第4調査区で検出された溝は、南東方向より侵入し西側にカーブする。検出された溝の長さは8.2m、幅1.6～1.8m、深さ0.74mを測る。覆土は、4層（第6～9層）に分層され、断面形は逆台形型を呈する。第10調査区南端から、第4調査区西端まで総延長約28mを測る。溝底の標高は、第4調査区西端で22.87m、第10調査区南端で22.60mで、比高差0.27mを測ることから、水路と仮定した場合、北西から南東方向に向かって流水していたと考えられる。



第27図 第1～3号溝跡



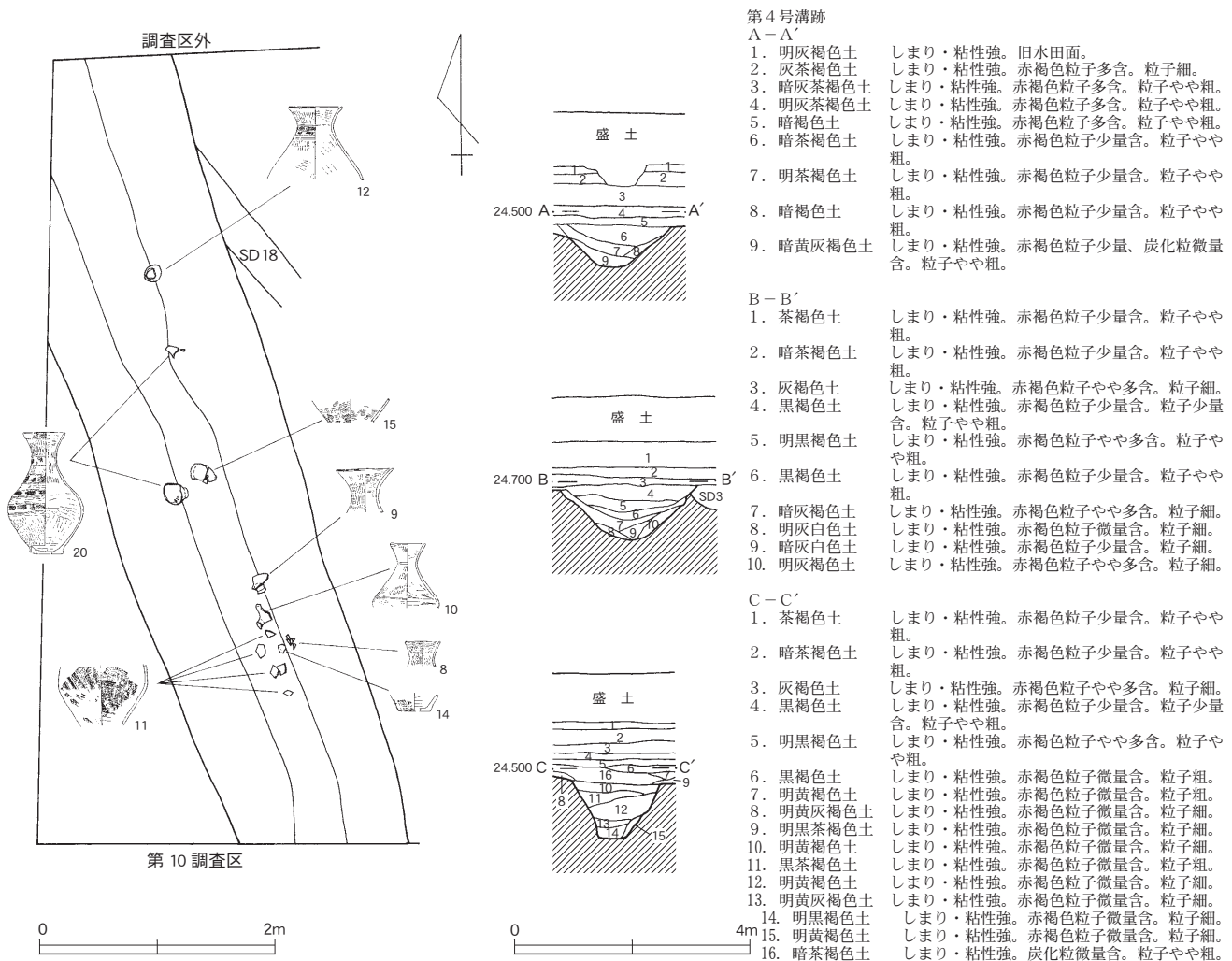
第28图 第3·13·18·19号沟迹出土遗物



第29図 第4号溝跡平面図

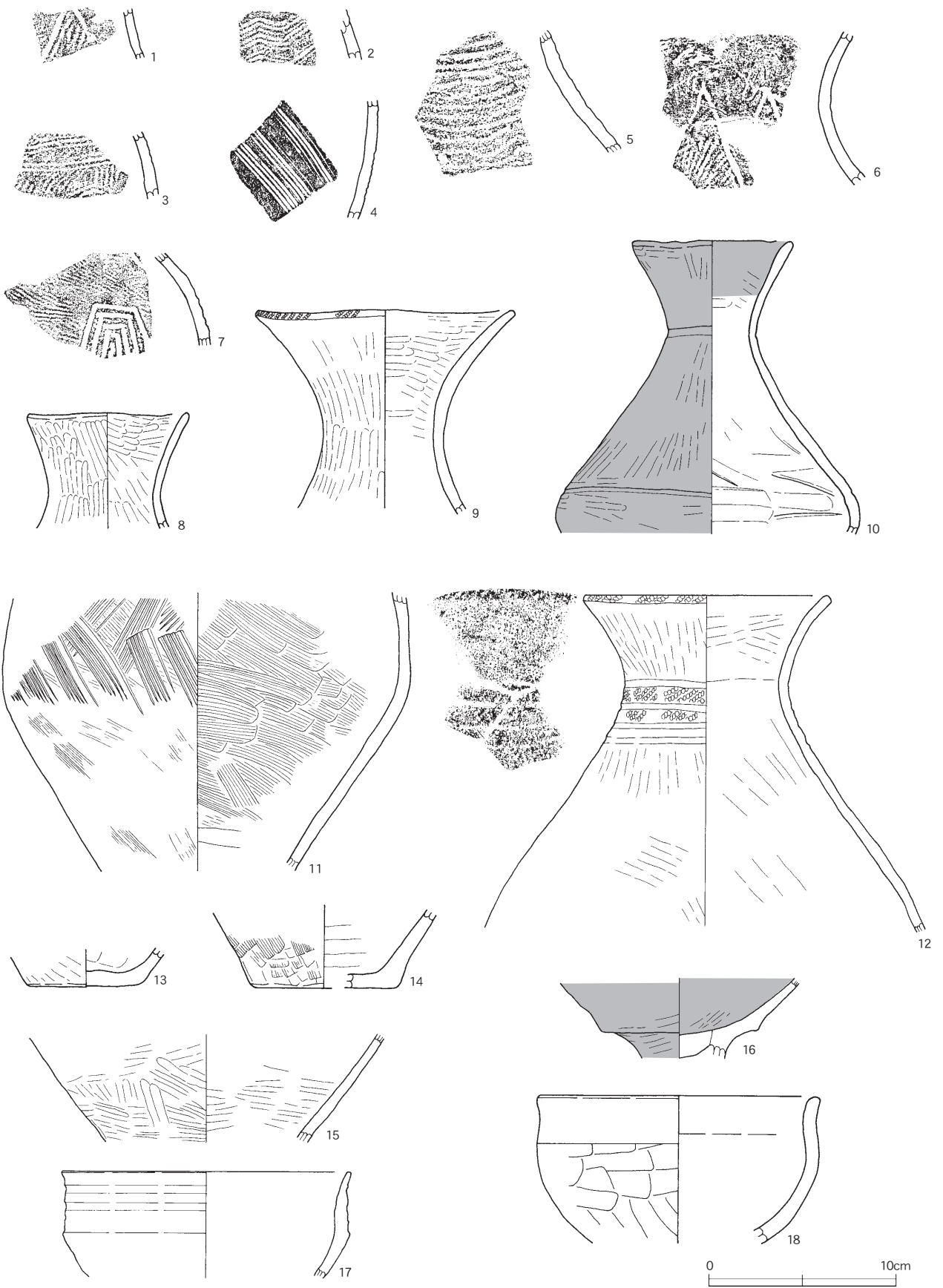


遺物(第31・32図) 遺物は、古墳時代の遺物(第31図16~18)が第10調査区溝覆土上層より、弥生時代の遺物が、第4調査区溝覆土下層より(第31・32図1~12・19~21)が、第10調査区溝覆土下層より(第31図13~15)が出土している。第28図1・10は、同一個体で、壺の頸部から肩部片。鋸歯状の沈線が施文され、鋸歯文が上向きになるようにLRの単節縄文が充填されている。頸部は無文となる。2は、壺の胴部上半部片。5本単位の櫛歯状工具による波状文が施文されている。3は、壺の胴上半部片。地文に単節LR縄文を施文し、3本単位の櫛歯状工具による条線を横位に施文している。胴部には同様の工具による条線が波状に施文されているものと思われる。4は、甕の胴中部片。5本単位の櫛歯状工具による条線が斜位に施文されている。縦位の羽状構成になるものと思われる。5は、壺の胴上半部片。ヘラ状工具による横線文と波状文が密に施文されている。7は、壺の胴上半部片。地文に無節R縄文を施文し、沈線で重四角文を施文している。8は、無文の壺。胴部以下を欠損する。口径8.6cmを測る。内外面ヘラミガキ調整が行われている。9は、胴部以下を欠損する壺。口径13.8cmを測る。口唇部に単節LR縄文を施文している。内外面ヘラミガキ調整が行われている。10は、胴部下半以下を欠損する壺。口径8.6cmを測る。外面全面および内面口縁部赤彩。頸部と胴部下半にヘラ描沈線を1条箍状に施文している。11は、甕の胴下半部。外面はヘラミガキ調整が行われており、一部ハケメが残る。内

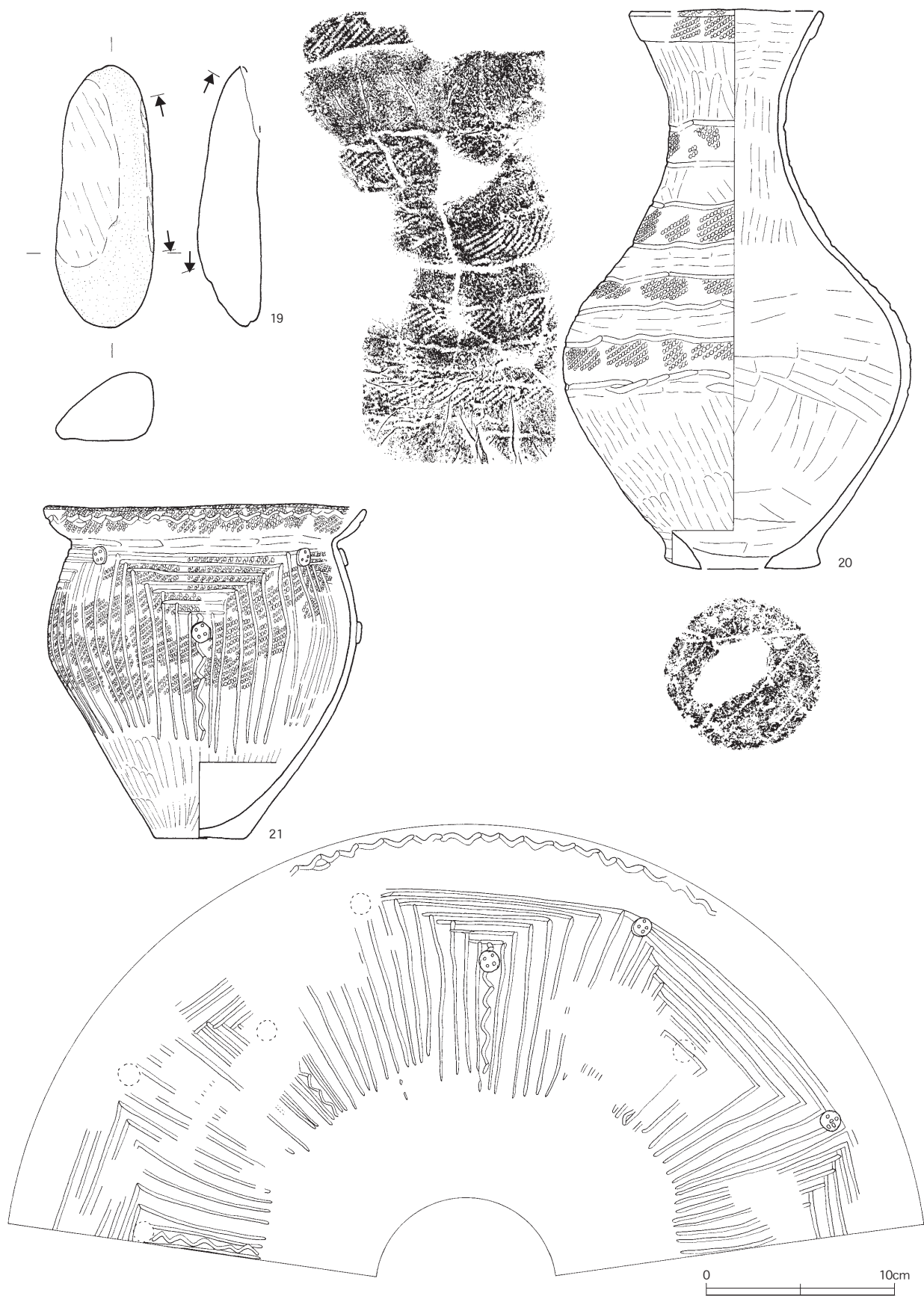


第30図 第4号溝跡・遺物出土状況・断面図





第31图 第4号沟迹出土遗物(1)



第32図 第4号溝跡出土遺物(2)

面はハケメ調整、下部はヘラナデ調整が行われている。12は、胴部下半以下を欠損する壺。頸部に4条の平行沈線を施文し、単節LR縄文を充填している。口唇部にも単節LR縄文を施文している。外面はミガキ調整、内面は口縁部ミガキ調整、頸部以下ヘラナデ調整が行われている。13・14は、壺の底部。内面はヘラナデ調整が行われ、14は、外面に一部ハケメが残る。15は、甕の胴下半部。外面はミガキ調整が行われ、一部ハケメが残る。16は、坏部のみ残存する土師器の高坏。全面赤彩。内外面ミガキ調整が行われている。17・18は、土師器の碗。底部を欠損する。第32図19は、砂岩製の磨石。側面に磨面が認められる。20は、壺。口径10.3cm、器高29.5cm、底径8.2cmを測る。頸部から胴部にかけてヘラ描波状沈線が8条施文されている。沈線間に4条の単節LR縄文が充填施文されている。口縁部および口唇部にも同様の縄文が施文されている。外面はヘラミガキ調整、内面は口縁部から頸部がヘラミガキ調整、胴部以下はヘラナデ調整が行われている。底部は焼成後穿孔が行われている。21は、甕。口径16.8cm、器高17.6cm、底径4.9cmを測る。地文に単節LR縄文を施文し、口縁部にヘラ描波状沈線を1条巡らし、胴部には沈線で重四角文を4単位施文している。重四角文の中央には波状沈線が垂下し、刺突を加えたボタン状貼付文が、重四角文の中央部および連結部に8箇所貼付されている。外面頸部および胴下半部にはミガキ調整が行われている。

**時期** 出土遺物から、弥生時代中期後半と判断される。

#### 第5号溝跡（第33図）

**位置** 第3調査区、151・152-210・211グリットに位置する。

**遺構** 調査区南端より北方向に1m程侵入し、北西方向に向きを変え4m程延び調査区外へと続く。幅0.52~0.84m、深さは、調査区南壁土層断面で0.43mを測る。断面形は鍋底型を呈する。覆土は3層（第7~9層）に分層される。

**遺物** 土師器甕小片および使用痕の無い垂円礫が出土したが、図示するには至らなかった。

**時期** 出土遺物より、古墳時代後期と判断される。

#### 第6号溝跡（第33図）

**位置** 第3調査区、150・151-211グリットに位置する。

**遺構** 調査区南東隅に確認され、規模は不明であるが、形状から溝と判断した。覆土は4層（第7~10層）に分層され、深さは調査区南壁断面で63cmを測る。

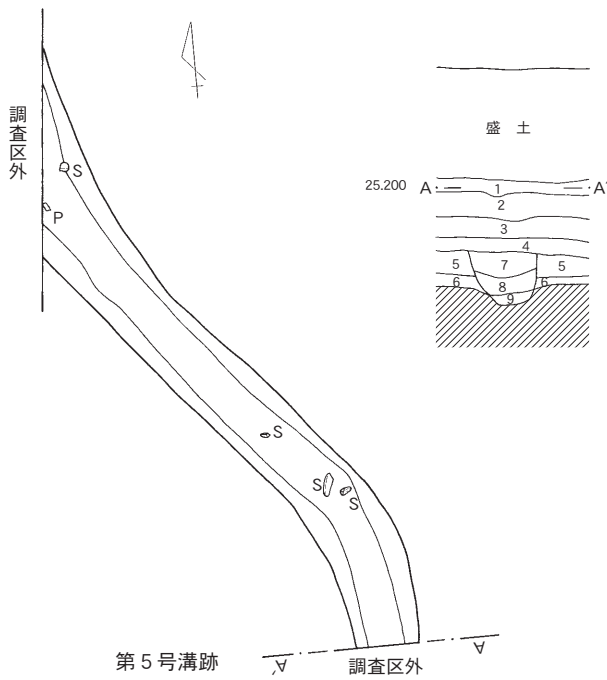
**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第7号溝跡（第33図）

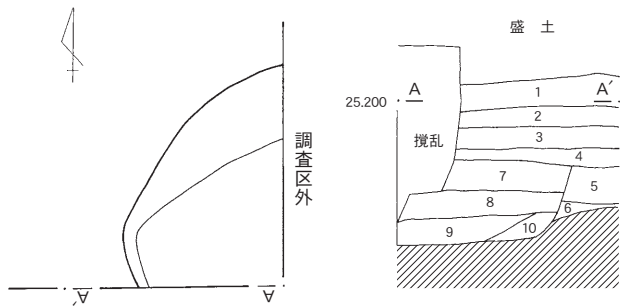
**位置** 第5調査区、144-206・207グリットに位置する。

**遺構** 調査区東壁際に、ほぼ南北方向に走り、北側は調査区外へと延びる。検出された長さは5.34m程、溝底は、最深部で0.29mを測るが、調査区外へと傾斜している。



第5号溝跡 A-A'

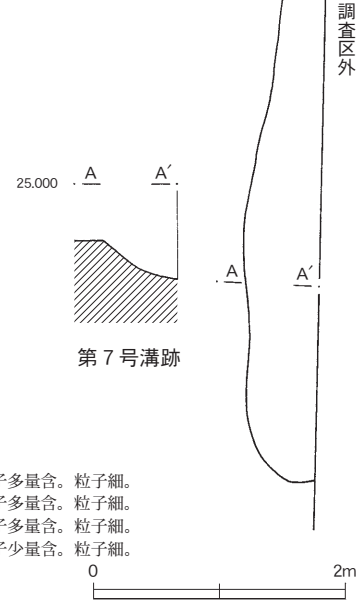
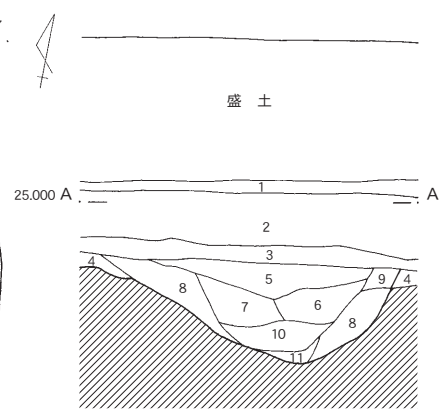
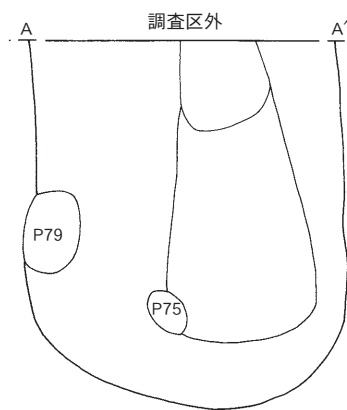
- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| 1. 明灰色土   | しまり・粘性強。旧水田面。          |
| 2. 明茶褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 3. 茶褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。 |
| 4. 暗灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。 |
| 5. 黒褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 6. 暗灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 7. 灰褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。 |
| 8. 暗灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 9. 暗灰茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |



第6号溝跡 A-A'

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| 1. 明灰色土   | しまり・粘性強。旧水田面。          |
| 2. 明茶褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 3. 茶褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。 |
| 4. 暗灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。 |
| 5. 黒褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 6. 暗灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 7. 明灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。  |
| 8. 暗灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。  |
| 9. 暗灰茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。  |
| 10. 明灰白色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。   |

第6号溝跡



第7号溝跡

第8号溝跡

- |          |                       |           |                       |
|----------|-----------------------|-----------|-----------------------|
| 1. 明灰色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。 | 8. 暗灰色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 |
| 2. 明黄褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 | 9. 明灰色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 |
| 3. 暗茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 | 10. 黒茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 |
| 4. 暗灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 | 11. 灰黒褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。 |
| 5. 明灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 |           |                       |
| 6. 灰茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 |           |                       |
| 7. 暗灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多量含。粒子細。 |           |                       |

第33図 第5～8号溝跡

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から弥生時代に属するものと推測される。

#### 第8号溝跡（第33図）

位置 第5調査区、144・145-206・207グリットに位置する。第75・79号ピットと重複する。

遺構 ほぼ南北方向に走り、北側は調査区外へと延びる。検出された長さは2.94m、幅2.42m～2.53m、深さ0.81mを測る。覆土は、7層（第5～11層）に分層され、自然堆積を示す。

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から弥生時代に属するものと推測される。

#### 第9号溝跡（第34図）

位置 第5調査区、144・145-208グリットに位置する。第73・84・85・87・88号ピットと重複する。

遺構 東西方向に走り、東側は調査区外へと延びる。検出された長さは3.9m、幅0.92～1.08m、深さ0.48mを測る。断面は、逆台形型を呈する。覆土は、2層（第5・6層）に分層される。

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第10号溝跡（第34図）

位置 第5調査区、145-208グリットに位置する。第3号住居跡に切られている。

遺構 第5調査区南西隅に確認され、北東、南西方向に走り、南西側は調査区外へと延びる。検出された長さは1.38m、幅0.87m、深さ0.48mを測る。断面は、逆台形型を呈する。

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第11号溝跡（第34図）

位置 第6調査区、146・147-203グリットに位置する。遺構の上部の大半を、流路による浸食で失っている。溝の方位は、N-63°-Eを指す。

遺構 第6調査区北側で確認され、北東、南西方向に走り、両端は調査区外へと延びる。検出された長さは、5.2mを測る。覆土は、4層（第13・14・16・17層）に分層される。溝底は平坦となっている。

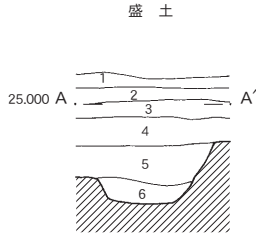
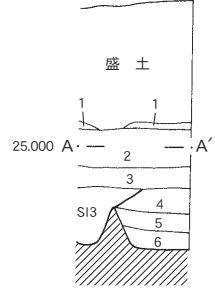
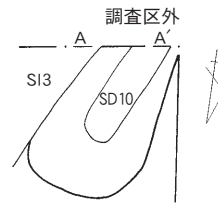
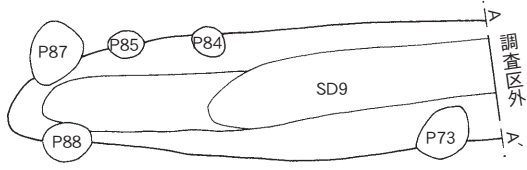
遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から弥生時代に属するものと推測される。

#### 第12号溝跡（第34図）

位置 第7調査区、141・142-206・207グリットに位置する。第3号掘立柱建物跡、第116号ピット



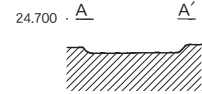
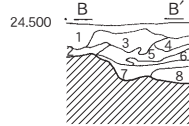
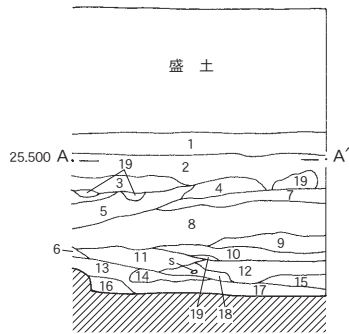
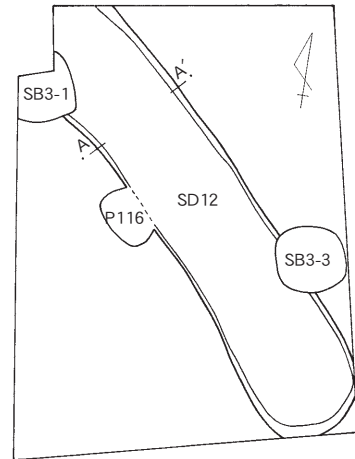
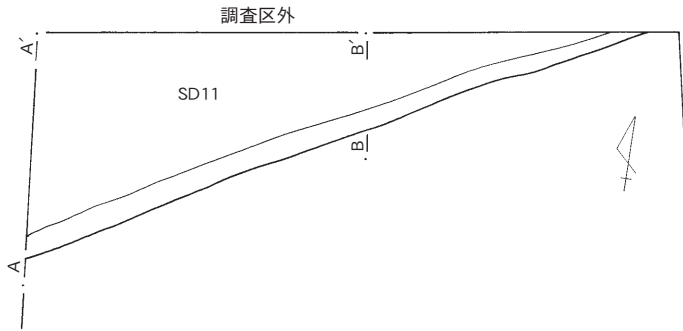


第9号溝跡

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 1. 明灰色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。 |
| 2. 明黄褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 3. 暗茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 4. 暗黄褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 5. 明灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 6. 灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |

第10号溝跡

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 1. 明灰色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。 |
| 2. 明黄褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 3. 暗茶褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 4. 暗黄褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 5. 明灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |
| 6. 灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。  |



第11号溝跡 A-A'

- |           |                            |
|-----------|----------------------------|
| 1. 灰褐色土   | しまり・粘性強。旧水田面。              |
| 2. 明黄灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。       |
| 3. 黄灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子多・砂粒少量含。粒子細。  |
| 4. 明黄灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多・砂粒少量含。粒子細。  |
| 5. 暗茶褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子微量・砂粒微量含。粒子細。 |
| 6. 灰褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子微量・砂粒微量含。粒子細。 |
| 7. 黄灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子・砂粒微量含。粒子細。   |
| 8. 明茶褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子・砂粒少量含。粒子細。   |
| 9. 砂層     |                            |
| 10. 灰褐色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子・砂粒少量含。粒子細。   |

11. 黄灰褐色土

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多、砂粒少量含。粒子細。 |                             |
| 12. 暗灰色土                    | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多、砂粒少量含。粒子細。 |
| 13. 灰褐色土                    | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多、砂粒多含。粒子細。  |
| 14. 明黄褐色土                   | しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子細。      |
| 15. 暗灰色砂質土                  | しまり強、粘性弱。砂粒多含。粒子細。          |
| 16. 灰黒色土                    | しまり・粘性強。黄色粒子少量含。粒子細。        |
| 17. 明灰黒色土                   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。        |
| 18. 暗黒茶褐色土                  | しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。       |
| 19. 砂層                      |                             |

B-B'

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 1. 暗灰色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 2. 灰色砂質土  | しまり強、粘性弱。赤褐色粒子やや多含。粒子細。 |
| 3. 明灰色砂質土 | しまり強、粘性弱。粒子細。           |
| 4. 灰色砂質土  | しまり強、粘性弱。粒子細。           |
| 5. 暗灰色砂質土 | しまり強、粘性弱。粒子細。           |
| 6. 砂層     |                         |
| 7. 灰褐色土   | しまり・粘性強。砂粒多含。粒子細。       |
| 8. 砂礫層    | しまり・粘性強。径5mm程の亜円礫多含。    |



第34図 第9～12号溝跡

と重複する。

**遺構** 南東、北西方向に走り、北西側は調査区外へと延びる。検出された長さは3.94m、幅0.87m、深さ0.08mを測る。溝底は平坦となっている。

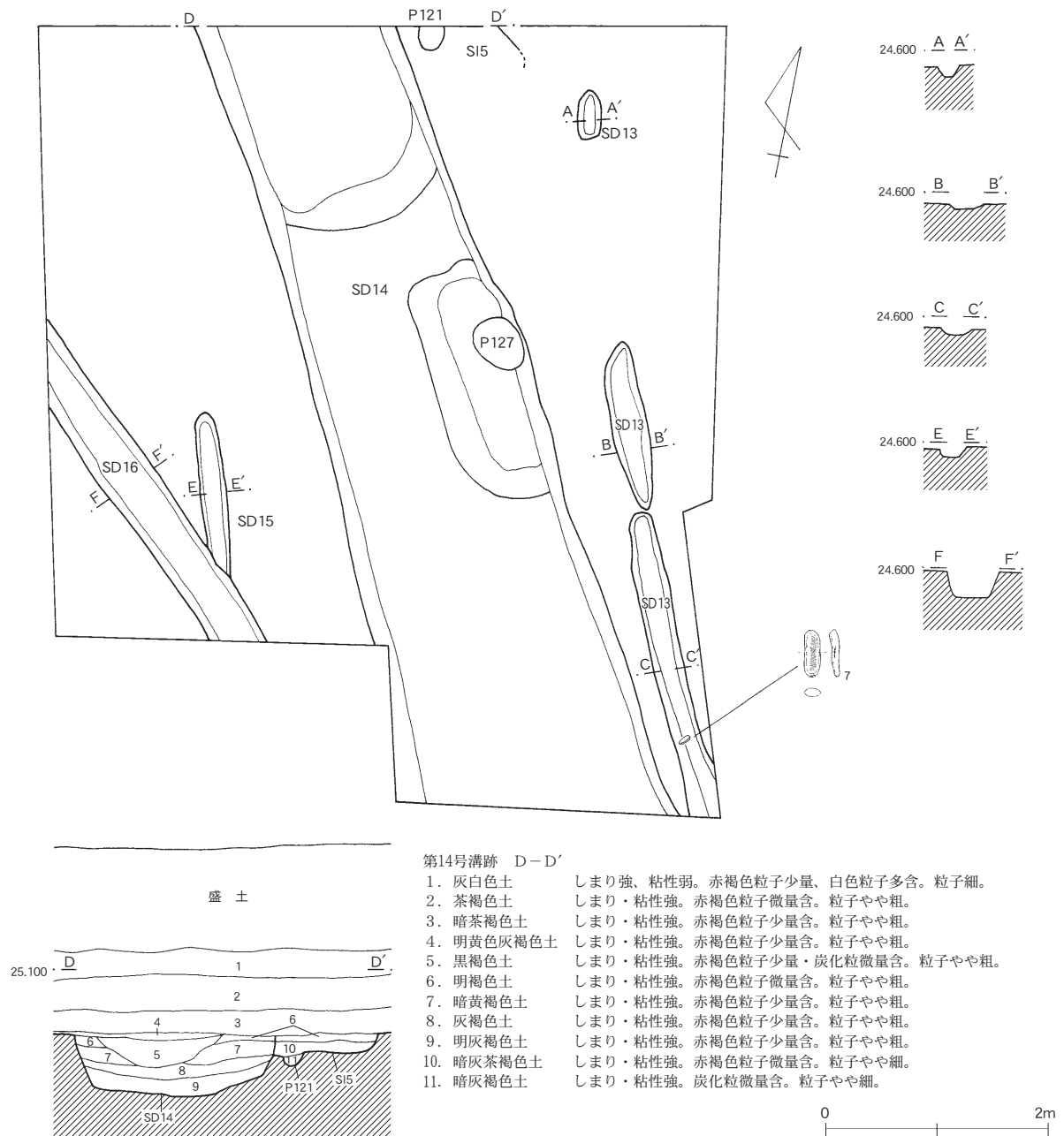
**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から弥生時代に属するものと推測される。

### 第13号溝跡（第35図）

**位置** 第8調査区、139・140-201~203グリットに位置する。第5号住居跡に切られている。

**遺構** 北西、南東方向に走り、南東側は調査区外へと延びる。3本の溝からなるが、形状から1本の



第35図 第13~16号溝跡

溝と判断した。北側から1本目と2本目の溝の間には、第5号住居跡が位置し、溝が途切れているが、住居跡に切られて分断されたものと判断した。検出された長さは、北から0.46m、1.52m、2.81m、幅0.28m、深さ0.13mを測る。断面は、鍋底型を呈する。

**遺物（第28図7・第8表）** 溝底面より、砂岩製の磨石が1点出土している。側縁に磨面があり、端部に敲打痕が観察される。

**時期** 石器のみの出土で、時期は不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第14号溝跡（第35図）

**位置** 第8調査区、139～141－201～203グリットに位置する。

**遺構** 北西、南西方向に走り、両端は調査区外へ延びる。第5号住居跡を切り、第127号ピットと重複する。検出された長さは7.5m、幅1.98m、深さは、北側で一段深くなり0.58mを測る。断面は、鍋底型を呈する。

**遺物** 土師器小片が出土しているが、図示するには至らなかった。

**時期** 出土遺物より判断して、古墳時代後期と判断される。

#### 第15号溝跡（第35図）

**位置** 第8調査区、140－202グリットに位置する。第5号住居跡と重複する。

**遺構** 第13号溝跡とほぼ並行し、形状も似る。北西、南東方向に走り、南東側は、第16号溝跡に切られ、北西側は、第5号住居跡と重複し確認できない。検出された長さは、1.51m、幅2.2m、深さ0.12mを測る。断面は、鍋底型を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第16号溝跡（第35図）

**位置** 第8調査区、140・141－202・203グリットに位置する。

**遺構** 北西、南東方向に走り、両端は調査区外に延びる。検出された長さは3.52m、幅0.43m、深さ0.23mを測る。断面は、逆台形型を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第17号溝跡（第36図）

**位置** 第10調査区、148－210・211グリットに位置する。

**遺構** 北西、南東方向に走り、両端は調査区外に延びる。3本の溝からなるが、形状から1本の溝と



判断した。検出された溝の規模は、北より長さ0.36m、0.94m、1.62m、幅0.31m、深さ0.14mを測る。断面は鍋底型を呈する。

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

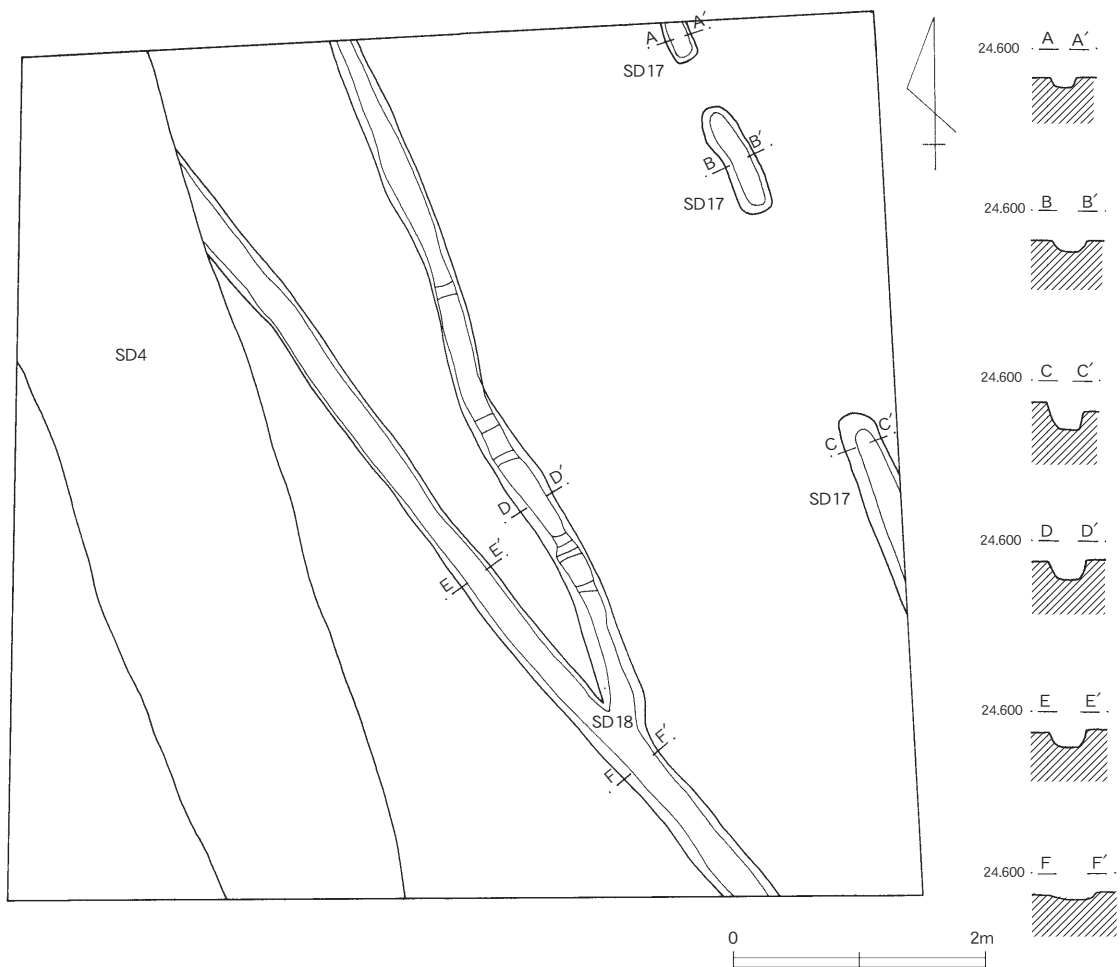
### 第18号溝跡（第36図）

位置 第10調査区、148・149-210~212グリットに位置する。

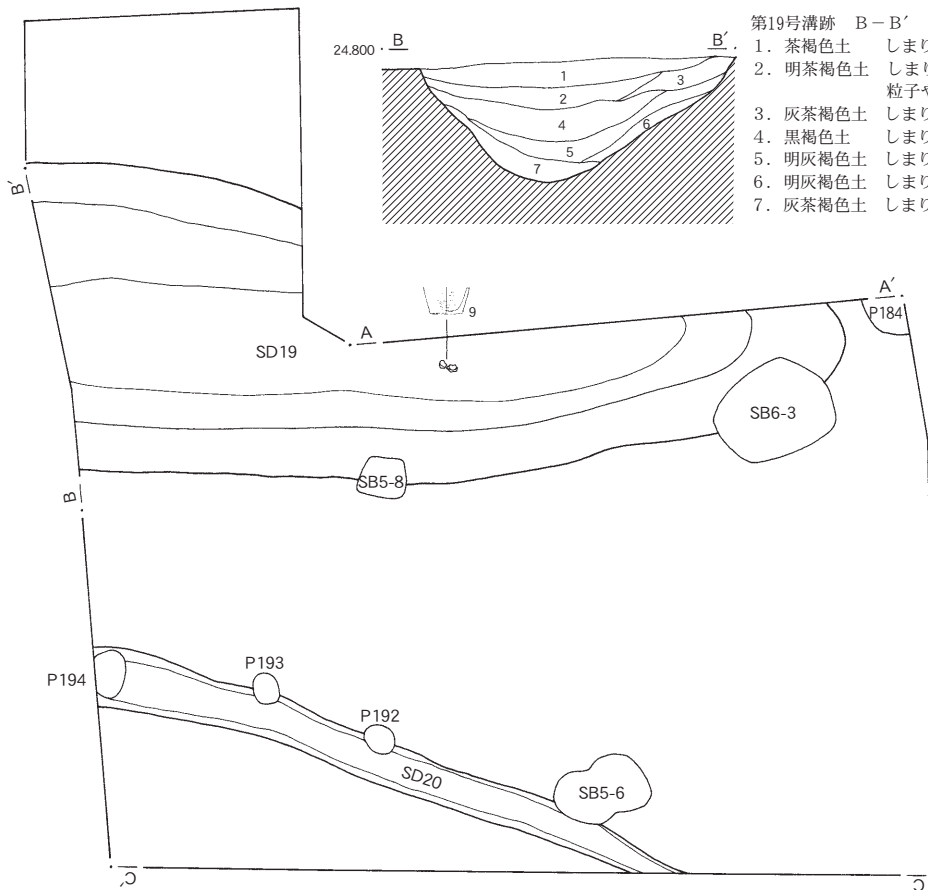
遺構 北西、南東方向に走り、両端は調査区外に延びる。南東より1.7mの地点で溝が分岐するが、重複関係は確認できなかった。検出された長さは、西側の溝で6.95m、幅0.29m、深さ0.13m、東側の溝で長さ6.02m、幅0.27m、深さ0.11mを測る。断面は、鍋底型を呈する。

遺物（第28図・第8表） 第28図4は、弥生土器の壺胴上部破片。地文にLR単節縄文を斜位に施文し、3本単位の櫛歯状工具による簾状刺突列と、3本単位の櫛歯状工具による横線文を多条施文している。5は、土師器高坏の脚部。内面に輪積痕が残る。6は、須恵器の蓋。口径10.4cm、器高13.1cmを測る。

時期 出土遺物より判断して、7世紀半ばから後半と判断される。

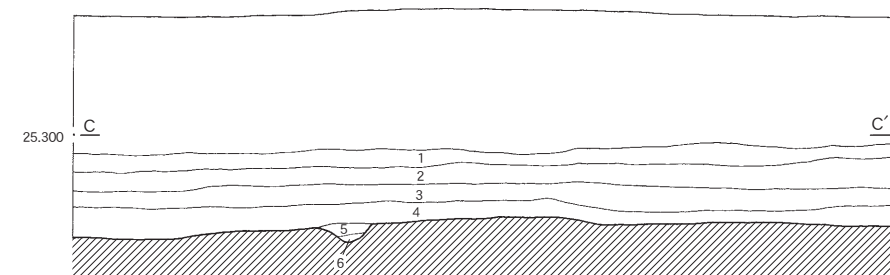


第36図 第17・18号溝跡



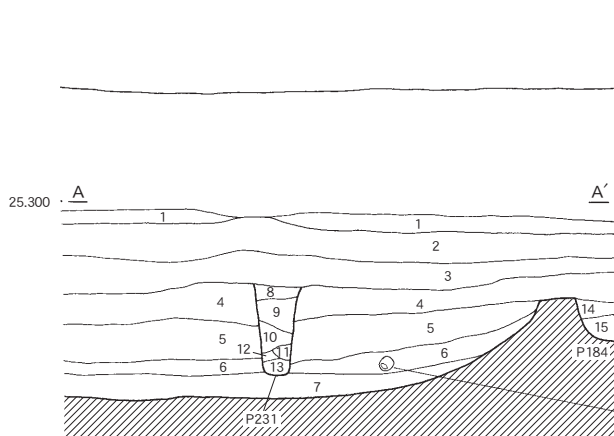
第19号溝跡 B-B'

1. 茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
2. 明茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子・黄色粒子少量含。粒子やや細。
3. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
4. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
5. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
6. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
7. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。



第20号溝跡 C-C'

1. 灰白色土 しまり・粘性強。旧水田面。
2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや細。
3. 黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子やや細。
4. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
5. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや細。
6. 明灰褐色土 しまり・粘性強。黄色粒子多含。粒子やや細。

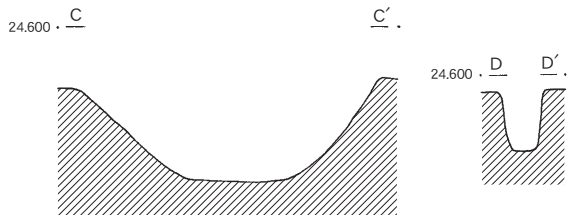
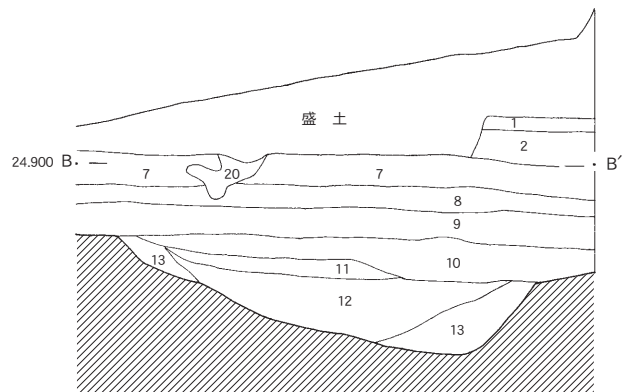
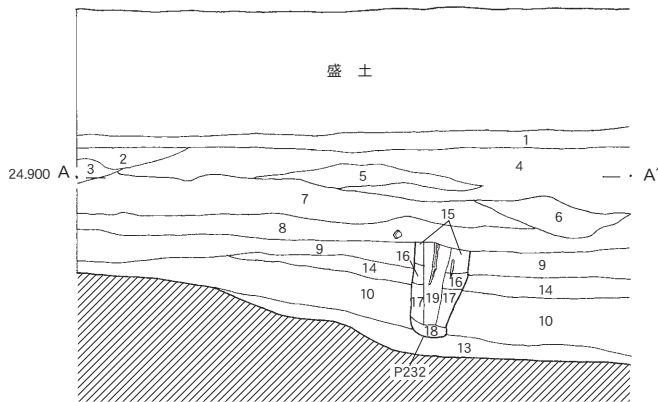
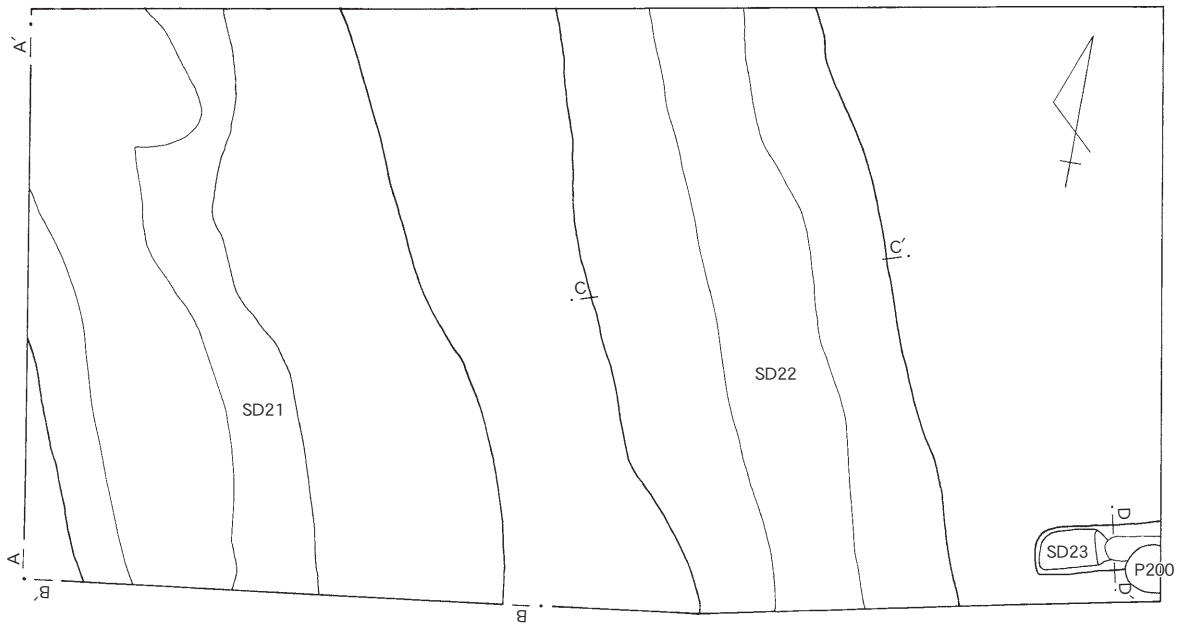


第19号溝跡 A-A'

1. 灰白色土 しまり・粘性強。旧水田面。
2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや細。
3. 黄灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子やや細。
4. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
5. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
6. 明灰黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
7. 暗黒灰色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
8. 明灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
9. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
10. 明灰黒色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
11. 黄灰色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子細。
12. 灰褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子細。
13. 明黒褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子細。
14. 明茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。
15. 明褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子細。



第37図 第19・20号溝跡



第21号溝跡

- |            |                         |
|------------|-------------------------|
| 1. 暗灰褐色土   | しまり・粘性強。旧水田面。           |
| 2. 明黄灰褐色土  | しまり・粘性強。砂粒・赤褐色粒子多含。粒子細。 |
| 3. 明黄灰褐色土  | しまり・粘性強。砂粒多含。粒子細。       |
| 4. 黄灰褐色土   | しまり・粘性強。砂粒多含。粒子細。       |
| 5. 砂層      |                         |
| 6. 砂層      |                         |
| 7. 灰褐色土    | しまり・粘性強。砂粒・赤褐色粒子多含。粒子細。 |
| 8. 黄灰褐色土   | しまり・粘性強。砂粒・赤褐色粒子多含。粒子細。 |
| 9. 暗灰褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 10. 灰褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 11. 明黄灰色土  | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 12. 黒褐色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 13. 明黒灰褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 14. 明灰黄褐色土 | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 15. 灰褐色土   | しまり弱・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。   |
| 16. 暗黄褐色土  | しまり弱・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。   |
| 17. 暗灰黒色土  | しまり弱・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。   |
| 18. 明灰褐色土  | しまり弱・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。   |
| 19. 暗灰色土   | しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。    |
| 20. 砂層     |                         |



第38図 第21・22号溝跡

#### 第19号溝跡（第37図）

**位置** 第11調査区、142～144-207グリットに位置する。第5・6号掘立柱建物跡、第231号ピットに切られる。

**遺構** 東西方向に走り、西側は調査区外に延びる。検出された長さは6.18m、幅2.42m、深さ0.96mを測る。覆土は7層に分層され、自然堆積を示す。断面は、逆台形型を呈する。

**遺物（第28図8・9・第8表）** 覆土下層より図示した2点が出土している。8は、ほぼ完形の弥生土器の壺。肥厚する口縁部に単節LR縄文を施文し、頸部に2段の鋸歯状沈線を巡らせ、下部の段部に列点状刺突列を加えている。鋸歯状沈線間には、鋸歯文が上向きになるように単節LR縄文が充填されている。胴部文様は、上部を細沈線で区画し、地文に単節LR縄を施文し、2本単位の波状沈線を2条横位施文している。口縁部から頸部、胴部下半は従位に、胴部上半は横位にミガキ調整が行われている。内面には、ススの付着が認められる。口径7.4cm、器高18.5cm、底径6.0cmを測る。底部は焼成後穿孔が行われている。9は、弥生土器甕の底部。無文で、外面はヘラミガキ、内面はヘラナデ調整が行われている。

**時期** 出土遺物より、弥生時代中期後半と判断される。

#### 第20号溝跡（第37図）

**位置** 第11調査区、142・143-208グリットに位置する。第5号掘立柱建物跡、第192～194号ピットと重複する。

**遺構** ほぼ東西方向に走り、両端は調査区外に延びる。検出された長さは5.08m、幅0.46m、深さ0.14mを測る。覆土は2層に分層され、断面は鍋底型を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第21号溝跡（第38図）

**位置** 第12調査区、144・145-203・204グリットに位置する。第232号ピットに切られる。

**遺構** 北西、南東方向に走り、両端は調査区外に延びる。検出された長さは4.65m、幅3.32m、深さ0.92mを測る。覆土は5層（第9～13層）に分層され、自然堆積を示す。溝の方位は、N-18°-Wを指す。

**遺物（第39図・第8表）** 覆土下層より、弥生土器壺の口縁部破片が1点出土している。第39図4は、砂岩製の磨石。側面に磨面と稜部に敲打痕が確認される。5は、弥生土器壺の口縁部破片。折り返し口縁を呈する。器面が荒れており、文様は不明。

**時期** 出土遺物および覆土から、弥生時代中期後半に属するものと判断される。

#### 第22号溝跡（第38図）

**位置** 第12調査区、143・144-203グリットに位置する。

**遺 構** 北西、南東方向に走り、両端は調査区外に延びる。検出された長さは4.85m、幅2.28m、深さ0.72mを測る。断面は、逆台形型を呈する。

**遺 物 (第39図・第8表)** 覆土中層より土師器片が出土している。第39図1・2は、口縁部のみ残存する土師器の長胴甕。3は、砂岩製の磨石。側面に磨面が観察される。

**時 期** 出土遺物より、古墳時代後期と判断される。

#### 第23号溝跡 (第38図)

**位 置** 第12調査区、143-203グリットに位置する。第200号ピットと重複する。

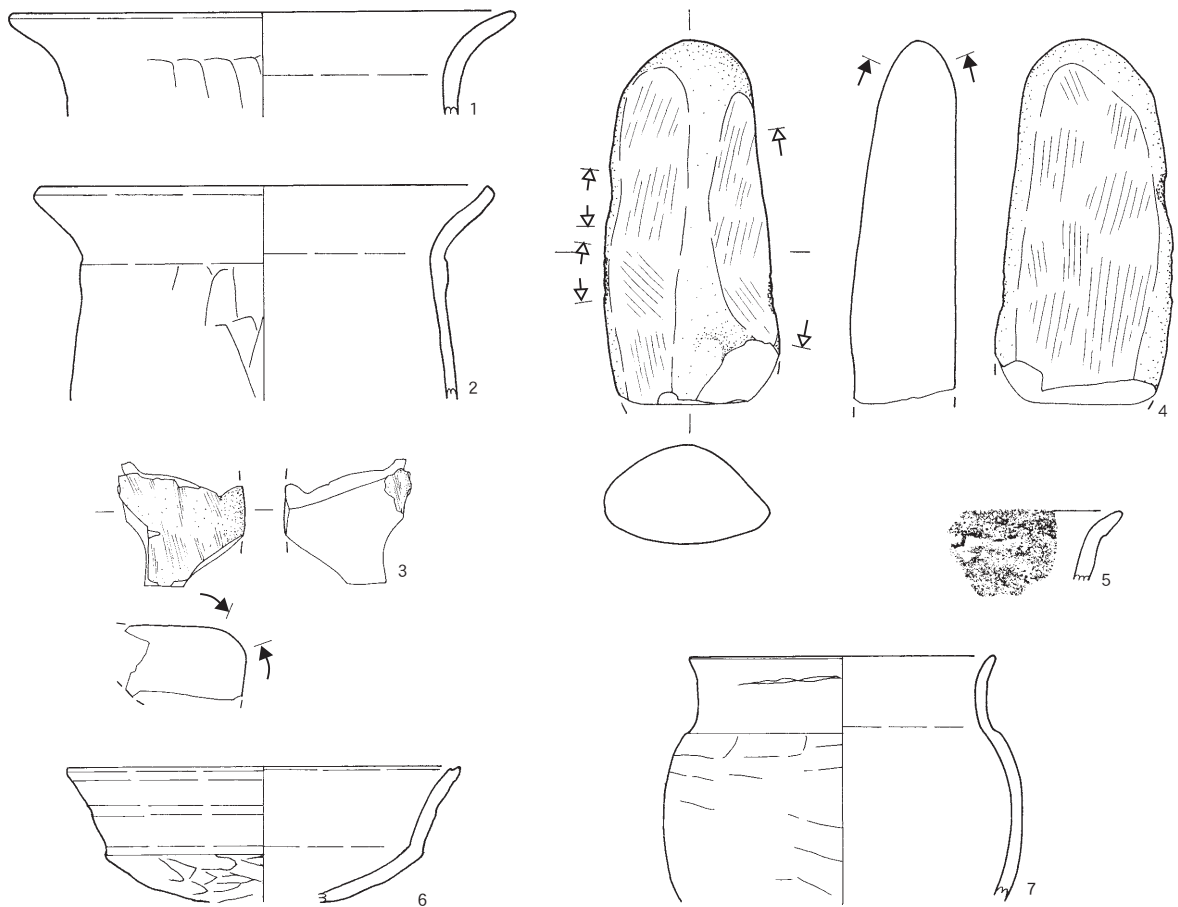
**遺 構** ほぼ東西方向に走り、東側は調査区外に延びる。検出された長さは0.98m、幅0.26m、深さ0.47mを測る。西側に段があり、深くなる。断面は、逆台形型を呈する。

**遺 物** 無し。

**時 期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第24号溝跡 (第40図)

**位 置** 第13調査区、142・143-202・203グリットに位置する。第25号溝跡と重複する。



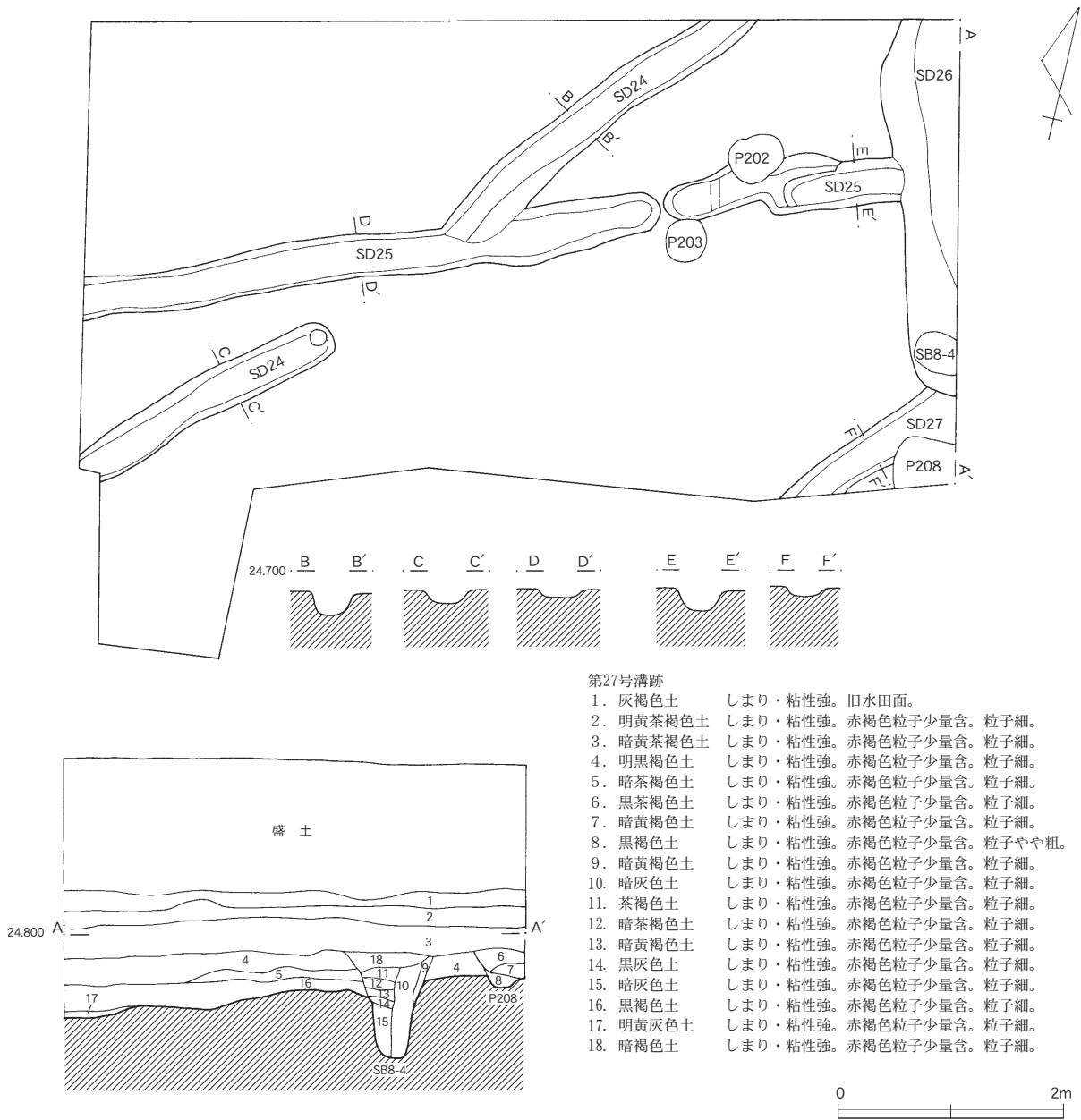
第39図 第21・22・24号溝跡出土遺物



**遺 構** 北東、南西方向に走り、両端は調査区外へ延びる。2本の溝からなるが、形状より1本の溝と判断した。検出された溝跡の規模は、北東の溝が、長さ3.03m、幅0.32m、深さ0.19mを測り、南西側の溝が、長さ2.46m、幅0.32m、深さ0.14mを測る。溝底はほぼ平坦となっている。

**遺 物 (第39図・第8表)** 第39図6は、土師器の有段口縁坏。段が沈線化しており、体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径15.6cmを測る。7は、土師器の小型壺。口縁部は直線的に小さく開き、頸部はほぼ直立し段を持つ。胴部は球形を呈し、最大径を中位に持つ。調整は、口縁部および頸部の内外面が横ナデ、胴部外面はヘラナデ、胴部内面はヘラナデおよびナデ調整が施されている。

**時 期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。



第40図 第24～27号溝跡

#### 第25号溝跡（第40図）

**位置** 第13調査区、141～143-202・203グリットに位置する。第202・203号ピット、第26号溝と重複する。

**遺構** 南東、北西方向に走り、西側は調査区外に延びる。2本の溝からなるが、形状により1本の溝と判断した。検出された溝跡の規模は、北東の溝が、長さ2.13m、幅0.38m、深さ0.18m、南西の溝が、長さ5.08m、幅0.36m、深さ0.10mを測る。断面は、鍋底型を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第26号溝跡（第40図）

**位置** 第13調査区、141-202・203グリットに位置する。第8号掘立柱建物跡、第25・27号溝跡と重複する。

**遺構** ほぼ南北方向に走り、北側は調査区外に延びる。第8号掘立柱建物跡に切られる。検出された長さは、3.36m、深さ0.29mを測る。層位は4層（第4・5・16・17層）に分層される。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から弥生時代の遺構と推測される。

#### 第27号溝跡（第40図）

**位置** 第13調査区、141-202・203グリットに位置する。第26号溝跡、第208号ピットと重複する。

**遺構** 北東、南西方向に走り、両端は、調査区外へ延びる。検出された長さは、1.72m、幅0.36m、深さ0.08mを測る。溝底は、平坦となっている。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

## 4 方形周溝墓

第2・5・9調査区で1基確認されている。

#### 第1号方形周溝墓（第41・42図）

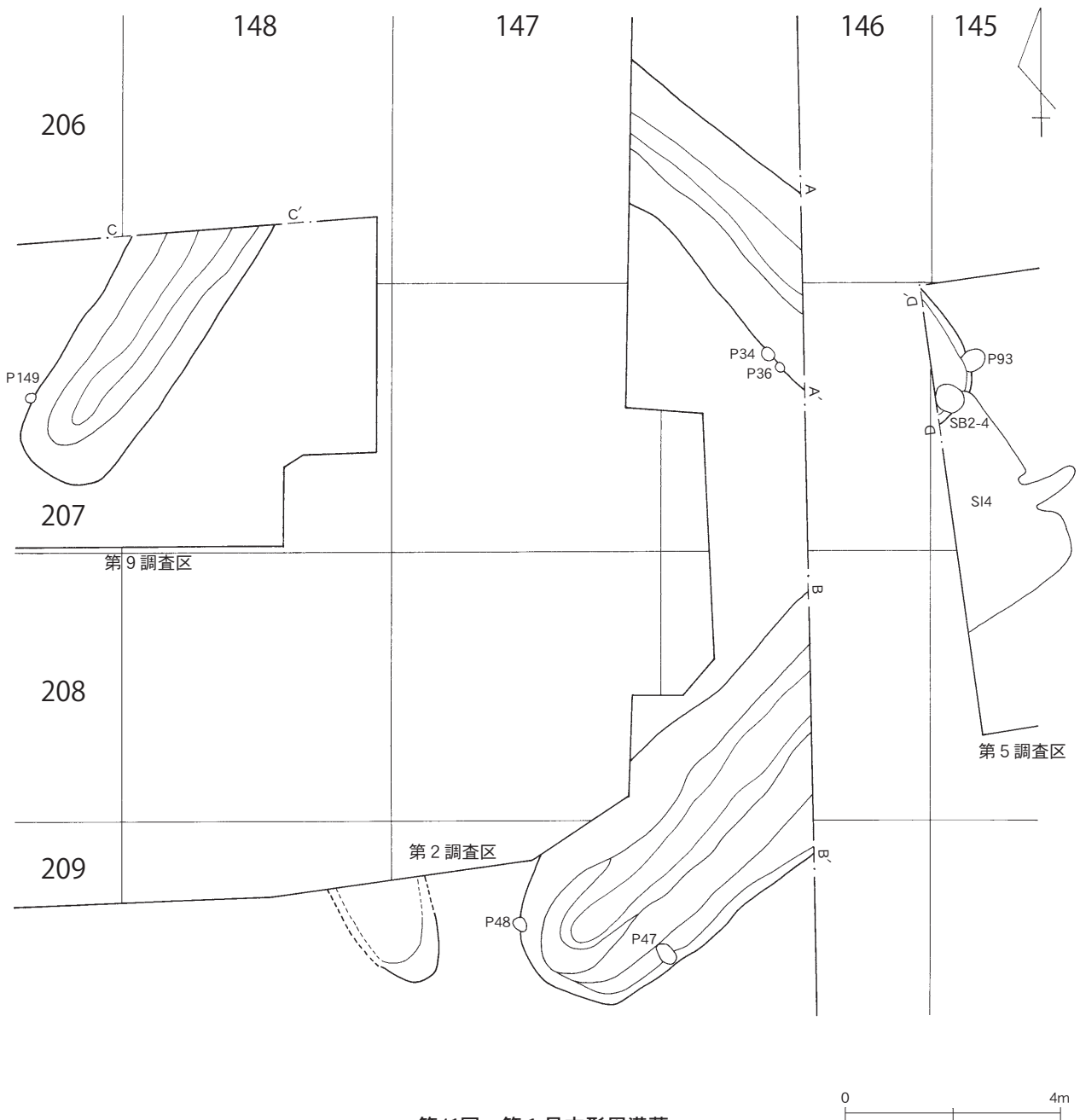
**位置** 第2・5・9調査区に跨り確認されている。第4号住居跡、第2号掘立柱建物跡に切られている。第34・36・47・48・93・149号ピットと重複する。方台部の第9調査区に第5号土坑が位置している。

**遺構** 平面形は、ほぼ正方形を呈すると推定され、四隅が切れる。推定規模で、溝外法で、17.2m、内法で11.8m×11.2mを測る。北東溝は、第2・5調査区で一部が確認されており、検出長8.8m、最大幅2.2m、深さ0.8mを測る。溝の底面は、ほぼ平坦を呈している。南東溝は、第2調査区で一部が確認されており、検出長8.4m、最大幅3.5m、深さ1.2mを測る。溝の底面は、ほぼ平坦を呈している。南西

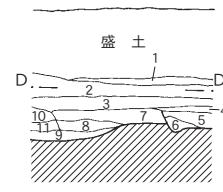
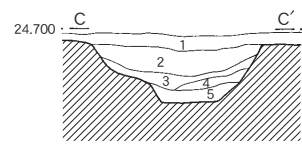
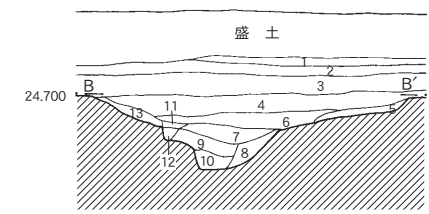
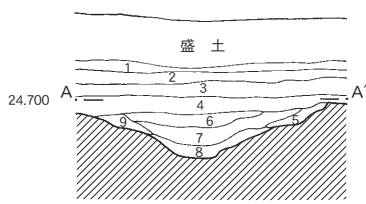
溝は、第2調査区で一部が確認されている。北側が攪乱を受けている。検出長は1.2m、最大幅1.2m、深さ0.7mを測る。北西溝は、第9調査区で一部が確認されている。検出長6.0m、最大幅2.1m、深さ0.9mを測る。

**遺物（第42図・第9表）** 覆土下層より第42図1～2・6の弥生土器が、覆土上層より3～5・7の須恵器・土師器が出土している。1は、甕胴下部片。地に単節LR縄文を施文し、4条の沈線が垂下している。この沈線は、重四角文を構成するものと思われる。2は、甕の胴中部片。単節LR縄文が斜位に施文されている。3は、須恵器甕の胴部片。4・5は、土師器の有段口縁坏。体部と底部の境にある稜が弱い。6は、壺の底部片。底部に木葉痕が残る。7は、土師器碗の口縁部片。

**時期** 覆土下層より出土している遺物より、弥生時代中期後半に属すると判断される。



第41図 第1号方形周溝墓



第1号方形周溝墓  
A-A'

1. 灰褐色土 しまり強、粘性弱。白色粒子微量、赤褐色粒子少量含。粒子細。
2. 茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子やや多含。粒子やや粗。
3. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
4. 明茶褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。粒子やや粗。
5. 黒褐色土 しまり・粘性強。炭化粒微量含。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
6. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
7. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
8. 灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粒子多、赤褐色粒子やや多含。粒子やや粗。
9. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。黄白色粒子少量、赤褐色粒子やや多含。粒子やや粗。

B-B'

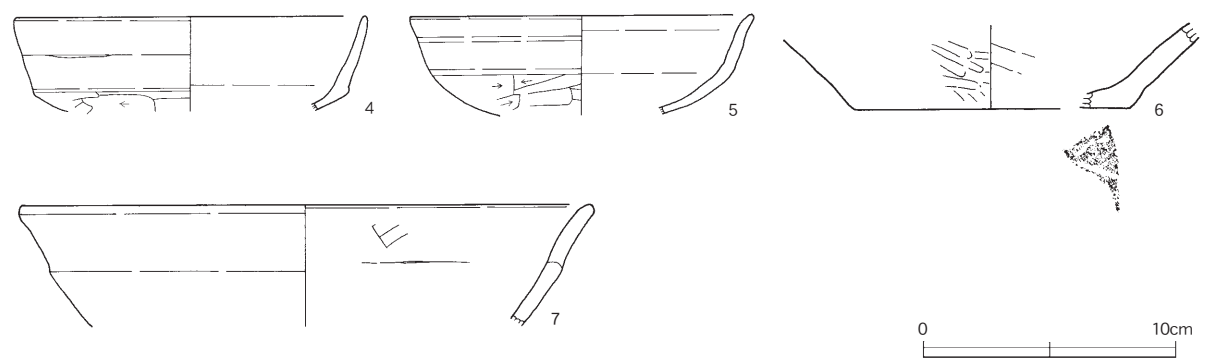
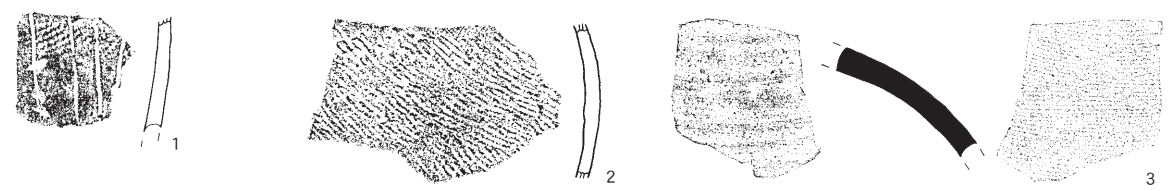
1. 灰白色土 しまり強、粘性弱。赤褐色粒子少量、白色粒子多含。粒子細。
2. 茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
3. 暗茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
4. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
5. 暗黄茶褐色土 しまり・粘性強。黄白色粒子微量含。粒子やや粗。
6. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
7. 暗黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
8. 明灰褐色土 しまり・粘性強。灰白色粒子多含。粒子やや粗。
9. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。灰白色粒子多含。粒子やや粗。
10. 暗黄灰褐色土 しまり・粘性強。灰白色粒子多含。粒子やや粗。
11. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
12. 暗褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量含。粒子やや粗。
13. 暗灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子微量、灰白色粒子微量含。粒子やや粗。

C-C'

1. 黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量、炭化粒微量含。粒子やや粗。
2. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
3. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
4. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
5. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。

D-D'

1. 明灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
2. 明黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
3. 暗黄褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
4. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子細。
5. 明黒褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
6. 明黒灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子細。
7. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
8. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。
9. 灰褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
10. 明灰茶褐色土 しまり・粘性やや強。赤褐色粒子多含。粒子やや粗。
11. 灰茶褐色土 しまり・粘性強。赤褐色粒子少量含。粒子やや粗。



第42図 第1号方形周溝墓セクション図・出土遺物

## 5 土坑

土坑は、総数7基検出された。内訳は、第1調査区で2基、第5調査区で1基、第6調査区で1基、第9調査区で2基、第10調査区で1基検出されている。

### 第1号土坑（第43図）

**位置** 第1調査区、142-205グリットに位置する。第1号掘立柱建物跡、第1号ピットと重複する。

**遺構** 北側は調査区外にかかり未調査。平面は長方形を呈し、長軸長3.40m、短軸長2.23m、深さ0.18mを測る。坑底は、平坦となっている。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

### 第2号土坑（第43図）

**位置** 第1調査区、142・143-205グリットに位置する。

**遺構** 平面は楕円形を呈し、長軸長2.31m、短軸長1.21m、深さ0.64mを測る。断面は、鍋底型を呈する。覆土は4層に分層され、自然堆積を示す。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

### 第3号土坑（第43図）

**位置** 第5調査区、145-208グリットに位置する。第3号住居跡と重複する。

**遺構** 平面は楕円形を呈し、北側に段差があり、2基重複している可能性がある。長軸長3.02m、短軸長1.38m、深さ0.65mを測る。坑底は、平坦を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

### 第4号土坑（第43図）

**位置** 第6調査区、146-204グリットに位置する。第2号礫床木棺墓を切っている。

**遺構** 平面は楕円形を呈し、長軸長2.11m、短軸長1.78m、深さ1.12mを測る。断面は、逆台形を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第5号土坑（第43図）

**位置** 第9調査区、148-207グリットに位置する。位置的には、第1号方形周溝墓の方台部に位置する。

**遺構** 平面はほぼ方形を呈し、長軸長1.89m、短軸長1.83m、深さ0.38mを測る。覆土中に5～50cm程の垂円礫がやや密に充填されている。礫に比熱の痕跡は認められない。

**遺物** 礫下の坑底直上から微細な骨片が出土している。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から弥生時代の遺構と推測される。

#### 第6号土坑（第43図）

**位置** 第9調査区、149-207グリットに位置する。

**遺構** 平面は楕円形を呈し、長軸長1.50m、短軸長0.61m、深さ0.21mを測る。断面は、鍋底型を呈する。

**遺物** 無し。

**時期** 遺物が出土していないため時期不明であるが、覆土から古墳時代から平安時代にかけての遺構と推測される。

#### 第7号土坑（第43図）

**位置** 第10調査区、148-211グリットに位置する。

**遺構** 平面は不整形を呈し、長軸長3.02m、短軸長2.38m、深さ0.48mを測る。覆土は3層に分層され、垂円礫を数点含む。

**遺物** 土師器小片が少量出土したが、図示するには至らなかった。

**時期** 出土遺物より、古墳時代後期と判断される。

## 6 礫床木棺墓

礫床木棺墓は、第6調査区で4基検出されている。礫床木棺墓については、第V章1で分析を加えている。

#### 第1号礫床木棺墓（第44・45図）

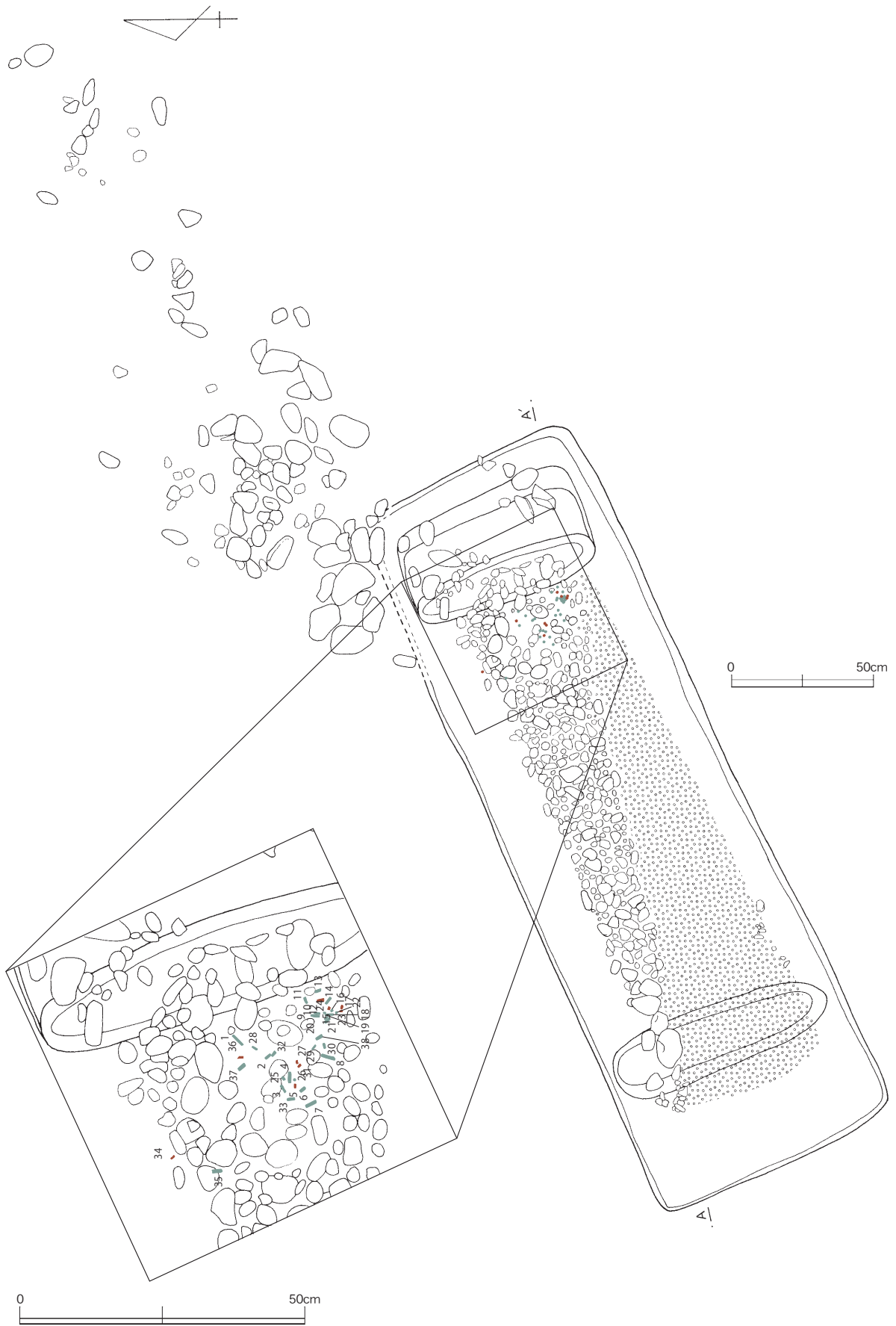
**位置** 第6調査区、146・147-203・204グリットに位置する。遺構の上部を、南西-北東方向に走る小河川跡により切られる。

**遺構** 平面形は長方形を呈し、長軸2.71m、短軸0.82m、深さ0.08mを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。坑底は、ほぼ平坦を呈し、両端に木口ピットが掘り込まれている。西側の木口ピットは坑底より0.21m、東側の木口ピットは坑底より0.26m掘り込まれている。両木口ピット最深部間の距離は、1.78mを測る。長側板痕は検出されなかった。覆土は、不明瞭ではあるが、木口ピット付近で2層に分層される。第2層は、木口板設置後の埋土と判断される。

敷礫は、調査当初、礫床墓との認識が無く、地山に不定形に確認された礫群を墳礫と判断し、半裁





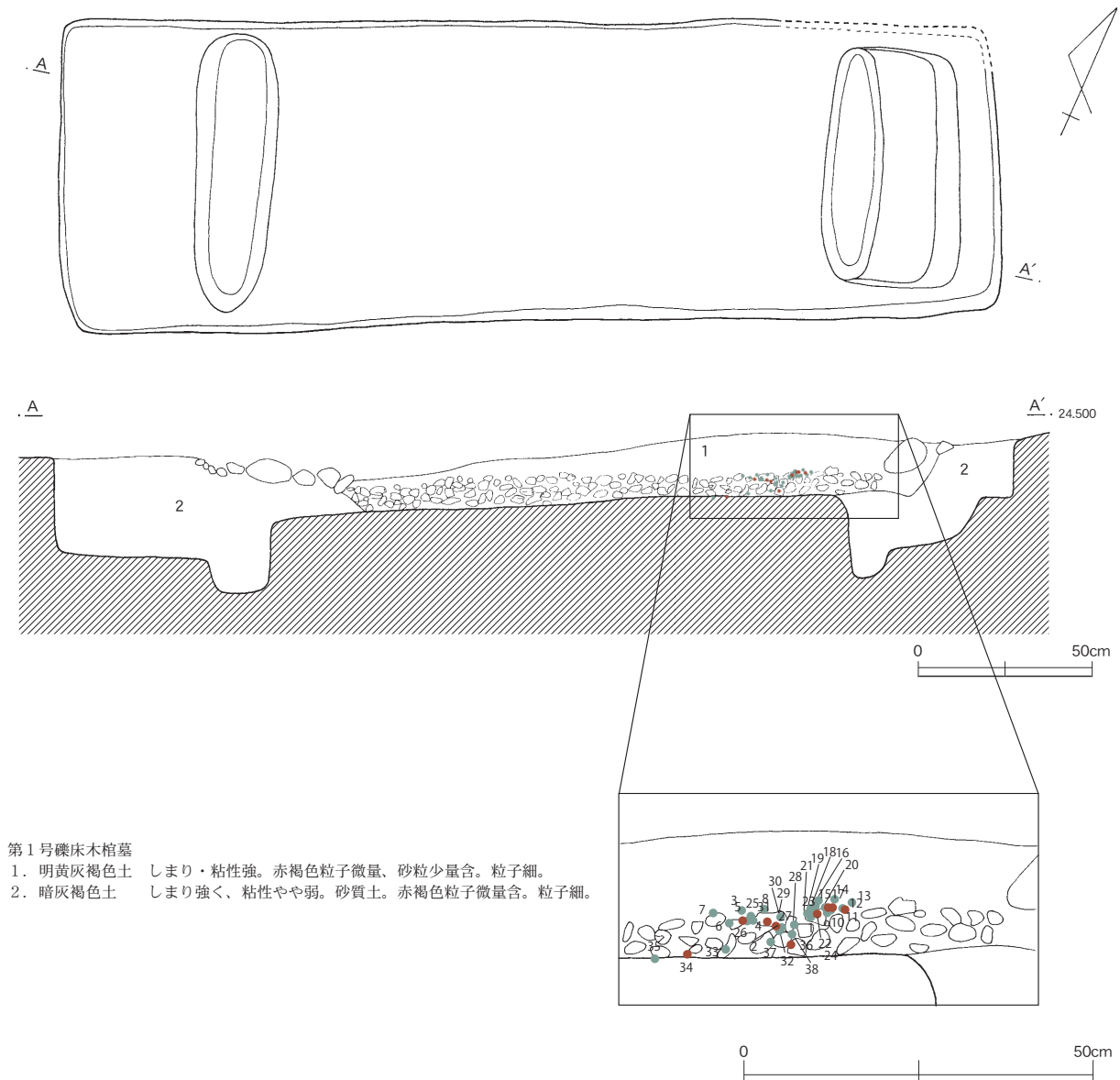


第44図 第1号礫床木棺墓(1)

してしまったため、南半分を記録することが出来なかったが、2.04m×0.51mの範囲で長方形に分布する。記録出来なかった敷礫の範囲を、スクリーントーンで示している。厚みは0.08mで、ほぼ平坦に敷かれている。東西の木口ピット上に、長径10cm程のやや大型の礫が検出されており、木口ピットに立てた板材を抑える目的で敷設された可能性がある。

また、本遺構の北東側に、長径10cm程のやや大型の礫が2m×0.8m程の範囲で確認されている。本遺構は、南西―北東方向に走る小河川跡に上部を斜めに切られており、用いられていた礫が流失したものと推測される。礫床に敷かれた礫に比べ大形の礫が多数認められることから、敷設形状は不明であるが、上部に大型の礫が使用されていたものと推測される。礫総数3,264点を数え、総重量3,900gを量る。敷礫の石質は、チャート1,229点、砂岩1,584点、その他石材451点となる。

**遺物(第46図・第13表)** 管玉が44点出土している。石質は、赤玉石製12点、緑色凝灰岩製32点である。このうち出土位置を記録して取上げたものが39点(1~39)である。管玉は、敷礫の東側からすべ



第45図 第1号礫床木棺墓(2)

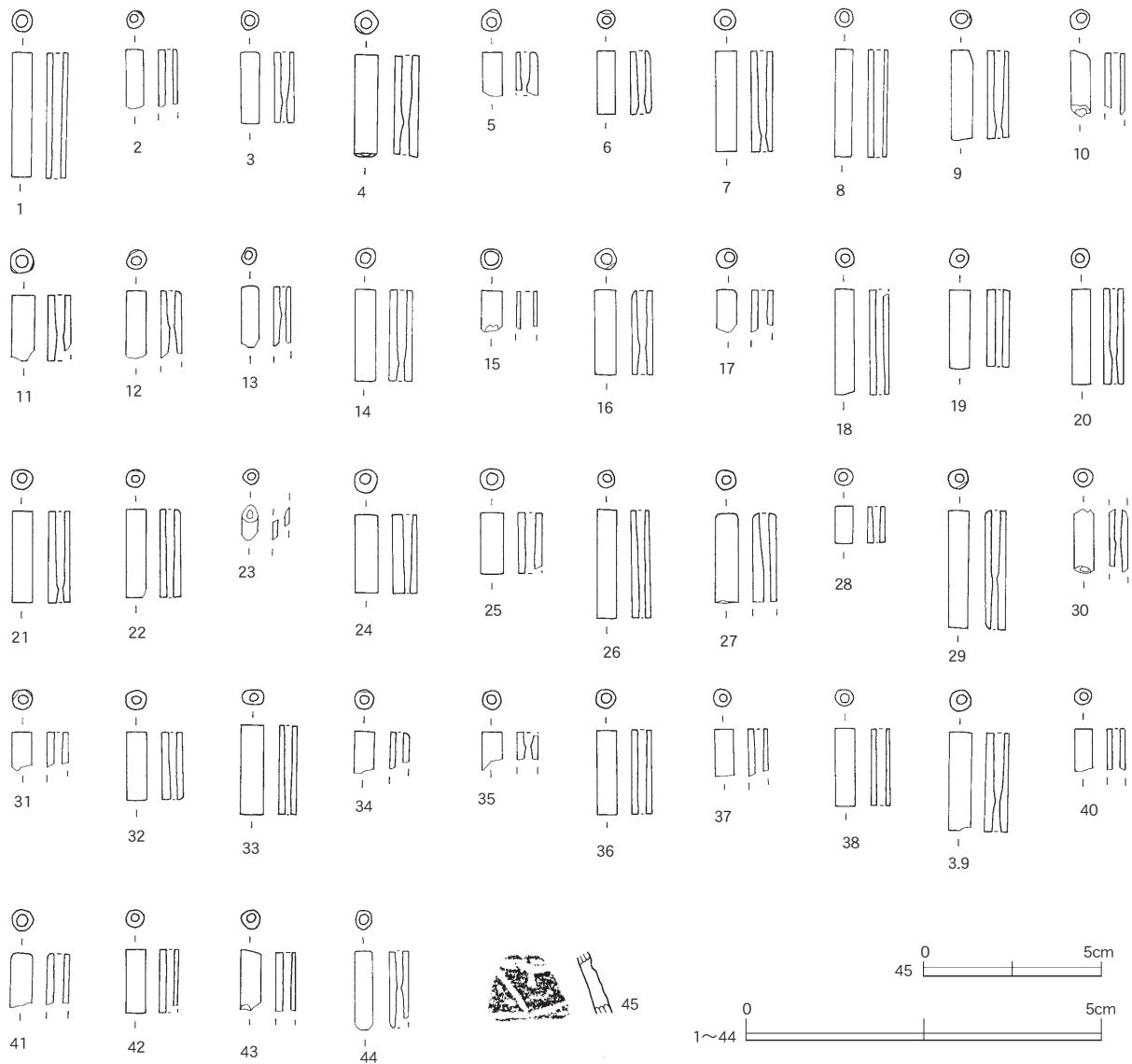
て出土している。No.34・No.35の管玉の出土位置がやや離れるが、その他の管玉は、0.2m×0.18mの範囲でU字状に出土している。垂直分布は、大半が敷磔上部の磔間より出土しており、3点（No.33・34・35）が敷磔下部の磔間より出土している。出土位置より判断して、頭～胸飾りと考えられ、頭位推定の根拠となる。

また、磔床の磔に混じり、弥生時代中期後半に属する無文の土器小片が2点出土しているが、図示するには至らなかった（図版20）。磔の採取に際し、磔と伴に持ち込まれたものと推測される。

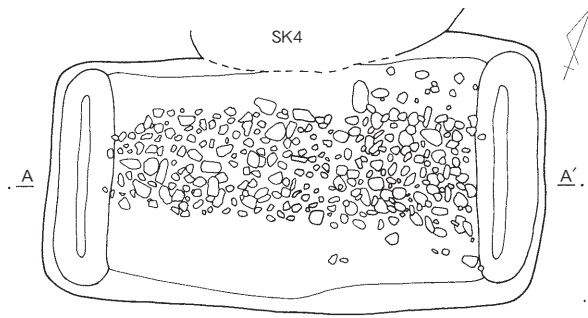
**時 期** 磔床の磔に混じって出土した土器片および管玉の特徴より、弥生時代中期後半と判断される。

### 第2号磔床木棺墓（第47図）

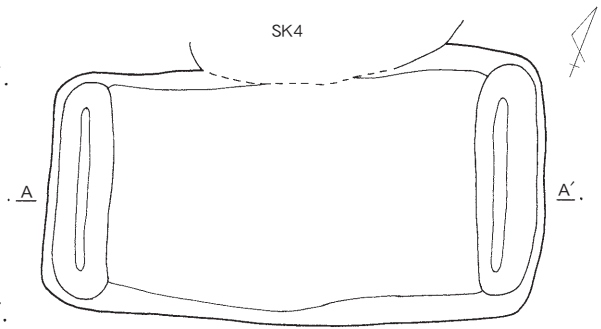
**位 置** 第6調査区、146-204グリットに位置する。南側に、第3号磔床木棺墓が主軸方向を揃えて位置する。



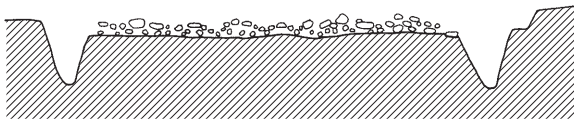
第46図 第1号磔床木棺墓出土遺物



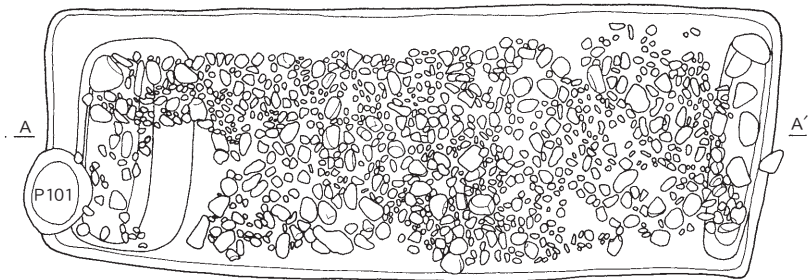
24.600 · A



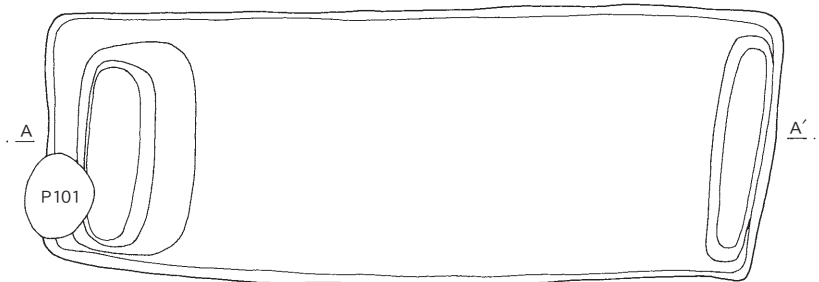
A'



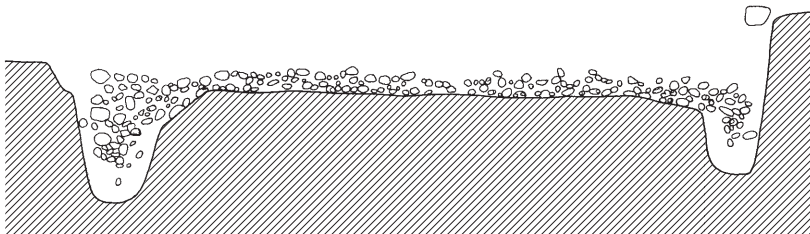
第2号礫床木棺墓



24.800 · A



A'



第4号礫床木棺墓



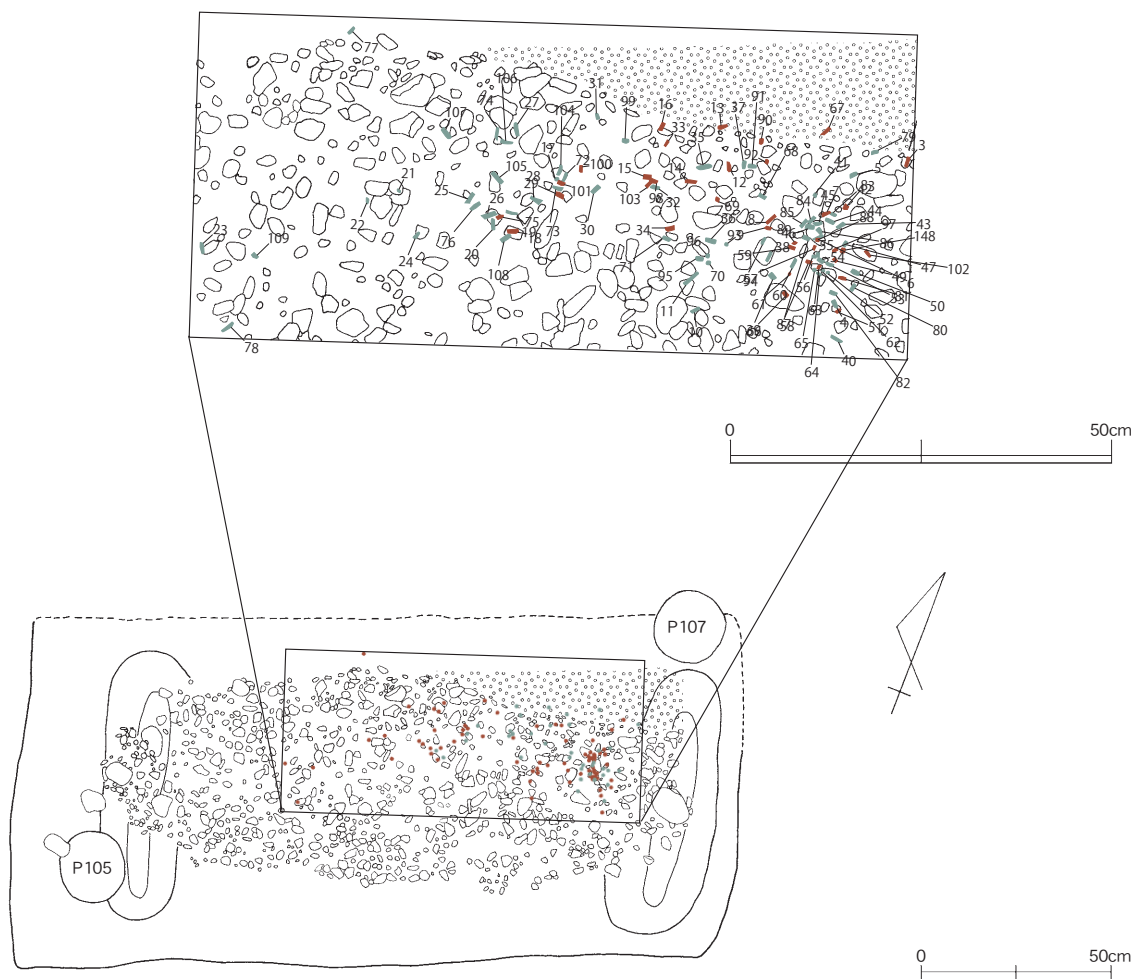
第47图 第2・4号礫床木棺墓

**遺 構** 平面形は長方形を呈し、長軸1.31m、短軸0.72m、深さ0.05mを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。坑底は、ほぼ平坦を呈し、両端に木口ピットが掘り込まれている。西側の木口ピットは坑底より0.14m、東側の木口ピットは坑底より0.15m掘り込まれている。両木口ピット最深部間の距離は、1.1mを測る。長側板痕は検出されなかった。覆土は、暗黄灰褐色を呈し、地山土との判別は困難であった。

敷礫は、木口ピット間に、1.02m×0.52mの範囲で長方形に分布する。厚みは0.04mで、ほぼ平坦に敷かれている。礫総数1,471点を数え、総重量8,100gを量る。敷礫の石質は、チャート549点、砂岩753点、その他石材169点となる。

**遺 物 (第46図)** 礫床の礫に混じり、弥生時代中期後半に属する土器小片が出土している (第46図45)。平行沈線間に斜位の沈線を施文しているが、文様構成は不明。礫の採取に際し、礫と伴に持ち込まれたものと推測される。

**時 期** 礫床の礫に混じって出土した土器片より、弥生時代中期後半と判断される。



第48図 第3号礫床木棺墓(1)

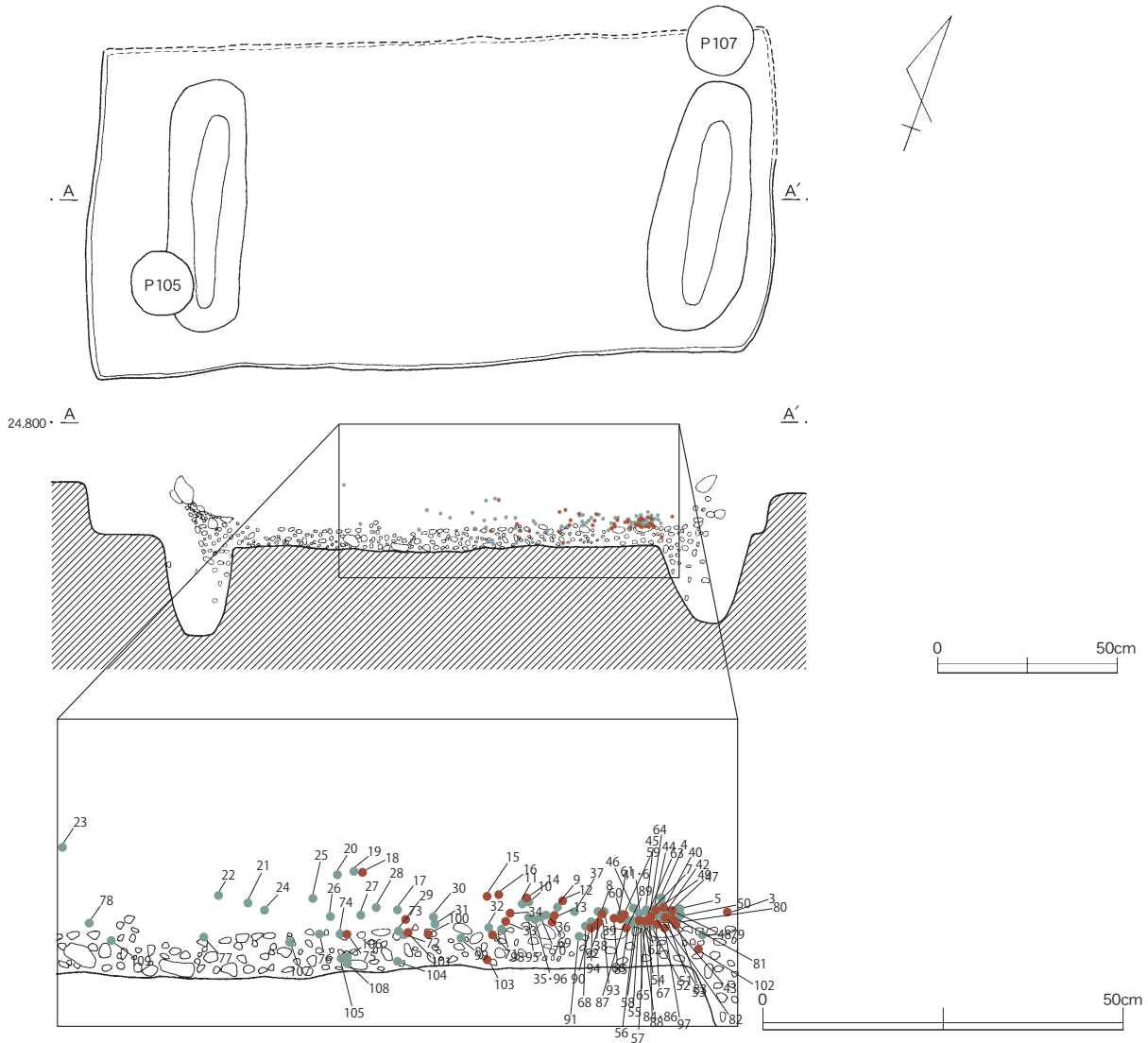


第3号礫床木棺墓（第48・49図）

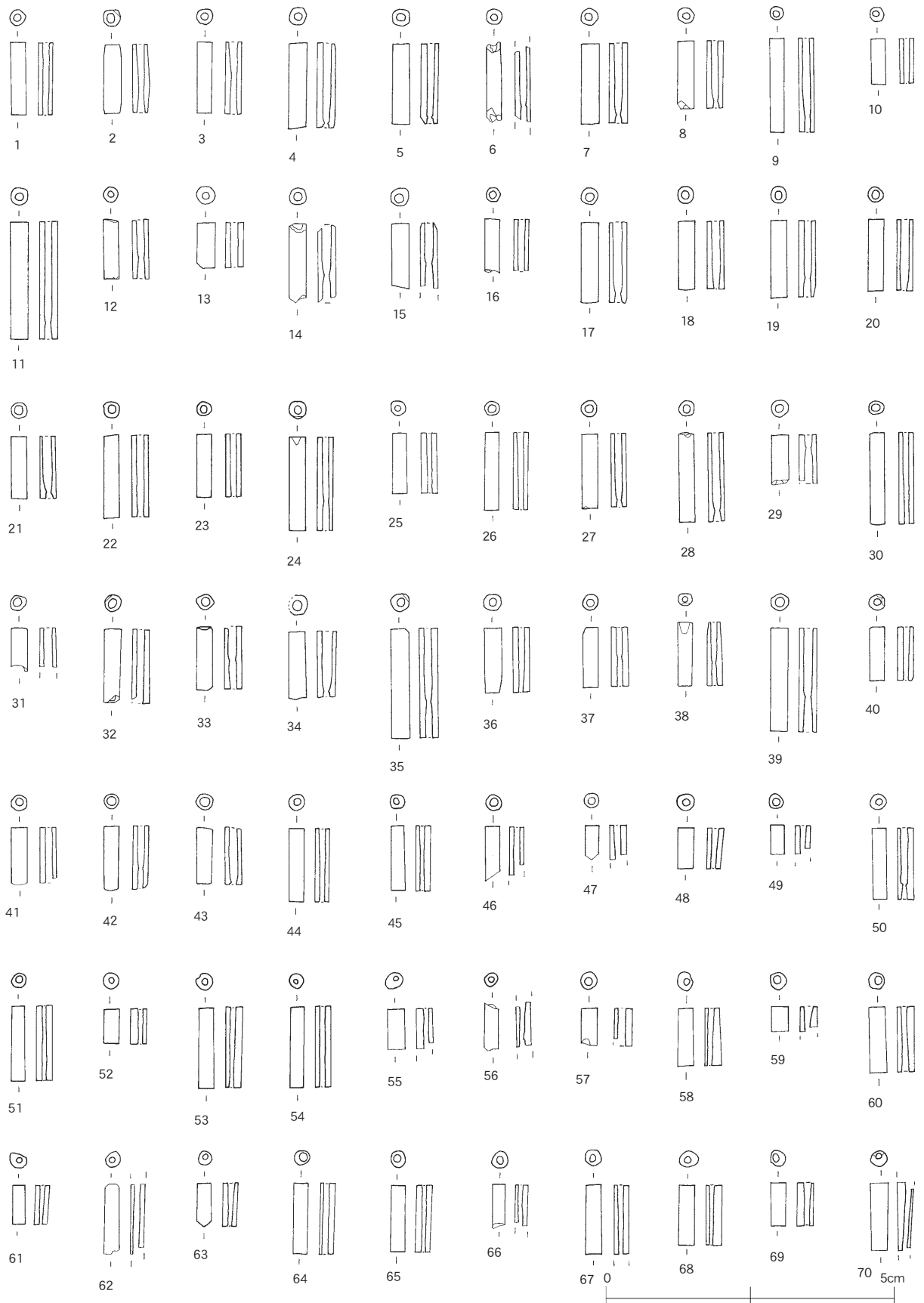
位置 第6調査区、146-204グリットに位置する。第105・107号ピットに切られている。

遺構 平面形は長方形を呈し、長軸1.91m、短軸0.92m、深さ0.13mを測る。主軸方位は、N-68°-Eを指す。坑底は、ほぼ平坦を呈し、両端に木口ピットが掘り込まれている。西側の木口ピットは坑底より0.26m、東側の木口ピットは坑底より0.24m掘り込まれている。両木口ピット間最深部間の距離は、1.4mを測る。長側板痕は検出されなかった。覆土は、暗黄灰褐色を呈し、地山土との判別は困難であった。

敷礫は木口ピット間に、1.50m×0.56mの範囲で長方形に分布する。厚みは0.06mで、ほぼ平坦に敷かれている。敷礫は、木口ピット内にも相当数が流入しており、木口板が腐食消滅後に敷礫が落ち込んだ可能性もあるが、直線的に礫の流入が止まっていることから、木口板を設置後に礫の敷設が行われた可能性が高い。東西の木口ピット上に、長径10cm程のやや大型の礫が検出されており、木口ピットに立てた板材を抑える目的で敷設された可能性がある。礫総数22,757点を数え、総重量49,940gを量る。他の礫床木棺墓に比べ、礫の粒径が小さく密に敷かれている。敷礫の石質は、チャート6,116点、砂岩



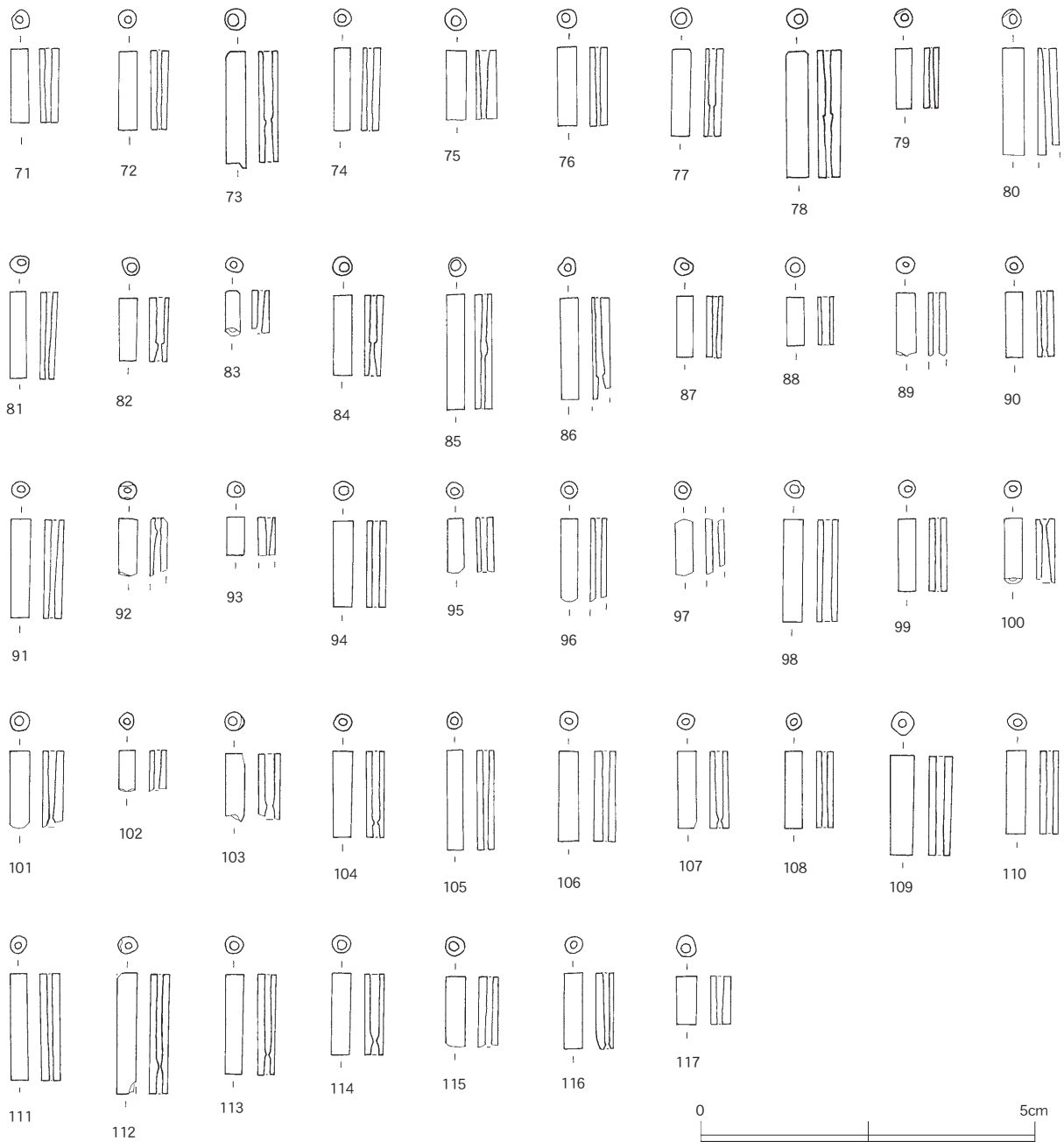
第49図 第3号礫床木棺墓(2)



第50图 第3号磔床木棺墓出土遺物(1)

8,099点、その他8,542点となる。

**遺物（第50・51図・第14表）** 管玉が117点出土している。石質は、赤玉石製41点、緑色凝灰岩製76点である。このうち出土位置を記録して取上げたものが109点（1～109）である。管玉は、主に敷磔の東側から出土している。No.23・77・78・109の管玉の出土位置がやや離れるが、その他の管玉は、0.7m×0.25mの範囲で出土しており、東側に分布密度が高い。垂直分布は、大半が敷磔上部の磔間より出土しており、5点（No.103・104・105・106・108）が敷磔下部の磔間より出土している。敷磔から浮いた状態での出土も確認されており、最も離れたNo.23の管玉は、敷磔上0.23mを測る。出土位置より判断して、頭～胸飾りと考えられ、頭位推定の根拠となる。



第51図 第3号磔床木棺墓出土遺物(2)

また、礫床の礫に混じり、弥生時代中期後半に属する無文の土器小片が6点出土しているが、図示するには至らなかった（図版20）。礫の採取に際し、礫と伴に持ち込まれたものと推測される。

**時 期** 礫床の礫に混じって出土した土器片および管玉の特徴より、弥生時代中期後半と判断される。

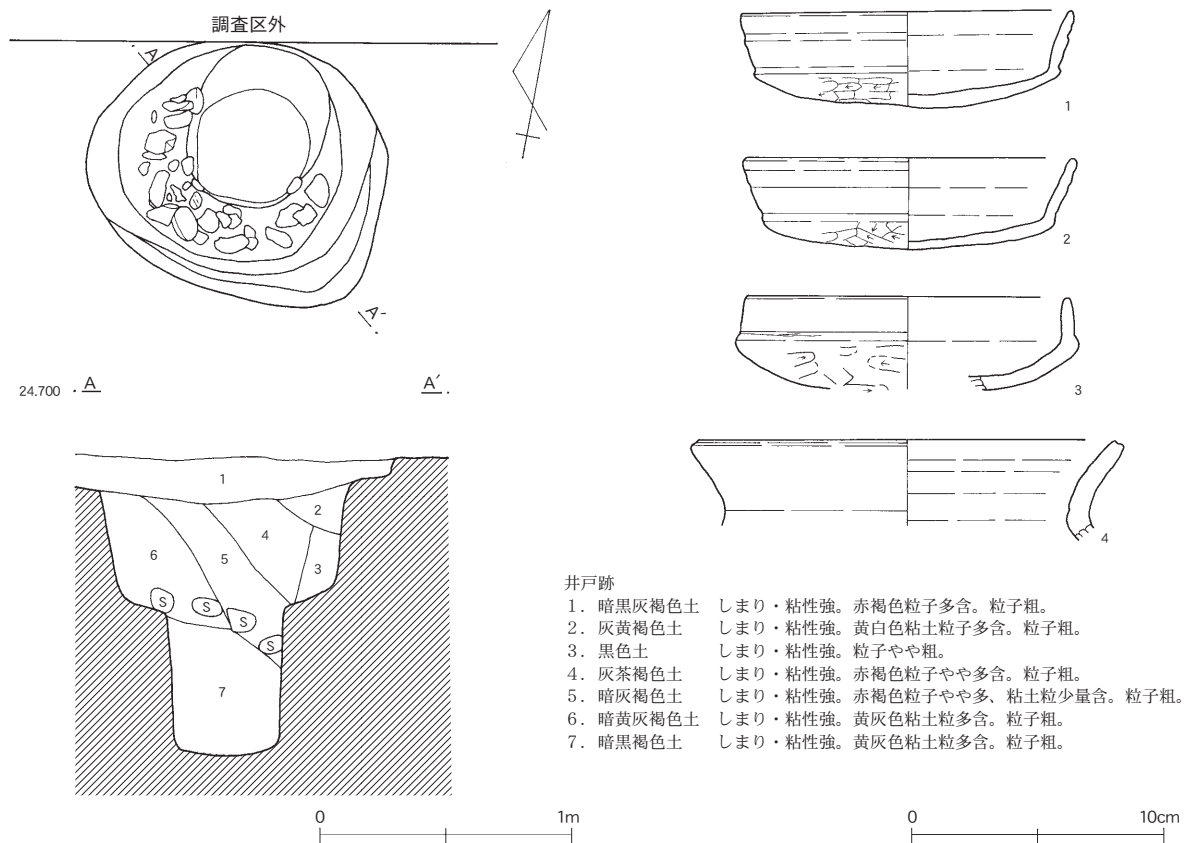
#### 第4号礫床木棺墓（第47図）

**位 置** 第6調査区、145・146-204グリットに位置する。第101号ピットに切られる。

**遺 構** 平面形は長方形を呈し、長軸1.93m、短軸0.72m、深さ0.21mを測る。主軸方位はN-32°-Wを指す。坑底は、ほぼ平坦を呈し、両端に木口ピットが掘り込まれている。北側の木口ピットは坑底より0.29m、南側の木口ピットは坑底より0.19m掘り込まれている。両木口ピット最深部間の距離は、1.65mを測る。長側板痕は検出されなかった。

敷礫は、1.81m×0.60mの範囲で長方形に分布する。敷礫の厚みは0.05mで、ほぼ平坦に敷かれている。敷礫は、木口ピット内にも相当数が流入しており、木口板が腐食消滅後に敷礫が落ち込んだ可能性もあるが、木口板を設置後に礫の敷設が行われた可能性が高い。南側木口ピット上部に、長径10cm程のやや大型の礫が並んで検出されており、木口ピットに立てた板材を抑える目的で敷設された可能性がある。礫総数3,393点を数え、総重量45,000gを量る。敷礫の石質は、チャート1,196点、砂岩1,309点、その他石材888点となる。覆土は、暗黄灰褐色を呈し、地山土との判別は困難であった。

**遺 物** 礫床の礫に混じり、弥生時代中期後半に属する無文の土器小片が1点出土しているが、図示するには至らなかった（図版20）。若干の摩耗が認められることから、礫の採取地から礫と伴に持ち込ま



第52図 第1号井戸跡

れたものと推測される。

**時期** 礫床の礫に混じって出土した土器片より、弥生時代中期後半と判断される。

## 7 井戸跡

井戸跡は、第1調査区より1基のみ検出されている。

### 第1号井戸跡（第52図）

**位置** 第1調査区、143-205グリットに位置する。

**遺構** 平面形は、径2.38m×2.08mのやや楕円形を呈する円形で、確認面からの深さは2.38mを測る。断面形は、逆台形を呈し、地表下1.3mで段があり径が0.9mに狭まる。底面は平坦となっている。覆土は7層に分層され、自然堆積を示す。第7層埋没土上に礫が多数確認されており、井戸上部に石組みがなされており、崩落したものと推測される。下部に石組は確認されていない。

**遺物（第52図）** 覆土中層より出土している。1～3は、土師器の有段口縁坏。4は、土師器甕の口縁部。図版22は、覆土上層より出土した灰釉陶器で、瓶の頸部片。平安時代に属する。

**時期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。

## 8 ピット

ピットは、総数232基検出された。遺物が検出できたピットは少なかった。遺物の検出されたピットについては以下に記載し、その他のピットについては、一覧表にして掲載する（第53～62図、第5表）。

### 第162号ピット（第59図）

**位置** 第9調査区、149-207グリットに位置する。

**遺構** 平面形は、長径41.0cm程の楕円形を呈し、深さ35.0cmを測る。第161号ピットと接している。

**遺物（第63図）** 第63図1は、土師器の椀。体部と底部の境にある稜が弱い。推定口径19.7cmを測る。

**時期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。

### 第219号ピット（第62図）

**位置** 第13調査区、142・143-202グリットに位置する。

**遺構** 平面形は、直径1m程のほぼ円形を呈し、西側に柱の抜き取り痕を残す。掘立柱建物跡の柱穴の可能性が高い。柱穴抜き取り後、遺物を埋設したと判断される状態で、第2層より遺物がまとまって出土している。

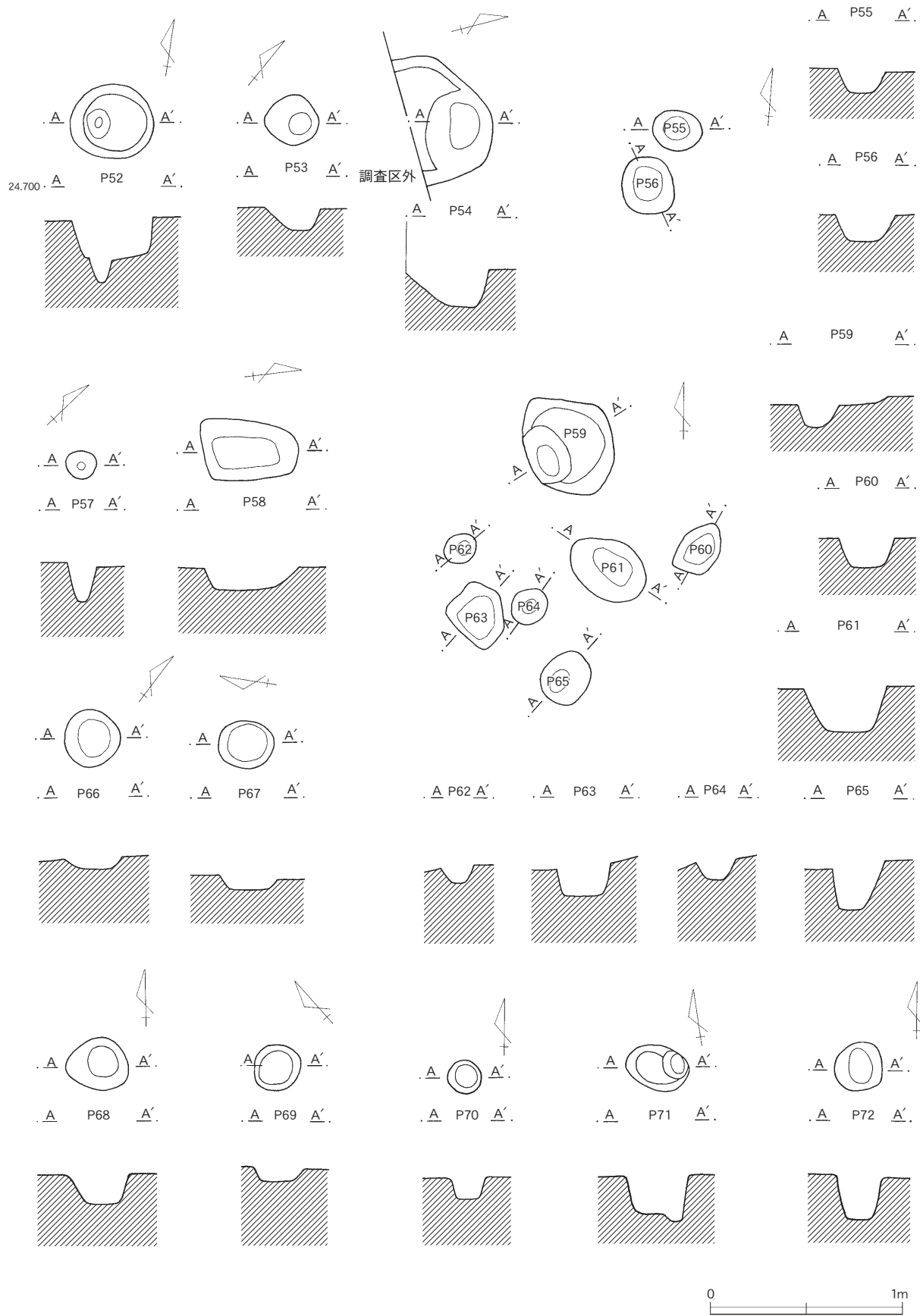
**遺物（第63図）** 第63図2は、土師器の武蔵型暗文坏。推定口縁13.6cmを測る。3は、胴部のみ残存する須恵器の横瓶。胴部上半に自然釉が付着する。4は、胴部のみ残存する須恵器の横瓶。胴部上半に自然釉が付着する。

**時期** 出土遺物より、7世紀後半と判断される。

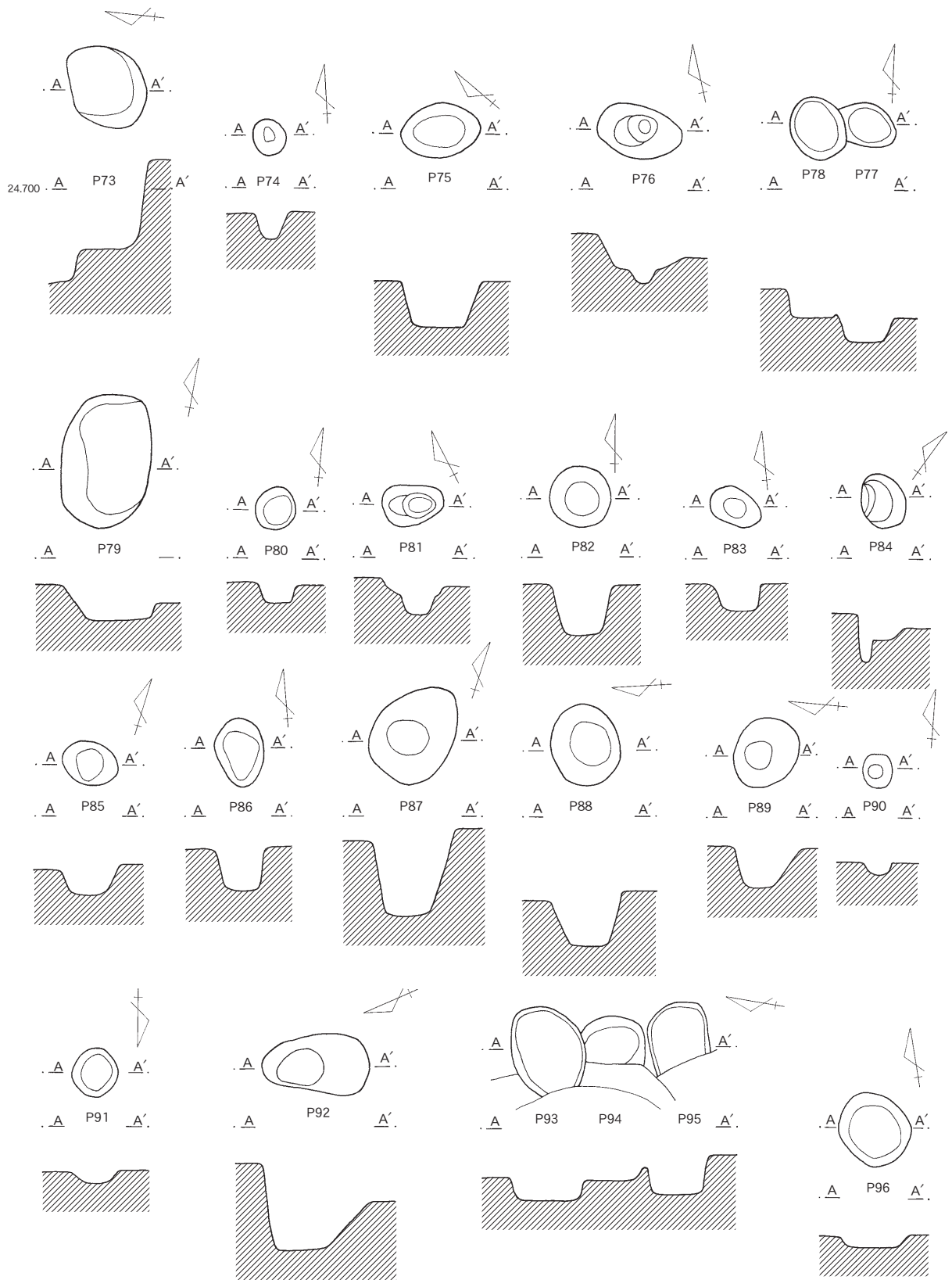




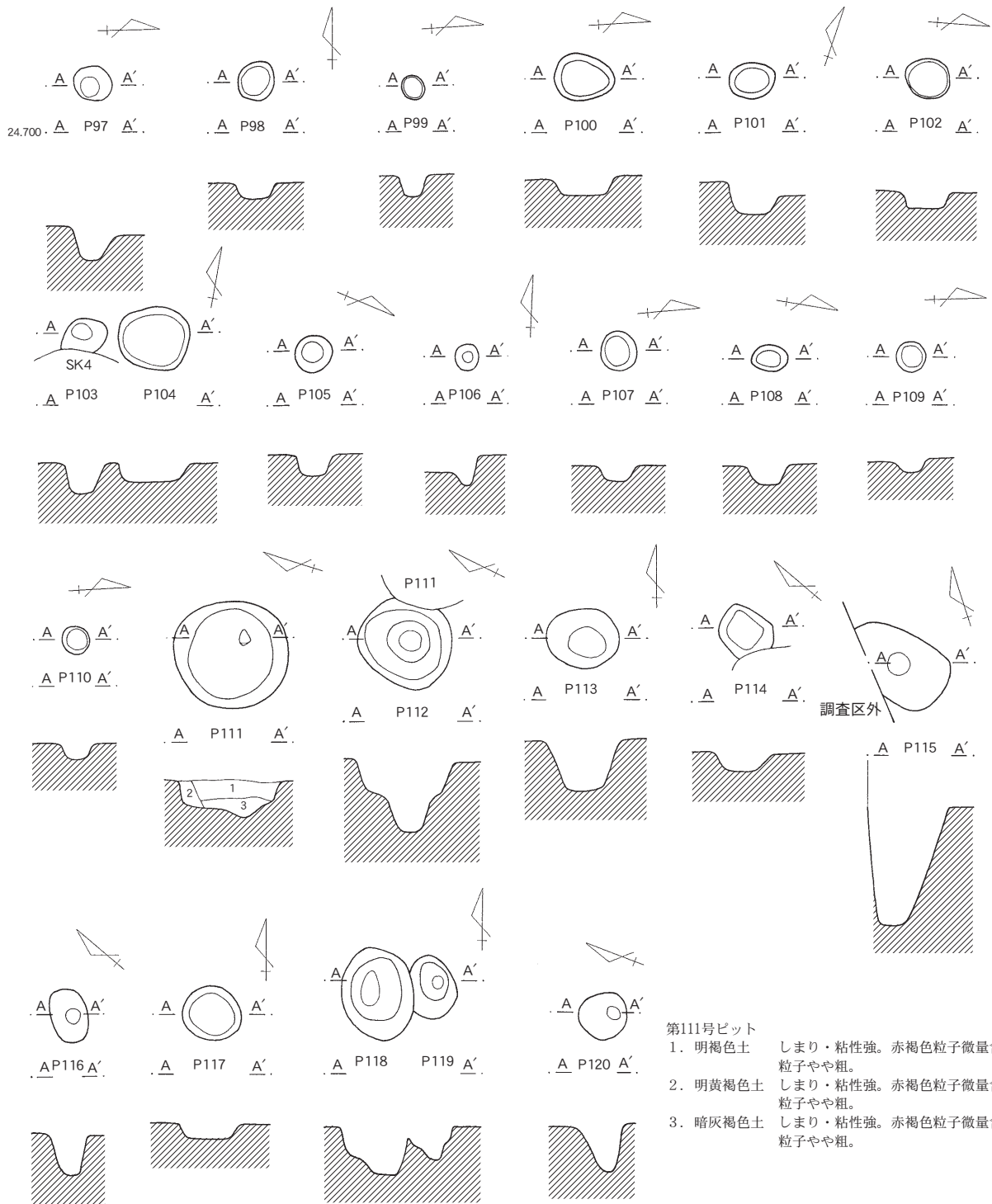




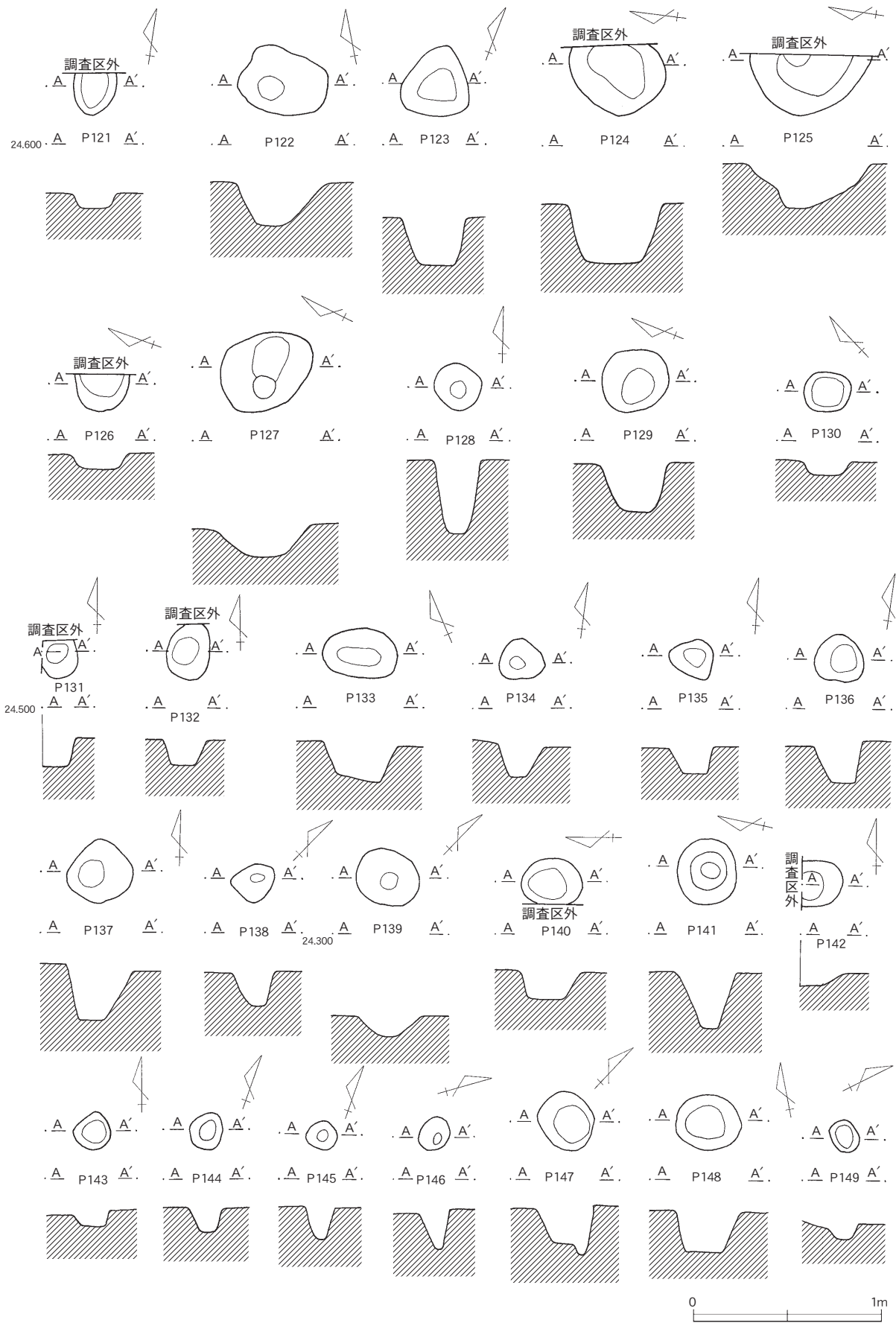
第55図 第52～72号ピット



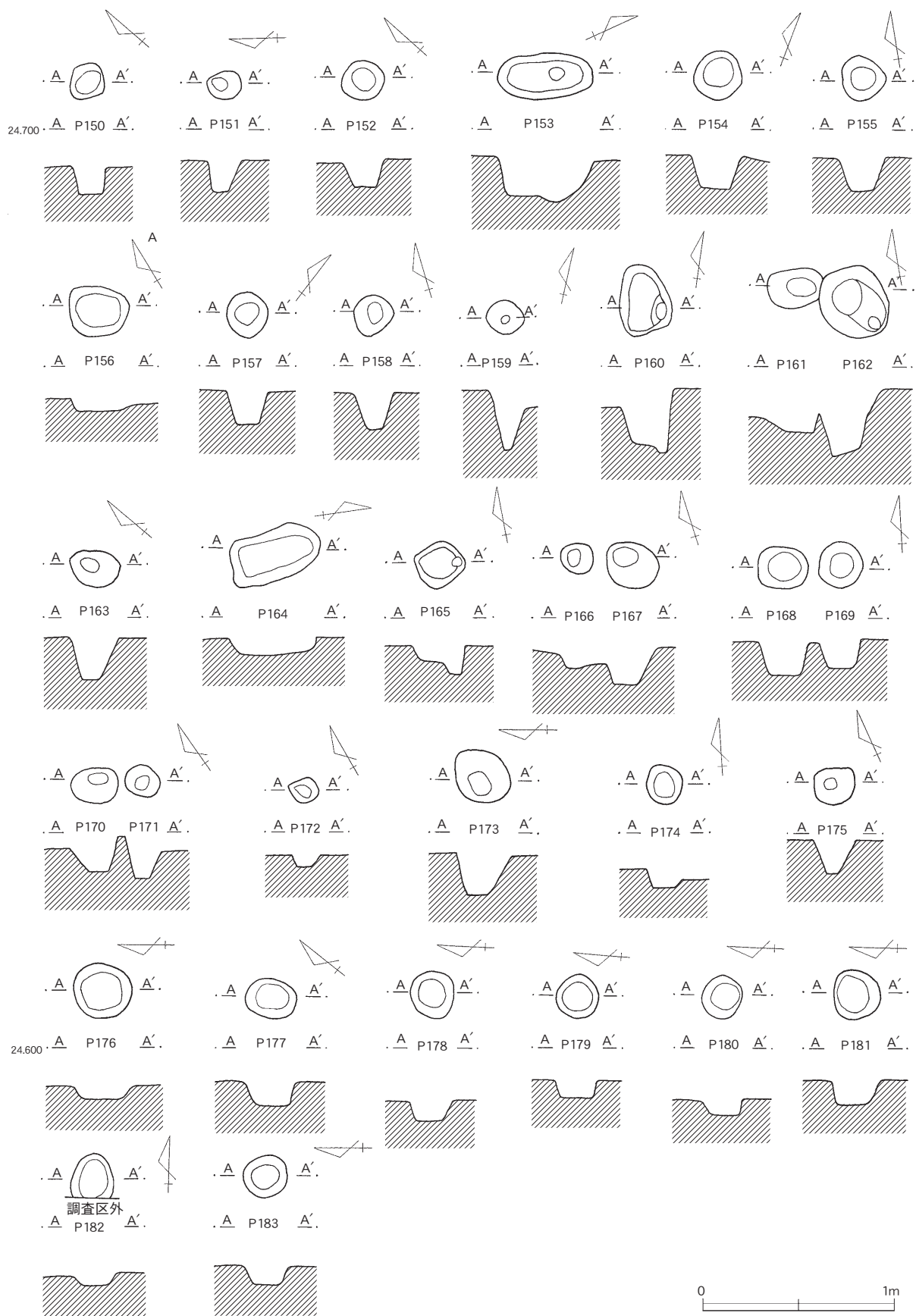
第56図 第73～96号ピット



第57図 第97～120号ピット

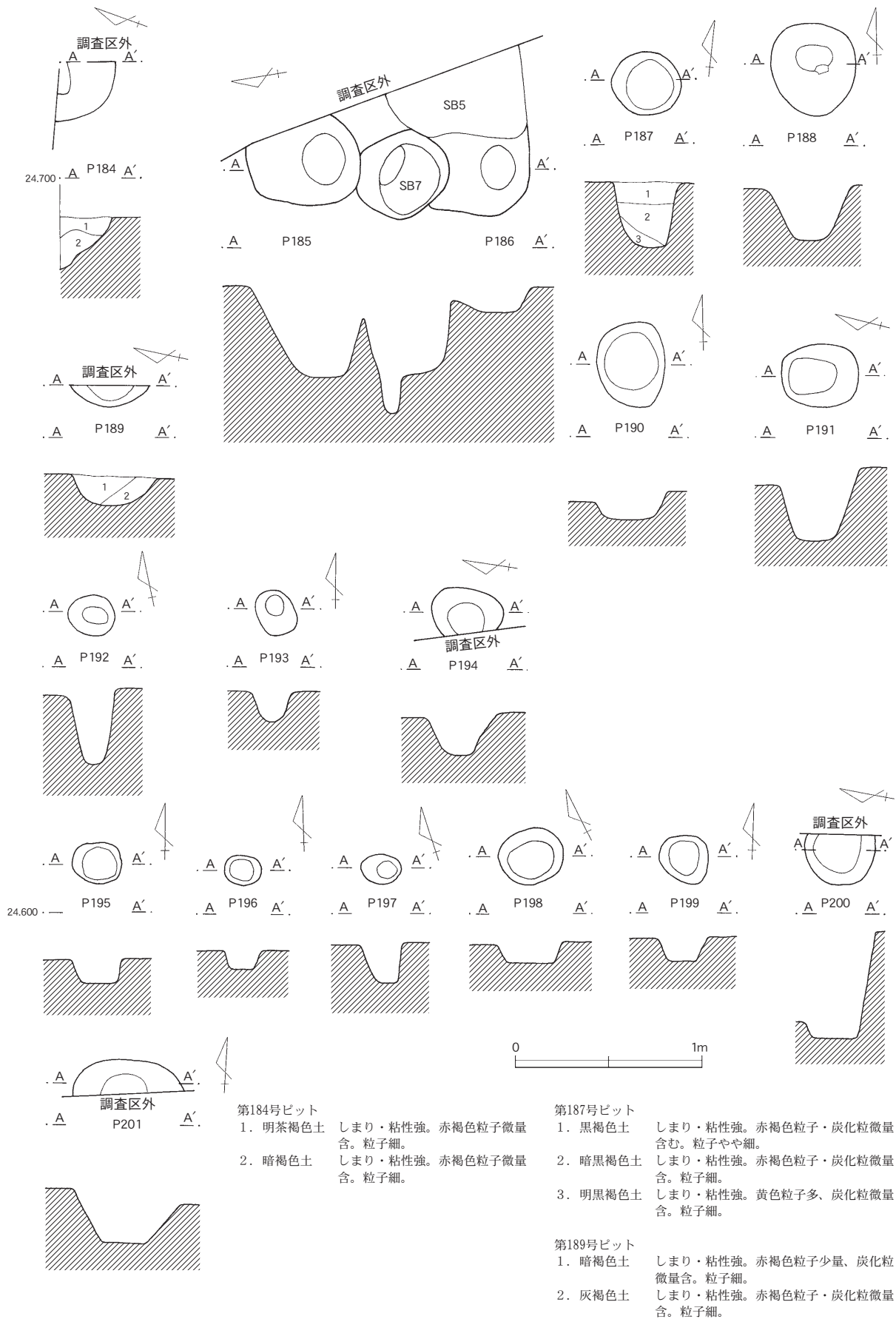


第58図 第121~149号ピット

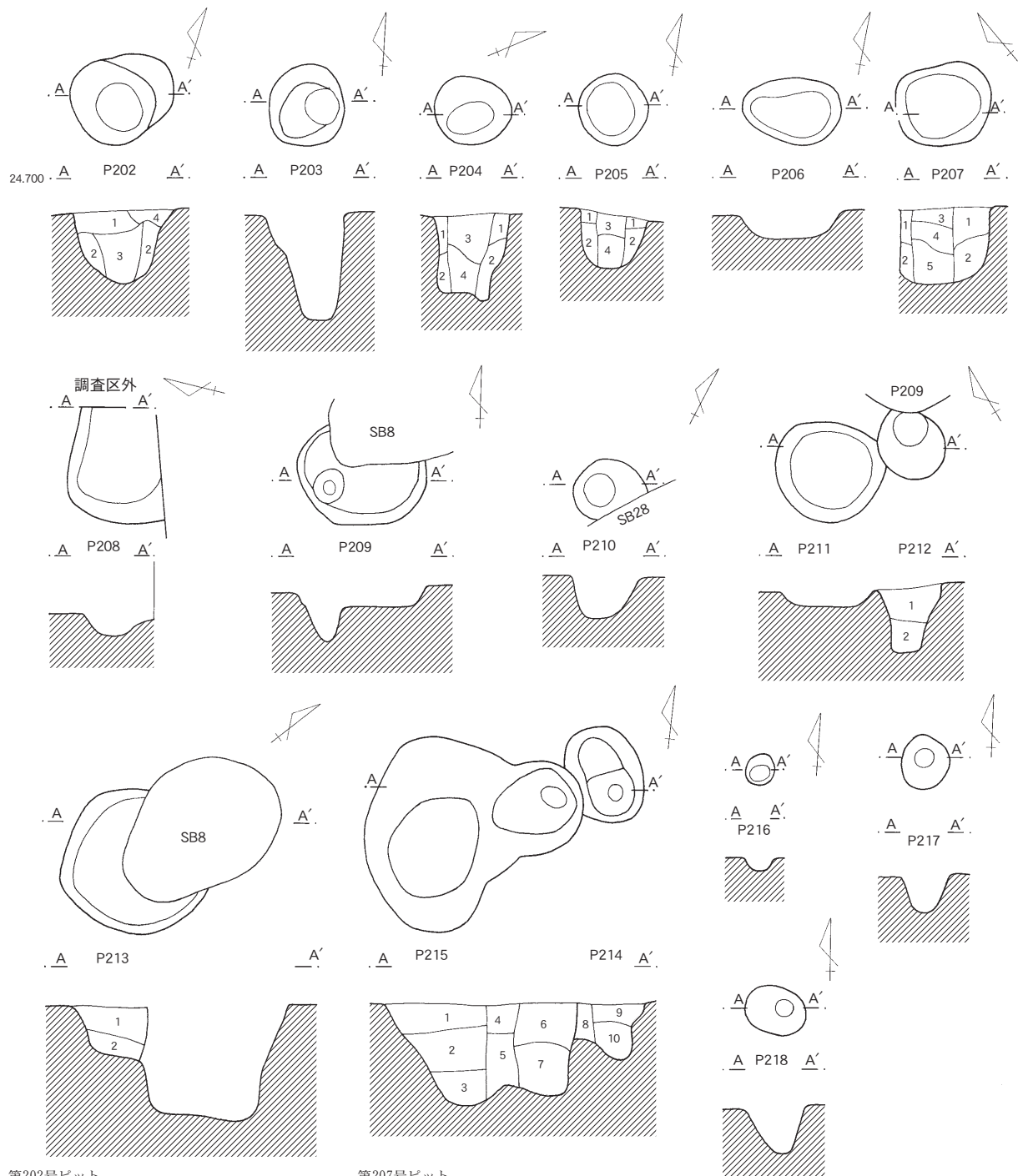


第59図 第150～183号ピット





第60図 第184～201号ピット



- 第202号ピット
1. 灰黄褐色土
  2. 灰褐色土
  3. 灰色土
  4. 暗灰色土

しまり・粘性強。赤褐色粒子多  
含。粒子やや粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子  
多、炭化粒微量含。粒子やや粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子  
多、炭化粒微量含。粒子やや粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子・  
炭化粒微量含。粒子やや粗。

- 第204号ピット
1. 灰褐色土
  2. 明黄褐色土
  3. 灰褐色土
  4. 暗灰褐色土

しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。

- 第205号ピット
1. 明灰褐色土
  2. 灰褐色土
  3. 暗灰褐色土
  4. 灰茶褐色土

しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子粗。

- 第207号ピット
1. 暗灰色土
  2. 暗灰褐色土
  3. 灰褐色土
  4. 暗灰褐色土
  5. 暗灰茶褐色土

しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。

- 第212号ピット
1. 暗灰褐色土
  2. 暗茶褐色土

しまり・粘性強。赤褐色粒子・  
炭化粒微量含。粒子やや粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子・  
炭化粒微量含。粒子やや粗。

- 第213号ピット
1. 灰褐色土
  2. 明灰褐色土

しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや粗。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや粗。

- 第214・215号ピット
1. 灰茶褐色土
  2. 暗灰茶褐色土
  3. 明黄灰褐色土
  4. 灰褐色土
  5. 暗黄褐色土
  6. 暗灰褐色土
  7. 暗黄褐色土
  8. 灰褐色土
  9. 明灰褐色土
  10. 明黄褐色土

しまり・粘性強い。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子やや細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。  
しまり・粘性強。赤褐色粒子少  
量、炭化粒微量含。粒子細。

第61図 第202～218号ピット

第231号ピット (第37図)

位置 第11調査区、143-207グリットに位置する。

遺構 調査区北壁セクションにて確認しているため、平面形は不明。直径38cm、深さ73cmを測る。第19号溝跡を切っている。

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、弥生時代の第19号溝跡を切っていること、および覆土から、古墳時代から平安時代にかけての遺構と判断される。

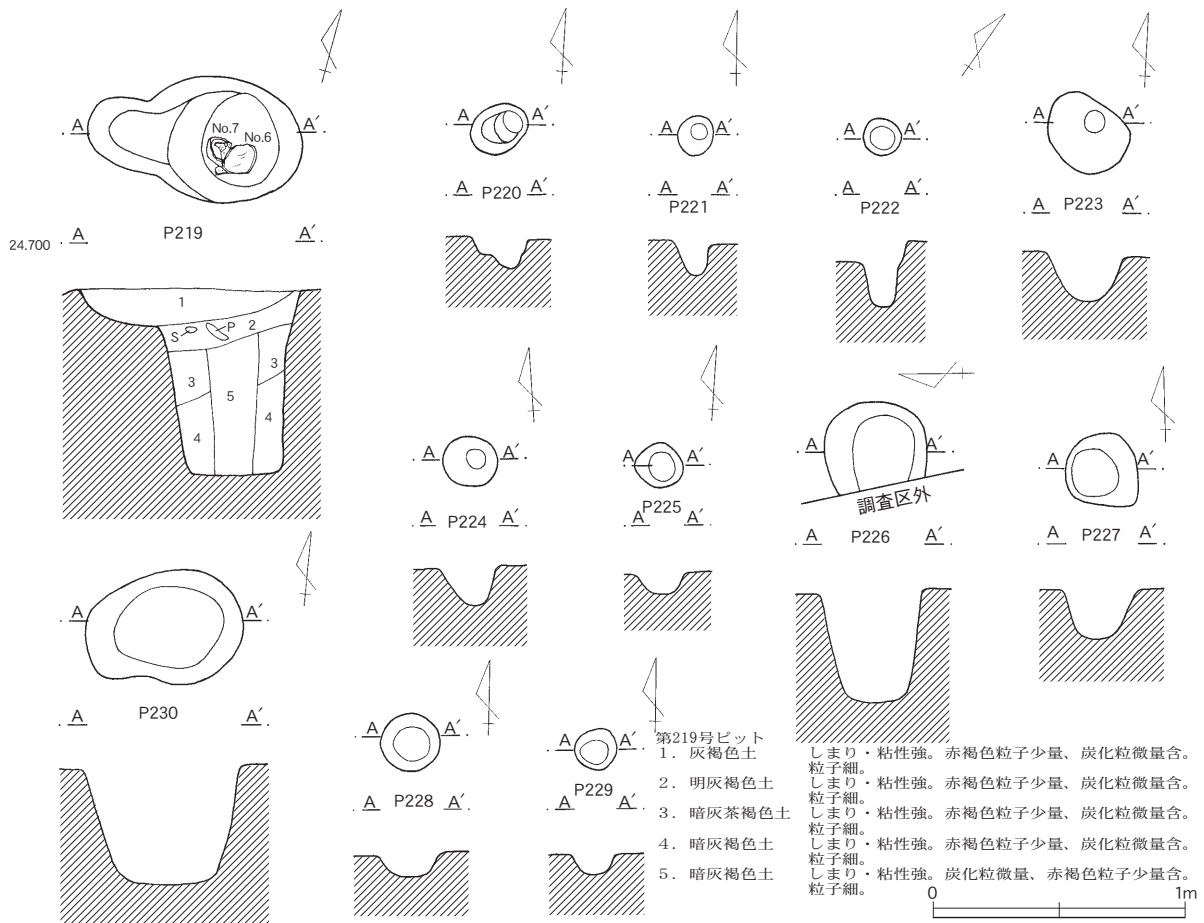
第232号ピット (第38図)

位置 第12調査区、145-203グリットに位置する。

遺構 調査区西壁セクションにて確認しているため、平面形は不明。直径43cm、深さ76cmを測る。第21号溝跡を切っている。柱根の一部が残存している。

遺物 無し。

時期 遺物が出土していないため時期不明であるが、弥生時代の第21号溝跡を切っていること、および覆土から、古墳時代から平安時代にかけての遺構と判断される。



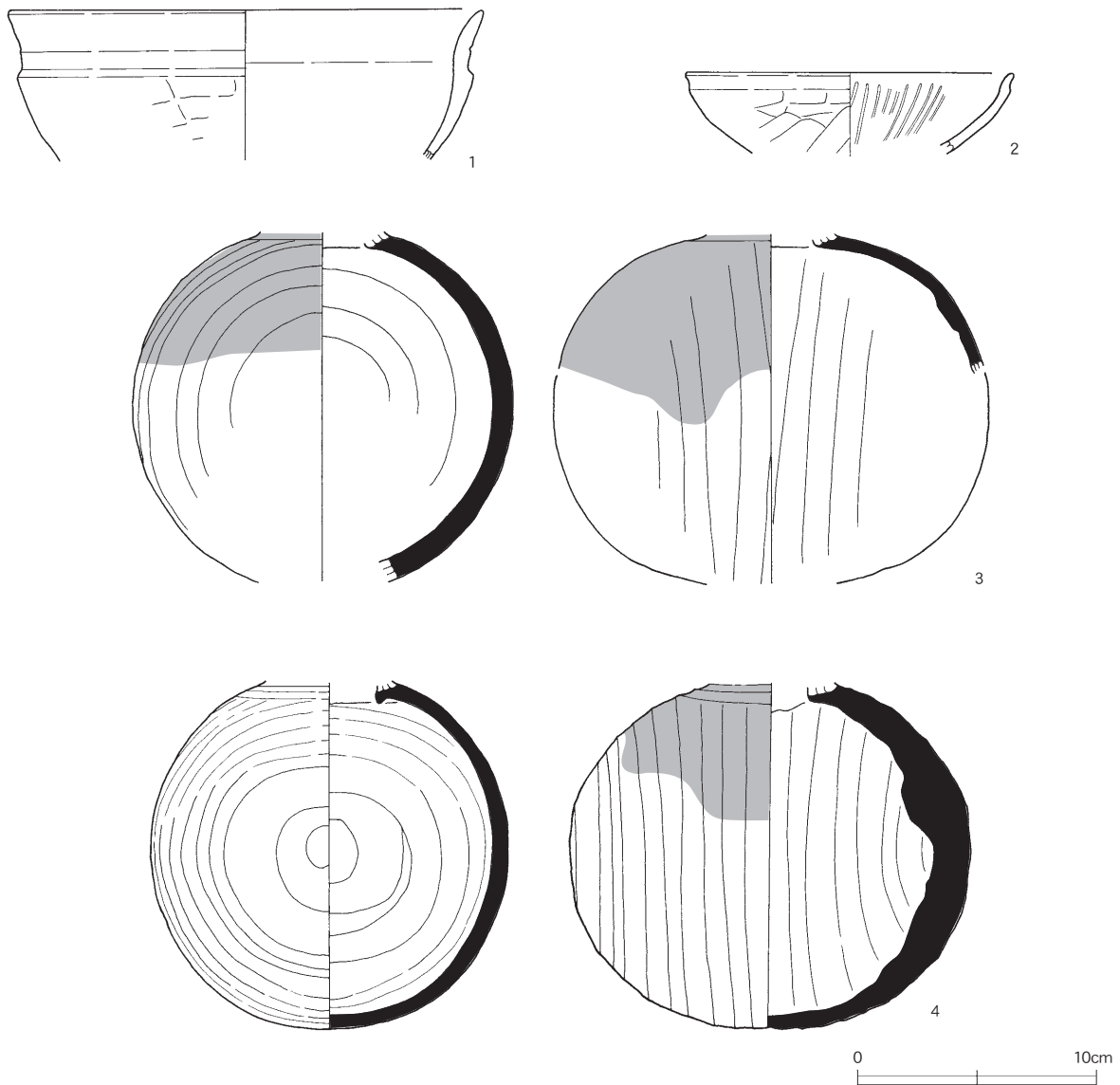
第62図 第219～230号ピット

## 9 遺構外出土遺物 (第64・65図)

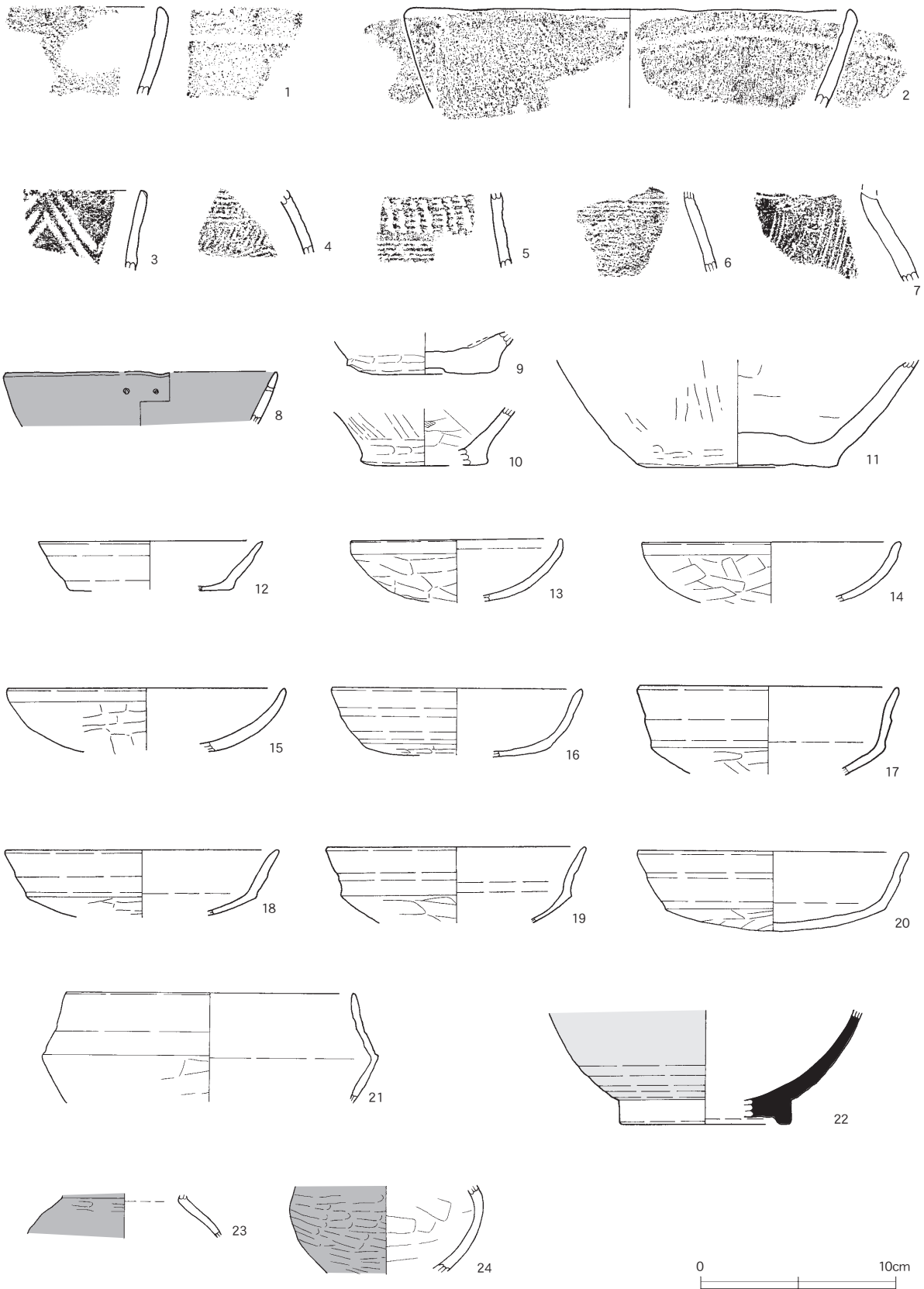
重機により表土除去の際に出土した遺物および遺構外出土遺物を掲載する。

1・2は、縄文時代後期の加曾利B式土器の口縁部片。器面は荒れているが、単節RLの斜縄文が口縁部に施文され、内面には沈線が1条巡る。

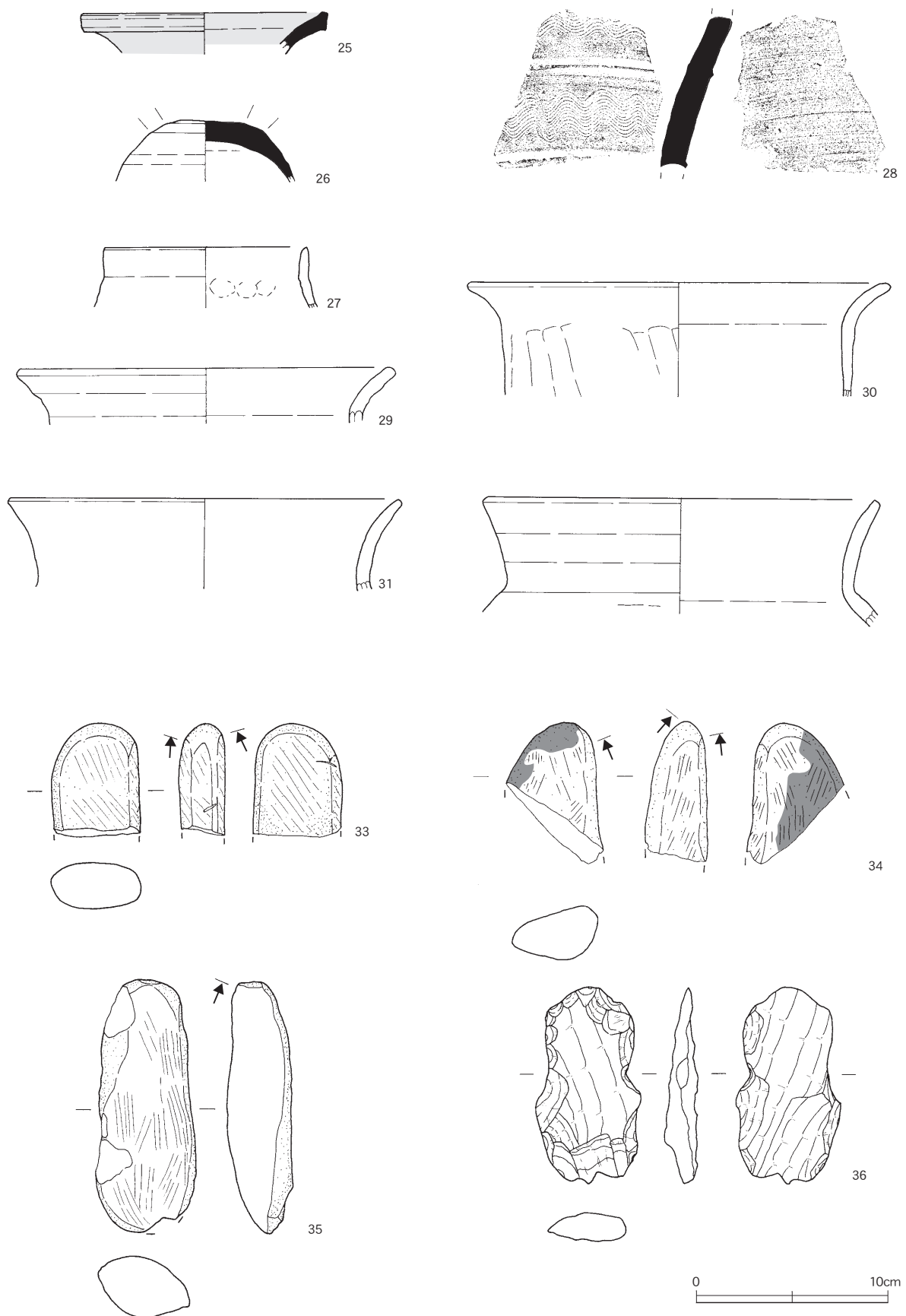
3～11は弥生式土器。3は、甕の口縁部片。3本単位のヘラ描沈線で山形文を施文している。口唇部は刻みが加えられている。内面は、ミガキ調整が行われている。4は、壺の胴上部片。地紋に単節LR縄文を施文し、上部に2条の平行沈線を横位施文し、刺突列を加えている。下部には平行沈線で波状文が施文されている。5は、壺の頸部片。6本単位の櫛歯状工具による簾状文を施文し、下部に櫛歯状工具による横線文を施文している。内面は、みがき調整が行われている。6は、甕の頸部から胴上部片。5本単位の櫛歯状工具による簾状文が施文されている。下部は摩耗が顕著で文様不明。内面は、ヘラナ



第63図 ピット出土遺物



第64図 遺構外出土遺物(1)



第65図 遺構外出土遺物(2)



デ調整が行われている。7は、甕の頸部から胴上部片。上部に櫛歯状工具による簾状文を施文し、下部に6本単位の櫛歯状工具による横羽状文を施文している。内面は、ヘラナデ調整が行われている。8は、胴部下半を欠く椀。内外面に赤彩。2個の焼成後穿孔がある。9～11は、壺の底部。

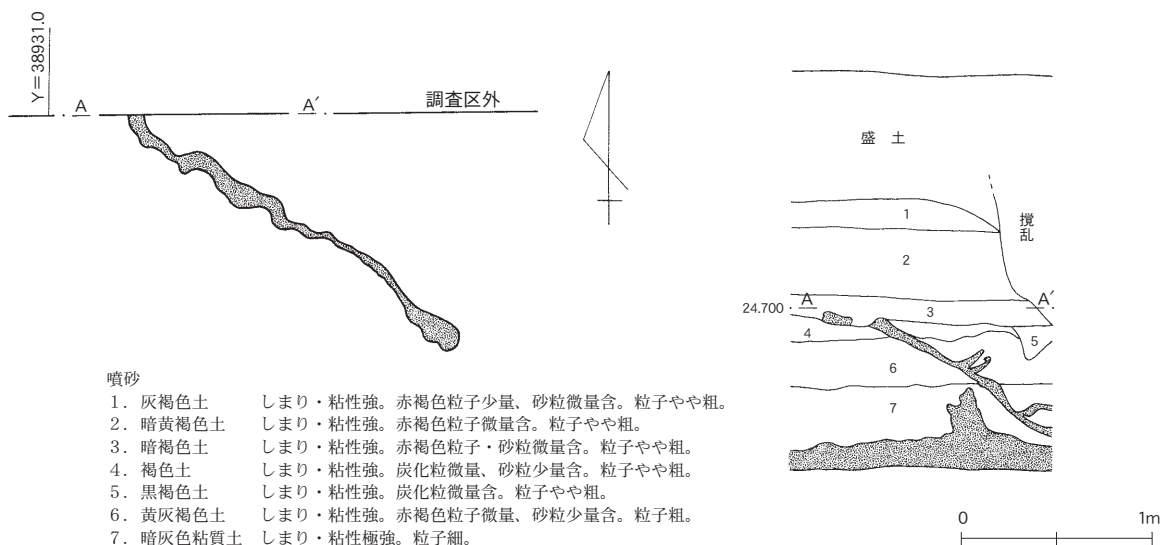
12～32は、古墳時代後期の土器。12は、土師器の坏。13～15は、土師器の武蔵型坏。16は、土師器の坏。17～21は、有段口縁坏。22は、近世瀬戸美濃産陶器の片口の底部破片。内外面に灰白色釉がかかる。見込にトチン痕が残る。23・24は、土師器の小型壺の胴部片。外面に赤彩。外面はミガキ調整、内面はヘラナデ調整が行われている。同一個体の可能性がある。25は、須恵器の長頸瓶の口縁部片。内外面に自然釉が付着する。26は、須恵器の蓋。27は、土師器の小形壺の口縁部。28は、須恵器大甕の胴部破片。29～32は、土師器甕の口縁部片。32は、胴がやや張る。33～35は磨石。石質は、33が砂岩、34がフォルンフェルス、35が粘板岩。側面に磨面が認められる。34は、一部被熱が認められる。36は、粘板岩製の打製石斧。

## 10 噴砂 (第66図・図版3)

**位置** 第2調査区、147-209・210グリットで噴砂の痕跡を確認している。

**形状** 南東-北西方向に1.72m程確認されており、南側の調査区外へと延びる。壁際で下層の砂層まで掘り下げを行ったところ、砂層上部より第4層上部まで、斜位に砂が噴出していることを確認している。砂層上部は波打っており、地震により液状化したことがうかがえ、第4層上部まで約70cm程上昇している。

**時期** 第4層は古墳時代～平安時代にかけての遺構面と判断されることから、地震のイベント時期は、該期に求められる。



第66図 噴砂

# V 分 析

## 1 礫床木棺墓群

**礫床木棺墓群** 本礫床木棺墓群は、調査区が限られているが、現状で4基により構成され、東西7.4m、南北8.8mの範囲で検出されている（第11図）。各遺構の切り合いは認められない。主軸方向は、第1号礫床木棺墓がN-66°-E、第2号礫床木棺墓がN-68°-E、第3号礫床木棺墓がN-68°-Eの東西方向の方位を持って並行し、第4号礫床木棺墓がほぼ直行するN-32°-Wの南北方向の方位を持つ構成となる。礫床面の標高は、最も北側に位置する第1号礫床木棺墓が24.26mと低く、最も南側に位置する第3号礫床も間墓が24.45mを測り、最も高くなっている。調査区は、現況小河川が東流する北側へと緩やかに傾斜しており、標高差は、地形を改変することなく、傾斜に沿って構築された結果と判断される。

周囲には、北側で第11号溝跡、東側で第21号溝跡、南側で第2号溝跡の一部が確認されているが、本礫床木棺墓群に伴うものかは不明である。南北溝間の距離は、内側で約10mを測る。第11号溝跡の方向はN-63°-Eを指し、第21号溝跡はN-18°-Wを指す。礫床木棺墓の軸方向とほぼ合うことが指摘できる（第68図）。

長野県中野市柳沢遺跡6A区礫床木棺墓群では、東西10m、南北10mの範囲に18基の礫床木棺墓が検出されており、南側と北側には、墓群を取り囲むように弧状の周溝が確認されている（第67図：長野県埋蔵文化財センター：2012）。南周溝の規模は、長さ8.5m、幅1.1m～3m、深さ0.1～0.36m、北周溝の規模は、長さ7.3m、幅1.3m～1.8m、深さ0.3mを測り、栗林2式古段階（石川：2002）の土器が出土している。

本遺跡例も、墓群を囲む溝の可能性は否定できないが、出土遺物が無く、調査区の制約もあり、現状では積極的に墓群を取り囲む周溝との判断はしかなる。

**埋葬部の規模** 第1号礫床木棺墓は長軸2.71m、第2号礫床木棺墓が1.31m、第3号礫床木棺墓が1.91m、第4号礫床木棺墓が1.93mを測る。木口ピット最深部間の埋葬部長は、第1号礫床木棺墓が1.78m、第2号礫床木棺墓が1.1m、第3号礫床木棺墓が1.4m、第4号礫床木棺墓が1.65mを測る。規模的には、第1号礫床木棺墓が最も大きく、第3・4号礫床木棺墓が中規模となり、第2号礫床木棺墓が小規模と分類される。人骨が出土していないため、規模の違いが、被葬者の年齢または、埋蔵姿勢によるものかについては判断できない。

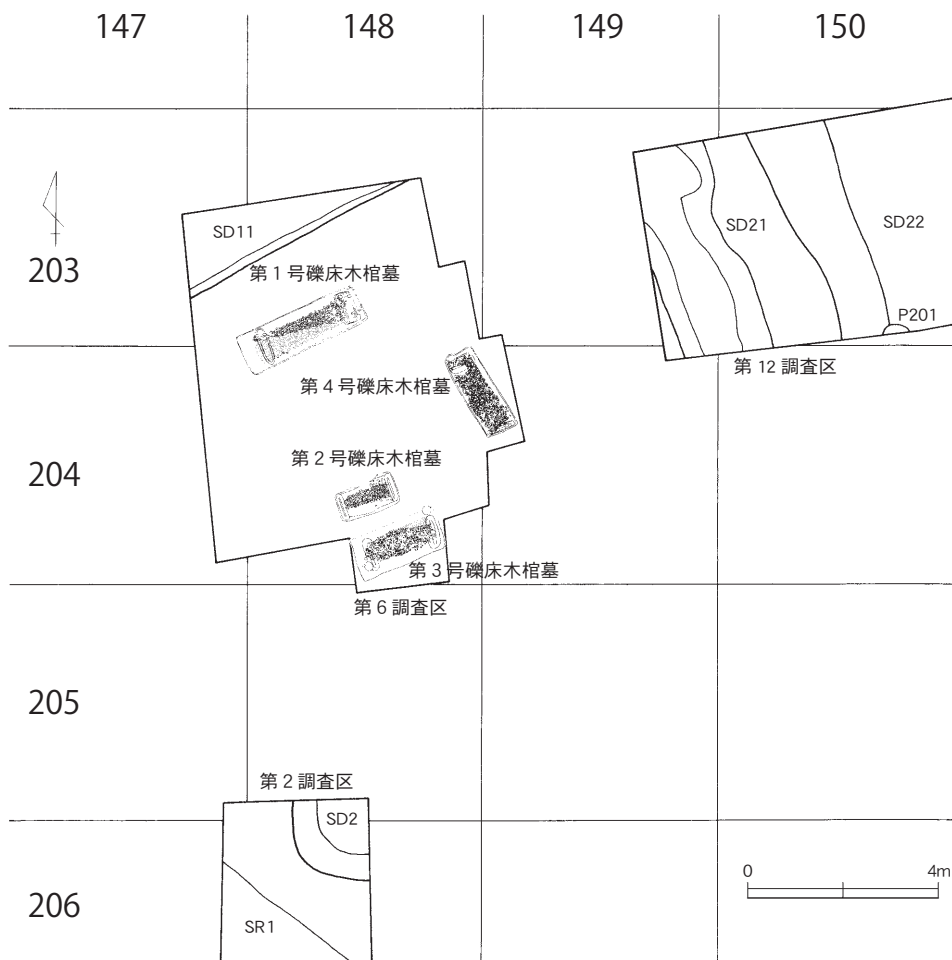
**礫床礫** 第2表は、4基の礫床木棺墓敷石の計測表である。個々の礫に対し、長軸、中軸<sup>(註1)</sup>、短軸<sup>(註2)</sup>、扁平率<sup>(註3)</sup>、粒径<sup>(註4)</sup>値を計測し求めた。

第1号礫床木棺墓の礫床には、総数3,264個の礫が敷かれており、総重量39,000gを量る。石質別にみると、チャート1,229点、砂岩1,584点、その他石材451点となり、割合では、チャート48%、砂岩48.5%を占める。平均軸長は、チャート2.53cm、砂岩2.52cm、平均粒径は、チャート1.76cm、砂岩1.67cmを測る。

第2号礫床木棺墓の礫床には、総数1,471個の礫が敷かれており、総重量8,100gを量る。石質別にみ



第67図 柳沢遺跡 6 A区礫床木棺墓群



第68図 前中西遺跡礫床木棺墓群

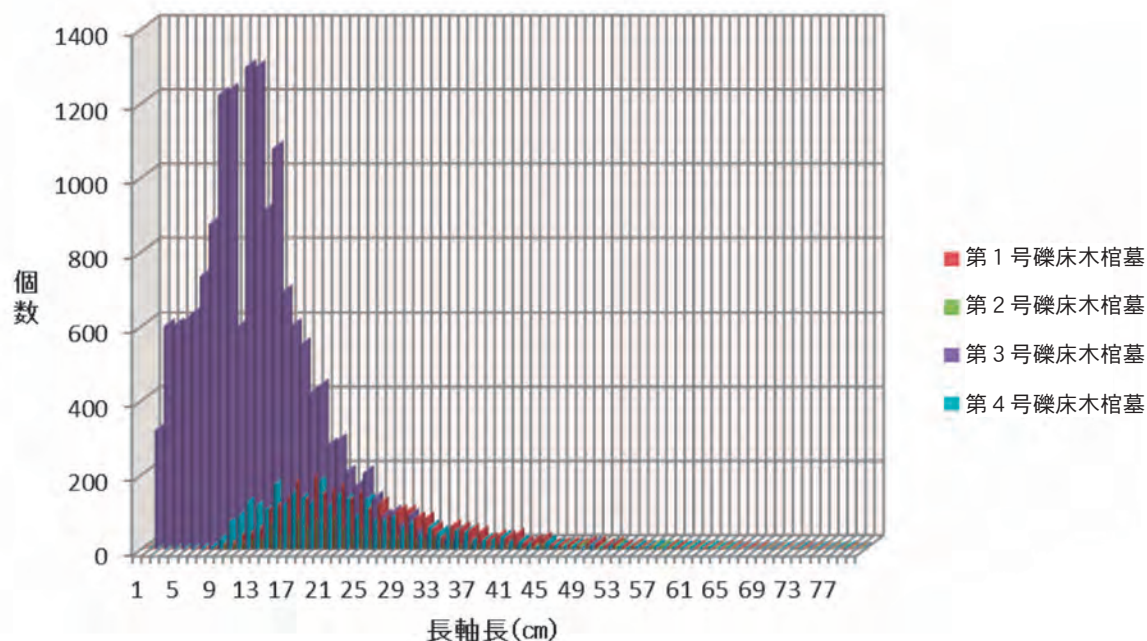
ると、チャート549点、砂岩753点、その他石材169点となり、割合では、チャート37.3%、砂岩51.2%を占める。平均軸長は、チャート2.56cm、砂岩2.70cm、平均粒径は、チャート1.80cm、砂岩1.82cmを測る。

第3号礫床木棺墓の礫床には、総数22,757点の礫が敷かれており、総重量49,940gを量る。石質別にみると、チャート6,116点、砂岩8,099点、その他・不明石材8,542点となり、割合では、チャート26.9%、砂岩35.6%を占める。不明石材は、径5mm以下の礫で石質判断がつかなかったものである。平均軸長は、チャート1.54cm、砂岩1.63cm、平均粒径は、チャート1.10cm、砂岩1.11cmを測る。

第4号礫床木棺墓の礫床には、総数3,393点の礫が敷かれており、総重量45,000gを量る。石質別にみると、チャート1,196点、砂岩1,309点、その他石材888点となり、割合では、チャート35.2%、砂岩

第2表 礫床木棺墓敷石計測表

遺構名	石質	礫数	平均長軸(cm)	平均中軸(cm)	平均短軸(cm)	平均扁平率	平均粒径(cm)	総重量(g)
第1号礫床木棺墓	チャート	1,229	2.53	1.82	1.23	0.74	1.76	39,000
	砂岩	1,584	2.52	1.89	1.77	1.08	1.67	
	その他	451	—	—	—	—	—	
第2号礫床木棺墓	チャート	549	2.56	1.89	1.26	0.76	1.80	8,100
	砂岩	753	2.70	1.92	1.21	0.74	1.82	
	その他	169	—	—	—	—	—	
第3号礫床木棺墓	チャート	6,116	1.54	1.14	0.79	0.76	1.10	49,940
	砂岩	8,099	1.63	1.18	0.74	0.75	1.11	
	その他	8,542	—	—	—	—	—	
第4号礫床木棺墓	チャート	1,196	2.14	1.53	1.04	0.74	1.49	45,000
	砂岩	1,309	2.18	1.55	1.00	0.73	1.48	
	その他	888	—	—	—	—	—	



第69図 礫床木棺墓敷石長軸分布図

38.6%を占める。平均軸長は、チャート2.14cm、砂岩2.18cm、平均粒径は、チャート1.49cm、砂岩1.48cmを測る。

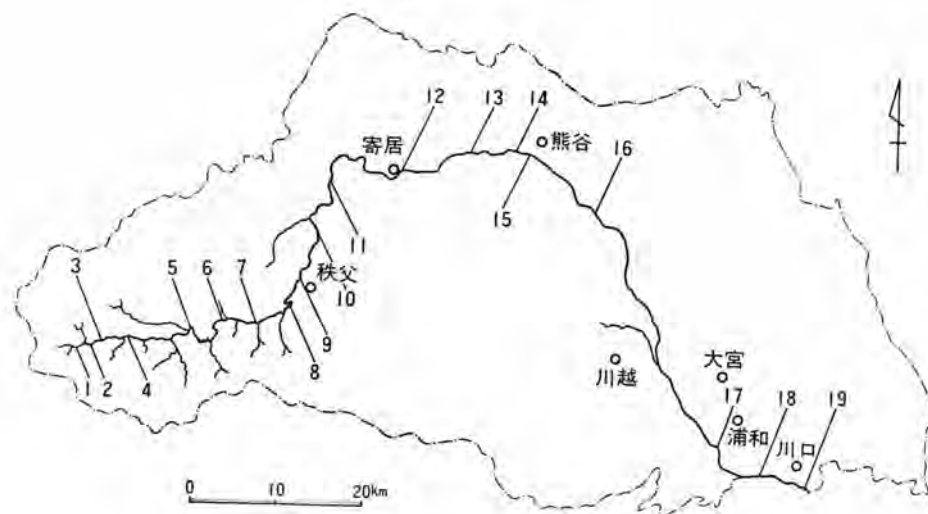
いずれの礫床木棺墓も、使用した礫は砂岩が最も多く、チャートがそれに次ぐ。礫の大きさは、第3号礫床木棺墓が他の礫床木棺墓に比べ平均軸長で1cm程小さく、礫総数・総重量ともに最も多い。第66図に、遺構別に礫の長軸長さ数分布を示した。各遺構の長軸長さ数分布は正規分布を示し、第3号礫床木棺墓礫の長軸分布のピークが1.2~1.3cmにあるのに対し、第1・2・4号礫床木棺墓では、2.0cmに長軸分布のピークがある。

次に、これらの属性から、礫の採取地について、礫質堆積物の分析が進んでいる荒川について、『荒川』（埼玉県：1987）の「荒川本流の堆積物」における分析結果を参考に検討してみたい（第70図：註5）。

前中西遺跡から一番近い調査地点は、Loc.15の熊谷荒川大橋上流800m地点である。本遺跡から直線距離にして2.3kmの距離を測る。この地点での礫質堆積物の平均軸長は、チャート11.6cm、砂岩10.3cm、平均粒径は、チャート7.8cm、砂岩6.4cmを測る。石質構成は、チャート32.9%、砂岩54.3%で、両者で87.2%を占める。荒川下流の、Loc.16鴻巣市県民ゴルフ場対岸は、本遺跡から直線距離にして13.8kmの距離を測る。この地点での礫質堆積物の平均軸長は、チャート4.3cm、砂岩4.3cm、平均粒径は、チャート2.7cm、砂岩2.7cmを測る。石質構成は、チャート39.0%、砂岩58.5%で、両者で97.5%を占める。Loc.16地点では、礫質堆積物の種類がチャート・砂岩以外の礫種は極端に少なくなり、この地点より下流では礫質堆積物がほとんど見られなくなる。

礫床木棺墓で用いられた礫と、遺跡付近の荒川に堆積する礫の計測値を比べると、数値は1/2以下であり、礫床に敷くための小型の礫を選択的に採取したとしても、採取はかなり困難であることが推測される。

第2号礫床木棺墓からは、礫床の礫に混じって、摩耗した弥生時代中期後半の土器小片が出土しており、第1・3・4号礫床木棺墓からも、摩耗の認められる無文の弥生土器小片が出土している。礫採取の際に、礫と伴に採取地より運ばれたものと推測される。遺跡付近の荒川扇状地末端には、湧水地を水



第70図 礫採取位置図（『荒川 自然』1987：武井より）



源とする衣川等の小河川が流れている。扇状地末端を開析する小河川流路には、基盤の砂礫層が露出する地点があり、礫床の礫の採取地は、荒川河川敷ではなく、このような遺跡内を流れる小河川に求められる可能性が高いと推測される。

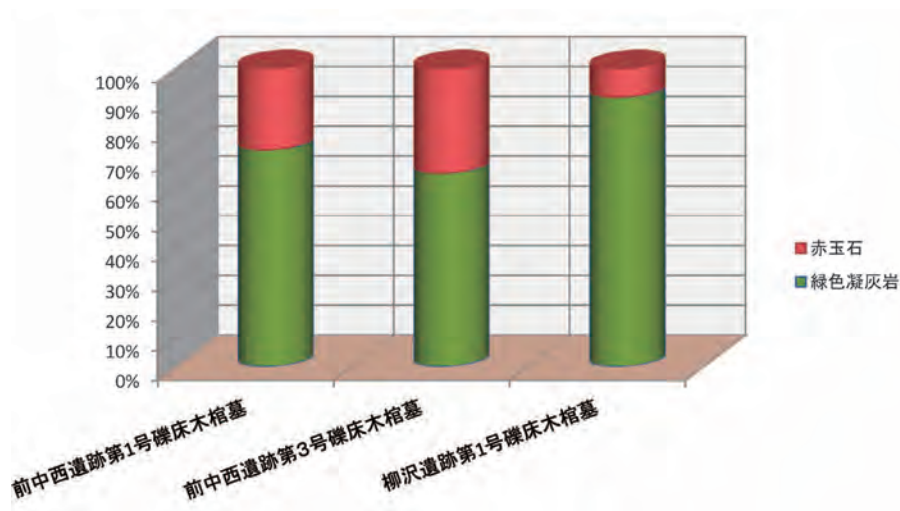
**副葬品** 副葬品は、第1・3号礫床木棺墓より管玉が161点出土している。管玉は、出土位置に偏りがあり、頭～胸にかけての着葬品と判断される。土器の副葬は認められない。

第1号礫床木棺墓：管玉44点：緑色凝灰岩32点、赤玉石12点：出土位置の判明するものは全て礫床東半部より、0.2m×0.18mの範囲でU字状に出土している。垂直分布は、大半が敷礫上部の礫間より出土している。

第3号礫床木棺墓：管玉117点：緑色凝灰岩76点、赤玉石41点：出土位置の判明するものは全て礫床東半部より、主に0.7m×0.25mの範囲で出土している。垂直分布は、大半が敷礫上部の礫間より出土しており、敷礫下部の礫間および敷礫から浮いた状態での出土も確認されている。

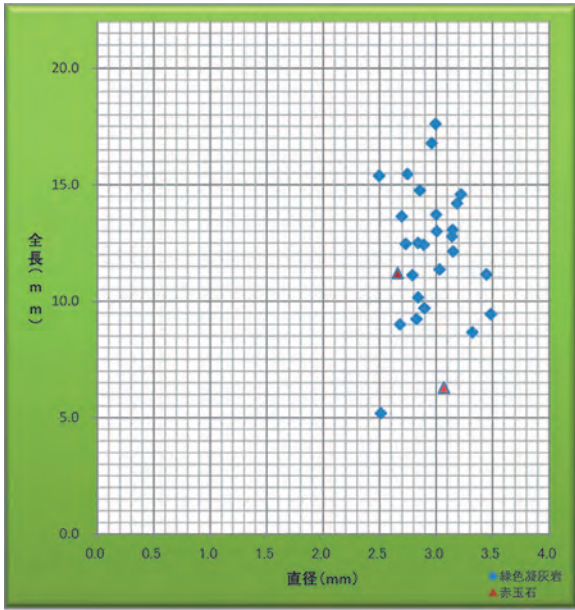
**管玉の石質** 本遺跡の礫床木棺墓から出土した管玉は、総数161点が出土している。第1号礫床木棺墓からは44点出土しており、石質は、緑色凝灰岩32点（73%）、赤玉石12点（27%）となる。第3号礫床木棺墓から117点が出土しており、石質は、緑色凝灰岩76点（65%）、赤玉石41点（35%）となる（第71図）。管玉101点が出土した、長野県中野市柳沢遺跡の第1号礫床木棺墓では、緑色凝灰岩91点（90.1%）、赤玉石10点（9.9%）となっており、本遺跡における赤玉石の構成比が高いことがうかがえる（第71図）。

**管玉の法量** 第1号礫床木棺墓出土管玉の全長・直径の法量分布図を第72図に示した。緑色凝灰岩の法量は、直径2.5mm～3.4mm、全長5.2mm～17.6mmの範囲に分布する。赤玉石の法量は、直径2.7mm～3.1mm、全長6.3mm～11.2mmの範囲に分布する。点数が2点と少ないが、緑色凝灰岩に比べ赤玉石の法量（全長）が小さいことが指摘される。第3号礫床木棺墓出土管玉の全長・直径の法量分布図を第73図に示した。緑色凝灰岩の法量は、直径2.4mm～3.5mm、直径6.3mm～20.6mmの範囲に分布する。赤玉石の法量は、直径2.4mm～3.3mm、全長6.2mm～15.8mmの範囲に分布する。両石材の法量は凝集的で、緑色凝灰岩に比べ、赤玉石の法量（全長）が小さいことが指摘される。

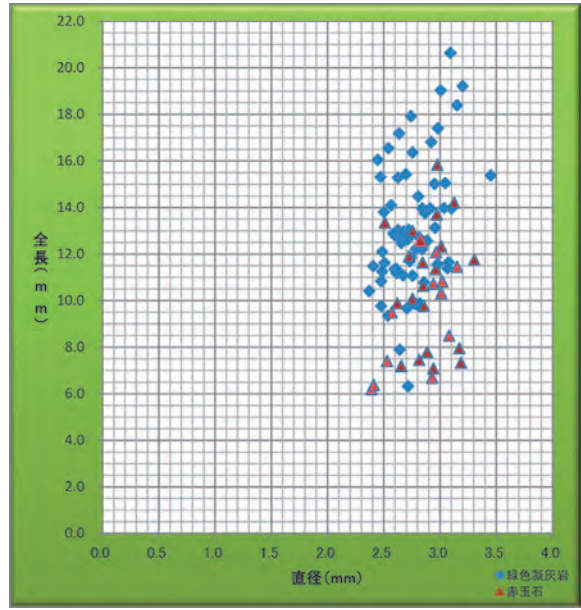


第71図 礫床木棺墓出土管玉石質構成比

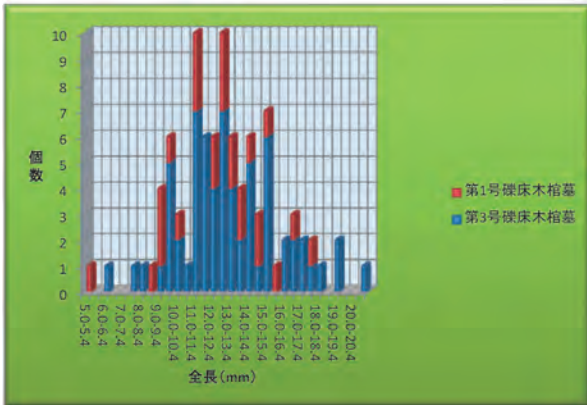




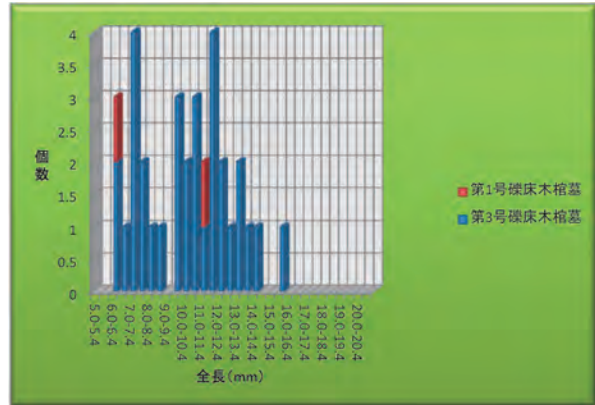
第72図 第1号礫床木棺墓管玉法量分布



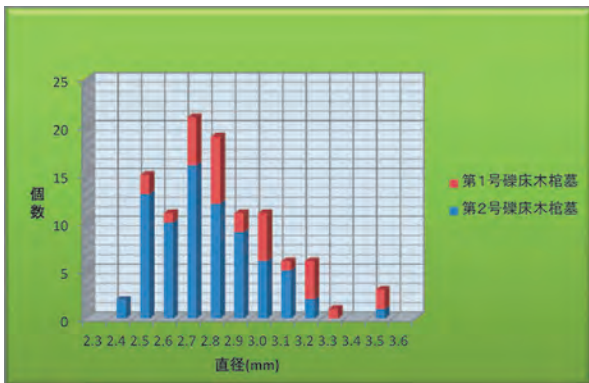
第73図 第3号礫床木棺墓管玉法量分布



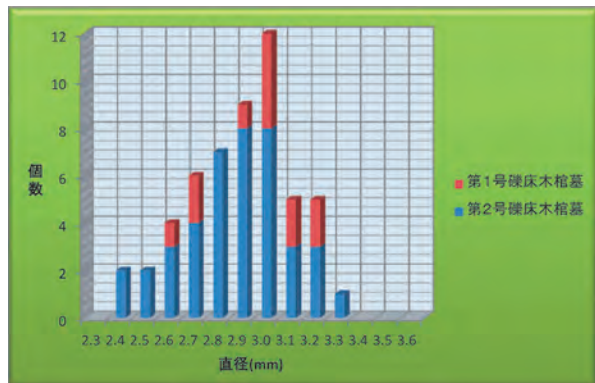
第74図 綠色凝灰岩製管玉全長分布



第75図 赤玉石製管玉全長分布



第76図 綠色凝灰岩製管玉直径分布



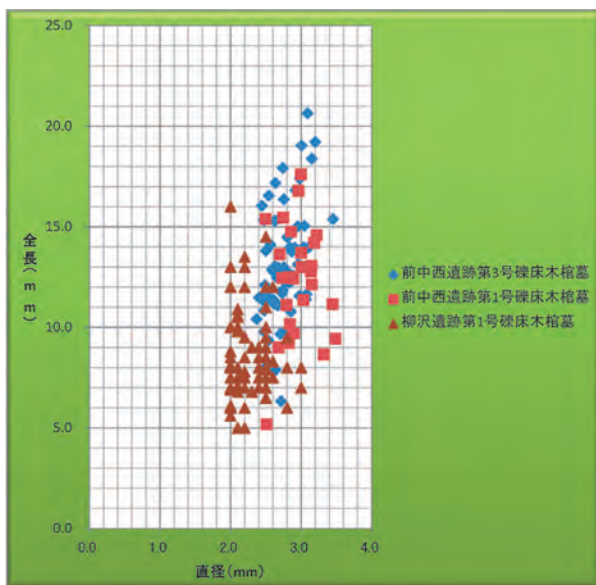
第77図 赤玉石製管玉直径分布

第74～77図に、両遺構の石質別全長・直径の度数分布図を示した。緑色凝灰岩は、全長11.0mm～12.9mm、直径2.7mmに分布のピークがあり、赤玉石は、全長7.0mm～11.9mm、直径3.0mmに分布のピークがある。両石材とも、直径よりも、全長の方が圧倒的に分散の程度が著しいことが認められる。管玉の製作にあたっては、このピークの範囲内の大きさを範型として製作していた可能性が高い。

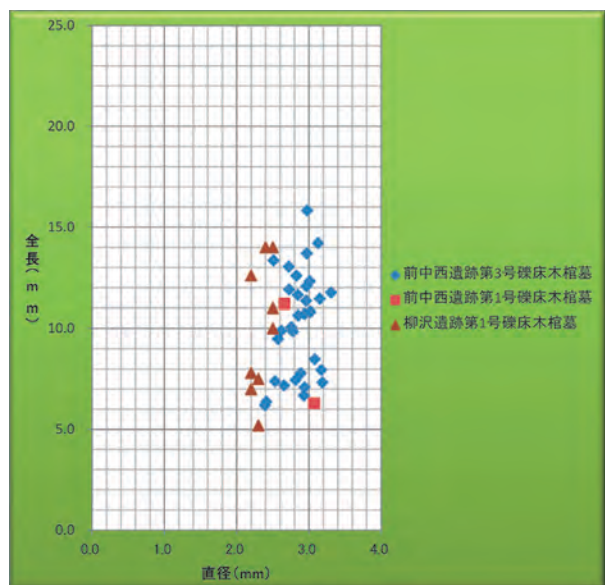
次に、本遺跡出土の管玉と柳沢遺跡第1号礫床木棺墓出土管玉の法量を、石質別に比較したのが第78・79図である。柳沢遺跡出土の緑色凝灰岩製管玉は、全長5.0mm～16.0mm、直径2.0mm～3.0mmの範囲に分布し、赤玉石は、全長5.2mm～14.0mm、直径2.2mm～2.5mmの範囲に分布する。本遺跡出土と比べ、柳沢遺跡出土管玉は、全長・直径とも小型であることが指摘される。管玉の生産地もしくは生産集団毎に法量の違いがあることが指摘されており（大賀：2001、2009、2011）、柳沢遺跡例との違いは、管玉の生産遺跡および入手ルートが異なることを示していると推測される。

**管玉の製作痕** 実体顕微鏡による観察・計測等を行った結果、いくつか管玉の製作にかかる痕跡を確認することができた。

**穿孔形態**：穿孔には両面穿孔（片面主穿孔含）と片面穿孔が認められた。両者の違いは、初孔部と終孔部の径の違い（図版25：1-1、1-3、1-8、1-18、1-20、1-22、図版26：1-26、1-27、1-33、3-1、3-18、図版27：3-20、3-25、3-26、3-36、3-43、3-44、図版28：3-53、3-65）、実体顕微鏡観察・針金触診による孔内の両面穿孔貫通箇所段差の有無確認（図版25：1-6、図版26：3-4、図版27：3-21、3-50、図版28：3-86）、終孔部端面の貫通時に生じたと推測される割れ円錐痕跡（図版27：3-43、3-44）により判断した。片側から先行した場合、初孔部の径が広く、終孔部は狭くなる。初孔部の径が広がるのは、穿孔具の回転ブレによるものであり、逆台形や逆円錐形となる断面形状は、穿孔具の断面形状や径を表すものではないと判断される。石材別にみると、緑色凝灰岩104点中、片面穿孔と判断されたもの59点（56.7%）、両面穿孔と判断されたもの45点（43.3%）。赤玉石47点中、片面穿孔と判断されたものは27点（57.4%）、両面穿孔と判断されたもの20点（42.6%）となっている。両石材とも片面穿孔がやや優位を占めているが、有意な差とは言えない。また、長さによ



第78図 緑色凝灰岩製管玉法量分布



第79図 赤玉石製管玉法量分布

る穿孔方法の違いは認められない。

また、片面主穿孔と判断される両方向穿孔貫通箇所を実体顕微鏡で観察すると、穿孔具の径が太く先端部角度が鈍いこと、穿孔断面形態が鼓形を呈していることが観察され（図版26：3-4、図版27：3-21、図版28：3-86）、穿孔具が鉄製ではなく石製であったことが推測される。

**側面・木口断面形態：**肉眼観察では、ほとんど円柱形に見える管玉であるが、実体顕微鏡で観察すると、5～9角形状の稜が確認される個体がある。これは、立方体状の石材から、施溝分割法により管玉1個体分の大きさに相当するまで分割を行った後、側面の稜を研磨して角柱から円柱状に形態を整えた痕跡と判断される。管玉製作のB技法とされる製作方法で、弥生時代中期中葉に確立された製作技法である。木口面の観察では、不正形な5角形（図版26：1-33）、8角形（図版25：1-22、図版28：3-64）、9角形（図版25：1-4）が観察でき、木口面では明瞭に観察できない場合でも、側面に光を当てると、ほとんどの個体で稜の存在が確認でき、稜が確認できない個体は少ない（図版28：3-77、図版29：3-108）。

また、側面に細かい斜位方向の擦痕が観察される個体がある（図版25：1-8、図版28：3-64、図版29：3-99）。施溝分割後に研磨を行った痕跡と判断される。

**時期** 本礫床木棺墓群の時期を直接示す土器は出土していない。第2号礫床木棺墓から、礫床の礫に混じって弥生時代中期後半に属する1点の土器小片が出土している。若干の摩耗が認められることから、礫の採取地から礫と伴に持ち込まれたものと推測される。時期的には、この土器の廃棄された時よりあまり離れない時期に本遺構の構築時期を求めると判断される。管玉の穿孔も、実体顕微鏡観察により、石製の石針が使用されたことが推測されることから、中期後半から末にかけての時期に構築された墓域と推測される。

（註1） 中軸＝長軸方向に直行する最大軸長

（註2） 厚みの最大部径

（註3） 中軸値を長軸値で除した礫の円形度

（註4） 長軸値×中軸値×短軸値の3乗根

（註5） 荒川上流から中流域にかけて、16地点（Loc.1～16）で礫を任意採取し、石質・球形度・粒径・長径等について分析を加えている。

Loc.1－赤沢谷入川合流点上流200m

Loc.2－赤沢谷入川合流地点下流150m

Loc.3－矢竹沢入川合流点

Loc.4－川又・滝川入川合流点下流250m

Loc.5－落合・中津川合流点下流50m

Loc.6－三峰口・白川橋下流500m

Loc.7－日野・安谷川合流点上流400m

Loc.8－影森・巴川橋上流500m

Loc.9－寺尾・秩父セメント工場対岸

Loc.10－予柱・皆野橋上流400m

Loc.11－長瀬・白鳥島下流350m

Loc.12－寄居町立ヶ瀬・玉淀大橋下流500m

Loc.13－深谷市植松橋下流200m

Loc.14－熊谷市押切・熊谷大橋上流450m

Loc.15－熊谷市荒川大橋上流800m

Loc.16－鴻巣市県民ゴルフ場対岸



## 2 熊谷市前中西遺跡（第13調査区）出土柱材の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

埼玉県熊谷市前中西遺跡は、新荒川扇状地の扇端部付近に立地しており、これまでの発掘調査により弥生時代～古代にかけての複合遺跡であることが確認されている。今回の第13調査区の発掘調査では、古墳時代の溝や、掘立柱建物跡等が検出されている。

今回の分析調査では、古墳時代後期に属するとされる、掘立柱建物跡のピット内に残存していた柱材について、利用樹種を明らかにするために樹種同定を実施する。

### 1. 試料

同定試料は、掘立柱建物跡を構成するピットに残存していた柱材1点である。柱材は、底部の直径が約25～30cm、長さ約100cmの芯持丸木で、底面は幅5～6cmの金属工具によると思われる加工痕で構成される。

### 2. 分析方法

試料の採取は弊社技師1名が貴社に伺い、柱材の破損部から木片を採取した。剃刀を用いて、木片から木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本と比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やRichter他（2006）を参考にする。

### 3. 結果

柱材は、針葉樹のヒノキに同定された。解剖学的特徴等を記す。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

### 4. 考察

古墳時代後期とされる掘立柱建物跡ピット内から出土した柱材は、針葉樹のヒノキに同定された。ヒノキは、木理が通直で割裂性・耐水性・防虫性が高く、加工は容易である。柱材は、ピット内に据えて、周囲を土で固めることから、腐りにくい木材を使う必要があり、そうした状況から耐水性・防虫性が高く、比較的腐りにくいヒノキを利用したことが推定される。

ヒノキは、山地・丘陵地の尾根筋等に生育する。現在の埼玉県では、秩父山地等に自生し、本遺跡周

辺には自生していないが、植栽木も多く、本来の分布は不明な点が多い。本遺跡に近い小敷田遺跡では、古墳時代前期の木製品にヒノキが利用されており、弥生時代中期と古墳時代前期の自然木でもヒノキが確認されている（伊東・山田，2012）。この調査結果から、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて、新荒川扇状地上などにヒノキが生育し、そのような植生が古墳時代後期まで継続していた可能性がある。今回調査対象とした柱材に利用されたヒノキが、周辺地域に生育していたのか、比較的遠隔地域から搬入されたのかについては、今後花粉分析等により推定された古植生変遷等を含めて検討することが望まれる。

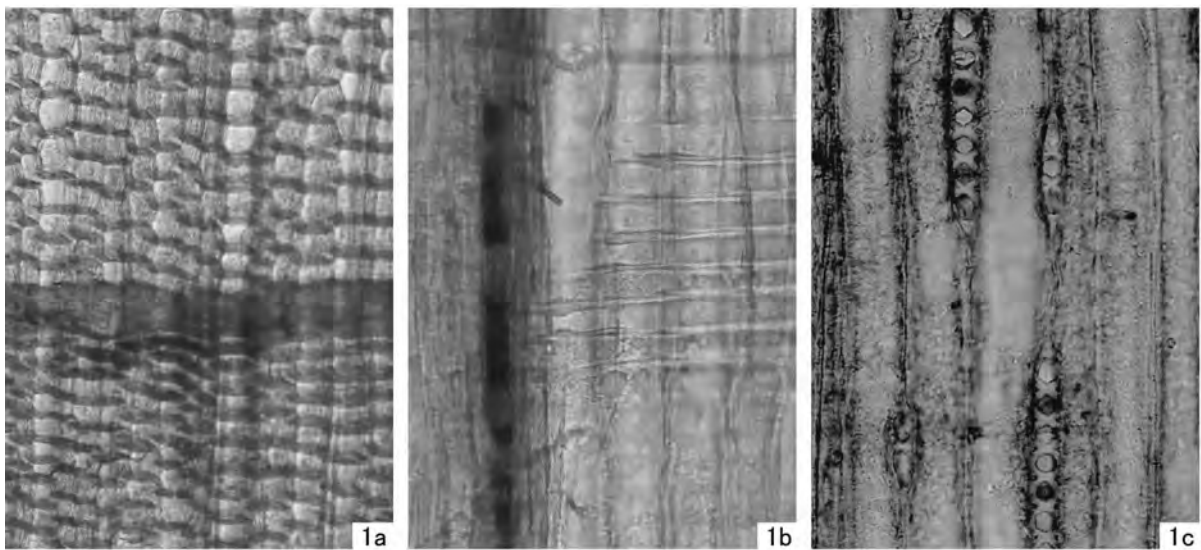
## 引用文献

伊東 隆夫・山田 昌久(編)，2012，木の考古学 出土木製品用材データベース．海青社，449p.

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.(編)，2006，針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡の特徴リスト．伊東 隆夫・藤井 智之・佐野 雄三・安部 久・内海 泰弘（日本語版監修），海青社，70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

島地 謙・伊東 隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.

## 図版1 木材



1.ヒノキ(柱材)

a:木口, b:柱目, c:板目

100  $\mu$  m:a

100  $\mu$  m:b,c

### 3 熊谷市前中西遺跡の管玉の分析結果について

#### はじめに

埼玉県熊谷市前中西遺跡から出土した管玉について、産地を考察するために、当該岩石についてX線回折で結晶構造を調べ、当該岩石に含まれている鉱物を同定した。

#### 1 資料

##### 1.1 被験試料

被験試料は埼玉県熊谷市前中西遺跡から出土した管玉である。

今回分析した資料は3点である。

#### 2 分析操作

##### 2.1 機器の設定

X線回折装置は、理学電気製 RINT2100ultima+/pc を使用し、分析時には集中法光学系から平行ビーム法の光学系に設定を変更した。

集中法の光学系による測定では、加圧した試料の平面性と位置が重要であるが、平行ビーム法光学系では、集中法光学系に比べれば許容範囲は広い。また試料の持っている面そのままが測定対象となるので、面の選択は可能であるが、研磨などによる表面状態の調整はしていない。従って試料の状況により、同一の材質であっても回折線の強度は異なる。

また、微細な結晶が無秩序な方向性で多量に含まれる岩石では、比較的良好な回折線が得られるが、変成作用や続性作用によって結晶が配向したような岩石を対象とした場合、あるいは比較的大きな少数の単結晶が測定面に存在していた場合には、非破壊での平行ビーム法光学系では、特定の回折線が強調されたり、表れにくかったりする場合がある。

具体的な装置の設定条件を第3表に示した。

第3表 X線回折装置の設定

ターゲット：Cu	モノクロ受光スリット：なし
管電圧：40kV	走査モード：連続
管電流：40mA	サンプリング幅：0.02°
カウンタモノクロメータ：固定	走査範囲：3～90/°
カウンタ：シンチレーションカウンタ	積算回数：1回
発散スリット：0.5mm	スキャンスピード：4°/min
発散縦制限スリット：10mm	走査軸 $2\theta/\theta^\circ$
散乱スリット：解放	$\theta$ オフセット：なし
受光スリット：解放	光学系：平行ビーム法



## 2.2 回折結果の解析

X線回折の結果は、回折角度毎のX線強度として得られるが、これの解析にあたっては、通常は判別の為の専用ソフトがデータベースとの照合を行い、候補となった物質名を画面に羅列する。ただし、専用ソフトが示してきた各鉱物名候補について、データベースに登録されている回折線の位置と強度を測定値と比較して、実際に候補の中から同定を行うのはオペレータである。この時に粉末法の場合には原則として無定位試料なので、ピークの強度自体も判別のための情報になり得るが、考古遺物を非破壊で分析する際の平行ビーム法では、通常は配向した試料をそのままのかたちで取り扱うために、各ピーク毎の回折線の強度は、結晶の配向の仕方に左右されてしまい、データベースに登録された標準的な強度を示さないことが多い。従って、いくつかの弱い回折線がバックグラウンドのノイズに埋もれてしまい、一部の回折線しか検出できない場合もある。そのような場合には、本来的には何回か試料の位置を変えて測定し、他の回折線を確認するか、あるいは試料を回転させて測定する事が望ましい。

なお、ほとんどの鉱物は固溶体を形成するが、X線回折によって得られた回折角度は、結晶中の原子間の距離を反映しているため、固溶体組成の違いは、回折角度の微妙な違いとなって現れてくる。データベースに登録されている固溶体の数はさほど多くはないが、それに対して実際に岩石中に存在している鉱物の固溶体組成は多様である。したがって、照合結果として提示したデータベースに記載されている固溶体組成は、必ずしも試料の固溶体組成を正確には反映していない。

なお、判別のためのソフトはJADE6.0を、回折線のデータベースはICDD-PDF DataSets 1-51 plus 70-89 Release 2001を利用した。

## 3 結果

### 3.1 試料分析結果

遺物から得たプロファイルを第80～82図に示した。

第80図は、3号礫床墓No.3の試料で赤色の管玉である。ほぼ純粋なquartzが成分であり、赤色の玉随（碧玉：いわゆる赤玉石）である。

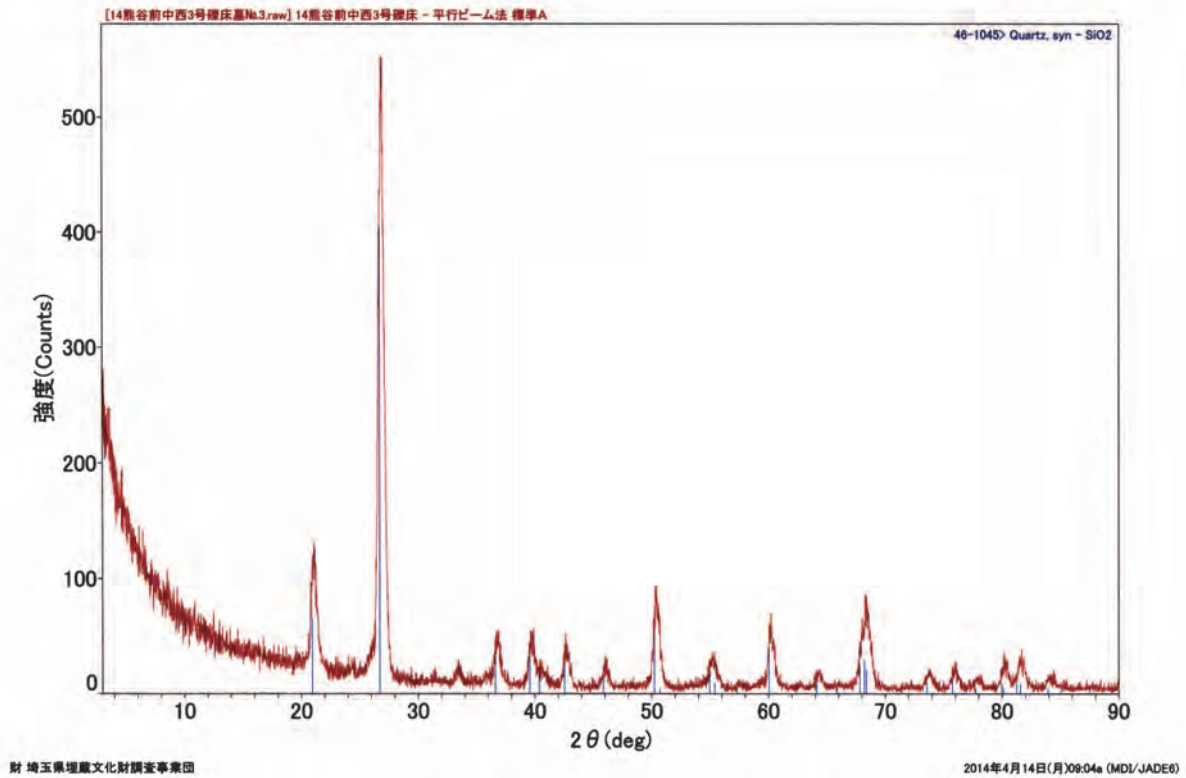
第81図は、3号礫床墓No.4の試料で灰緑色の管玉である。quartzが主成分であるが、それ以外の鉱物種に由来するピークも認められる。緑色凝灰岩と考えられる。

第82図は、3号礫床墓No.50の試料でオリーブ緑色の管玉である。quartzが主成分であるが、それ以外の鉱物種に由来するピークも認められる。緑色凝灰岩と考えられる。

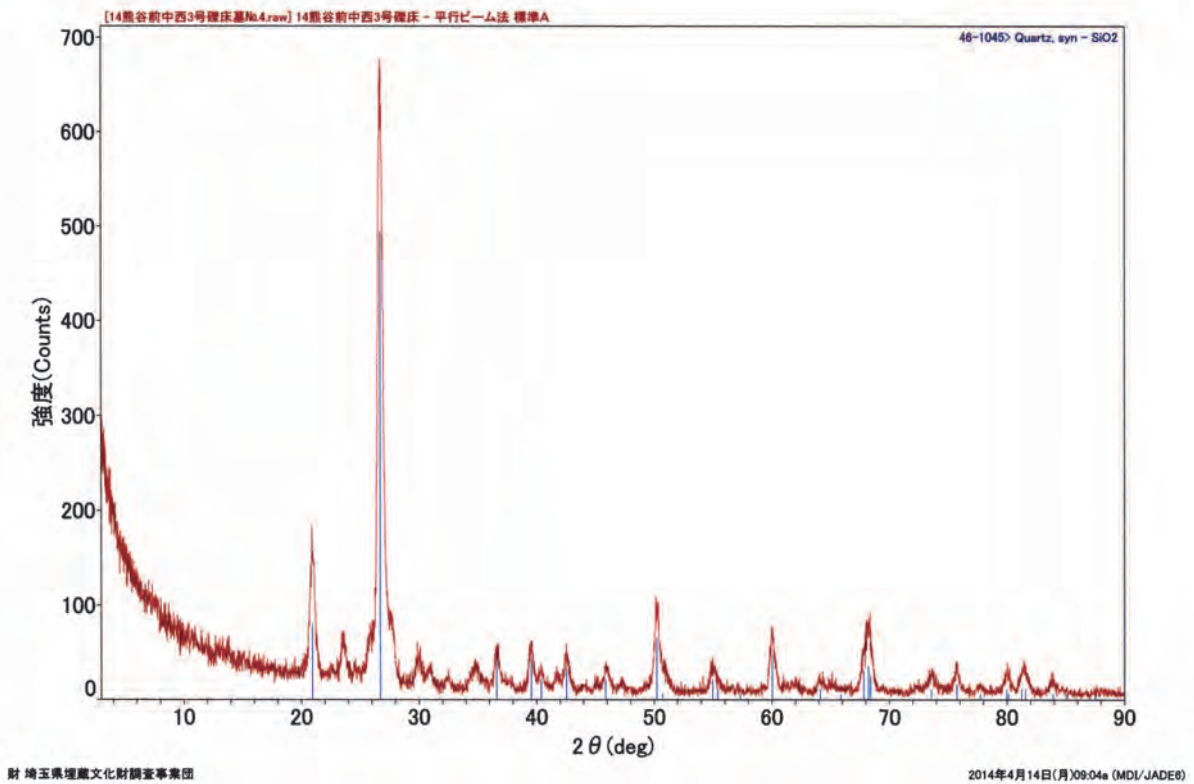
No.4とNo.50は、色調は異なるが、quartzを主成分とし、それ以外の鉱物種に由来すると考えられる同一のピークが含まれている点で類似しており、同一の産地の可能性がある。

この同一のピークは、sanidine（玻璃長石）に類似しており、佐渡や加賀の原石にも類似したピークが認められる。この点については、今後、詳細な分析が必要である。

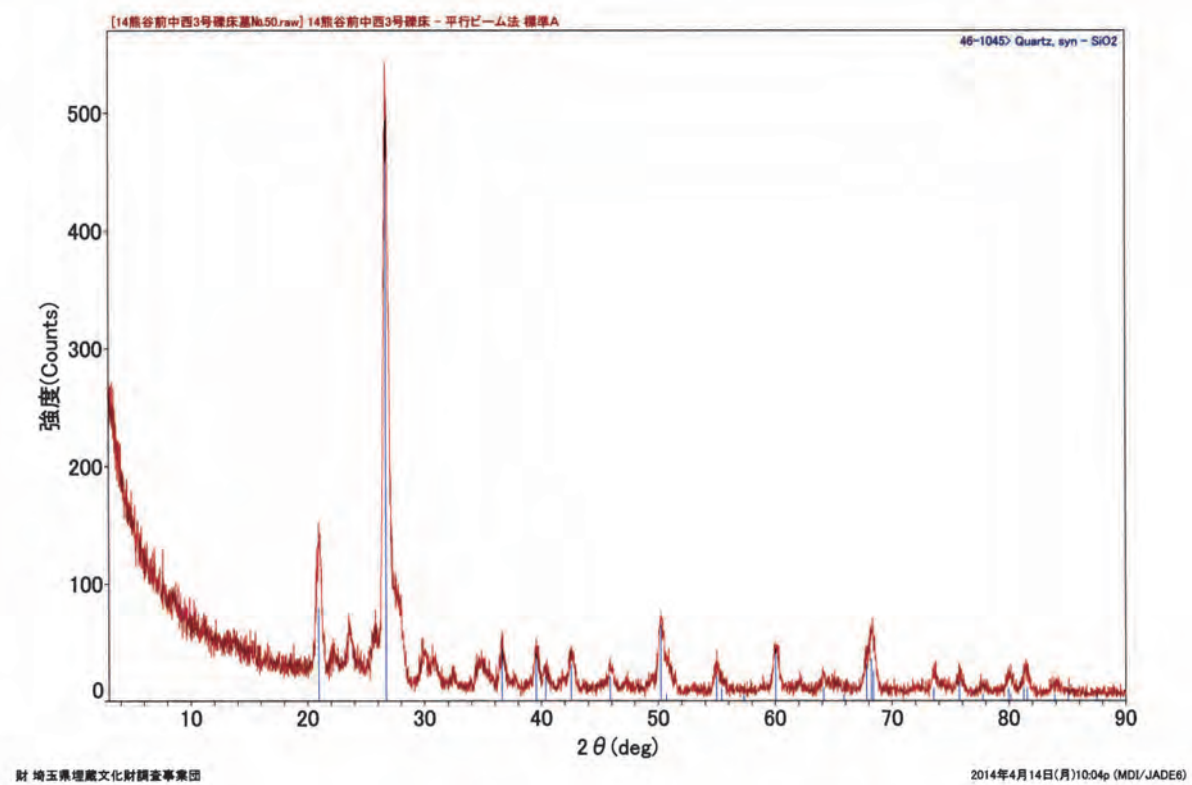
遺物の時期を考えると、佐渡や北陸から搬入された可能性が想定できるが、今回の分析からは明確に断定できなかった。



第80図 第3号礫床木棺墓出土管玉No. 3 平行ビーム法標準 A



第81図 第3号礫床木棺墓出土管玉No. 4 平行ビーム法標準 A



第82図 第3号礫床木棺墓出土管玉No.50平行ビーム法標準A

## VI ま と め

本遺跡は、1996年からの調査により、弥生時代中期中葉から後期前半にかけて継続的に営まれた、総面積約30haの関東屈指の大規模集落であることが確認されている。2013年には、関東弥生文化研究会により『埼玉県熊谷市前中西遺跡の研究－弥生時代の大規模集落－』と題するシンポジウムが開催され、本遺跡が、埼玉領域北部の在地的伝統と、長野県北信・中信地域や南関東に由来する外来系文化要素をあわせもった遺跡であることが指摘されている（関東弥生文化研究会：2013）。

第83図に、本遺跡における弥生時代の遺構分布図を示した。本遺跡における弥生時代の土地利用は、現況河川の衣川を主な境界線として、北側に集落、南側に方形周溝墓による墓域が広がっている。水田跡については現在まで確認されていない。

集落は、中期中葉から後期前半まで継続し、未報告分も含めて80軒程の住居跡が確認されており、遺跡範囲北東の衣川北側に遺構・遺物が突出して検出されている箇所があり、本遺跡集落の中心部であったことが確認されている。

墓制は、方形周溝墓・土器棺墓・木棺墓がこれまで確認されている。方形周溝墓は、弥生時代中期後半が遺跡範囲の西側の衣川南、中央付近は、南側を流れる現況河川南、東側は両河川に挟まれた箇所の3箇所を確認されている。中期末から後期初頭にかけての段階には、遺跡北東部の衣川北側の中期後半の集落域が、新たに墓域として利用されたことが確認されている。乳幼児用の墓と推測される土器棺墓は、集落内外で確認されており、方形周溝墓とは分布域を異にしている。

今回の調査地点は、前中西遺跡範囲南西端の現況河川南側に位置し、特筆される成果として、弥生時代中期後半に属する方形周溝墓と礫床木棺墓からなる墓域が新たに確認されたことが挙げられる。

礫床木棺墓は、これまで市内では、1991年に荒川右岸に位置する船木遺跡において、大里村南部遺跡群調査会によって1基が調査されていたが、副葬品は無く、古墳時代前期の方形周溝墓に切られて検出されていることから、時期的には古墳時代前期以前としか判断できなかった（出縄・富沢：1992）。

この礫床木棺墓は、長野県の北信・中信地域を中心に北陸から前中西遺跡を含む北関東までを分布範囲とする栗林式土器文化圏における重要な墓制と考えられている（広田：2013）。

本遺跡周辺の荒川新扇状地と妻沼低地における弥生時代の墓制は、これまでの調査で、初期段階となる前期末から中期中葉が再葬墓、本格的な農耕集落が出現する中期中葉になり四隅土橋形の方形周溝墓が出現し、南関東に由来する墓制が定着している。本遺跡では、中期後半に乳幼児用の土器棺墓が確認されている。土器棺墓は、7基確認されているが、そのうちの2基に栗林式系土器が用いられているが、系統の違いによる分布の差は認められていない。後期は遺跡の立地が低地から台地・丘陵部に集落の主体が移るが、本遺跡で、方形周溝墓、土器棺墓、木棺墓が検出されている。

本遺跡の弥生土器は、集落の始まる中期中葉は、甕に栗林式系土器が一定量含まれるものの、壺・甕ともに在り系土器が主体を占めている。その後、中期中葉から後半にかけて、甕は栗林式系土器が在り系土器を上回るようになり、中期末には壺・甕ともに栗林系土器が主体となる。

このように、中期中葉から中期末にかけて、栗林式系土器の存在比が次第に高くなる現象の中、礫床木棺墓という新しい墓制も、長野県の北信・中信地域からもたらされたものと思われる。

礫床木棺墓の関東地方での分布は、管見に触れたところによると、群馬県渋川市長谷津遺跡（財・群馬県埋蔵文化財調査事業団：2012）・田中遺跡（渋川市教育委員会：1999）・空沢遺跡（渋川市教育委員会：1980）・中村遺跡（渋川市教育委員会：1986）・有馬遺跡（財・群馬県埋蔵文化財調査事業団：1990）・有馬条里遺跡（財・群馬県埋蔵文化財調査事業団：1989）、高崎市新保田中村前遺跡（財・群馬県埋蔵文化財調査事業団：1993）・少林山台遺跡（財・群馬県埋蔵文化財調査事業団：1993）の8遺跡で検出されている。

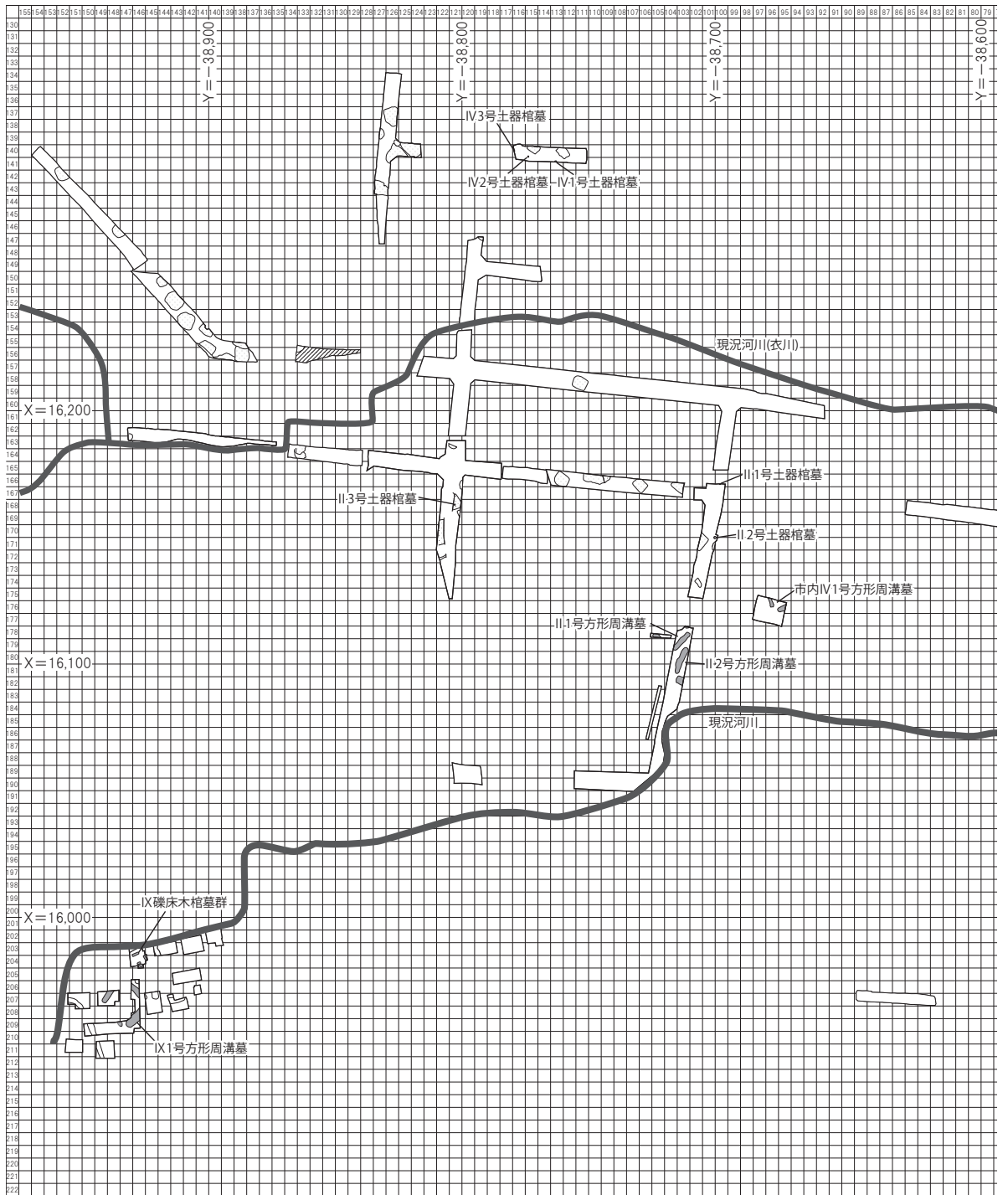
しかし、これらの礫床木棺墓は弥生時代後期に属するものであり、中期に属するものは検出されておらず、今回、栗林式土器文化圏において、長野県以外で初めて礫床木棺墓が確認されたこととなった。群馬県北西部は、北信・中信地域から北関東への進出ルート上に位置する地域であり、今後栗林式土器文化圏に属する中期の礫床木棺墓が検出される可能性も考えられる。

前中西遺跡礫床木棺墓出土の管玉と、長野県中野市柳沢遺跡礫床木棺墓出土の管玉の法量等の属性について検討した結果、両者は異なる管玉の生産遺跡から入手した可能性が高いことが指摘される。

前中西遺跡の礫床木棺墓群は、特に第3号礫床木棺墓出土の管玉数は117点を数え、長野県内最多の管玉が出土した柳沢遺跡6A区第1号礫床木棺墓出土数101点よりも検出数では上回っている。この柳沢遺跡第6A区礫床木棺墓群は18基の礫床木棺墓により構成され、周溝を有している。柳沢遺跡6A区第1号礫床木棺墓と他の墓との間には規模と副葬品の出土量に明確な格差が存在している。

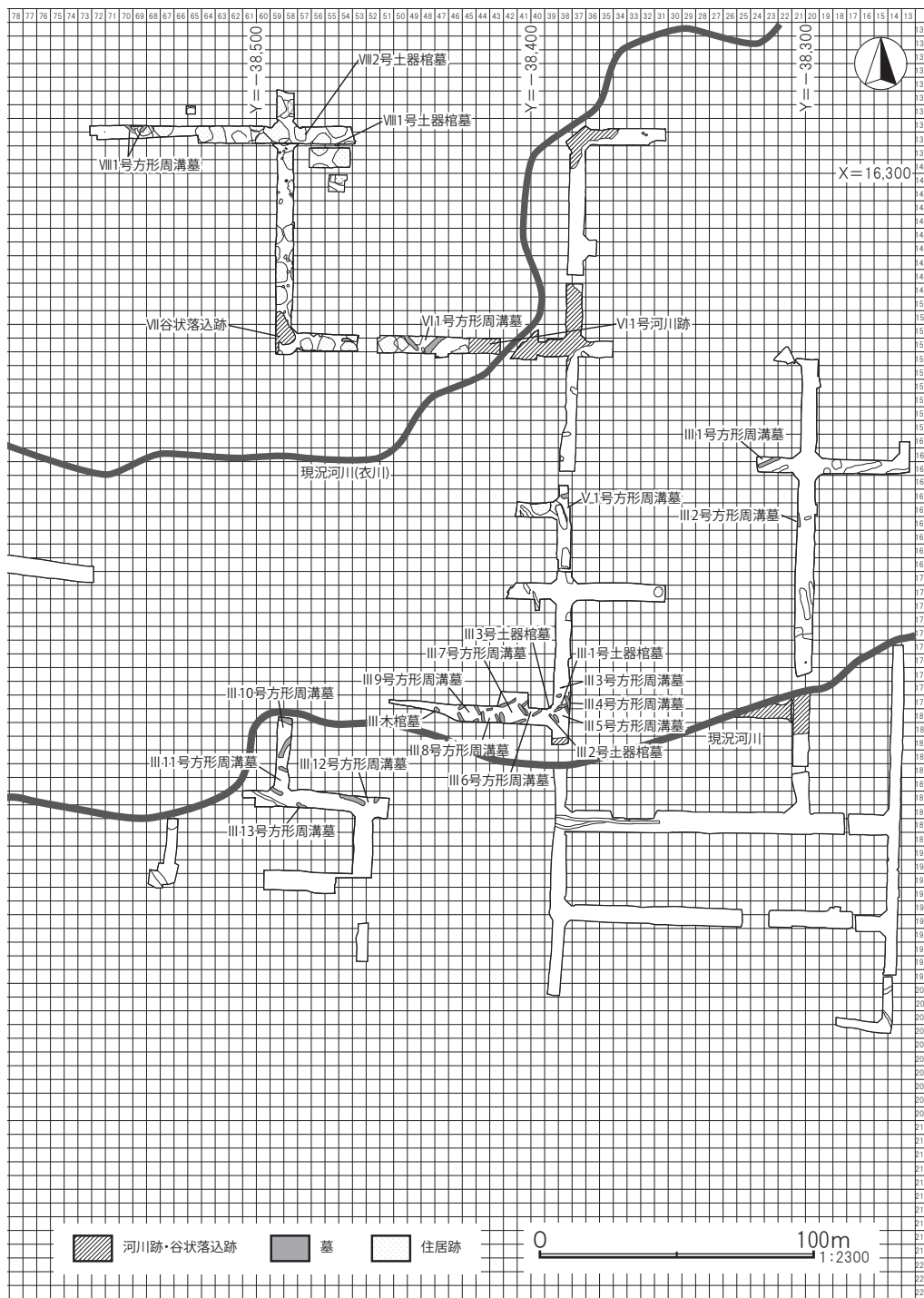
本遺跡の礫床木棺墓群も、周囲には同時期と積極的に判断できないが溝が3方向で確認されており、4基の墓の構造はほぼ同じであるが、副葬品の出土量に明確な格差が存在しており、墓群内の集団に何らかの階層性差が存在していたことが推測される。

先に記したように、本遺跡周辺の弥生時代中期後半の遺跡は、在地系の土器型式を保持しながらも、中期末になると外来系土器型式である栗林式系土器に置き換わる。今後、このような外来系文化の受容という大きな文化的画期の中における一つの重要な要素として、礫床木棺墓という新しい墓制の受容を位置づけていかなければならないと考える。また、近接して確認されている方形周溝墓の被葬者の出自、集落内での階層的位置づけ等の関連性の検討についても、今後の課題である。



第83図 前中西遺跡弥生





時代遺構分布図

## 引用・参考文献

- 石川県富来町教育員委員会 1994年『山王丸山遺跡』
- 出縄康行・富沢一明 1992年「大里村船木遺跡の調査」『第25回遺跡発掘調査報告会 発表要旨』 埼玉考古学会
- 大賀克彦 2001年「弥生時代における管玉の流通」『考古学雑誌』第86巻 第4号 日本考古学会
- 大賀克彦 2009年「山陰系玉類の基礎研究」『出雲玉作の特質に関する研究－古代出雲における玉作の研究Ⅲ－』 島根県古代文化センター 島根県埋蔵文化財調査センター
- 大賀克彦 2011年「弥生時代における玉類の生産と流通」『弥生時代（上）』講座日本の考古学5 青木書店
- 関東弥生文化研究会 2013年『シンポジウム 熊谷市前中西遺跡を語る 弥生時代の大規模集落 発表要旨 資料集』
- 熊谷市遺跡調査会 1977年『横塚山古墳』－墳丘裾部の調査－
- 熊谷市遺跡調査会 2001年『諏訪木遺跡』
- 熊谷市教育委員会 1979年『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』 昭和52年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 1981年『鎧塚古墳』 昭和55年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 1983年『めづか』
- 熊谷市教育委員会 1999年『横間栗遺跡』 平成10年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 2000年『寺東遺跡・別府氏館跡』 平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 2002年『前中西遺跡Ⅱ』 平成13年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 2003年『前中西遺跡Ⅲ』 平成14年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 2004年『籠原裏遺跡』 平成15年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 熊谷市教育委員会 2008年『藤之宮遺跡』 熊谷市埋蔵文化財調査報告書第1集
- 熊谷市教育委員会 2009年『前中西遺跡Ⅳ』 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第3集
- 熊谷市教育委員会 2010年『前中西遺跡Ⅴ』 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第7集
- 熊谷市教育委員会 2011年『前中西遺跡Ⅵ』 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 熊谷市教育委員会 2012年『前中西遺跡Ⅶ』 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第12集
- 熊谷市教育委員会 2013年『前中西遺跡 西別府館跡 王子西遺跡 立野遺跡』 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第14集
- 熊谷市教育委員会 2013年『前中西遺跡Ⅷ』 埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第16集
- 熊谷市前中西遺跡調査会 1999年『前中西遺跡』
- 埼玉県 1987年『荒川 自然』自然 荒川総合調査報告書1
- 埼玉県教育委員会 1984年『池森・池上』一般国道125号線埋蔵文化財発掘調査報告書
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1898年『有馬条里遺跡Ⅰ』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第97集
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990年『有馬遺跡Ⅱ 弥生・古墳時代編』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第102集
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993年『新保田中村前遺跡Ⅲ』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第151集
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993年『少林山台遺跡－後期弥生時代集落・群集墳の調査－』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第153集
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012年『長谷津遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第541集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991年『小敷田遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1993年『上敷免遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002年『池上／諏訪木』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第283集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2003年『北島遺跡Ⅵ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2004年『北島遺跡Ⅶ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第291集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2005年『北島遺跡Ⅹ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第302集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2005年『飯塚北遺跡Ⅰ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第306集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2007年『諏訪木遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第336集
- 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2008年『諏訪木遺跡Ⅲ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第351集
- 財団法人文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター 2012年『中野市柳沢遺跡』 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第100集

- 柴田 徹 2013年「岩石学から見た玉髓・碧玉」『シンポジウム「富山の石材と玉髓・碧玉」予稿集』石器石材のつどい第2回 公益財団法人 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 渋川市教育委員会 1980年『空沢遺跡第2次・諏訪ノ木遺跡発掘調査概要』渋川市発掘調査報告書第4集
- 渋川市教育委員会 1986年『中村遺跡 関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書』渋川市発掘調査報告書第11集
- 渋川市教育委員会 1999年『久宮間戸遺跡・薬師遺跡・寺畑遺跡・田中遺跡』渋川市発掘調査報告書第67集
- 新潟県教育委員会 2000年『県営ほ場整備事業関連発掘調査報告書 平田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第98集
- 比企団体研究グループ 1991年「比企丘陵および岩殿丘陵の構造発達概観」『地団研専報』38号
- 広田和穂 2013年「造墓と階層の理解－長野県における事例から－」『研究発表資料集 文化の十字路 信州』日本考古学協会2013年度長野大会実行委員会
- 深谷市教育委員会 1988年『東方城跡』深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集
- 松田 哲 2013「熊谷市前中西遺跡の調査」『シンポジウム 熊谷市前中西遺跡を語る－弥生時代の大規模集落－』関東弥生文化研究会 埼玉弥生土器観会
- 妻沼町 1977年『妻沼町誌』妻沼町教育委員会
- 妻沼町教育委員会 1981年『妻沼西南遺跡群Ⅰ－道ヶ谷戸条里・道ヶ谷戸・飯塚南－』妻沼町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 妻沼町教育委員会 2004年『飯塚南遺跡』
- 吉田 稔 2003年「北島式の提唱」『埼玉考古学会シンポジウム 北島式とその時代－弥生時代の新展開－』埼玉考古別冊7 埼玉考古学会

第4表 掘立柱計測表

遺構	番号	調査区	グリッド	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
SB 1	1	1区	141-205	楕円形	44	38	47	
SB 1	2		141-205	楕円形	62	46	37	
SB 1	3		142-205	楕円形	48	32	28	
SB 1	4		142-205	円形	48	48	53	SK 1 と重複
SB 1	5		142-205	不整形	32	30	34	SI 1 と重複
SB 1	6		142-205・206	不整形	30	(20)	18	SI 1・P 1 と重複
SB 2	1	5区	145-207	楕円形	62	56	48	SI 4 と重複
SB 2	2		145-207	楕円形	72	56	60	
SB 2	3		145-207	楕円形	64	48	64	
SB 2	4		145-207	楕円形	60	52	50	SI 4・SR 1 と重複
SB 3	1	7区	142-206	不整形	(60)	(57)	51	SD12と重複
SB 3	2		141-206	楕円形	66	(52)	66	
SB 3	3		141-206	円形	56	54	40	SD12と重複
SB 3	4		141・142-206	不整形	81	68	22	
SB 4	1	8区	140・141-202	楕円形	(88)	83	77	SI 5 と重複
SB 4	2		140-202	楕円形	84	65	62	SI 5 と重複
SB 4	3		140-201・202	円形	58	56	72	SI 5 と重複
SB 5	1	11区	142-207	不整形	(74)	(47)	(49)	P186・SB 7-3 と重複
SB 5	2		142-207	楕円形	16	10	9	SB 6-3 と重複
SB 5	3		142-208	円形	21	20	27	
SB 5	4		142-207	円形	50	50	60	SB 7-2 と重複
SB 5	5		143-207	不整形	84	57	58	SB 6-2 と重複
SB 5	6		143-208	不整形	70	42	61	SD20と重複
SB 5	7		143-207・208	円形	53	52	67	
SB 5	8		143-207	長方形	36	31	28	SD19と重複
SB 6	1		142-208	楕円形	94	77	62	
SB 6	2		143-207	楕円形	(87)	72	73	SB 5-5 と重複
SB 6	3		142・143-207	長方形	92	73	58	SD19・SB 5-2 と重複
SB 7	1	142-208	円形	44	42	49		
SB 7	2	142-207	円形	50	50	60	SB 5-4 と重複	
SB 7	3	142-207	楕円形	52	43	60	P185・186、SB 5-1 と重複	
SB 8	1	13区	142-203	楕円形	50	41	100	P215と重複
SB 8	2		142-203	楕円形	84	61	120	P213と重複
SB 8	3		141-203	楕円形	84	56	116	P207・209と重複
SB 8	4		141-203	楕円形	(40)	36	86	SD26と重複

第5表 ピット計測表

遺構番号	調査区	グリッド	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
1	1区	142-205	円形	23.0	23.0	12.0	SK 1 と重複
2		142-205	楕円形	(53.0)	32.0	19.0	
3		142-205	円形	30.0	26.0	27.0	
4		142-205	円形	46.0	44.0	16.0	SI 1 と重複
5		142-205	円形	35.0	34.0	21.0	
6		142・143-205	円形	23.0	21.0	25.0	
7		143-205	円形	30.0	30.0	25.0	
8		142-205	楕円形	28.0	22.0	5.0	SI 1 と重複
9		142-205	楕円形	30.0	24.0	24.0	SI 1 と重複
10		142-205	楕円形	38.0	30.0	57.0	SI 1 と重複
11		142-205	円形	39.0	37.0	17.0	SI 1 と重複
12		141・142-205・206	楕円形	73.0	(60.6)	21.0	
13		142-206	楕円形	39.0	30.0	18.0	SI 1 と重複
14		142-206	不整形	49.0	43.0	9.0	SI 1 ・SB 1-6 と重複
15		142-205・206	楕円形	65.0	45.0	27.0	SI 1 と重複
16		142-205	円形	36.0	35.0	35.0	SI 1 と重複
17		142-206	円形	34.0	31.0	12.0	SI 1 と重複
18		142-205	楕円形	32.0	27.0	13.0	SI 1 と重複
19		142・143-206	円形	31.0	31.0	26.0	SI 1 と重複
20		142-205・206	円形	30.0	29.0	37.0	SI 1 と重複
21		143-205	楕円形	25.0	18.0	11.0	SD 1 と重複
22		143-205	円形	21.0	19.0	12.0	SD 1 と重複
23		143-205	円形	52.0	50.0	25.0	SD 1 と重複
24		143-206	円形	21.0	20.0	15.0	SD 1 と重複
25		143-206	円形	35.0	34.0	17.0	SD 1 と重複
26		146-206	円形	23.0	19.0	7.0	
27	146-206	不整形	(42.0)	(30.0)	39.0		
28	147-206・207	楕円形	38.0	29.0	18.0		
29	146-207	円形	26.0	25.0	16.0		
30	146-207	楕円形	24.0	17.0	14.0		
31	146-207	楕円形	24.0	16.0	26.0	SR 1 と重複	
32	146-207	楕円形	30.0	26.0	27.0		
33	146-207	不整形	58.0	32.0	20.0		
34	146-207	円形	26.0	21.0	20.0	SR 1 と重複	
35	146-207	楕円形	35.0	22.0	20.0	SR 1 と重複	
36	146-207	楕円形	19.0	13.0	8.0	SR 1 と重複	
37	146-207	円形	29.0	26.0	27.0		
38	146-207	不整形	(52.0)	(19.0)	21.0	SR 1 と重複	
39	146-207	楕円形	31.0	20.0	13.0		
40	146-207	楕円形	35.0	25.0	14.0		
41	146-207	楕円形	23.0	16.0	19.0		
42	146-207	楕円形	25.0	20.0	11.0		
43	146-208	不整形	(31.0)	(20.0)	21.0	SR 1 と重複	
44	146-208	楕円形	27.0	21.0	23.0	SR 1 と重複	
45	146-209	楕円形	40.0	33.0	14.0		
46	146-209	楕円形	32.0	24.0	21.0		
47	146・147-209	楕円形	45.0	27.0	39.0	SR 1 と重複	
48	147-209	楕円形	30.0	21.0	15.0	SR 1 と重複	
49	147-209	楕円形	26.0	19.0	15.0	SR 1 と重複	
50	147-209	円形	20.0	20.0	14.0		
51	147-209	楕円形	37.0	30.0	21.0		
52	147-209・210	円形	42.0	39.0	34.0		
53	147-210	円形	29.0	26.0	12.0		
54	148-210	不整形	(66.0)	(43.0)	19.0		
55	148-209	円形	26.0	21.0	12.0		
56	148-209	円形	29.0	28.0	14.0		
57	148-209	円形	15.0	14.0	20.0		
58	148・149-209	不整形	52.0	30.0	11.0		
59	148-209	不整形	58.0	46.0	17.0		
60	148-209	楕円形	30.0	21.0	16.0		
61	148-209	楕円形	44.0	30.0	24.0		
62	148-209	楕円形	19.0	14.0	9.0		
63	148-209	不整形	31.0	28.0	17.0		
64	148-209	円形	20.0	18.0	12.0		
65	148-209・210	楕円形	37.0	23.0	26.0		
66	148-210	円形	30.0	30.0	7.0		
67	149-209	円形	30.0	25.0	8.0		
68	3区	151-210	円形	33.0	28.0	16.0	
69		152-211	円形	26.0	24.0	7.0	
70		151-211	円形	18.0	17.0	11.0	
71		151-211	楕円形	33.0	23.0	24.0	
72	151-211	楕円形	26.0	25.0	24.0		
73	5区	144-208	楕円形	47.0	35.0	45.0	SD 9 と重複
74		144-207	円形	19.0	17.0	15.0	
75		145-207	楕円形	41.0	28.0	24.0	SD 8 と重複
76		145-207	楕円形	45.0	27.0	25.0	SD 8 と重複
77		145-206・207	円形	26.0	23.0	14.0	SD 8 と重複

遺構番号	調査区	グリッド	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
78	5区	145-206・207	円形	33.0	30.0	15.0	SD8と重複
79		145-207	楕円形	69.0	46.0	15.0	SD8と重複
80		145-207	円形	22.0	22.0	11.0	
81		145-207	楕円形	32.0	21.0	18.0	
82		145-207	円形	32.0	32.0	26.0	
83		145-207	楕円形	29.0	18.0	14.0	
84		145-207・208	楕円形	28.0	23.0	25.0	SD9と重複
85		145-207・208	楕円形	30.0	23.0	16.0	SD9と重複
86		145-207	楕円形	35.0	25.0	23.0	
87		145-207・208	楕円形	53.0	40.0	44.0	SD9と重複
88		145-208	楕円形	42.0	36.0	28.0	SD9・SI3と重複
89		145-208	楕円形	38.0	33.0	21.0	SI3と重複
90		145-207	円形	17.0	16.0	6.0	
91		145-207	円形	25.0	25.0	6.0	
92		145-207	楕円形	55.0	30.0	44.0	
93		145-207	楕円形	(45.0)	38.0	12.0	SR1と重複
94		145-207	楕円形	(25.0)	(32.0)	7.0	SR1と重複
95		145-207	楕円形	(30.0)	30.0	20.0	SI4と重複
96		145-207	円形	39.0	37.0	7.0	
97		6区	146-203	円形	18.0	16.0	16.0
98	146-203		円形	19.0	18.0	8.0	
99	146-203		円形	11.0	10.0	10.0	
100	146-203		楕円形	30.0	23.0	10.0	
101	146-204		楕円形	22.0	18.0	15.0	第4号礫床木棺墓と重複
102	146-204		楕円形	21.0	18.0	9.0	
103	146-204		楕円形	(15.0)	19.0	15.0	SK4と重複
104	146-204		円形	34.0	30.0	9.0	SK4と重複
105	146-204		円形	18.0	18.0	10.0	第3号礫床木棺墓と重複
106	146-204		円形	13.0	11.0	15.0	第3号礫床木棺墓と重複
107	146-204		円形	18.0	17.0	8.0	第3号礫床木棺墓と重複
108	146-204		楕円形	19.0	13.0	11.0	
109	146-204		円形	14.0	14.0	7.0	
110	146-204	円形	13.0	13.0	8.0		
111	7区	141-206	円形	56.0	53.0	18.0	
112		141-206	円形	44.0	41.0	36.0	
113		141-206	円形	36.0	28.0	24.0	
114		142-206	長方形	(26.0)	20.0	9.0	
115		142-206	楕円形	52.0	32.0	57.0	
116		141-206	楕円形	26.0	18.0	20.0	SD12と重複
117		141-206	円形	26.0	26.0	7.0	
118		141-206・207	楕円形	46.0	35.0	23.0	SD12と重複
119		141-206・207	楕円形	31.0	(20.0)	16.0	SD12と重複
120		141-207	円形	23.0	23.0	24.0	
121	8区	140-201	半円形	(22.0)	22.0	8.0	SI5と重複
122		140-202	楕円形	48.0	33.0	23.0	SI5と重複
123		140-202	三角形	38.0	37.0	26.0	SI5と重複
124		140-202	円形	53.0	(42.0)	32.0	SI6と重複
125		139・140-202	円形	64.0	(34.0)	23.0	
126		139-202	円形	30.0	(18.0)	7.0	
127		140-202	楕円形	52.0	39.0	18.0	SI5・SD14と重複
128		140-202	円形	26.0	23.0	39.0	SI5と重複重複
129		140-202	円形	38.0	32.0	27.0	SI5・SD14と重複
130		140-202	正方形	25.0	22.0	8.0	SI5と重複
131	9区	149-206	円形	(20.0)	(18.0)	14.0	
132		149-206	楕円形	(30.0)	22.0	13.0	
133		149-206	楕円形	40.0	26.0	22.0	
134		149-206・207	三角形	25.0	22.0	18.0	
135		149-207	三角形	24.0	20.0	15.0	
136		149-206	楕円形	17.0	16.0	22.0	
137		149-207	楕円形	36.0	34.0	30.0	
138		149-206・207	楕円形	23.0	18.0	18.0	
139		148-206	円形	35.0	29.0	10.0	SR1と重複
140		149-207	楕円形	32.0	(24.0)	16.0	
141		149-207	円形	35.0	32.0	29.0	
142		149-207	円形	24.0	(22.0)	7.0	
143		149-207	楕円形	21.0	20.0	9.0	
144		149-207	楕円形	20.0	18.0	14.0	
145		149-207	円形	16.0	16.0	17.0	
146	149-207	円形	18.0	15.0	21.0		
147	149-207	楕円形	32.0	28.0	26.0		
148	149-207	楕円形	36.0	30.0	22.0		
149	149-207	楕円形	18.0	12.0	8.0	SR1と重複	
150	149-207	正方形	18.0	18.0	14.0		
151	149-207	楕円形	18.0	14.0	17.0		
152	149-207	正方形	23.0	20.0	15.0		
153	149-207	長方形	50.0	24.0	23.0		
154	149-207	円形	26.0	24.0	18.0		
155	149-207	円形	24.0	22.0	18.0		



遺構番号	調査区	グリッド	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
156	9区	149-207	楕円形	32.0	26.0	6.0	
157		149-207	円形	24.0	22.0	18.0	
158		149-207	円形	22.0	22.0	20.0	
159		149-207	円形	20.0	18.0	32.0	
160		149-207	三角形	37.0	25.0	34.0	
161		149-207	楕円形	(28.0)	20.0	10.0	
162		149-207	円形	41.0	35.0	35.0	
163		149-207	楕円形	26.0	18.0	23.0	
164		149-207	長方形	50.0	26.0	10.0	
165		149-207	正方形	28.0	24.0	15.0	
166		149-207	円形	18.0	16.0	6.0	
167		149-207	楕円形	30.0	24.0	20.0	
168		149-207	楕円形	28.0	22.0	18.0	
169		149-207	円形	24.0	23.0	15.0	
170		149-207	楕円形	26.0	18.0	18.0	
171		149-207	楕円形	19.0	15.0	22.0	
172		149-207	正方形	18.0	12.0	6.0	
173		149-207	楕円形	32.0	28.0	21.0	
174		149-207	楕円形	22.0	19.0	10.0	SR1と重複
175		148-207	正方形	22.0	18.0	18.0	
176	10区	148-211	円形	31.0	28.0	7.0	
177		148-211	楕円形	27.0	21.0	13.0	
178		148-211	円形	26.0	24.0	12.0	SI7と重複
179		148-211	円形	22.0	22.0	10.0	
180		148-211	円形	22.0	20.0	10.0	SI7と重複
181		148-211	円形	25.0	25.0	12.0	
182		148-212	楕円形	(23.0)	22.0	7.0	SI7と重複
183		149-211	円形	24.0	21.0	10.0	
184	11区	142-207	不整形	(33.0)	(30.0)	28.0	
185		142-207	不整形	58.0	(42.0)	48.0	SB7-3と重複
186		142-207	不整形	(42.0)	(42.0)	14.0	SB7-3と重複5-1・SB7-3と重複
187		142-207	円形	38.0	34.0	36.0	
188		142-207	円形	50.0	44.0	27.0	
189		142-207・208	不整形	(40.0)	(12.0)	16.0	
190		143-207	円形	45.0	35.0	14.0	
191		143-207	楕円形	41.0	33.0	39.0	
192		143-208	円形	25.0	22.0	40.0	SD20と重複
193		143-208	円形	24.0	20.0	16.0	SD20と重複
194	143-208	円形	37.0	(23.0)	23.0	SD20と重複	
195	12区	143-203	楕円形	28.0	22.0	14.0	
196		143-203	楕円形	20.0	16.0	10.0	
197		143-203	楕円形	22.0	16.0	22.0	
198		143-203	楕円形	34.0	29.0	11.0	
199		143-203	楕円形	28.0	24.0	13.0	
200		143-203	円形	39.0	(28.0)	58.0	SD23と重複
201	144-203	不整形	59.0	(17.0)	29.0	SD22と重複	
202	13区	141・142-202	不整形楕円形	50.0	36.0	35.0	SD25と重複
203		142-202	円形	39.0	35.0	51.0	SD25と重複
204		142-203	楕円形	36.0	30.0	41.0	
205		141-202・203	円形	32.0	32.0	29.0	
206		141・142-203	楕円形	47.0	30.0	11.0	
207		141-203	長方形	46.0	37.0	37.0	SB8-3と重複
208		141-203	不整形	(54.0)	(40.0)	33.0	SD27と重複
209		141-203	不整形	62.0	(29.0)	24.0	SB8-3・P212と重複
210		141-203	円形	34.0	(24.0)	11.0	SD27と重複
211		141・142-203	円形	52.0	48.0	6.0	P212と重複
212		141-203	円形	35.0	31.0	34.0	P211と重複
213		142-203	円形	70.0	(70.0)	55.0	SB8-2と重複
214		142-203	楕円形	48.0	(30.0)	27.0	P215と重複
215		142-203	不整形	106.0	44.0	48.0	P214・SB8-1と重複
216		142-203	円形	15.0	13.0	6.0	
217		142-203	円形	25.0	22.0	19.0	
218		142-202	楕円形	30.0	22.0	24.0	
219		142・143-202	不整形	86.0	16.0	79.0	
220		142-203	楕円形	24.0	18.0	12.0	
221		143-203	楕円形	17.0	13.0	14.0	
222	142-203	円形	15.0	15.0	27.0	SD24と重複	
223	142-203	長方形	35.0	26.0	19.0		
224	142-203	円形	22.0	20.0	16.0		
225	142-203	円形	18.0	17.0	8.0		
226	142-203	円形	40.0	(32.0)	45.0		
227	142-203	楕円形	32.0	29.0	20.0		
228	142-203	円形	23.0	22.0	10.0		
229	142-203	円形	17.0	16.0	8.0		
230	142-203	楕円形	62.0	40.0	48.0		
231	11区	143-207	-	-	-	74.0	SD19と重複
232	12区	145-203	-	-	-	75.0	SD21と重複

第6表 住居跡出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考	
14-1	1区	SI1	土師器 坏	(10.2)	(3.2)	—	ABI	7.5YR 6/3	B	口縁部10%		
14-2		SI1	土師器 坏	(12.2)	(3.8)	—	ABCGK	2.5YR 6/4	B	口縁部20%		
14-3		SI1	磨石	最大長(8.0)cm、最大幅(5.7)cm、最大厚3.2cm、重量183g 石質：砂岩								
14-4		SI1	磨石	最大長17.5cm、最大幅4.7cm、最大厚3.4cm、重量398g 石質：片岩								
14-5		SI1	磨石	最大長15.8cm、最大幅5.2cm、最大厚3.2cm、重量426g 石質：砂岩								
14-6		SI1	磨石	最大長7.9cm、最大幅5.5cm、最大厚2.1cm、重量147g 石質：頁岩								
14-7	3区	SI2	土師器 甗	(17.0)	(3.6)	—	ADEK	2.5Y 6/2	B	口縁部15%	内外磨耗顕著	
14-8	5区	SI3	土師器 坏	(15.6)	(3.8)	—	ABEHLK	7.5Y 5/2	B	20%		
14-9		SI4	土師器 鉢	(15.0)	(4.95)	—	ADEGHMN	7.5Y 6/1	B	口縁部16%		
14-10		SI4	土師器 甗	(20.1)	(9.5)	—	ABDEKMN	5Y 7/1	B	口縁～胴上部25%		
14-11		SI4	敲石	最大長15.3cm、最大幅4.4cm、最大厚3.8cm、重量381g 石質：片岩								
14-12	10区	SI7	土師器 高坏	—	(7.3)	—	ABEHLK	5YR 6/4	B	脚部40%	内外磨耗顕著	
14-13		SI7	土師器 短頸壺	(10.6)	(13.1)	(7.8)	ABEGHMN	10YR 7/3	B	45%	内外磨耗顕著	
18-14	8区	SI5	土師器 甗	18.0	(8.9)	—	ABDEMN	10YR 5/1	B	口縁～胴上部80%		
18-15		SI5	土師器 坏	(13.0)	(3.2)	—	ABDGJK	2.5Y 5/2	B	20%		
18-16		SI5	土師器 甗	(17.8)	(7.2)	—	ABDGJMN	7.5YR 5/2	B	口縁～胴上部25%		
18-17		SI5	土師器 甗	(20.8)	(16.4)	—	ABDEHMN	10YR 6/2	B	口縁～胴部中段75%		
18-18		SI5	土師器 甗	—	(15.0)	(6.8)	ABDEKMN	2.5Y 5/1	B	胴部中段～底部40%		
18-19		SI5	敲石	最大長15.3cm、最大幅4.1cm、最大厚1.4cm、重量140g 石質：片岩								
18-20		SI5	土錘	最大長(4.0)cm、最大幅2.0cm、孔径0.55cm、重量(10)g								
										B	半分欠	

第7表 堀立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	年輪	備考
23-1	13区	SB8-3	柱根	89.2	17.0	60～80	根本一部炭化あり
23-2		SB8-2	柱根	91.5	22.0	90～100	
23-3		SB8-1	柱根	76.8	20.0	87	根本一部炭化あり

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
23-4	1区	SB1-4	土師器 坏	(13.8)	(3.9)	—	ABDEGHJK	5YR 5/3	B	20%	
23-5	7区	SB3-2	土師器 甗	(21.4)	(3.2)	—	ABEKMN	7.5YR 6/4	B	口縁部15%	
23-6	11区	SB5-1	土師器 坏	(14.2)	(3.85)	—	ABDHKM	5YR 5/4	B	30%	

第8表 溝跡出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考	
25-1	2区	SD3	土師器 坏	(13.0)	(3.0)	—	ABDEGHK	5YR 6/6	B	20%		
25-2		SD3	土師器 甗	(13.0)	(21.5)	—	ABDI	10YR 6/2	B	50%		
25-3		SD3	磨石	最大長(12.4)cm、最大幅4.7cm、最大厚3.7cm、重量291g 石質：砂岩								
25-4	10区	SD18	弥生土器 壺	—	—	—	ABGHJKLN	2.5Y 6/2	B	胴上部破片		
25-5		SD18	土師器 高坏	—	(6.0)	—	ABEGIMN	10YR 6/3	B	脚部80%		
25-6		SD18	須恵器 蓋	(10.4)	(3.1)	—	AB	(外)5GY 5/1 (内)5BG 4/1	B	10%		
25-7	8区	SD13	磨石	最大長12cm、最大幅4.2cm、最大厚2.3cm、重量190g 石質：砂岩								
25-8	11区	SD19	弥生土器 壺	(7.4)	18.5	6.0	ABDEHIKM	10YR 5/2	B		外磨耗顕著 内側すず付着	
25-9		SD19	弥生土器 甗	—	(6.2)	7.6	ABDKMN	(外)5YR 5/3 (内)7.5YR 5/2	B	底部60%		
28-1	10区	SD4	弥生土器 壺	—	—	—	ABEIK	5Y 6/1	B	肩部破片		
28-2		SD4	弥生土器 壺	—	—	—	ABCDIKN	10YR 6/2	B	胴上部破片		
28-3		SD4	弥生土器 壺	—	—	—	ABDGJK	7.5Y 5/1	B	胴上部破片		
28-4		SD4	弥生土器 甗	—	—	—	ABDIK	(外)10G 4/1 (中)2.5Y 7/1	B	胴部中段破片		
28-5		SD4	弥生土器 壺	—	—	—	ABEIKM	2.5Y 6/2	B	胴上部破片	内外磨耗顕著	
28-6		SD4	弥生土器 壺	—	—	—	ABIKN	7.5Y 6/1	B	頸～肩部破片		
28-7		SD4	弥生土器 壺	—	—	—	ABDGJK	7.5Y 5/1	B	胴上部破片		
28-8		SD4	弥生土器 壺	8.6	(6.2)	—	ABDEIMN	2.5Y 6/2	B	口縁～頸部80%		
28-9		SD4	弥生土器 壺	(13.8)	(10.9)	—	ABCDHIKN	10YR 6/3	B	口縁～頸部80%	内外磨耗顕著	
28-10		SD4	弥生土器 壺	(8.6)	(15.5)	—	ABDEGHJK	5Y 6/1	B	口縁～胴部中段60%	(外)全面赤彩、(内)口縁部のみ赤彩	
28-11		SD4	弥生土器 壺	—	(14.8)	—	ABDEIKM	(外)10YR 5/2 (内)5GY 4/1	B	胴部中段～底部40%		
28-12		SD4	弥生土器 壺	13.2	(17.7)	—	ADKMN	7.5YR 6/3	B	口縁～胴上部20%	内外磨耗顕著	
28-13		SD4	弥生土器 壺	—	(2.0)	6.4	BDEGM	7.5Y 4/1	B	底部80%		
28-14		SD4	弥生土器 甗	—	(4.4)	(7.9)	ABDGJKM	2.5Y 6/2	B	底部30%		
28-15		SD4	弥生土器 甗	—	(5.7)	—	ABHIK	5GY 5/1	B	胴下部45%		
28-16		SD4	土師器 高坏	—	(4.2)	—	ABDEHN	7.5YR 5/3	B	坏部80%	赤彩、内外磨耗顕著、五領	
28-17		SD4	土師器 高坏	(15.2)	(5.7)	—	ABEGM	2.5Y 7/2	B	口縁部30%		
28-18		SD4	土師器 甗	(14.8)	(7.9)	—	ACN	10GY 4/1	B	20%		
28-19	SD4	磨石	最大長13.7cm、最大幅5.2cm、最大厚3.5cm、重量310g 石質：砂岩									
28-20	SD4	弥生土器 壺	(10.3)	29.5	8.2	ABEIMN	10YR 7/2	B	60%	内外磨耗顕著、焼成後穿孔		
28-21	SD4	弥生土器 甗	(16.8)	17.65	4.9	ADGI	N 4/0	B	80%			
29-1	12区	SD22	土師器 甗	(20.0)	(4.1)	—	ABDHIN	10YR 5/2	B	口縁～胴上部10%		
29-2		SD22	土師器 甗	(18.2)	(8.4)	—	ABDEGHJKM	10YR 6/2	B	口縁～胴上部30%		
29-3		SD22	磨石	最大長(4.9)cm、最大幅(5.0)cm、最大厚(3.0)cm、重量81.5g 石質：砂岩								
29-4		SD21	磨石	最大長(14.3)cm、最大幅6.9cm、最大厚4.1cm、重量551g 石質：砂岩								
29-5		SD21	弥生土器 壺	—	—	—	ABEKMN	2.5Y 5/2	B	口縁一部		
29-6		SD24	土師器 坏	(15.6)	(5.3)	—	ABCHIKN	10YR 5/2	B	20%		
29-7	13区	SD24	土師器 甗	(12.0)	(9.7)	—	ABEHIJMN	10YR 5/2	B	口縁～胴下部25%	内外磨耗顕著	

第9表 方形周溝墓出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
39-1	9区	SR1	弥生土器 甗	—	—	—	ADGI	N 4/0	B	胴部破片	
39-2	2区	SR1	弥生土器 甗	—	—	—	ABEGHIK	(外) 5Y 4/1 (内) 2.5Y 5/1	B	胴部中段破片	内磨耗顕著
39-3	2区	SR1	須恵器 甗	—	—	—	AEFIN	5RP 5/1	A	胴部破片	
39-4	2区	SR1	土師器 坏	(14.0)	(3.7)	—	ABDEIK	2.5YR 4/2	B	20%	
39-5	2区	SR1	土師器 坏	(13.6)	(3.9)	—	ABDEIKN	5YR 5/3	B	25%	
39-6	2区	SR1	弥生土器 壺	—	(3.3)	(11.0)	ABCDIK	(外) 10YR 6/2 (内) 10GY 4/1	B	底部10%	内外磨耗顕著、木葉痕
39-7	2区	SR1	土師器 鉢	(22.8)	(4.8)	—	ADEMN	5YR 5/3	B	口縁部10%	

第10表 井戸跡出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
49-1	1区	SE1	土師器 坏	(13.2)	3.8	—	ABDI	5YR 3/1	B	40%	
49-2	1区	SE1	土師器 坏	(13.2)	3.6	—	ABDEI	7.5YR 4/2	B	25%	
49-3	1区	SE1	土師器 坏	(12.8)	(3.7)	—	ABDI	7.5YR 4/1	B	30%	
49-4	1区	SE1	土師器 甗	(17.0)	(3.4)	—	ABDEN	7.5YR 4/1	B	口縁部25%	

第11表 ピット出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
60-1	9区	P162	土師器 鉢	(19.7)	(6.2)	—	ABEGHK	10YR 6/2	B	10%	
60-2		P219	土師器 坏	(13.6)	(3.35)	—	ACEGIK	(外) 5YR 6/3 (内) 10YR 4/1	B	10%	暗文有
60-3	13区	P219	須恵器 横瓶	—	(14.5)	—	ABL	2.5Y 7/1	A	胴部30%	自然釉付着
60-4		P219	須恵器 横瓶	—	(14.35)	—	AB	5YR 7/1	A	胴～底部30%	内外に釉葉有、底面自然釉付着

第12表 遺構外出土遺物観察表

図版番号	調査区	遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考	
61-1	11区	一括	縄文土器	—	—	—	ACHMN	7.5YR 5/1	B	口縁破片		
61-2		一括	縄文土器	(22.4)	(5.0)	—	ABDEMN	10YR 6/2	B	口縁部40%		
61-3	10区	一括	弥生土器 甗	—	—	—	ABDGIKM	(外) 10YR 6/2 (内) 10YR 5/2	B	口縁破片	内外磨耗顕著	
61-4		一括	弥生土器 壺	—	—	—	ABDGIKN	2.5Y 5/2	B	胴上部破片	内外磨耗顕著	
61-5	3区	一括	弥生土器 壺	—	(7.6)	—	ADGIK	7.5Y 5/2	B	頸部片		
61-6		一括	弥生土器 甗	—	—	—	ADGHIKN	7.5Y 4/1	B	頸～胴上部破片	内外磨耗顕著	
61-7		一括	弥生土器 甗	—	—	—	ABDEHIK	2.5Y 4/1	B	頸～胴上部破片	(上部) 簾状文(下部) 横羽状文	
61-8	4区	一括	弥生土器 椀	(14.0)	(2.7)	—	ADEGIJK	10YR 6/3	B	口縁～体部10%	(内外) 赤彩 2個一対穿孔有。内外磨耗顕著	
61-9	10区	一括	弥生土器 壺	—	(2.2)	7.0	ADEGHIKN	10YR 6/3	B	底部100%	内外磨耗顕著	
61-10	3区	一括	弥生土器 壺	—	(3.45)	(6.4)	ADGHIKN	7.5Y 5/1	B	底部15%		
61-11	6区	一括	弥生土器 壺	—	(5.5)	10.3	ABCGIKN	2.5Y 7/2	B	底部80%	内外磨耗顕著	
61-12		一括	土師器 坏	(11.4)	(2.5)	—	ADEN	5YR 6/6	B	口縁部30%		
61-13		一括	土師器 坏	(10.8)	(3.2)	—	ABDJMN	(外) 5Y 6/4 (内) 2.5Y 5/2	B	25%		
61-14	10区	一括	土師器 坏	(13.0)	(3.1)	—	ABEIJM	(外) 7.5YR 6/3 (内) 5YR 5/4	B	20%		
61-15	3区	一括	土師器 坏	(14.2)	(3.2)	—	ABDEGIK	10YR 5/2	B	10%		
61-16	7区	一括	土師器 坏	(12.8)	(3.45)	—	ABDGJIM	(外) 2.5Y 5/1 (内) 2.5Y 4/1	A	25%		
61-17	3区	一括	土師器 坏	(13.2)	(4.5)	—	ABDEGIK	7.5Y 4/1	B	45%		
61-18	13区	一括	土師器 坏	(14.0)	(3.3)	—	ABDIJ	10YR 6/3	B	10%		
61-19	5区	一括	土師器 坏	(13.2)	(3.85)	—	ABEH	2.5Y 5/1	B	15%		
61-20		一括	土師器 坏	13.8	4.15	—	ABEHJN	7.5YR 5/3	B	50%		
61-21	7区	一括	土師器 坏	(14.8)	(5.6)	—	ABDKM	10YR 7/3	A	10%		
61-22	10区	一括	陶器 片口	—	(5.9)	(7.8)	—	5Y 7/2	A	体～高台45%	釉葉有 瀬戸美濃産	
61-23		一括	土師器 小型壺	—	(2.25)	—	ADEGN	(外) 10YR 6/3 (内) 10Y 4/1	B	胴部上部20%	赤彩有	
61-24	3区	一括	土師器 小型壺	—	(4.45)	—	ABDEGHKN	(外) 10YR 6/2 (内) 10GY 4/1	B	胴部30%	赤彩有	
62-25	10区	一括	須恵器 長頸瓶	(12.6)	(2.1)	—	AB	(外) 5GY 5/1 (内) 7.5Y 6/1	B	口縁部15%	内外自然釉付着	
62-26	12区	一括	須恵器 蓋	—	(3.2)	4.0	AB	N 7/0	A	天井部70%		
62-27		一括	土師器 坏	(10.4)	(3.1)	—	ABEN	7.5YR 5/4	B	口縁部20%		
62-28		一括	須恵器 甗	—	—	—	ACDFIKL	N 5/0	A	頸部破片		
62-29	7区	一括	土師器 甗	(19.6)	(2.9)	—	ABEH	2.5Y 7/2	B	口縁部25%		
62-30	10区	一括	土師器 甗	(21.0)	(5.9)	—	ABDEKN	5YR 5/3	B	口縁～胴上部20%		
62-31		一括	土師器 甗	(20.4)	(4.7)	—	ADEGK	2.5Y 6/2	B	口縁部15%		
62-32	3区	一括	土師器 甗	(19.8)	(6.6)	—	ADEGJN	10YR 5/2	B	口縁部15%		
62-33	10区	一括	磨石	最大長(5.8)cm、最大幅(4.6)cm、最大厚(2.4)cm、重量96g 石質：砂岩								
62-34	7区	一括	磨石	最大長(7.3)cm、最大幅(4.8)cm、最大厚3.3cm、重量111g 石質：フォルンフェルス								被熱有
62-35	10区	一括	磨石	最大長13.1cm、最大幅5.2cm、最大厚3.2cm、重量285g 石質：粘板岩								一面使用
62-36	6区	一括	打製石斧	最大長10.2cm、最大幅5.5cm、最大厚1.7cm、重量92g 石質：粘板岩								完形

第13表 第1号礫床木棺墓出土管玉計測表

番号	長さ(mm)	上面(mm)		下面(mm)		平均外径(mm)	重量(g)	石質	穿孔方向
		外径	孔径	外径	孔径				
1	17.61	3.00	1.4	2.99	1.0	3.00	0.23	緑色凝灰岩	単
2	(8.48)	2.75	0.9	2.73	0.9	2.74	0.10	緑色凝灰岩	両
3	10.16	2.86	1.0	2.82	0.8	2.84	0.14	緑色凝灰岩	両
4	14.20	3.17	1.2	3.20	1.3	3.19	0.22	緑色凝灰岩	両
5	6.29	3.06	1.2	3.07	0.6	3.07	0.08	赤玉石	両
6	9.23	2.82	1.2	2.83	1.1	2.83	0.10	緑色凝灰岩	両
7	14.59	3.13	1.1	3.31	1.0	3.22	0.22	緑色凝灰岩	両
8	15.46	2.67	1.3	2.82	0.8	2.75	0.17	緑色凝灰岩	単
9	12.78	3.13	1.5	3.15	1.0	3.14	0.17	緑色凝灰岩	両
10	(9.06)	2.79	1.3	2.80	1.1	2.80	0.09	緑色凝灰岩	
11	9.44	3.47	1.5	3.50	1.1	3.49	0.16	緑色凝灰岩	両
12	(9.81)	2.98	1.1	3.05	1.1	3.02	0.13	赤玉石	両
13	(8.56)	2.59	0.8	2.81	1.0	2.70	0.08	緑色凝灰岩	両
14	13.06	3.08	1.2	3.21	1.0	3.15	0.19	緑色凝灰岩	両
15	(5.65)	3.04	1.5	3.00	1.4	3.02	0.06	赤玉石	
16	12.14	3.22	1.2	3.08	1.2	3.15	0.18	緑色凝灰岩	両
17	(5.76)	3.05	1.2	3.06	1.0	3.06	0.07	赤玉石	
18	14.76	2.81	1.0	2.90	0.7	2.86	0.17	緑色凝灰岩	単
19	11.36	3.04	0.8	3.02	0.8	3.03	0.17	緑色凝灰岩	単
20	13.64	2.75	1.0	2.64	1.0	2.70	0.15	緑色凝灰岩	両
21	13.00	3.07	1.1	2.94	0.8	3.01	0.13	緑色凝灰岩	両
22	12.43	2.90	0.9	2.88	0.5	2.89	0.16	緑色凝灰岩	単
23	(5.17)	2.73	0.9	2.64	0.9	2.69	0.02	赤玉石	
24	11.15	3.50	1.5	3.39	0.7	3.45	0.17	緑色凝灰岩	単
25	8.66	3.32	1.5	3.32	1.3	3.32	0.13	緑色凝灰岩	単
26	15.39	2.40	1.1	2.59	0.7	2.50	0.13	緑色凝灰岩	単
27	(12.58)	3.12	1.2	3.26	0.8	3.19	0.19	赤玉石	単
28	5.19	2.51	1.2	2.51	0.8	2.51	0.05	緑色凝灰岩	単
29	16.79	3.03	1.0	2.89	0.5	2.96	0.24	緑色凝灰岩	両
30	(8.91)	2.82	1.1	2.72	0.8	2.77	0.08	緑色凝灰岩	両
31	(5.28)	2.99	0.9	2.97	0.9	2.98	0.07	赤玉石	
32	9.70	2.86	1.0	2.93	0.7	2.90	0.12	緑色凝灰岩	単
33	12.50	2.76	0.9	2.92	0.7	2.84	0.14	緑色凝灰岩	単
34	(6.14)	2.90	1.3	2.86	1.1	2.88	0.08	赤玉石	単
35	(5.47)	2.99	1.1	3.08	1.1	3.04	0.05	赤玉石	両
36	12.46	2.72	1.3	2.74	0.8	2.73	0.13	緑色凝灰岩	単
37	(6.59)	2.60	0.9	2.62	0.8	2.61	0.06	赤玉石	単
38	11.12	2.80	1.1	2.78	1.0	2.79	0.12	緑色凝灰岩	単
39	13.72	3.06	1.1	2.94	1.1	3.00	0.18	緑色凝灰岩	両
40	(6.02)	2.57	1.0	2.60	1.0	2.59	0.06	緑色凝灰岩	
41	(7.68)	3.23	1.4	3.07	1.2	3.15	0.12	赤玉石	
42	9.00	2.70	0.9	2.66	0.7	2.68	0.10	緑色凝灰岩	単
43	(8.63)	2.84	1.1	2.84	1.1	2.84	0.09	緑色凝灰岩	
44	11.21	2.76	1.1	2.56	1.1	2.66	0.09	赤玉石	両

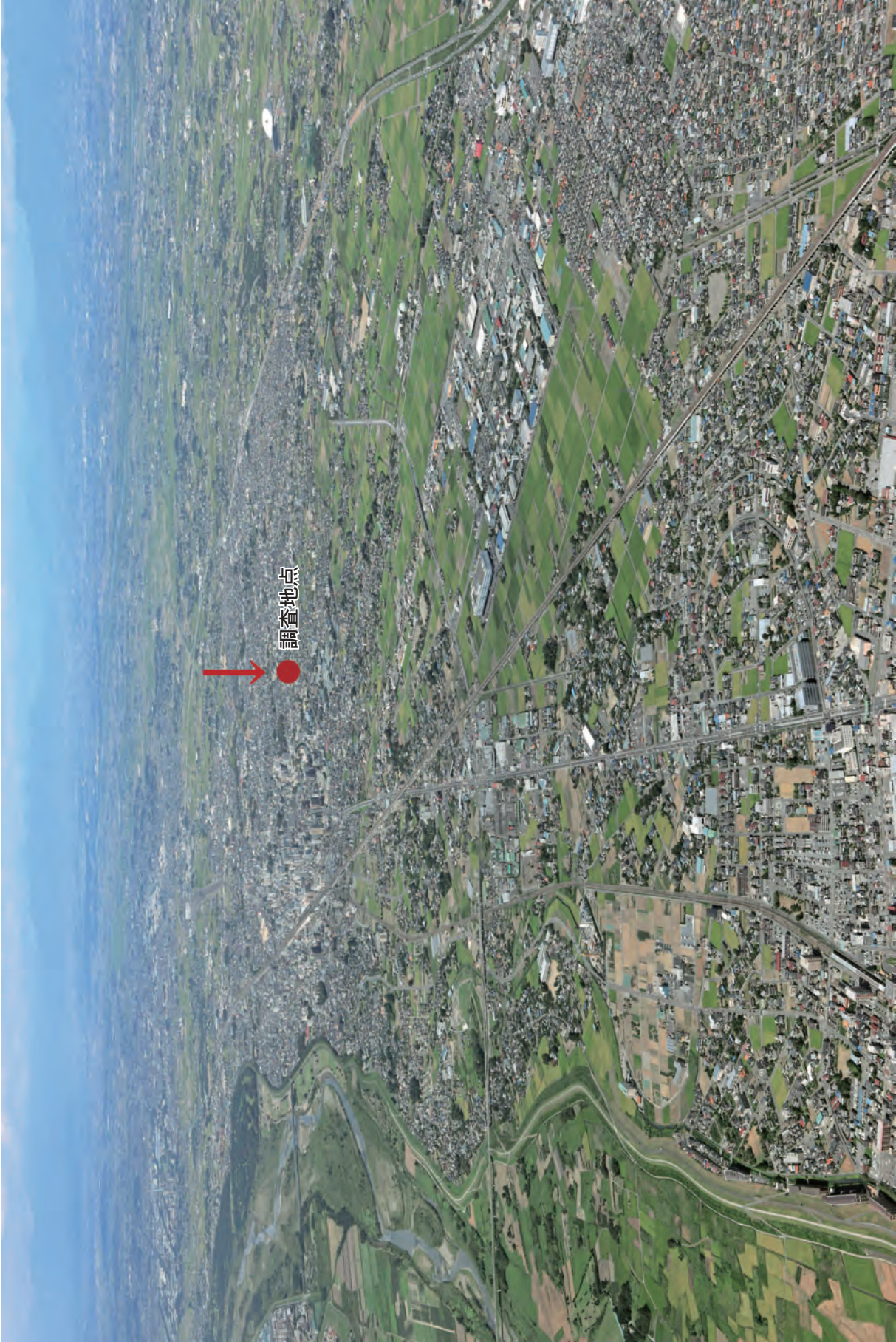
第14表 第3号礫床木棺墓出土管玉計測表

番号	長さ(mm)	上面(mm)		下面(mm)		平均外径(mm)	重量(g)	石質	穿孔方向
		外径	孔径	外径	孔径				
1	12.79	2.68	1.2	2.52	1.0	2.60	0.11	緑色凝灰岩	単
2	12.32	3.01	1.4	3.01	1.3	3.01	0.17	赤玉石	両
3	12.59	2.87	1.5	2.78	1.3	2.83	0.14	赤玉石	両
4	15.05	3.07	1.4	3.02	1.2	3.05	0.21	緑色凝灰岩	両
5	13.97	2.79	1.4	2.89	1.3	2.84	0.17	緑色凝灰岩	両
6	(14.00)	2.60	1.2	2.71	1.2	2.66	0.14	緑色凝灰岩	両
7	14.21	3.13	1.4	3.12	1.2	3.13	0.22	赤玉石	両
8	11.91	2.70	1.1	2.75	1.0	2.73	0.15	赤玉石	両
9	16.55	2.55	1.3	2.53	0.9	2.54	0.16	緑色凝灰岩	両
10	7.89	2.63	1.1	2.65	0.8	2.64	0.09	緑色凝灰岩	単
11	20.64	3.04	1.2	3.14	1.2	3.09	0.31	緑色凝灰岩	両
12	10.64	2.90	1.3	2.80	1.4	2.85	0.13	赤玉石	両
13	7.95	3.16	1.3	3.18	1.2	3.17	0.13	赤玉石	単
14	13.70	3.00	1.5	2.94	1.5	2.97	0.17	赤玉石	両
15	(11.42)	3.04	1.5	3.11	1.5	3.08	0.16	赤玉石	両
16	9.48	2.54	1.3	2.60	1.1	2.57	0.10	赤玉石	単
17	13.98	3.01	1.5	3.06	1.3	3.04	0.19	緑色凝灰岩	両
18	12.07	2.97	1.3	2.96	0.7	2.97	0.17	赤玉石	単
19	13.76	2.77	1.3	2.96	1.4	2.87	0.16	緑色凝灰岩	両
20	12.85	2.69	1.4	2.66	0.9	2.68	0.13	緑色凝灰岩	単
21	11.07	2.77	1.5	2.74	1.3	2.76	0.11	緑色凝灰岩	両
22	14.48	2.77	1.1	2.84	1.1	2.81	0.17	緑色凝灰岩	両
23	11.18	2.63	0.9	2.60	0.8	2.62	0.12	緑色凝灰岩	単
24	16.82	2.96	1.1	2.88	1.0	2.92	0.23	緑色凝灰岩	両
25	10.83	2.42	0.8	2.53	0.6	2.48	0.11	緑色凝灰岩	単
26	13.81	2.54	1.1	2.46	0.7	2.50	0.11	緑色凝灰岩	単
27	12.98	2.81	1.2	2.54	1.0	2.68	0.14	緑色凝灰岩	両
28	15.43	2.73	1.3	2.66	1.3	2.70	0.17	緑色凝灰岩	両
29	8.48	3.06	1.3	3.09	1.3	3.08	0.12	赤玉石	両
30	16.05	2.55	1.1	2.34	0.6	2.45	0.16	緑色凝灰岩	単
31	(7.62)	2.87	1.4	2.80	1.3	2.84	0.07	緑色凝灰岩	単
32	12.57	2.92	1.3	2.85	1.0	2.89	0.15	緑色凝灰岩	単
33	11.35	3.06	1.3	2.86	1.1	2.96	0.17	赤玉石	両

番号	長さ(mm)	上面(mm)		下面(mm)		平均外径(mm)	重量(g)	石質	穿孔方向
		外径	孔径	外径	孔径				
34	11.76	3.33	1.6	3.28	1.2	3.31	0.17	赤玉石	両
35	19.21	3.22	1.1	3.18	1.1	3.20	0.32	緑色凝灰岩	両
36	11.56	3.05	1.1	2.90	0.6	2.98	0.15	緑色凝灰岩	単
37	10.78	2.87	1.0	2.84	0.9	2.86	0.12	緑色凝灰岩	両
38	11.25	2.51	1.0	2.46	0.8	2.49	0.10	緑色凝灰岩	両
39	18.39	3.14	1.5	3.16	1.5	3.15	0.26	緑色凝灰岩	両
40	9.67	2.75	1.1	2.66	0.9	2.71	0.10	緑色凝灰岩	単
41	9.87	2.86	1.1	2.78	1.1	2.82	0.11	緑色凝灰岩	単
42	11.36	2.61	1.1	2.61	0.9	2.61	0.12	緑色凝灰岩	両
43	9.83	2.81	1.4	2.78	0.7	2.80	0.09	緑色凝灰岩	単
44	12.63	2.73	1.0	2.69	0.5	2.71	0.16	緑色凝灰岩	単
45	11.62	2.45	0.8	2.56	0.5	2.51	0.12	緑色凝灰岩	単
46	(9.40)	2.72	1.0	2.67	0.5	2.70	0.10	緑色凝灰岩	単
47	(6.34)	2.56	1.0	2.46	0.9	2.51	0.05	緑色凝灰岩	単
48	7.09	3.07	1.0	2.81	0.9	2.94	0.09	赤玉石	単
49	(5.42)	2.79	1.0	2.83	0.9	2.81	0.06	赤玉石	単
50	12.47	2.62	1.0	2.69	1.0	2.66	0.13	緑色凝灰岩	両
51	13.35	2.47	0.8	2.55	0.7	2.51	0.14	赤玉石	単
52	6.33	2.70	0.8	2.73	0.7	2.72	0.07	緑色凝灰岩	単
53	13.96	2.85	0.8	2.97	0.5	2.91	0.20	緑色凝灰岩	単
54	14.10	2.57	0.7	2.56	0.6	2.57	0.15	緑色凝灰岩	単
55	(7.18)	2.96	0.9	2.88	0.8	2.92	0.09	緑色凝灰岩	単
56	(9.22)	2.63	0.9	2.60	0.7	2.62	0.09	緑色凝灰岩	両
57	6.68	2.80	1.2	3.06	1.1	2.93	0.07	赤玉石	単
58	10.07	2.71	1.0	2.80	0.7	2.76	0.11	赤玉石	単
59	(4.33)	2.94	1.0	2.91	0.9	2.93	0.06	赤玉石	単
60	11.65	3.11	1.1	3.04	1.1	3.08	0.17	緑色凝灰岩	単
61	7.18	2.63	1.0	2.68	0.7	2.66	0.08	赤玉石	単
62	(12.93)	2.87	1.0	2.99	1.0	2.93	0.15	緑色凝灰岩	単
63	7.79	2.88	0.9	2.89	0.7	2.89	0.10	赤玉石	単
64	12.68	2.62	1.0	2.68	1.0	2.65	0.11	緑色凝灰岩	単
65	11.35	2.68	0.8	2.51	0.6	2.60	0.13	緑色凝灰岩	単
66	(7.40)	2.62	1.0	2.56	0.8	2.59	0.07	赤玉石	単
67	(12.13)	2.89	1.0	3.02	0.8	2.96	0.16	赤玉石	単
68	10.41	2.52	0.8	2.22	0.5	2.37	0.09	緑色凝灰岩	単
69	7.45	2.80	0.9	2.83	0.7	2.82	0.09	赤玉石	単
70	(12.25)	2.82	0.7	2.69	0.8	2.76	0.14	緑色凝灰岩	単
71	11.39	2.99	0.9	3.14	0.7	3.07	0.17	緑色凝灰岩	単
72	12.10	2.52	0.7	2.45	0.6	2.49	0.11	緑色凝灰岩	単
73	17.40	2.98	1.5	2.98	1.4	2.98	0.22	緑色凝灰岩	両
74	12.89	2.57	1.0	2.60	0.7	2.59	0.13	緑色凝灰岩	単
75	10.72	2.94	1.1	2.94	0.8	2.94	0.14	赤玉石	単
76	11.69	2.71	0.9	2.75	0.6	2.73	0.13	緑色凝灰岩	単
77	13.03	2.69	1.1	2.56	0.9	2.63	0.14	緑色凝灰岩	両
78	19.03	3.01	1.0	3.00	1.0	3.01	0.28	緑色凝灰岩	両
79	9.77	2.51	0.6	2.44	0.9	2.48	0.09	緑色凝灰岩	単
80	(16.10)	2.90	0.8	2.96	1.0	2.93	0.21	緑色凝灰岩	単
81	13.04	2.71	1.0	2.73	0.6	2.72	0.15	赤玉石	単
82	9.77	2.88	1.2	2.83	1.2	2.86	0.11	緑色凝灰岩	両
83	6.20	2.37	0.9	2.40	0.6	2.39	0.06	赤玉石	単
84	12.22	2.86	1.0	2.82	1.1	2.84	0.15	緑色凝灰岩	両
85	17.18	2.66	0.9	2.61	0.8	2.64	0.18	緑色凝灰岩	両
86	(15.26)	2.52	0.9	2.55	1.0	2.54	0.14	緑色凝灰岩	両
87	9.35	2.57	1.0	2.50	0.5	2.54	0.09	緑色凝灰岩	単
88	7.39	2.54	1.2	2.51	1.0	2.53	0.06	赤玉石	単
89	(9.41)	2.80	0.7	2.85	1.0	2.83	0.12	赤玉石	単
90	9.89	2.62	1.0	2.62	0.7	2.62	0.09	赤玉石	両
91	15.02	2.96	1.0	2.94	0.9	2.95	0.21	緑色凝灰岩	単
92	(8.57)	2.86	1.0	2.90	1.0	2.88	0.11	赤玉石	両
93	(5.78)	2.78	1.0	2.80	0.5	2.79	0.07	赤玉石	単
94	13.13	3.02	1.1	2.89	1.0	2.96	0.15	緑色凝灰岩	単
95	8.08	2.46	1.0	2.55	0.8	2.51	0.07	緑色凝灰岩	単
96	(12.52)	2.68	0.8	2.68	0.8	2.68	0.15	緑色凝灰岩	単
97	(8.42)	2.70	0.8	2.72	0.7	2.71	0.09	赤玉石	単
98	15.83	2.93	1.2	3.02	1.1	2.98	0.21	赤玉石	単
99	11.09	2.64	0.9	2.70	0.6	2.67	0.13	緑色凝灰岩	単
100	9.85	2.76	0.9	2.79	1.2	2.78	0.11	赤玉石	両
101	11.45	3.18	1.1	3.12	0.9	3.15	0.17	赤玉石	両
102	6.38	2.34	0.7	2.47	0.9	2.41	0.05	赤玉石	単
103	10.31	3.11	1.3	2.91	1.2	3.01	0.12	赤玉石	両
104	12.99	2.83	1.0	2.68	0.9	2.76	0.15	緑色凝灰岩	両
105	15.32	2.48	1.0	2.46	0.7	2.47	0.15	緑色凝灰岩	単
106	13.96	3.02	1.0	3.18	0.6	3.10	0.21	緑色凝灰岩	単
107	11.85	2.68	1.1	2.80	0.9	2.74	0.13	緑色凝灰岩	両
108	11.48	2.40	0.8	2.41	0.6	2.41	0.11	緑色凝灰岩	単
109	15.38	3.54	1.1	3.36	1.1	3.45	0.30	緑色凝灰岩	単
110	12.73	2.81	1.0	2.81	0.7	2.81	0.15	緑色凝灰岩	単
111	16.37	2.71	0.7	2.80	0.6	2.76	0.18	緑色凝灰岩	単
112	17.92	2.76	0.9	2.72	0.8	2.74	0.22	緑色凝灰岩	両
113	15.29	2.75	1.1	2.50	1.0	2.63	0.16	緑色凝灰岩	両
114	12.22	2.83	1.4	2.74	1.3	2.79	0.13	緑色凝灰岩	両
115	10.82	3.00	1.0	3.03	0.8	3.02	0.15	赤玉石	単
116	11.64	2.83	1.2	2.86	0.7	2.85	0.13	赤玉石	両
117	7.33	3.28	1.0	3.09	0.7	3.19	0.12	赤玉石	単

# 写 真 图 版





航空写真 (東より)



図版 2



第1調査区全景（東より）



第1調査区第1号住居跡（南より）



第1調査区第1号井戸跡（南より）



第2調査区北東全景



第2調査区南西全景





第2調査区第1号方形周溝墓（南東より）



第2調査区第3・4号溝跡（南より）



第2調査区噴砂（南より）



第2調査区第4号溝跡土層断面（北面）



第2調査区噴砂土層断面



図版 4



第3調査区全景（東より）



第4調査区全景（東より）





第4調査区第4号溝跡（南東より）



第4調査区第4号溝跡西面土層断面



第5調査区第2号掘立柱建物跡（北より）



第5調査区全景（南より）



図版 6



第5調査区第4号住居跡（西より）



第5調査区第4号住居跡カマド



第5号住居跡遺物出土状況



第6調査区全景（西より）





第6調査区全景（南より）



第6調査区第1号礫床木棺墓（西より）



第6調査区第1号礫床木棺墓管玉出土状況



第6調査区第1号礫床木棺墓敷石・管玉検出状況





第6調査区第1号礫床木棺墓完掘状況（北より）



第6調査区第2号礫床木棺墓（東より）



第6調査区第2号礫床木棺墓敷石半裁状況（南より）



第6調査区第3号礫床木棺墓（北より）



第6調査区第2号礫床木棺墓完掘状況（東より）



第6調査区第3号礫床木棺墓壁面確認状況



第6調査区第3号礫床木棺墓管玉出土状況





第6調査区第3号礫床木棺墓管玉出土状況



第6調査区第3号礫床木棺墓管玉出土状況



第6調査区第3号礫床木棺墓管玉出土状況



第6調査区第3号礫床木棺墓半裁（北より）



第6調査区第3号礫床木棺墓調査状況



第6調査区第3号礫床木棺墓調査状況



第6調査区第3号礫床木棺墓完掘（北より）





第6調査区第4号礫床木棺墓（東より）



第6調査区第4号礫床木棺墓敷石半裁（西より）



第6調査区第4号礫床木棺墓半裁礫敷設状況



第6調査区第4号礫床木棺墓完掘（西より）



第6調査区第1号礫床木棺墓調査風景



第6調査区調査風景



第8調査区第14号溝跡



第8調査区第5号住居跡遺物出土状況





第7調査区全景（南より）



第8調査区第6号住居跡



第8調査区全景（南より）





第9調査区全景（西より）



第10調査区全景（東より）





第9調査区第7号土坑



第10調査区第4号溝跡（南より）



第10調査区第4号溝跡遺物出土状況



第10調査区第4号溝跡遺物出土状況



第10調査区第4号溝跡遺物出土状況



第10調査区第4号溝跡調査風景



第10調査区第7号住居跡（南より）





第11調査区全景（東より）



第11調査区第19号溝跡（西より）



第11調査区第19号溝跡土層断面（西面）



第11調査区第231号ピット断面





第11調査区調査風景



第12調査区全景（東より）



第13調査区第219号ピット遺物出土状況



第12調査区第21号溝跡（東より）



第13調査区全景（西より）



第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根2





第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根 3



第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根 1



第13調査区第8号掘立柱建物跡 (東より)



第13調査区第8号掘立柱建物跡 4



第13調査区第8号掘立柱建物跡柱根 2 半裁状態





第1・2・4・7号住居跡出土遺物



第5号住居跡・第8号掘立柱建物跡・第3・13・18号溝跡出土遺物



第4号溝跡出土遺物



第21・22号溝跡・第1号方形周溝墓出土遺物



ピット・包含層出土遺物



包含層出土遺物



第7号住居跡出土遺物



第5号住居跡出土遺物



5-17

第5号住居跡出土遺物



5-18

第5号住居跡出土遺物

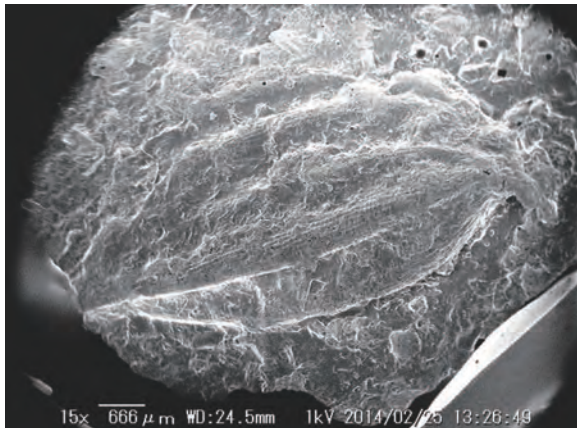


3-2

第3号溝跡出土遺物



同左口縁部粗穀圧痕近接



同上レプリカ・セム法走査型電子顕微鏡写真



4-8

第4号溝跡出土遺物



8

第19号溝跡出土遺物



同左底部





第219号ピット出土遺物



第219号ピット出土遺物



第24号溝跡出土遺物



第3号住居跡出土遺物



第8号掘立柱建物跡出土遺物



第19号溝跡出土遺物



第4号溝跡出土遺物



第4号溝跡出土遺物



第4号溝跡出土遺物

图版20



第1号礫床木棺墓出土遺物



第2号礫床木棺墓出土遺物



第3号礫床木棺墓出土遺物



第4号礫床木棺墓出土遺物



8-1

第8号掘立柱建物跡1柱根



同左木口面



8-2

第8号掘立柱建物跡2柱根

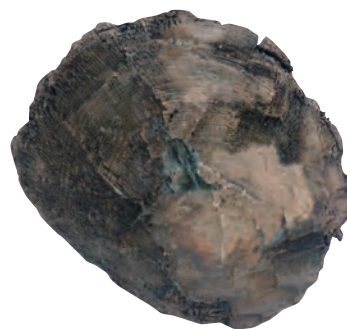


同左木口面



8-3

第8号掘立柱建物跡3柱根



同左木口面





4-9

第4号溝跡出土遺物



4-10

第4号溝跡出土遺物



4-12

第4号溝跡出土遺物



4-20

第4号溝跡出土遺物



4-11

第4号溝跡出土遺物



同左ハケメ近接



4-21

第4号溝跡出土遺物



同左貼付文近接

図版22



第22号溝跡出土遺物



第24号溝跡出土遺物



第1号方形周溝墓出土遺物



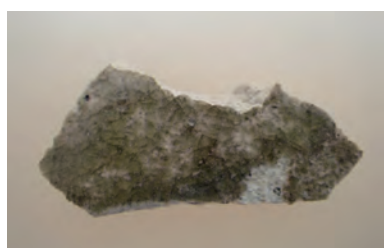
第1号井戸跡出土遺物



第1号井戸跡出土遺物



第1号井戸跡出土遺物



第1号井戸跡出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



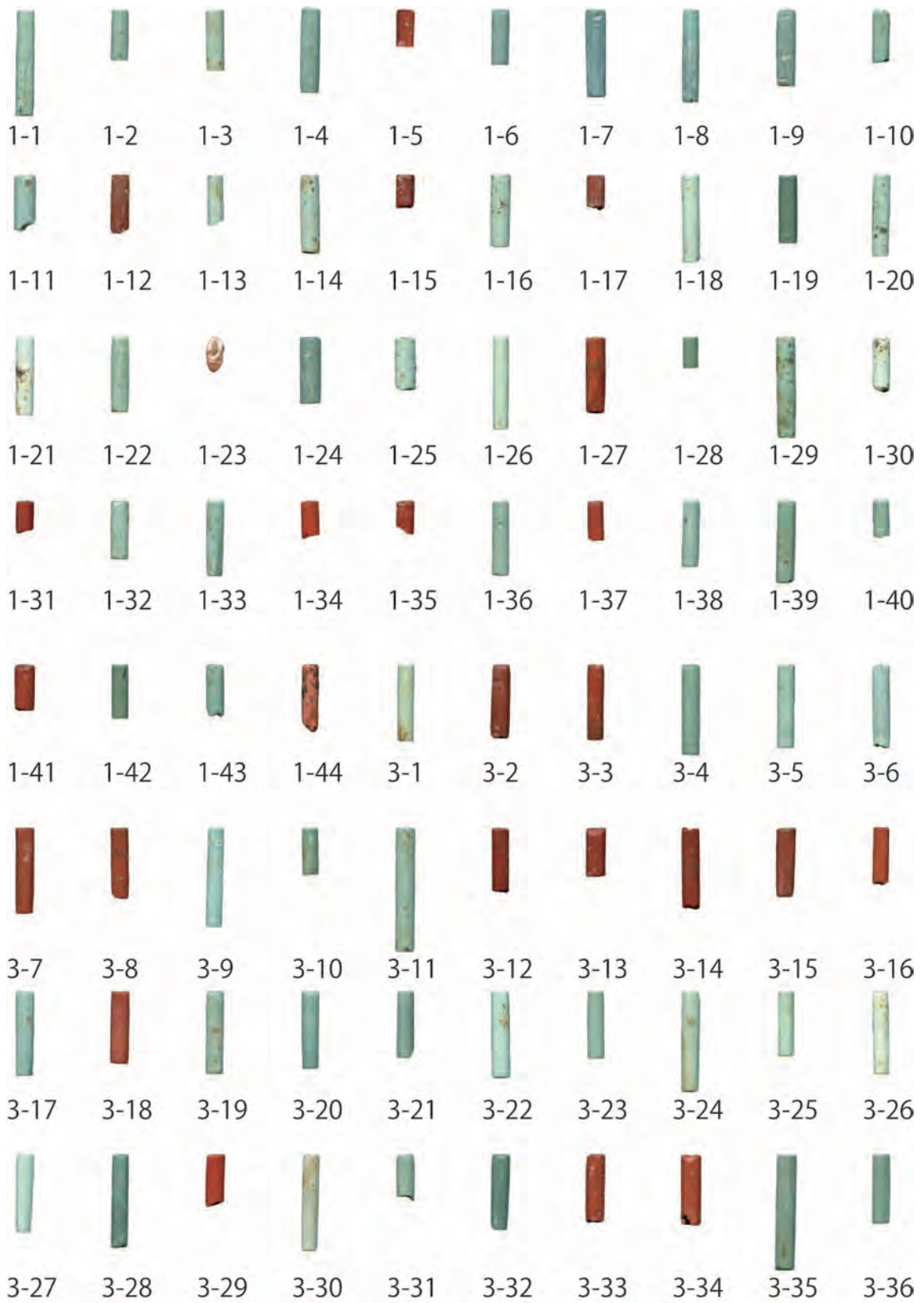
遺構外出土遺物



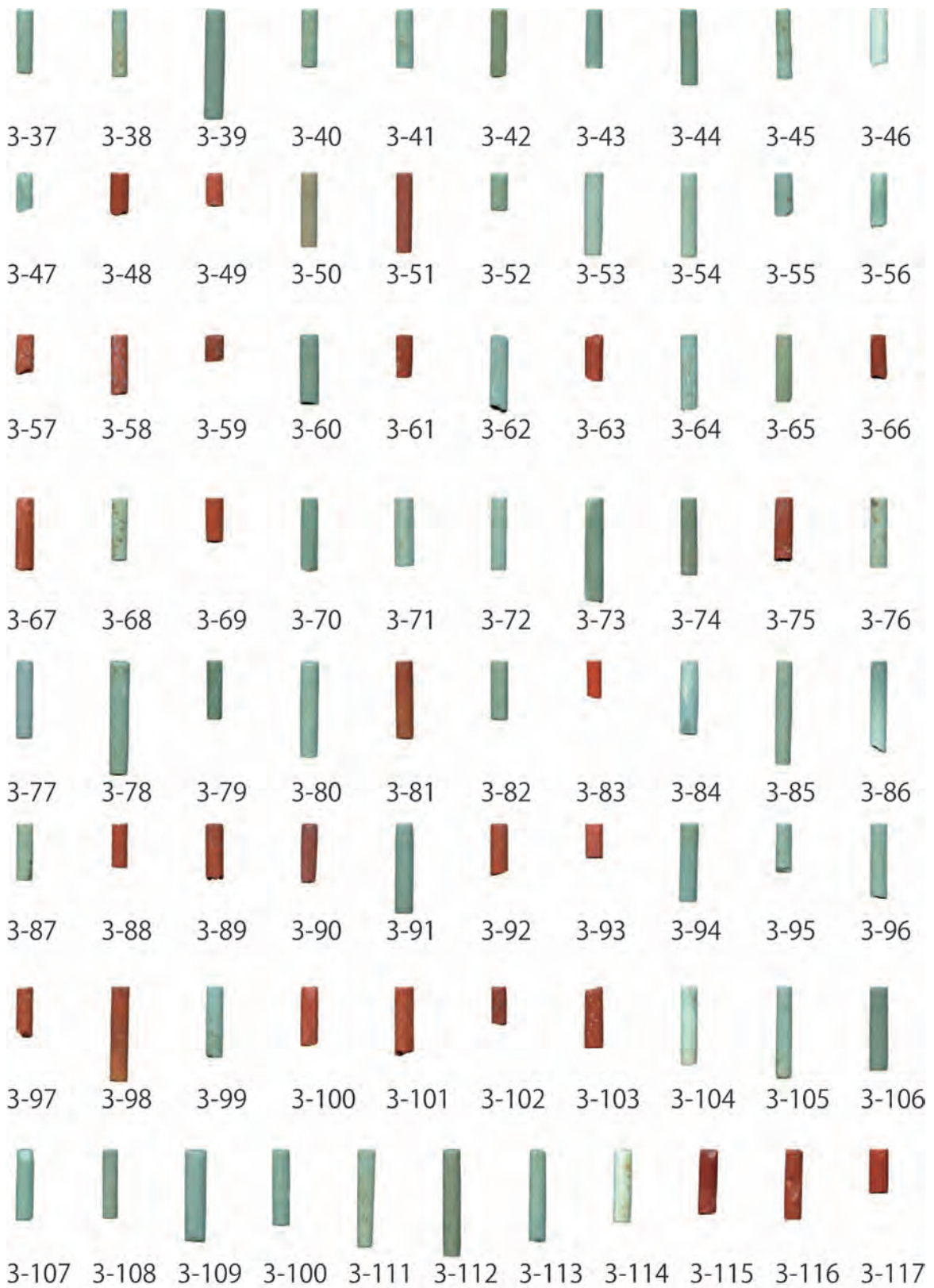
遺構外出土遺物



遺構外出土遺物

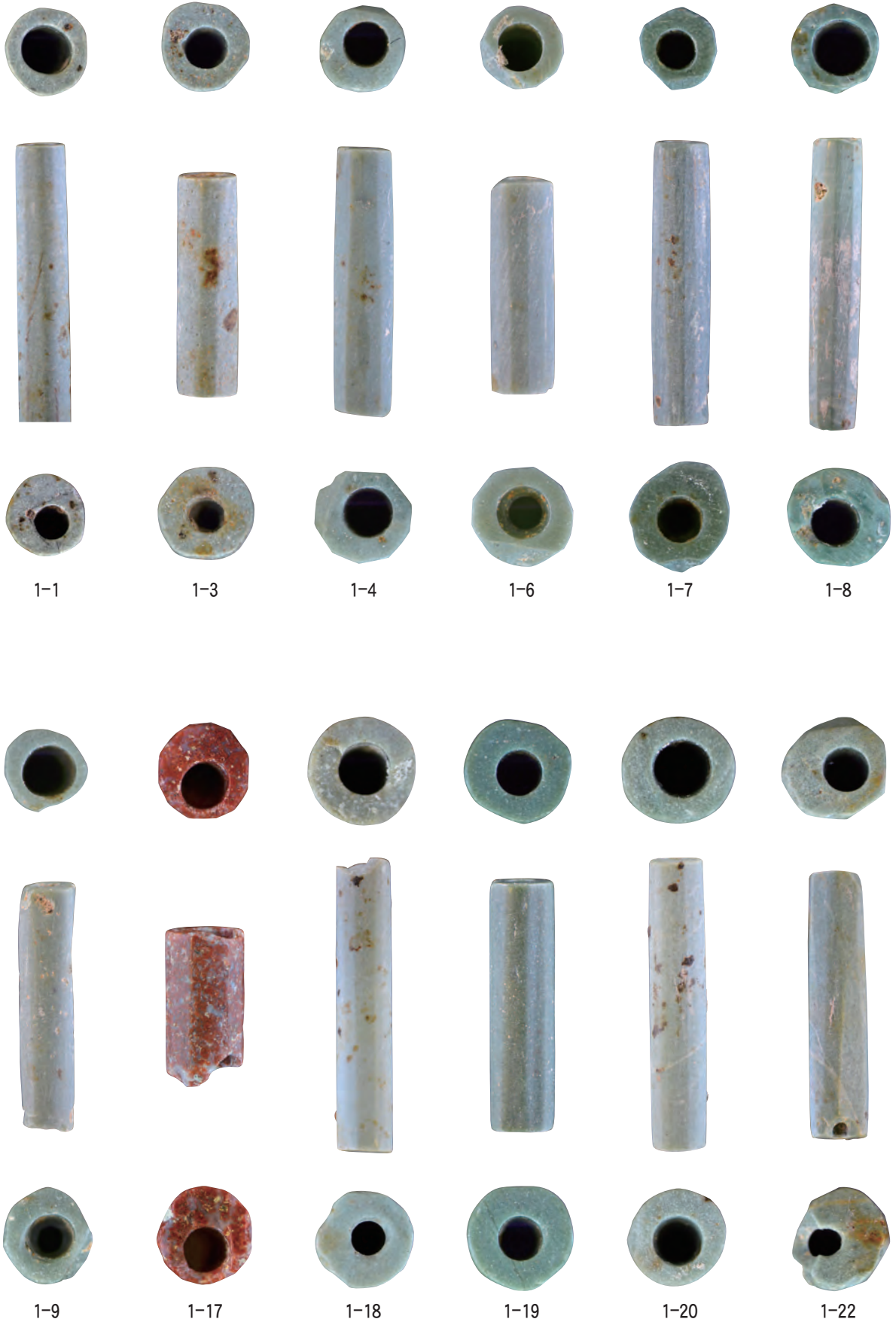




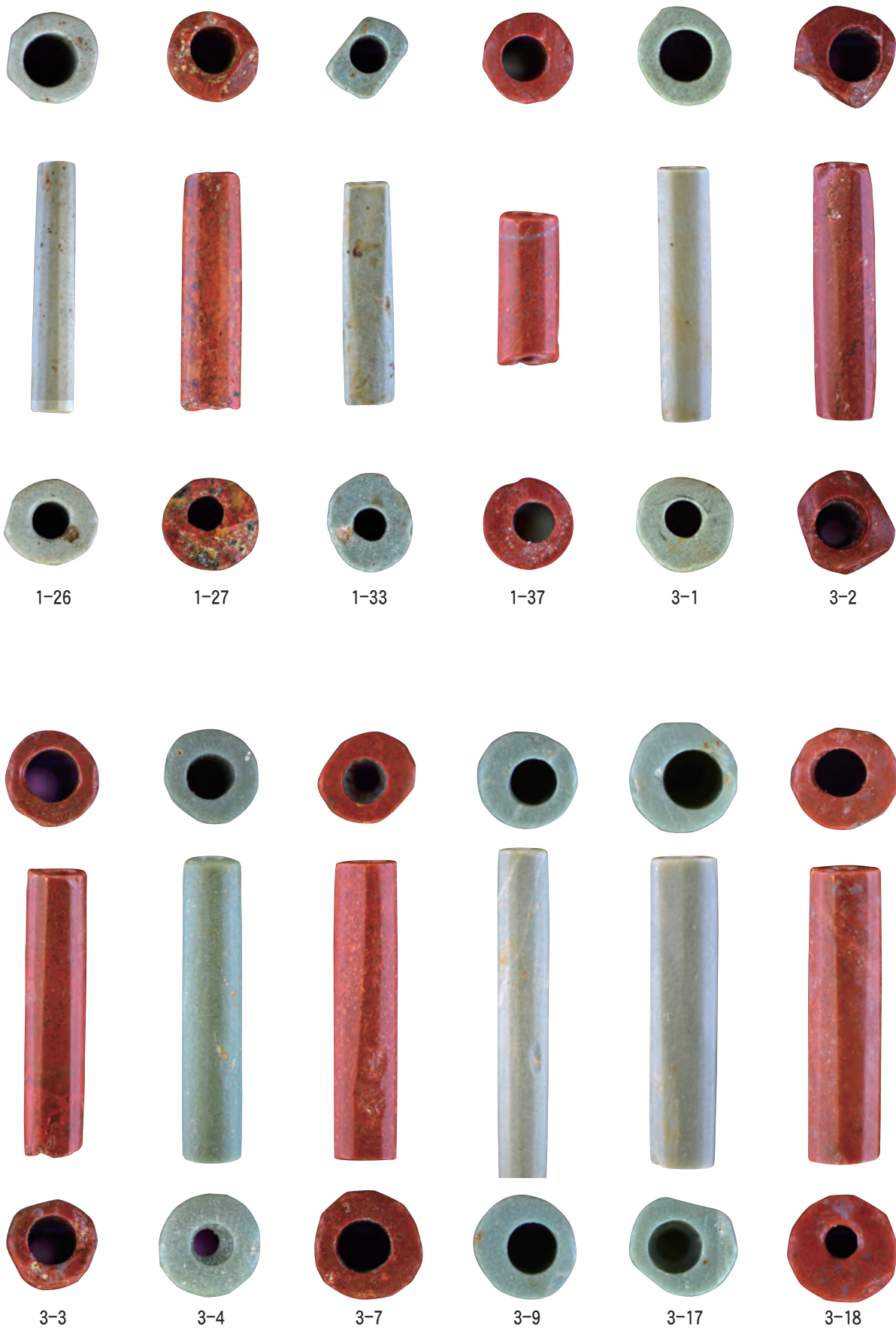


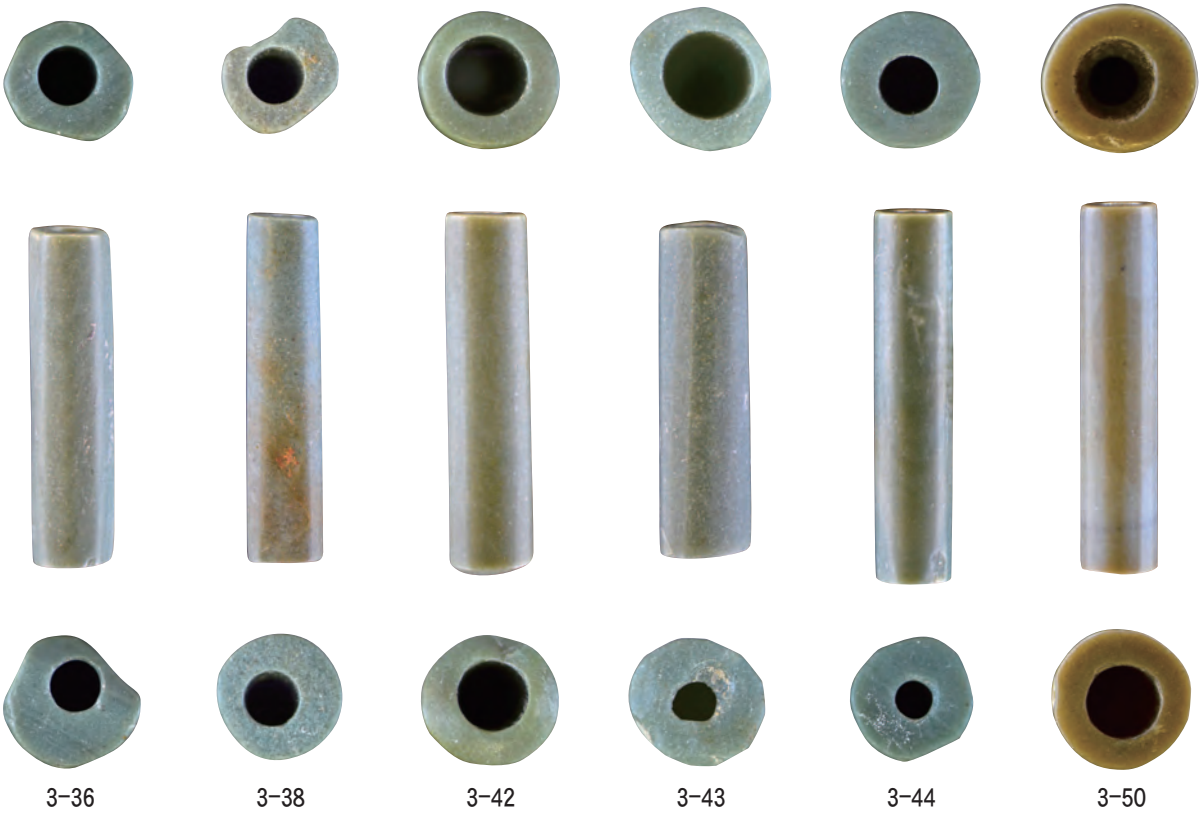
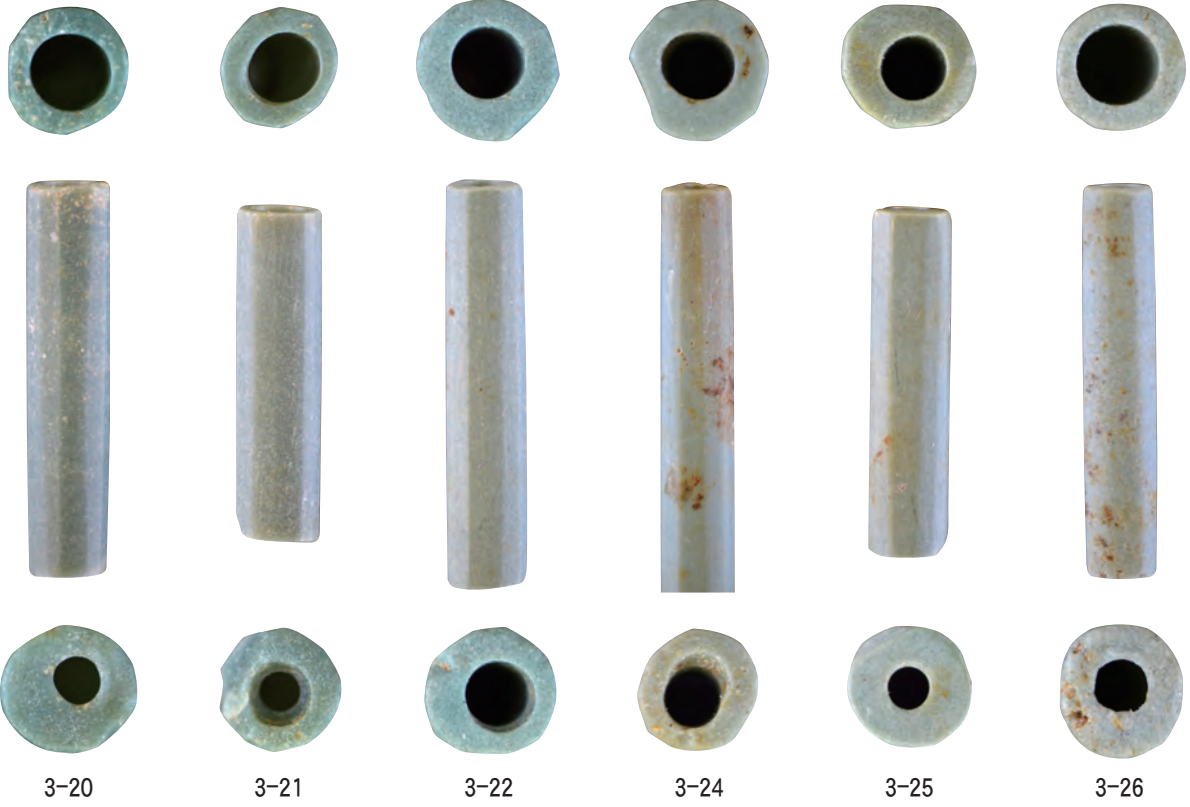
第3号磔床木棺墓出土管玉



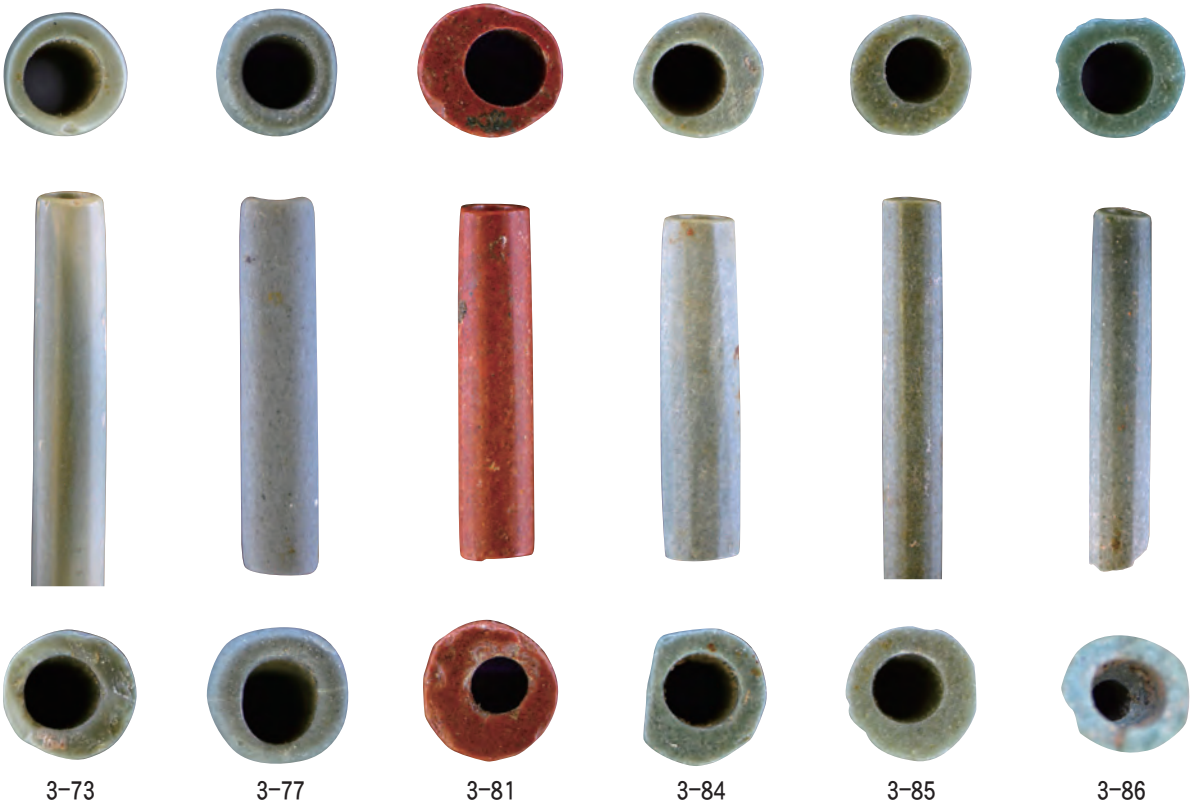


第1号磔床木棺墓出土管玉实体顕微鏡写真

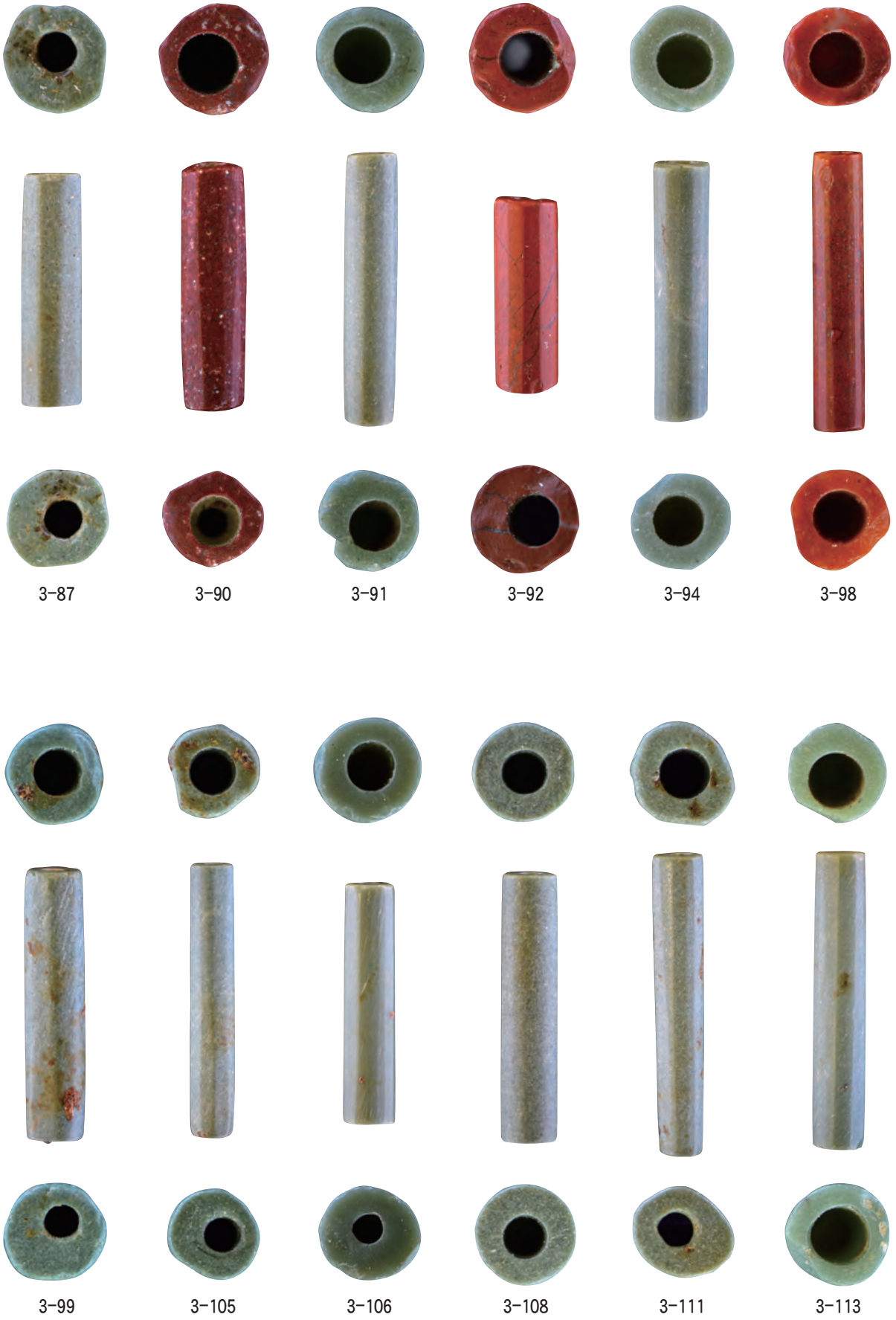




第3号磔床木棺墓出土管玉实体顯微鏡写真







第3号磬床木棺墓出土管玉实体頭微鏡写真



第1号磔床木棺墓出土管玉（復元）



第3号磔床木棺墓出土管玉（復元）

# 報告書抄録

ふりがな	まえなかにしいせきⅨ							
書名	前中西遺跡Ⅸ							
副書名	熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	—							
シリーズ番号	—							
編集者名	森田安彦							
編集機関	埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会							
所在地	〒360-8601 熊谷市宮町2-47-1 TEL048-524-1111							
発行年月日	西暦2014（平成26）年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°′″)	東緯 (°′″)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえなかにしいせき 前中西遺跡	くまがやしすえひろさんちやうめ 熊谷市末広三丁目104番2	11202	59-092	36° 08′ 34″	139° 24′ 01″	20121101 ～ 20121119 20130422 ～ 20130703	620	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
前中西遺跡	集落跡 祭祀墓	弥生時代  古墳時代	方形周溝墓 1 溝 11 礫床木棺墓 4  竪穴住居跡 7 掘立柱建物跡 8 溝跡 17 土坑 27 井戸跡 1 ピット 232	弥生土器 管玉  土師器 須恵器	礫床木棺墓4基を検出し、管玉161点が出土した。			

埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書

## 前中西遺跡IX

平成26年3月28日発行

発行／埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会

印刷／朝日印刷工業株式会社